



2015年度前学期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）

授業内容の見方

1 頁～1 0 頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
 1 1 頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られています。対象学年・必修選択・単位数 等は学生向けの情報です。
 平成 27 年 2 月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学
 ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html シラバス検索)

授業の目標
学習内容
授業計画
 これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
 こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
 意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の
 場所で待機する時間のこと。
 会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・
 時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
 市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番
 号。
受講申込書や払込取扱書に記入する番号です。

授業科目名	ドイツ語 A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 2	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	文法の基礎				
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
● 学習内容	教科書に沿って行う。				
● 授業計画	1 回 話法の助動詞 2 回 話法の助動詞 3 回 動詞の 3 基本形 4 回 動詞の 3 基本形 5 回 動詞の 3 基本形 6 回 時制 7 回 時制 8 回 形容詞 9 回 形容詞 1 0 回 形容詞 1 1 回 関係代名詞 1 2 回 受動 1 3 回 受動 1 4 回 接続法 1 5 回 接続法				
● 受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法 1 8 歩				
参考書	無し				
予習・復習に ついて	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の 方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
● オフィス アワー	火曜日 7・8 時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。				
担当教員から のメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

■学期

◇この欄に「前学期（前半）」「前学期（後半）」と記載された授業については、前学期をさらに半分に分けて開講されます。「前学期（後半）」の開始時期は前学期スケジュール（募集要項P29）でご確認ください。

■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人員を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「前学期（前半）」「前学期（後半）」の場合は6,800円です。

平成27年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
1	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	浅野 幸生	前学期	月3・4	共P202	若干名	A	9,500円
2	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月3・4	共A403	若干名	A	9,500円
3	全学	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅰ	南 富鎮	前学期	月3・4	共A305	若干名	A	9,500円
4	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	大藪 正彦	前学期	月5・6	共A205	若干名	A	9,500円
5	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月5・6	共A403	若干名	A	9,500円
6	全学	生物と環境	徳岡 徹	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
7	全学	数学Ⅱ(線形代数A)	毛利 出	前学期	月7・8	共A103	若干名	A	9,500円
8	全学	現代の社会	鈴木 宏尚	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
9	全学	心理学	須藤 智	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
10	全学	物理の世界	山崎 昌一	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
11	全学	化学Ⅲ(有機化学)	塚田 直史	前学期	水1・2	共A202	若干名	A	9,500円
12	全学	化学Ⅲ(有機化学)	山本 歩	前学期	水1・2	共A201	若干名	A	9,500円
13	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	浅野 幸生	前学期	水5・6	共A102	若干名	A	9,500円
14	全学	数学概論A	毛利 出	前学期	水5・6	共A202	若干名	A	9,500円
15	全学	数学Ⅰ(微分積分A)	板津 誠一	前学期	木3・4	共A201	若干名	A	9,500円
16	全学	物理学Ⅱ(電磁気)	佐藤 信一	前学期	金1・2	共A302	若干名	A	9,500円
17	全学	地球科学Ⅰ(基礎A)	北村 晃寿	前学期	金1・2	共C406	若干名	A	9,500円
18	全学	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
19	全学	地震防災	牛山 素行	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
20	全学	富士山学	徳岡 徹	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
21	全学	暮らしの中の新素材	近藤 満	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
22	人文社会科学部	フランス事情Ⅲ	コルベイユ・スティーヴ	前学期	月1・2	人B209	若干名	B	9,500円
23	人文社会科学部	金融論Ⅰ	鳥畑 与一	前学期	月1・2	人大講	若干名	A	9,500円
24	人文社会科学部	共生の社会学	平岡 義和	前学期	月3・4	人B208	若干名	B	9,500円
25	人文社会科学部	フランス語コミュニケーション論Ⅰ	コルベイユ・スティーヴ	前学期	月3・4	人B209	若干名	B	9,500円
26	人文社会科学部	理論と情報特論Ⅰ	浅利 一郎	前学期	月3・4	共L306	若干名	C	9,500円
27	人文社会科学部	中国言語文化各論Ⅰ	張 盛開	前学期	月5・6	人B303	若干名	B	9,500円
28	人文社会科学部	フランス言語文化演習Ⅴ	浅野 幸生	前学期	月5・6	人B207	若干名	C	9,500円
29	人文社会科学部	地域政策Ⅰ	太田 隆之	前学期	月5・6	人E201	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
30	人文社会科学部	マーケティング	鈴木 拓也	前学期	月5・6	人B301	若干名	B	9,500円
31	人文社会科学部	日本経済史 I	日向 祥子	前学期	月7・8	共A205	若干名	B	9,500円
32	人文社会科学部	社会学概論	白井 千晶	前学期	月9・10	共A201	若干名	A	9,500円
33	人文社会科学部	企業倫理学	田島 慶吾	前学期	月9・10	人E201	若干名	B	9,500円
34	人文社会科学部	英米文学史I	鈴木 実佳	前学期	火1・2	人B303	若干名	B	9,500円
35	人文社会科学部	中国言語文化講読 II	張 盛開	前学期	火3・4	人B205	若干名	B	9,500円
36	人文社会科学部	地方財政論 I	川瀬 憲子	前学期	火3・4	人E201	若干名	C	9,500円
37	人文社会科学部	異常心理学 II	田辺 肇	前学期	火5・6	人B402	若干名	B	9,500円
38	人文社会科学部	日本中世文化史	貴田 潔	前学期	火5・6	人B301	若干名	C	9,500円
39	人文社会科学部	日本文学概論 I	小二田 誠二	前学期	火5・6	人B403	若干名	B	9,500円
40	人文社会科学部	比較文学概論 I	田村 充正	前学期	火5・6	人B302	若干名	B	9,500円
41	人文社会科学部	政治思想 I	井柳 美紀	前学期	火5・6	人B401	若干名	A	9,500円
42	人文社会科学部	ギリシア語 I	田中 伸司	前学期	火7・8	人B403	若干名	A	9,500円
43	人文社会科学部	発達臨床心理学 I	畠垣 智恵	前学期	火7・8	人B402	若干名	B	9,500円
44	人文社会科学部	人格心理学 II	笠井 仁	前学期	火9・10	人B402	若干名	B	9,500円
45	人文社会科学部	日本語学概論 I	勝山 幸人	前学期	水1・2	人B403	若干名	B	9,500円
46	人文社会科学部	世界経済論 I	安藤 研一	前学期	水1・2	共L306	若干名	C	9,500円
47	人文社会科学部	比較言語文化基礎論 I	花方 寿行	前学期	水3・4	人B402	若干名	B	9,500円
48	人文社会科学部	仏会話・作文I	コルベイユ・スティーヴ	前学期	水3・4	人B209	若干名	B	9,500円
49	人文社会科学部	財政学 I	櫻井 良治	前学期	水3・4	共L306	若干名	B	9,500円
50	人文社会科学部	哲学の歴史 I	田中 伸司	前学期	水5・6	人B402	若干名	B	9,500円
51	人文社会科学部	倫理学基礎論	堂園 俊彦	前学期	水5・6	人B302	若干名	C	9,500円
52	人文社会科学部	地域社会論 I	長沼 さやか	前学期	水5・6	人B303	若干名	B	9,500円
53	人文社会科学部	情報経済学 I	石橋 太郎	前学期	水5・6	共L306	若干名	C	9,500円
54	人文社会科学部	社会保障論 I	李 蓮花	前学期	水5・6	人E201	若干名	C	9,500円
55	人文社会科学部	仕事の社会学	吉田 崇	前学期	水7・8	人B209	若干名	B	9,500円
56	人文社会科学部	西洋史概説	藤井 真生	前学期	水9・10	人B402	若干名	B	9,500円
57	人文社会科学部	西洋社会史 I	岩井 淳	前学期	水9・10	人B302	若干名	C	9,500円
58	人文社会科学部	アジア社会史 I	戸部 健	前学期	木1・2	人B402	若干名	C	9,500円
59	人文社会科学部	人間存在と宗教	斎藤 真希	前学期	木3・4	共L306	若干名	C	9,500円
60	人文社会科学部	英米言語文化基礎論	大村 光弘	前学期	木3・4	人B402	若干名	A	9,500円
61	人文社会科学部	英語学各論II	小町将之	前学期	木3・4	人B206	若干名	C	9,500円
62	人文社会科学部	ミクロ経済学 I	山下 隆之	前学期	木3・4	人大講	若干名	A	9,500円
63	人文社会科学部	経済統計学	上藤 一郎	前学期	木3・4	人E101	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
64	人文社会科学部	法哲学	横濱 竜也	前学期	金1・2	人E201	若干名	B	9,500円
65	人文社会科学部	アメリカ文学文化基礎読解I	レッドフォード・スティーヴ	前学期	金3・4	人B403	若干名	B	9,500円
66	人文社会科学部	フランス文学概論I	安永 愛	前学期	金3・4	人B303	若干名	B	9,500円
67	人文社会科学部	法学入門	横濱 竜也	前学期	金3・4	人E201	若干名	A	9,500円
68	人文社会科学部	会計学 I	永田 守男	前学期	金3・4	人大講	3	B	9,500円
69	人文社会科学部	言葉と論理	上利 博規	前学期	金5・6	人B403	若干名	B	9,500円
70	人文社会科学部	日本文学講読IV	袴田 光康	前学期	金5・6	人B208	若干名	B	9,500円
71	人文社会科学部	フランス言語文化特論 V	安永 愛	前学期	金5・6	人B204	若干名	C	9,500円
72	人文社会科学部	統計学 I	上藤 一郎	前学期	金5・6	人大講	若干名	A	9,500円
73	人文社会科学部	税務会計論	永田 守男	前学期	金5・6	人E201	3	C	9,500円
74	人文社会科学部	社会経済論 I	遠山 弘徳	前学期	金7・8	人E201	若干名	B	9,500円
75	教育学部	書写研究(B組)(原則として書写基礎受講者)	杉崎 哲子	前学期	月7・8	未定	若干名	A	9,500円
76	教育学部	線形代数学基礎(B組)	四之宮 佳彦	前学期	月9・10	未定	若干名	A	9,500円
77	教育学部	集合と論理基礎	山田 耕三	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
78	教育学部	微分積分学基礎(A組)	大和田 智義	前学期	火7・8	未定	若干名	A	9,500円
79	教育学部	代数学I	谷本 龍二	前学期	火7・8	未定	若干名	B	9,500円
80	教育学部	解析学I	大和田 智義	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,500円
81	教育学部	幾何学I	四之宮 佳彦	前学期	水7・8	未定	若干名	B	9,500円
82	教育学部	書写基礎(B組)	杉崎 哲子	前学期	木1・2	未定	若干名	A	9,500円
83	教育学部	西欧文化史	伊藤 宏二	前学期	木3・4	未定	若干名	B	9,500円
84	理学部	解析学	田中 直樹	前学期	月1・2	理B204	若干名	C	9,500円
85	理学部	放射線計測・管理学概論	大矢 恭久	前学期	月1・2	理B202	若干名	C	9,500円
86	理学部	シミュレーション数理科学Ⅱ	久村 裕憲	前学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,500円
87	理学部	物理数学 I	松山 晶彦	前学期	月3・4	理B203	若干名	B	9,500円
88	理学部	物理光学	富田 誠	前学期(前半)	月3・4	理B211	若干名	C	6,800円
89	理学部	有機化学Ⅲ	小林 健二	前学期	月3・4	理B213	若干名	B	9,500円
90	理学部	発生生物学 I	徳元 俊伸	前学期	月3・4	理B202	若干名	B	9,500円
91	理学部	植物生理学	栗井 光一郎	前学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,500円
92	理学部	生物環境科学概論 I	塚越 哲	前学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,500円
93	理学部	多様性生物学	塚越 哲	前学期(前半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
94	理学部	構造地質学	道林 克禎	前学期(後半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
95	理学部	線型代数学Ⅲ	浅芝 秀人	前学期	月7・8	理B204	若干名	B	9,500円
96	理学部	熱化学	河合 信之輔	前学期	火1・2	理B202	若干名	B	9,500円
97	理学部	放射化学Ⅱ	矢永 誠人	前学期	火1・2	理B213	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
98	理学部	内分泌学	鈴木 雅一	前学期	火1・2	理B203	若干名	C	9,500円
99	理学部	層序学	北村 晃寿	前学期	火1・2	理B201	若干名	C	9,500円
100	理学部	代数学	浅芝 秀人	前学期	火3・4	理B204	若干名	C	9,500円
101	理学部	電磁気学Ⅲ	土屋 麻人	前学期	火3・4	理B203	若干名	C	9,500円
102	理学部	量子化学Ⅱ	松本 剛昭	前学期	火3・4	理B213	若干名	C	9,500円
103	理学部	発生生物学Ⅱ	塩尻 信義	前学期	火3・4	理B212	若干名	C	9,500円
104	理学部	地球環境学	加藤 憲二	前学期	火3・4	共C611	若干名	C	9,500円
105	理学部	統計処理論	板津 誠一	前学期	火5・6	理B201	若干名	C	9,500円
106	理学部	生物多様性科学	栗井 光一郎	前学期	火5・6	理B212	若干名	A	9,500円
107	理学部	地球科学入門Ⅰ	石橋 秀巳	前学期	火5・6	理B202	若干名	A	9,500円
108	理学部	幾何学	保坂 哲也	前学期	火7・8	理B204	若干名	C	9,500円
109	理学部	数理論理学	鈴木 信行	前学期	水1・2	理B204	若干名	C	9,500円
110	理学部	物理数学Ⅱ	森田 健	前学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,500円
111	理学部	有機化学Ⅰ	坂本 健吉	前学期	水1・2	理B202	若干名	A	9,500円
112	理学部	基礎生化学	瓜谷 眞裕	前学期	水1・2	理B212	若干名	B	9,500円
113	理学部	有機化学Ⅴ	山中 正道	前学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,500円
114	理学部	地球物理学	生田 領野	前学期	水1・2	理B201	若干名	C	9,500円
115	理学部	実験数学入門	奥村 善英	前学期	水3・4	実習室1・2	若干名	B	9,500円
116	理学部	電磁気学Ⅰ	松本 正茂	前学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,500円
117	理学部	溶液化学	加藤 知香	前学期	水3・4	共D2	若干名	B	9,500円
118	理学部	情報生化学	大吉 崇文	前学期	水3・4	理B213	若干名	C	9,500円
119	理学部	細胞生物学	丑丸 敬史	前学期	水3・4	理B212	若干名	C	9,500円
120	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅰ	森下 祐一	前学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,500円
121	理学部	堆積学	北村 晃寿	前学期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
122	理学部	地球環境微生物学	加藤 憲二	前学期(後半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
123	理学部	集合・位相	横山 美佐子	前学期	水5・6	理B204	若干名	B	9,500円
124	理学部	生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前学期	木1・2	理B212	若干名	A	9,500円
125	理学部	線型代数学Ⅰ	依岡 輝幸	前学期	木3・4	理B204	若干名	A	9,500円
126	理学部	統計力学Ⅰ	鈴木 淳史	前学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,500円
127	理学部	構造錯体化学	近藤 満	前学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,500円
128	理学部	植物系統分類学	徳岡 徹	前学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,500円
129	理学部	地球科学研究入門	道林 克禎	前学期	木3・4	理B201	若干名	C	9,500円
130	理学部	放射線物理学概論	近田 拓未	前学期	木5・6	共B501	若干名	B	9,500円
131	理学部	複素解析学	奥村 善英	前学期	金1・2	理C309	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
132	理学部	量子力学Ⅰ	土屋 麻人	前学期	金1・2	理B203	若干名	C	9,500円
133	理学部	無機化学Ⅱ	菅野 秀明	前学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,500円
134	理学部	分子遺伝学	山内 清志	前学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,500円
135	理学部	岩石学	道林 克禎	前学期	金1・2	理B201	若干名	C	9,500円
136	理学部	微分積分学Ⅲ	田中 直樹	前学期	金3・4	理B204	若干名	B	9,500円
137	理学部	量子力学Ⅲ	鈴木 淳史	前学期	金3・4	理B203	若干名	C	9,500円
138	理学部	物理実験学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	金5・6	理B203	若干名	B	9,500円
139	理学部	物理実験学Ⅱ	三重野 哲	前学期	金5・6	理B213	若干名	C	9,500円
140	理学部	地球科学入門Ⅱ	鈴木 雄太郎	前学期	金7・8	理B201	若干名	A	9,500円
141	農学部	分子遺伝学	本橋 令子	前学期	月1・2	農B208	若干名	B	9,500円
142	農学部	栄養化学	森田 達也	前学期	月3・4	農B207	若干名	B	9,500円
143	農学部	森林土木工学	近藤 恵市	前学期	月3・4	農B203	若干名	B	9,500円
144	農学部	木質材料学	鈴木 滋彦	前学期	月3・4	農B205	若干名	B	9,500円
145	農学部	基礎生態学	澤田 均	前学期	月3・4	農B201	若干名	B	9,500円
146	農学部	果樹園芸学	向井 啓雄	前学期	月5・6	農B201	若干名	B	9,500円
147	農学部	保全生物学	山下 雅幸	前学期	火1・2	農B210	若干名	A	9,500円
148	農学部	応用微生物学	徳山 真治	前学期	火1・2	農B205	若干名	B	9,500円
149	農学部	生化学概論	村田 健臣	前学期	火1・2	農B208	若干名	A	9,500円
150	農学部	育種学	富田 因則	前学期	火5・6	農B208	若干名	B	9,500円
151	農学部	測量学	近藤 恵市	前学期	火5・6	農B317	若干名	B	9,500円
152	農学部	植物バイオサイエンス入門	切岩 祥和	前学期	火5・6	農B201	若干名	A	9,500円
153	農学部	室内環境学	渡邊 拓	前学期	火5・6	農B210	若干名	B	9,500円
154	農学部	人間環境科学論	山下 雅幸	前学期	火7・8	農B210	若干名	A	9,500円
155	農学部	作物学	稲垣 栄洋	前学期	火7・8	農B201	若干名	A	9,500円
156	農学部	造林学	水永 博己	前学期	火7・8	農B203	若干名	D	9,500円
157	農学部	森林生態管理学	今泉 文寿	前学期	水1・2	農B203	若干名	C	9,500円
158	農学部	山地保全学	逢坂 興宏	前学期	水1・2	農B205	若干名	B	9,500円
159	農学部	細胞生物学	笹浪 知宏	前学期	水1・2	農B208	若干名	B	9,500円
160	農学部	生物工学	朴 龍洙	前学期	水1・2	農B204	若干名	C	9,500円
161	農学部	木質機能科学	安村 基	前学期	水3・4	農B205	若干名	B	9,500円
162	農学部	食品分析化学	河岸 洋和	前学期	水3・4	農B210	若干名	C	9,500円
163	農学部	分析化学	原 正和	前学期	水3・4	農B208	若干名	B	9,500円
164	農学部	木質利用化学	河合 真吾	前学期	水3・4	農B203	若干名	C	9,500円
165	農学部	花卉園芸学	大野 始	前学期	水3・4	農B207	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
166	農学部	基礎微生物学	瀧川 雄一	前学期	水5・6	農B208	若干名	A	9,500円
167	農学部	基礎微生物学	徳山 真治	前学期	水5・6	農B201	若干名	A	9,500円
168	農学部	園芸生産学	鈴木 克己	前学期	水7・8	農B201	若干名	A	9,500円
169	農学部	木材接着学	山田 雅章	前学期	木1・2	農B203	若干名	B	9,500円
170	農学部	収穫後生理学	加藤 雅也	前学期	木1・2	農B208	若干名	B	9,500円
171	農学部	動物生命科学	高坂 哲也	前学期	木3・4	農B201	若干名	B	9,500円
172	農学部	環境微生物学	小川 直人	前学期	木3・4	農B203	若干名	B-C	9,500円
173	農学部	材料力学	安村 基	前学期	金1・2	農B203	若干名	B	9,500円
174	農学部	食料経済学	柴垣 裕司	前学期	金1・2	農B201	若干名	A	9,500円
175	農学部	植物栄養学	森田 明雄	前学期	金1・2	農B208	若干名	B	9,500円
176	農学部	生物有機化学1	轟 泰司	前学期	金3・4	農B210	若干名	B	9,500円
177	農学部	一般昆虫学	田上 陽介	前学期	金3・4	農B208	若干名	A	9,500円
178	農学部	樹木・組織学※	水永 博己	前学期	金5・6	農B203	若干名	A	9,500円

※通常の座学講義スタイルと大きく異なりますので、シラバスの注意事項をよく読んでください。

<通年>

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
179	人文社会科学部	中国語学概論	張 盛開	通年	火5・6	人B201	若干名	B	14,700円
180	人文社会科学部	フランス語学概論	浅野 幸生	通年	火9・10	人B208	若干名	B	14,700円
181	人文社会科学部	ドイツ事情Ⅱ	エゲンベルグ・トーマス	通年	水3・4	人B204	3	B	14,700円
182	人文社会科学部	ドイツ言語文化基礎演習Ⅱ	大藪 正彦	通年	金3・4	人B204	若干名	B	14,700円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

(D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業))

平成27年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
183	全学	生物学Ⅰ	吉田 信行	前学期	月3・4	5-11	若干名	A	9,500円
184	全学	化学の世界	梅本 宏信	前学期	火1・2	総21	若干名	A	9,500円
185	全学	生命科学	杉浦 敏文	前学期	火1・2	8-21	若干名	A	9,500円
186	全学	ことばと表現	森本 隆子	前学期	火3・4	8-11	若干名	A	9,500円
187	全学	ことばと表現	田中 柊子	前学期	火3・4	5-24	若干名	B	9,500円
188	全学	心理学	坂井 敬子	前学期	火3・4	総24	若干名	B	9,500円
189	全学	芸術論	高松 良幸	前学期	火3・4	情21	若干名	A	9,500円
190	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅱ	高岡 智子	前学期	火5・6	総23	若干名	A	9,500円
191	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	田中 柊子	前学期	火5・6	情25	若干名	A	9,500円
192	全学	歴史と文化	岡田 泰平	前学期	水3・4	情21	若干名	A	9,500円
193	全学	国際社会と日本	杉山 茂	前学期	水3・4	3-31	若干名	A	9,500円
194	全学	現代の社会	中 正樹	前学期	水3・4	情11	若干名	A	9,500円
195	全学	心理学	漁田 武雄	前学期	水3・4	1-31	若干名	A	9,500円
196	全学	工学基礎化学Ⅰ	植田 一正	前学期	木1・2	5-24	若干名	A	9,500円
197	全学	工学基礎化学Ⅰ	平川 和貴	前学期	木1・2	6-22	若干名	A	9,500円
198	全学	工学基礎化学Ⅰ	植田 一正	前学期	木3・4	5-24	若干名	A	9,500円
199	全学	USA論	杉山 茂	前学期	金3・4	3-31	若干名	A	9,500円
200	全学	地域社会連携を考える	清水 一男	前学期	金3・4	2-21	若干名	B	9,500円
201	全学	異文化と出会う	許山 秀樹	前学期	金3・4	6-21	若干名	B	9,500円
202	全学	こころの深層	太田 裕一	前学期	金3・4	8-21	若干名	A	9,500円
203	全学	エネルギーと環境	大矢 恭久	前学期	金3・4	8-11	若干名	B	9,500円
204	全学	浜松市の交通を考える	戸田 三津夫	前学期	金3・4	総31	若干名	A	9,500円
205	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	高岡 智子	前学期	金5・6	総22	若干名	A	9,500円
206	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	田中 柊子	前学期	金5・6	情25	若干名	A	9,500円
207	全学	工学基礎化学Ⅰ	植田 一正	前学期	金9・10	1-31	若干名	A	9,500円
208	工学部	電気電子材料	喜多 隆介	前学期	月3・4	2-21	若干名	C	9,500円
209	工学部	弾性力学	島村 佳伸	前学期	火9・10	総21	若干名	C	9,500円
210	工学部	基礎電子回路	猪川 洋	前学期	水1・2	8-21	若干名	B	9,500円
211	工学部	プロセッサ工学	中井 孝芳	前学期	木1・2	5-11	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
212	工学部	システム基礎数学	宮崎 倫子	前学期	木3・4	5-21	若干名	A	9,500円
213	工学部	塑性加工学	早川 邦夫	前学期	金1・2	総31	若干名	C	9,500円
214	情報学部	博物館概論	高松 良幸	前学期	月1・2	情22	若干名	A	9,500円
215	情報学部	コミュニケーション・メディア史	森野 聡子	前学期	月3・4	情24	若干名	B	9,500円
216	情報学部	人間情報処理論	竹内 勇剛	前学期	月5・6	情14	若干名	B	9,500円
217	情報学部	博物館経営論	高松 良幸	前学期	火1・2	情22	若干名	A	9,500円
218	情報学部	メディア・デザイン論	赤尾 晃一	前学期	火3・4	情24	若干名	B	9,500円
219	情報学部	ジェンダー論	笹原 恵	前学期	火9・10	情22	若干名	B	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

(D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業))

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	着実・積極性の重視・繰り返し				
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、同時にフランス文化の諸相についても理解を深めるようにする。				
学習内容	前期の学習を受け、基本重視ではあるがより発展的な学習に進み、フランス語のバランスのとれた能力の獲得を目指す。				
授業計画	<p>大体以下の通りに進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の諸注意。発音や正書法の説明。 2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音 (1)・・・ 3) avoir, être, -er 動詞の活用・綴り字と発音 (2) 4) 挨拶・紹介等の表現、否定文・疑問文、綴り字と発音 (3) 5) 形容詞・-ir 動詞・数詞、綴り字と発音 (4) 6) 指示形容詞・指示代名詞・aller と venir ・綴り字と発音 (5) 7) それ以降はテキストに沿って進行する。必ずしも予定通りに行くと は限らないが、予定に縛られすぎると授業が無機的になって好ましくない。大切なことはできるだけ繰り返す方針。 				
受講要件					
テキスト	生協で購入。				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験と平常点による。出席重視。理由のない遅刻は厳禁。				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』に沿って「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけます。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	回 内容 1 フランス語圏、フランス語の歴史、フランス語の特性について。フランス語の発音とリズム 2 教科書第 1 課前半 3 教科書第 1 課後半 4 教科書第 2 課前半 5 教科書第 2 課後半 6 教科書第 3 課前半 7 教科書第 3 課後半 8 復習と中間テスト 9 教科書第 4 課前半 10 教科書第 4 課後半 11 教科書第 5 課前半 12 教科書第 5 課後半 13 教科書第 6 課前半 14 教科書第 6 課後半 15 復習・問題演習				
受講要件					
テキスト	朝日出版社『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加算します。また、中間テストの結果を考慮する場合があります。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門Ⅰ (Basic Modern Korean Ⅰ)				
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 2 7	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。 ・韓国語は日本語に類似しているので日本語・日本文化への理解も深めます。 ・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関する基礎文法を勉強します。 ・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。 ・日本語との比較を通して日本語と日本文化への理解も深めていきます。 				
授業計画	回 内容 1 韓国語の紹介 2 母音の発音 3 母音の発音 4 子音の発音 5 子音の発音 6 子音と母音の組み合わせ 7 複母音の発音 8 です、ます的な表現 9 指示代名詞 10 助詞 11 否定文 12 動詞の連用形 13 形容詞の連用形 14 連体形 15 総復習				
受講要件	教育学部 1 年・理学部 1 年、農学部 1 年				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼうー初級』朝日出版社、2006 年。最初の授業時にもう一度お知らせします。				
参考書	とくにありません。				
予習・復習について	その都度教員が指示します。しかし、基本的にはご自分で決めてください。				
成績評価の方法・基準	出席 40%、試験 60%。最初の授業時に詳しく説明します。				
オフィスアワー	最初の授業時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	難易度 A。韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語で、難易度は非常に低いです。ぜひ気楽に挑戦してみてください。				

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門 I (Basic German I)				
担当教員名	大菌 正彦 (OZONO Masahiko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 3	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化、言語運用能力、多文化理解、文法				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	教科書の内容に沿って学習していきます。原則として 2 回の授業で 1 課ずつ進めます。各課は、大きく「文法説明」「練習」「補足」の 3 つの部分から成りますが、授業では、個々の項目ごとに練習、小テストなどを織り交ぜながら進めていきます。また、折に触れ、さまざまなドイツ事情についても紹介します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のオリエンテーション 2. つづりの読み方と発音 3. 第 1 課 動詞の人称変化 (1) 4. 第 1 課 動詞の人称変化 (2) 5. 第 2 課 名詞の性・数・格 (1) 6. 第 2 課 名詞の性・数・格 (2) 7. 第 3 課 前置詞・接続詞 (1) 8. 第 3 課 前置詞・接続詞 (2) 9. 第 4 課 人称代名詞・再帰代名詞・再帰動詞 (1) 10. 第 4 課 人称代名詞・再帰代名詞・再帰動詞 (2) 11. 第 5 課 冠詞類 (1) 12. 第 5 課 冠詞類 (2) 13. 第 6 課 形容詞の格変化・比較変化 (1) 14. 第 6 課 形容詞の格変化・比較変化 (2) 15. まとめと復習 16. 期末試験 				
受講要件	クラス指定に従って履修してください。				
テキスト	大菌正彦『異文化理解のための初級ドイツ語文法』朝日出版社 (2,400 円＋税)				
参考書	独和辞典は必携です。初回の授業で紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、1 時間・1 時間半の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	期末試験の成績 (50%) と平常点 (50%) をもとに評価します。平常点は、原則として毎回行う小テストの結果に授業への参加状況を加味して評価します。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』に沿って「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけます。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	回 内容 1 フランス語圏、フランス語の歴史、フランス語の特性について。フランス語の発音とリズム 2 教科書第 1 課前半 3 教科書第 1 課後半 4 教科書第 2 課前半 5 教科書第 2 課後半 6 教科書第 3 課前半 7 教科書第 3 課後半 8 復習と中間テスト 9 教科書第 4 課前半 10 教科書第 4 課後半 11 教科書第 5 課前半 12 教科書第 5 課後半 13 教科書第 6 課前半 14 教科書第 6 課後半 15 まとめと復習・問題演習				
受講要件					
テキスト	朝日出版社『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』				
参考書					
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加算します。また、中間テストの結果を考慮する場合があります。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	生物と環境 (Life and the Environment)				
担当教員名	徳岡 徹 (TOKUOKA Toru)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名	天野 豊己				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	植物、分類、形態、細胞、タンパク質、光合成				
授業の目標	生物は多様な環境の中で生育し、様々な形態をもって適応している。環境適応の仕組みについて概説する。生物の環境への適応戦略の仕組みを知り、人文、社会、教育学への応用につなげる。				
学習内容	この講義では、前半部で主として生物の形態や分類について学ぶ。後半部では細胞および分子レベルでの生物学を学ぶ。高校で生物 II を選択しなかった学生を基準に授業を進める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、大学構内の植物 2. 陸上植物の分類 1ーシダ植物ー 3. 陸上植物の分類 2ー裸子植物ー 4. 被子植物とは 1 5. 被子植物とは 2 6. 身近な植物群落 1ー照葉樹林ー 7. 身近な植物群落 2ー夏緑樹林ー 8. 身近な植物群落 3ー針葉樹林ー 9. 細胞のつくり 10. DNA からタンパク質ができるまで 11. 細胞内のタンパク質の動き 12. 細胞がエネルギーを得る仕組み 13. 光合成のしくみ 14. 植物の光への応答 15. 植物の病気への応答 <p>担当：徳岡（1回～8回）、天野（9回～15回）</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	テキストは特に指定しない必要な資料は随時配布します				
参考書	維管束植物の形態と進化、アーネスト・ギフォード、エイドリアン・フォスター（著）、長谷部 光泰ほか（訳）、1989、文一総合出版、4829921609 植物自然史、戸部 博、1994、朝倉書店、4254170874 細胞の分子生物学第5版、ニュートンプレス植物の生化学・分子生物学、学会出版センター				
予習・復習について	必ず予習・復習をしてください。特に復習を中心として、疑問点などは遠慮なく質問してください。				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験（記述式）により評価します。				
オフィスアワー	訪問前にメールで問い合わせてください。徳岡宛：sttokuo@ipc.shizuoka.ac.jp 天野宛：sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	地球上には実に様々な植物が様々な環境に適応して暮らしています。授業ではその多様性をできる限り紹介していきたいと思っております（徳岡）。やればできます（天野）。				

授業科目名	数学Ⅱ（線形代数A） (Mathematics II(Linear algebra A))				
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理PCBG3	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	ベクトル、行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	高等学校の数学I,II,Bまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学III,Cまで習得している学生（クラス1,2）に分けて、3クラスで講義を行う。行列の演算、行列式の計算および連立1次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	数および比例の高次元化である、ベクトルおよび線形写像を調べるために、比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立1次方程式を解く。				
授業計画	<p>数学I, II, IIIは、各々3クラスに分けて講義をする。前期の数学Iの第1回講義に試験を行い、クラスを決定する。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。</p> <p>0章. 準備 0. 写像と集合</p> <p>1章. 線形写像と行列 1. 比例の復習 2. 行列 3. 線形写像 4. 行列の積</p> <p>2章. 行列式 5. 2次行列の行列式 6. 一般の行列式 7. 行列式の列変形 8. 行列式の形 9. 転置行列と行に関する性質 10. 行列式の展開と余因子行列</p> <p>3章. 連立1次方程式 11. 行列表示とクラメールの公式 12. 掃き出し法 13. 基本変形と基本行列</p> <p>時間があれば、ベクトル空間や線形写像についても解説する。</p>				
受講要件					
テキスト	浅芝秀人著：「基礎課程 線形代数」（培風館）ISBN: 978-4-563-00473-6				
参考書	三宅敏恒著：「入門線形代数」（培風館）ISBN: 4-563-00216-X				
予習・復習について	教科書や参考書で予習、授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは、できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	レポートなどの平常点(20%)および試験(80%)によって評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	予習復習は古来より効果的な勉強法である。自宅での自発的かつ積極的な勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提にしている。				

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	鈴木 宏尚 (SUZUKI Hironao)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	現代政治、政治と経済、政治の仕組み、日本と国際社会				
授業の目標	現代日本の政治、経済、外交の課題を歴史と理論の面から理解し、政治や外交に対する自分なりの見方を身につけることを目標とする。				
学習内容	前半は政治についての基本的な概念を学び、後半は現代の日本が抱える政治・外交的課題を歴史的・理論的な視点を踏まえて検討する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 執政制度：議院内閣制と大統領制 議院内閣制と大統領制を比較しつつそれぞれの特色を理解する。 3 政党と政党政治 政党とは何か。政党は政治においてどのような機能を持つのか。 4 選挙制度 選挙制度の分類。選挙制度と政党政治との関連。 5 官僚 官僚とは何か。官僚主導政治とその弊害。 6 利益集団とマスメディア 利益集団とは何か。利益集団やマスメディアは政治においてどのような機能を持つのか。 7 福祉国家と新自由主義（1）「大きい政府」と「小さい政府」 8 福祉国家と新自由主義（2）戦後日本における「大きい政府」の成立 9 福祉国家と新自由主義（3）新自由主義的改革へ 政府は経済にどの程度介入すべきか。「大きい政府」と「小さい政府」という視角から日本政治を見る。 10 安保と9条（1）なぜ問題なのか 11 安保と9条（2）その起源 12 安保と9条（3）国内政治との関連 日米安保と憲法9条の矛盾をはらみつつも相互補完的な関係の歴史的展開と現在の課題を検討する。 憲法改正や集団的自衛権の問題にも触れる。 13 戦後日中関係の展開 歴史的展開をたどりつつ現在の日中関係を考える。 14 戦後日韓関係の展開 歴史的展開をたどりつつ現在の日韓関係を考える。 15 総括（以上は予定。変更もあり得る。） 				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定せず、毎回プリントを配布する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
予習・復習について	高校の政治経済や日本史の教科書の該当部分に目を通しておくと理解がしやすいと思われる。また、日々のニュースにも目を配ること。講義での疑問点は積極的に質問してほしい。				
成績評価の方法・基準	平常点（毎回提出してもらうコメントシート）30%、期末試験（70%）で評価する。期末試験は論述形式の予定。				
オフィスアワー	水曜日 13:00-14:00 人文 A 棟 611 研究室				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。意欲的な受講を期待する。				

授業科目名	心理学 (Psychology)				
担当教員名	須藤 智 (SUTO Satoru)		所属等	大学教育センター	
			研究室	共 A513 (西)	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる (配布資料有)				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学 1 (脳の機能と役割を考える) 3.生理心理学 2 (脳の機能と役割を考える) 4.感覚・知覚 1 (外界と心の相互作用を考える) 5.感覚・知覚 2 (外界と心の相互作用を考える) 6.学習 (学ぶということ) 7.認知 1 (知のメカニズムを知る) 8.認知 2 (記憶のメカニズムを知る) 9.認知 3 (注意とは何か?) 10.発達 1 (乳児期から児童期までの発達を知る) 11.発達 2 (青年期から死までの発達を知る) 12.性格 (性格とは何か?) 13.最新のトピック 1 (高齢者の心理) 14.最新のトピック 2 15.まとめ 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ (ナカニシヤ出版)、477950385X				
予習・復習について	予習：参考書を持っている場合は、当該箇所を一読してくる。所有していない場合は、図書館等で関連図書を借り、当該箇所を一読してくる。復習：配布されたレジュメを一読し、整理すること。				
成績評価の方法・基準	学期末レポート+α (エクストラクレジット) で評価を決定する。学生の受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通 A 棟 5F513 室 火曜日 5,6 限				
担当教員からのメッセージ	授業に関する情報は、以下の URL から取得できる(パソコン : http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定				

授業科目名	物理の世界 (Introduction to Physics)				
担当教員名	山崎 昌一 (YAMAZAKI Masahito)		所属等	電子工学研究所	
			研究室	理学部A棟410	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	生物物理学、統計熱力学、タンパク質、生体膜、生体の電気現象				
授業の目標	生物が持つ”分子機械”や”電子回路”、および”分子システムや情報システム”は、人間が人工的に作るそれらのものより精巧で高級である。また生体分子やその集団は、非周期的な構造を持ち、水の中で弱い相互作用により構造を形成するので、複雑な構造や物性を示す。このような系の特性の研究には物理的なアプローチ(生物物理学)が重要であり、この授業ではその入門を学ぶ。				
学習内容	まず、生体分子やそのシステムおよび生体の機能システムのような”複雑系”の研究に重要な役割をはたす統計熱力学の初歩を学び、現象論的思考法になれる。次に、タンパク質や生体膜の特性と、神経や細胞での情報伝達に重要な生体電気現象の基礎を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 Chap.1 生物物理学序論 2 Chap.2 統計熱力学入門、2-1 生命の階層構造、ミクロとマクロの関係 3 2-2 熱力学第2法則とエントロピー、格子模型、拡散 4 2-3 静電場(クーロン力、電場、電位)と膜電位(拡散電位) 5 2-4 熱力学第1法則(熱、仕事、内部エネルギー)、熱とエントロピーの関係 6 2-5 エンジンや熱機関の効率、カルノーサイクル、エネルギーの質 7 2-6 自由エネルギーと化学ポテンシャル、浸透圧 8 2-7 生物の”分子機械”のエネルギー源: 電気化学ポテンシャル 9 Chap.3 タンパク質と生体膜、3-1 タンパク質の構造、フォールディングとアンフォールディング 10 3-2 タンパク質の機能、(1) ヘモグロビン、アロステリック相互作用 11 (2) 筋肉、イオンポンプ、ATPの加水分解のエネルギー 12 3-3 生体膜の構造と形成機構、疎水性相互作用、生体膜の流動性と分子の拡散 13 3-4 生体膜の膜間相互作用; 会合と膜融合と膜分裂、ウイルスの細胞内侵入と形成 14 Chap.4 生体の電気現象、4-1 生体膜の等価電気回路、活動電位 15 4-2 1個のイオンチャネルタンパク質に流れる電流の特性、イオンチャネルの機能と構造				
受講要件					
テキスト					
参考書	P.W.Atkins(米沢他訳)『エントロピーと秩序』(日経サイエンス) C.Kittel(山下他訳)『熱物理学(第2版)』(丸善) シリーズ・ニューバイオフィジックスおよび同シリーズII(共立出版)				
予習・復習について	1回の講義で、何か一つでもよいから、興味をもったり、感動したり、不思議に思ったり、疑問を感じたりしよう。講義のあとで、そのことについて考えたり、本を読んで調べたりしよう。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出、講義の内容の理解度				
オフィスアワー	授業のときに説明				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学Ⅲ (有機化学) (Chemistry III (Organic Chemistry))				
担当教員名	塚田 直史 (TSUKADA Naofumi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 B312	
分担教員名					
クラス	理MP	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、付加反応、置換反応、脱離反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道など、量子化学の知識を用いて各種の有機分子の構造や性質について系統的な理解を深める。また、種々の有機化学反応の基本となる反応機構を理解し、単純な分子から複雑な分子への変換法を修得する。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。また、有機化学は実際に物質を取り扱うので、物質科学全体の基礎でもある。 有機化合物の構造と反応は量子力学に基づいた理論によって体系化されている。本講義では、有機化合物の結合様式と分子の種類について系統的に学ぶ。さらにこれらの化合物の反応について、その反応機構を踏まえて学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の電子配置と共有結合・・・原子の電子配置、共有結合の成り立ち 2. 混成軌道と電子の偏り・・・混成軌道と分子の形、誘起効果と共鳴効果 3. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性と命名法 4. シス・トランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカン-環状炭化水素の形 5. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 6. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンの安定共鳴構造、「芳香族性」と多様な化合物 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム、いろいろなラジカル反応 9. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、カルボカチオンとハロゲンの付加 10. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基の配向性と反応性への影響 11. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 12. カルボニル化合物の求核付加反応・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』(化学同人)				
参考書					
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでくること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	主として試験結果をもとに評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学Ⅲ (有機化学) (Chemistry III (Organic Chemistry))				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、IUPAC命名法、付加反応、置換反応、脱離反応、ラジカル反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道の知識を基に、分子の構造について理解し、分子の名称と異性現象についても理解を深める。有機合成は簡単な分子から反応を通じて複雑な分子へと変換することである。種々の有機反応の基本をしっかりと学ぶ。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。有機化学は量子理論に基づいた構造論と、化学反応を支配する理論によって体系化されている。また、有機化学は物質を取り扱うので、化学全体の基礎となっている。本授業では、有機化合物の結合様式と分子の種類について、また、脂肪族化合物および芳香族化合物の基本骨格とその構造について学び、さらにこれらの化合物の基本原理に基づいた反応について学ぶ。				
授業計画	<p>教科書にそって、以下の項目を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化学の基礎・・・原子の電子配置 2. 化学結合と電子構造・・・共有結合の成り立ち、混成軌道と分子の形 3. 電子の動きと共鳴・・・極性結合と電子の動き、共鳴と酸塩基 4. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性体と命名法 5. シス・トランス異性と立体配座・・・結合回転による異性、シクロアルカン 6. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム 9. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 10. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、アルキンの反応とハロゲンの付加 11. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンと芳香族化合物、「芳香族性」と多様な化合物 12. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基による反応性への影響 13. カルボニル化合物の求核付加反応・・・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』第2版 (化学同人)				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでくること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French Ⅱ)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	水 5・6
キーワード	フランス言語文化				
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、同時にフランス文化の諸相についても理解を深めるようにする。				
学習内容	フランス語の文法を学ぶ。				
授業計画	<p>大体以下の通りに進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の諸注意。発音や正書法の説明。 2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音 (1)・・・ 3) avoir, etre, -er 動詞の活用・綴り字と発音 (2) 4) 挨拶・紹介等の表現、否定文・疑問文、綴り字と発音 (3) 5) 形容詞・-ir 動詞・数詞、綴り字と発音 (4) 6) 指示形容詞・指示代名詞・aller と venir ・綴り字と発音 (5) 7) それ以降はテキストに沿って進行する。必ずしも予定通りに行くとは限らないが、予定に縛られすぎると授業が無機的になって好ましくない。大切なことはできるだけ繰り返す方針。 				
受講要件					
テキスト	生協であらかじめ購入のこと。				
参考書					
予習・復習について	授業前に辞典をできるだけ引いておくこと。				
成績評価の方法・基準	試験と平常点による。出席重視。理由のない遅刻は厳禁。やる気と学習に対する誠実さを高く評価します。				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数学概論A (Mathematics A)				
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	農2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数		曜日・時限	水5・6
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	数学を通して、論理的、分析的な思考を行う能力を身につけます。 講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法（解析）と統合的手法（代数、幾何）があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。 講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>高校時における履修状況等を見て、進度別に3つにクラスを分けます。 3つのクラスの担当教員は クラス1： 若井教員 クラス2： 毛利教員 クラス3： 依岡教員 です。</p> <p>1. 数列と極限 実数の性質，数列の極限，実数の連続性，級数，関数の極限</p> <p>2. 微分法 微分法，平均値の定理，ロピタルの定理，テイラーの定理</p> <p>3. 積分法 積分法，置換積分法，部分積分法</p>				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社), ISBN4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	三宅敏恒著:「入門微分積分」(培風館) ISBN: 978-4563002213 小寺平治:「テキスト微分積分」(共立出版) ISBN: 978-4320017511				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	レポートなどの平常点(20%)および試験(80%)によって評価します。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示されます。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	数学 I (微分積分 A) (Mathematics I(Infinitesimal Calculus A))				
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 6 0 5	
分担教員名					
クラス	理 P C B G 3	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	高等学校の数学 I, II B まで習得している学生 (クラス 3) と、高等学校の数学 III, C まで習得している学生 (クラス 1, 2) に分けて、3 クラスで講義を行います。講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法 (解析) と統合的手法 (代数、幾何) があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学 I, II, III は、各々 3 クラスに分けて講義をします。前期の数学 I の第 1 回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3 クラスの担当教員は、</p> <p>クラス 1 : 数学 I 若井教員 - 数学 II 待田教員 - 数学 III 久村教員 クラス 2 : 数学 I 待田教員 - 数学 II 若井教員 - 数学 III 板津教員 クラス 3 : 数学 I 板津教員 - 数学 II 毛利教員 - 数学 III 奥村教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式 数と文字、文字式、平方根、2 次方程式 2. 実数の性質 1 次関数、2 次関数、不等式、三角比、三角関数、指数、対数 3. 極限 数列の極限、実数の連続性、和の記号 Σ と級数、優級数定理 4. 関数 関数の定義域と値域、関数の極限 5. 微分 整式の微分、導関数、積・商の微分、合成関数・逆関数の微分 6. 平均値の定理 平均値の定理、関数の増減、三角関数の微分、指数関数・対数関数の微分、ロピタルの定理 7. テイラーの定理 高階導関数、テイラーの定理 8. 積分 不定積分、置換積分、部分積分、定積分、広義積分、曲線の長さ、面積・体積 				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社), ISBN4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	「微分積分概論」, 越 昭三 監修, 高橋泰嗣, 加藤幹雄 著, (サイエンス社), 1998, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。試験では論理的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示されます。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	物理学Ⅱ（電磁気） (Physics II(Electromagnetism))				
担当教員名	佐藤 信一 (SATO Shinichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育D棟 203	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電荷と電場、電流と磁場、電磁波				
授業の目標	電磁気に関する基本的な概念と法則について学び、電磁気に関する理解を深める。				
学習内容	現代の科学技術の発展に深く関わる電磁気学の基礎について解説する。電荷と電位、電場、磁場などの基本的な概念と、ガウスの法則、アンペールの法則などの電磁気学の諸法則を学び、電磁気現象についての理解を深める。				
授業計画	回 内容 1 電荷とクーロンの法則 2 電場 3 電場のガウスの法則 4 電位 5 キャパシター 6 誘電体 7 電流と起電力 8 電気抵抗とオームの法則 9 直流回路 10 RC回路 11 磁石と磁場 12 電流の作る磁場 13 電流と荷電粒子に働く磁気力 14 電磁誘導 15 電磁波				
受講要件	物理学 I(力学)を履修していることが望ましい。				
テキスト	「基礎物理学」原康夫著（学術図書出版社）				
参考書	必要に応じて授業中に紹介。				
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	簡単な微分・積分を使用しますが、高校で物理を履修していないことも想定して講義を進めるよう心がけます。				

授業科目名	地球科学 I (基礎A) (Geosciences I(Fundamentals A))				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理 C B	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	地球の誕生、生物進化、地球環境、大量絶滅、気候変動、人類の進化、巨大地震、南海トラフ				
授業の目標	地球と生命の歴史を学び、地球上の多くの事象に潜む歴史的背景の重要性を理解する。				
学習内容	温暖化、生物多様性の減少、エネルギー問題などが人類の将来に影を落としている。私たち人類はどこに向かうのだろうか。それを考えるには、人類の歩んできた歴史を知る必要がある。なぜならば、人類の高度な文明は歴史の産物だからだ。そこで、この授業では、46 億年前の惑星「地球」の誕生から、生命の発生と進化、地球表層の環境の変遷、生命と環境の相互作用の歴史を概説する。また、静岡県以南の太平洋沿岸域は、近い将来、南海トラフの大地震の被害を受けることが確実である。この大地震へ備えるためには、過去の地震や津波の実態の理解も必要であるので、本講義で紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東北地方太平洋沖地震と巨大津波について 2. 化石記録と地層 3. 初期地球の環境と生命の起源 4. 錆びる地球と凍る地球 5. エディアカラ動物群とカンブリア紀の生命大爆発 6. 古生代の生物の進化 7. 古生代後期の生物の進化と絶滅 8. 中生代の古生物ー恐竜ー 9. 中生代末の絶滅事件、哺乳類の繁栄と急激な温暖化事件 10. 気候変動の復元方法 11. 気候変動のメカニズム 12. 氷期-間氷期サイクルの原因、人類の進化 13. 日本列島の島嶼化、最終氷期の環境変動 14. 過去 1 万年間の環境変動 15. 文明と気候変動、地球温暖化問題 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	毎回の授業でプリントを配布する。				
予習・復習について	毎回の授業で配布するプリントで復習する。適時、レポートを課す。				
成績評価の方法・基準	出席(出席 2/3 以上を評価の対象とする)、授業態度、レポート、試験にて総合的に評価します。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、事前にメールで連絡下さい(アドレス : seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	歴史科学の重要性を理解して欲しい。				

授業科目名	静岡県防災・減災と原子力 (Disaster prevention and mitigation for nuclear safety in Shizuoka)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人、原田 賢治、郡司 賀透、鈴木 誠之				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会合意形成とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 浜岡原子力発電所と安全対策 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 原子力災害からの復興 <ol style="list-style-type: none"> 11. 目で見える放射線とその防護（1） 12. 目で見える放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ <p>講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）当日配布します。				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、講義中の発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	地震防災 (Prevention of Earthquake Disaster)				
担当教員名	牛山 素行 (USHIYAMA Motoyuki)		所属等	防災総合センター	
			研究室	防災総合センター	
分担教員名	三井 雄太、原田 賢治、土屋 智、安村 基、村越 真、小林 朋子、山本 裕之、長尾 年恭、岩田 孝仁、武村 雅之、狩野 謙一、横幕 早季				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地震災害、防災、減災、災害対策、危機管理、防災教育				
授業の目標	地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。また、静岡県において警戒すべき災害は東海地震にとどまるものではなく、幅広い視野から災害を考える視点を養うことも重要である。今後、社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に、防災に関する視点を持てるようになることを目標とする。				
学習内容	地震災害をおもな題材とし、地震と災害の発生メカニズム、災害に対する社会の対応など、災害科学について各分野の専門家による講義を通じて総合的に学ぶ。				
授業計画	<p>各回毎に講義担当者が代わり、それぞれの分野の専門家により、講義が行われる。</p> <p>地震学と東海地震の基礎 1 生田領野 静大 地震学と東海地震の基礎 2 三井雄太 静大 地震予知 長尾年恭 東海大 活断層と地震発生長期予測 狩野謙一 静大 地震による災害：津波災害 原田賢治 静大 地震による災害：建物災害 安村基 静大 地震による災害：土砂災害 土屋智 静大 地震災害史 武村雅之 名古屋大 災害報道 荒川修平 テレビ東京 地震防災行政 岩田孝仁 静岡県 災害時の心のケア 小林朋子 静大 市民防災 横幕早季 静大 地震災害のリスク認知 村越真 静大 災害時の医療 山本裕之 静大 防災を学ぶ(講義のおわりに) 牛山素行 静大 ※講師の都合により、講義順序が入れ替えとなる場合がある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	「地震防災」 里村幹夫(編著) 学術出版社 2008年発行 購入は義務づけはないが、本講義の関係者も執筆している図書であり、副読本として参考になる。				
予習・復習について	予習・復習合わせて週1時間程度はテキストや配布資料を読み、不明な点は図書館やネット検索するなどして自分で調べてほしい。				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義の最後に小レポートを出題し、それを採点する。講義時間中に特に指示があった場合を除き、小レポートの後日提出は認めない。 ・小レポートの提出回数が、10回以上の者を成績評価の対象とする。 期末試験は実施しない。最後にレポートの点数を合計し、評価を決める。評価は全体の得点分布をみて判断する。 ・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。 				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	本学防災総合センターが企画している講義である。多様なバックグラウンドを持つ、学内外の専門家による講義を直接聞くことができる貴重な機会であり、本学ならではのユニークな構成となっている。是非この機会を生かして欲しい。				

授業科目名	富士山学 (Fujisan Sciences)				
担当教員名	徳岡 徹 (TOKUOKA Toru)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名	和田 秀樹、増澤 武弘				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	富士山、活火山、高山植物、ユネスコ世界文化遺産				
授業の目標	富士山は静岡と山梨両県をまたぎ、火山国日本の象徴的活火山であり、日本一の高さと容積を持つ。日本人が石器時代から、また縄文の時代から仰ぎ見る富士山の姿はどのようにしてでき変化してきたか？、自然史の中の富士山を人々がどのようにみてきたか？身近な自然現象の科学と自分とのつながりを考えてみよう。				
学習内容	地質学的側面、生物学的側面、人文科学的側面と多様な見方で富士山という火山を考えていく。				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 総論：富士山に生きる生物—活火山と共に— 増沢武弘(理学部)</p> <p>2 富士山に生きる生物</p> <p>3 富士山の永久凍土とコケ植物</p> <p>4 富士山植物の垂直分布 亜高山帯</p> <p>5 富士山植物の垂直分布 高山帯</p> <p>6 富士山植物の垂直分布 上部高山帯と山頂</p> <p>7 ブナ林の現状と将来</p> <p>8 植物の分類・系統と植物地理学 徳岡徹 (理学部)</p> <p>9 富士山の植物相</p> <p>10 富士山の周辺地域の植物相</p> <p>11 富士山の火山としての誕生 -富士山がそこにあるわけ 和田秀樹(理学部)</p> <p>12 富士山の地下には何がある I 日本列島の生い立ちと富士山</p> <p>13 富士山の地下には何がある II 富士山周辺の地質と活動史</p> <p>14 富士山の噴火口、寄生火山 富士山の最近の活動、宝永の噴火まで</p> <p>15 富士山活動の歴史を調べる方法のあれこれ 年代と赤色立体地図</p>				
受講要件	特になし				
テキスト					
参考書	富士山噴火 鎌田浩毅著 講談社ブルーバックス、静岡自然史 池谷仙之監修 静岡新聞社富士山の謎をさぐる・富士山の地球科学と防災学 日大地球システム科学教室編 築地書館				
予習・復習について	富士山に関する書籍を読み、予習復習して下さい。				
成績評価の方法・基準	試験とレポート				
オフィスアワー	訪問前にメール (徳岡宛 : sttokuo@ipc.shizuoka.ac.jp) で問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	誰もが知る富士山。世界を見渡しても山容の見事さは群を抜き、その自然の恵は計り知れない。富士山麓にすむ人を含めた生物はその恵を知らずともうけている。そして、火山にも寿命がある。地球が生きているという確かな息吹を静岡の地で感じていただきたい。				

授業科目名	暮らしの中の新素材 (Advanced materials in daily life)				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名	澤渡 千枝				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	機能性材料、バイオマス、生物材料、セルロース、繊維、プラスチック、生分解性材料、エネルギー、無機材料、化学史				
授業の目標	近年の科学技術の進歩は著しく、それらは気づかぬうちに私たちの生活のなかに活かされている。この講義では専門を異にする2名の教官が、暮らしの中で出会ういくつかの新技術や製品をとりあげ、その成り立ちやしくみ、開発の経緯などについて解説する。				
学習内容	世界の歴史において、新化合物の合成がどのように行われてきたか、そして、それらの化合物が果たしてきた役割を解説する。これまでに見いだされて来た多くの新素材が、どのように現在の社会生活を支えているかを学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 授業の概要についてガイダンス (近藤) 2 世界の歴史における新化合物の開発 (近藤) 3 金属を含む機能材料：金属を含む素材が示す多様な構造と機能 (近藤) 4 色の化学：～色が出るしくみと素材 (近藤) 5 バイオマスからの繊維材料について (澤渡) 6 衣料用繊維材料：ファッション界、スポーツ界における新材料 (澤渡) 7 産業用繊維材料：高性能・高機能材料-1 (澤渡) 8 産業用繊維材料：高性能・高機能材料-2 (澤渡) 9 プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-1 (澤渡) 10 プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-2 (澤渡) 11 磁石について (近藤) 12 電池について：携帯電話やパソコンの長時間使用は何故可能になったか (近藤) 13 触媒について (近藤) 14 地球温暖化対策を指向した素材：二酸化炭素の除去や太陽電池について (近藤) 15 水をきれいにする材料：海水を真水に変える素材 (近藤) 16 テスト				
受講要件	学ぶ意欲があり出席出来る学生なら、指定外の学部生も可				
テキスト	授業の中で紹介する				
参考書	授業の中で紹介する				
予習・復習について	授業でとりあげる新素材は多様な新素材の一部であり、それらの解説は授業者の視点からである。受講生は授業を聞くだけでなく、各自で関連した素材や異なる観点からの見解等に興味・関心を広げ、ものを観る目を養ってほしい。				
成績評価の方法・基準	出席状況と試験の結果を基に評価する。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは毎週水曜 11:30～12:30、澤渡のオフィスアワーは毎週木曜 14:30～16:00				
担当教員からのメッセージ	新化合物の合成技術の進歩は、しばしば世界の歴史に大きな影響を与えて来ました。科学の発展が担って来た社会に対する影響、そして、現在の身の回りにあふれる新素材について紹介します。文系の学生でも対応できるように、理系の特別の専門知識を必用としなくとも理解できる講義です。				

授業科目名	フランス事情Ⅲ (Situation in France)				
担当教員名	コルベイ (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード					
授業の目標	言語と文化は切り離せないものである。目標言語を理解するためにはその背景となる文化を理解することは必須である。この授業では学生がまずフランス文化の基礎的な背景知識（地理的背景、歴史、社会の仕組み、生活習慣、文学など）を学ぶ。本授業ではフランス語のテキストを使用し、フランスの文化をフランス語で読むことによって、その思考過程や構造を理解する。さらに、フランス文化の概念を、具体的な形として認識できるようにテキスト上の情報のみならず、映像なども利用する。様々な活動を通して、最終的に、学生自身が総合的かつ多角的な視				
学習内容	授業の流れとして、まずテキストの内容把握をする。（学生は予習としてテキストを読んでくる）テキストに沿って内容を理解し、学生からの質問があればそれに答える。さらに関連してその話題についての補足的な説明も加える。特に各トピックのキーワードについては、その言葉の背景について説明をし、発音や使い方なども指導する。適宜映像も使用し、理解を深める。授業の最後には意見交換や小作文を課す。				
授業計画	回 内容 1 フランス国土 2 フランス各地の特色 3 フロマージュ 4 ワインとミネラルウォーター 5 コンシエルジュ 6 ジャンヌ・ダルク 7 フランスとベルギーの BD 8 国民的ヒーローアステリックスとオベリクス 9 フランス革命 10 共和国の象徴マリアンヌ 11 フランスのシャンソン 12 エディット・ピアフ 13 フランス人の生きる喜び 14 イヴ・サン＝ローラン 15 復習				
受講要件					
テキスト	Denis C. Meyer, Clé pour la France, volume 2, Hachette, ISBN 978-4-907970-03-1				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業への参加 (20%) 宿題 (20%) 中間テスト (30%) 最終テスト (30%) 3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の 14:30～16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	金融論 I (Theory of Money and Banking I)				
担当教員名	鳥畑 與一 (TORIHATA Yoichi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 4 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	貨幣 (通貨)、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策				
授業の目標	金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解				
学習内容	金融論は資金の融通にまつわる諸事象を学ぶ学問分野ですが、一般的に、いくつかのテーマによって構成されています。たとえば、「金融理論」、「金融制度論」、「金融業務論」、「金融政策論」などです。本金融論ではそれらのテーマに即して総合的に学習します。なお金融論 I は国内金融を主に取り扱い、金融論 II は国際金融を主に取り扱います。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 貨幣の形態と機能 3 マネーストックとその変動 4 預金通貨の供給と信用創造 5 内国為替制度と手形交換制度 6 金融システムとは何か—直接金融と間接金融— 7 銀行の融資業務 8 銀行の預金業務 9 短期金融市場 10 金融政策と銀行① 11 金融政策と銀行② 12 銀行業とリスク 13 銀行業の規制・監督 14 中小企業金融とは何か 15 講義内容の総復習 (予備日)				
受講要件					
テキスト	使用する場合は初回ガイダンス時に指定します。				
参考書	随時指定していきます。				
予習・復習について	特に復習を十分に行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験に基づきます。中間課題 (小レポートまたは小テスト) を課したり、出欠を取ったりした場合は加点対象とします。				
オフィスアワー	月曜昼休み時を予定 (変更可能性あり)				
担当教員からのメッセージ	質問には講義終了後にまとめてお答えするので、講義中の質問はご遠慮ください。				

授業科目名	共生の社会学				
担当教員名	平岡 義和 (HIRAOKA Yoshikazu)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文C棟402	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	自然環境と人間の共生、環境リスク、開発と自然環境				
授業の目標	環境リスクという視点から、自然環境と人間、人間同士の共生のありようについて考察する。				
学習内容	人間は、長い歴史の過程において、自然環境と共生して生活するすべを身につけてきた。ところが、近年人間における環境の改変、化学物質の使用によって、両者の共生関係が、壊されつつある。そこで、環境リスクという視点から、人間社会と自然環境の共生のありようについて考えていきたい。それは、同時に、人間同士の共生関係について考察することでもある。				
授業計画	<p>以下のようなテーマについて、各1～3回ずつ講義する予定である。なお、問題の理解を深めるために、できるだけビデオ教材を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境リスクという視点 2. 自然環境との共生の歴史 3. ダムなどの開発と共生 4. 化学物質利用と共生 5. 自然の利用と共生 6. 人間社会と共生の課題 				
受講要件	なし				
テキスト	使用しない。プリント資料を配付する。				
参考書	個々の授業に関する参考文献は、授業中に指示する。				
予習・復習について	取り上げる環境問題に関する基礎知識を身につけておいたり、参考文献を読んだりすると、授業の理解が深まる。また、新聞記事を利用することも多いので、新聞を丹念に読むとよい。				
成績評価の方法・基準	中間レポートと最終レポートの成績で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	<p>授業期間中に起きる問題を随時トピックとして扱うことがあるので、日頃からTV、新聞などの環境問題関連のニュースに注意を向けておいてほしい。</p> <p>1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B)</p>				

授業科目名	フランス語コミュニケーション論 I				
担当教員名	コルベイ (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス文学、会話、朗読				
授業の目標	フランス 17 世紀の童話と寓話を読み、文学と愛、政治、法、社会の関係を理解することが授業の目標である。				
学習内容	各授業でシャルル・ペローの『童話集』とジャン・ド・ラ・フォンテーヌの『寓話』をフランス語で読む。単語や表現を翻訳し、作品の全体の内容を解釈する。最後に、朗読する。				
授業計画	回 内容 1 太陽王の世紀 I 2 太陽王の世紀 II 3 ラ・フォンテーヌの寓話 I 4 ラ・フォンテーヌの寓話 II 5 ラ・フォンテーヌの寓話 III 6 古今論争 7 ペローの『シンデレラ』I 8 ペローの『シンデレラ』II 9 ペローの『長靴をはいた猫』I 10 ペローの『長靴をはいた猫』II 11 ペローの『長靴をはいた猫』III 12 ペローの『赤ずきん』I 13 ペローの『赤ずきん』II 14 ペローの『赤ずきん』III 15 復習				
受講要件					
テキスト	コピーを配布する				
参考書	Louis Marin, Politiques de la représentation, Kimé, 2005.				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業への参加、宿題 (30%) テスト (70%)				
オフィスアワー	月曜日の 14 : 30 ~ 16 : 00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	理論と情報特論 I				
担当教員名	浅利 一郎 (ASARI Ichiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 1 3	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	マクロ経済学、均衡分析と動学分析、マクロ経済変動論				
授業の目標	多数の経済変数等間の関係を分析する方法として数学的方法を用いたモデル分析があり、その主要な方法として均衡分析と動学分析があります。その相違と関連を学ぶとともに、動学分析の基本的な方法と考え方を経済変動をテーマに学びます。				
学習内容	経済の成長や景気の変動など動学分析の基本的な考え方と数学的方法を学びます。				
授業計画	1. 経済分析の数学的方法 2. 経済成長モデル 3. 景気変動モデル 4. 非線形動学 回 内容 1 第 1 回 経済分析の数学的方法 ー均衡理論と動学理論ー 2 第 2 回 経済動学の方法 1 経済量の変化と動学の方法 3 第 3 回 経済動学の方法 2 差分方程式① 4 第 4 回 経済動学の方法 2 差分方程式② 5 第 5 回 ケインズ派の経済成長論① 6 第 6 回 ケインズ派の経済成長論② 7 第 7 回 景気循環の乗数・加速度モデル 8 第 8 回 経済動学の方法 3 微分方程式① 9 第 9 回 経済動学の方法 3 微分方程式② 10 10 回 新古典派経済成長理論 11 第 11 回 貨幣的景気循環の理論 12 第 12 回 均衡論的景気循環の理論 13 第 13 回 新ケインズ派の景気循環理論 14 第 14 回 経済動学 4 非線形動学とカオス理論 15 第 15 回 経済動学 4 非線形動学とカオス理論 第 16 回 グッドウィンの景気循環理論				
受講要件	ミクロ経済学 I, II およびマクロ経済学 I, II を履修していること。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書					
予習・復習について	講義で、例題を示すことがあります。その例題を中心とする復習が大切です。				
成績評価の方法・基準	小テストおよび期末テスト				
オフィスアワー	授業終了後の 20 分程度				
担当教員からのメッセージ	難易度 C				

授業科目名	中国言語文化各論 I				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	方言、文化、移民、歴史				
授業の目標	移民、地理的状況、植物、地名、地方劇、民俗などから漢語の方言と文化の関係を学ぶ。				
学習内容	文化は言語の変化と発展を引き起こす要因の一つである。この授業は漢語(方言を含む)がどのように文化的要因を受けて変化及び発展してきたのかについて学ぶ。具体的に方言と移民、方言地理と人文地理、方言と民俗、言語接触と文化交流などについて考える。				
授業計画	<p>具体的に下記のようなテーマを予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言葉と文化の関係 2 方言の区画と歴史行政区 3 方言区画の歴史 4 地名から見る文化 5 方言と民謡 6 方言と小説 				
受講要件	初級中国語習得済み、中国言語文化に興味のある人				
テキスト	周, 振鶴・游, 汝杰 著『方言与中国文化』 上海人民出版社 1000088907				
参考書	授業中で指示する				
予習・復習について	予習をしっかりと行ってから授業に臨むこと				
成績評価の方法・基準	授業への参加(授業中の質疑応答、課題の提出)と最終試験/レポートを併せて評価する				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	文化からことばをみると、意外に多くのことがわかってくることがあります。ぜひその面白い側面を楽しんでみてほしいです。そして自分の国の文化とことばの関係を考えてほしいです。				

授業科目名	フランス言語文化演習V (Seminars in French Linguistics V)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	フランス語の基本				
授業の目標	文法の知識と語彙を増やし、読む力をつける。				
学習内容	フランス語の小説を読む。参加者に順番に和訳してもらいます。				
授業計画	ノーベル賞作家ル・クレジオのDavidを読む。				
受講要件	フランス語を2年以上学習していること。				
テキスト	「ダヴィッド」(ル・クレジオ、朝日出版社、中地義和編)をあらかじめ生協で購入しておいて下さい。				
参考書					
予習・復習について	予習が必要。				
成績評価の方法・基準	テストと平常点による。				
オフィスアワー	月13:20~14:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地域政策 I				
担当教員名	太田 隆之 (OTA Takayuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通教育L棟 328号室	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	地域開発、地域活性化、地方自治、持続可能な発展				
授業の目標	地域が直面する経済・社会問題の捉え方と、こうした諸問題に取り組むための視点及び基礎的思考力を習得することを目標とする。				
学習内容	<p>本講義では現在国および地域が抱える重要な課題の1つである地域問題に注目し、その具体的な内容と、これまで国と地域がこの問題にどうアプローチし、どういう結果を招いてきたかを検証する。特にこれまでの地域開発のあり方を規定してきた全国的な動向に注目し、その内容と結果、評価をめぐる議論を取り上げる。そして、今後の日本における地域政策を考える上で、持続可能な発展とそれを実践しようとしているヨーロッパにおける地域政策に注目し、その内容とこれまでの到達点・成果と限界をめぐる議論に注目する。</p> <p>以上のことを通じて、地域問題を克服するためのアプローチや地域政策のあり方・方法を考えるとともに、自らの視点で地域経済・社会を捉え、地域で生ずる諸問題を考えるとともに、具体的な政策案を考える力を習得することを目指す。</p>				
授業計画	<p>概ね下記の内容で進めていく予定である。詳細は初回の講義で説明する。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 地域政策の課題は何か 1—「地域経済の不均等発展」 1— 3 地域政策の課題は何か 2—「地域経済の不均等発展」 2— 4 地域政策の課題は何か 3—「地域経済の不均等発展」をめぐる議論— 5 「地域経済の不均等発展」に対する中央政府のアプローチ 1—全国総合開発計画概論— 6 「地域経済の不均等発展」に対する中央政府のアプローチ 2—全総を中心に— 7 「地域経済の不均等発展」に対する中央政府のアプローチ 3—四全総を中心に— 8 全総のまとめ 9 今後の地域政策に向けて—「持続可能な発展」をめぐる議論— 10 欧州における地域政策 1—EUの地域政策・序論— 11 欧州における地域政策 2—EUの構造基金とその後の展開— 12 今後の地域政策はどうあるべきか—「国土形成計画」を素材に— 13 今後の地域政策はどうあるべきか—昨今の動向— 14 なぜ地域政策が必要か 1—経済学からのアプローチとその意義と限界 1— 15 なぜ地域政策が必要か 2—経済学からのアプローチとその意義と限界 2— 				
受講要件	幅広く科目を履修し、また地域をめぐる日々の動向や報道に関心をもってほしい。可能であれば地域政策Ⅱも受講をしてほしいが、これは本講義を受講するにあたっての必須事項ではない。				
テキスト	レジュメと配布資料を用いて進めていく予定である。詳しくは開講時に説明する。				
参考書	<p>テーマに応じて下記を中心に利用する予定である。参考書については随時講義の中で説明する。・本間義人(1999),『国土計画を考える』,中公新書・諸富徹(2003),『環境』,岩波書店・淡路剛久他編(2006),『持続可能な発展』,有斐閣・諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』,中央公論新社・増田寛也編著(2014),『地方消滅』,中公新書</p>				
予習・復習について	可能な限り参考書等を利用し、予習・復習を行うことを望む。さしあたり、講義で紹介する文献や資料に関心を持ったものは実際に手に取って読んでみることを。				
成績評価の方法・基準	中間レポートと最終試験により行う予定である。詳しくは開講時に説明する。				
オフィスアワー	開講時に説明する。				
担当教員からのメッセージ	<p>県立大学単位互換(認める) 科目等履修生(認める) 難易度(C) 今地域で起きていることには常に注目し、日々の報道に注視してほしい。地域政策は我々が日常生活を営む地域に影響するため、理念や理論だけではなく、その実際も重要である。また、地域経済・地域社会はダイナミックに変化しており、今起きていることがそのまま地域政策の課題となる。こうした地域で起きる課題とそれらの報道に対して、自分ならどう考え、どう対応するかを常に考えながら、講義を受講してほしい。</p>				

授業科目名	マーケティング (Marketing)				
担当教員名	鈴木 拓也 (Takuya Suzuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟 413	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	マーケティングの4P、戦略計画、顧客価値・顧客満足、マーケティングのSTP、消費者行動、ブランド・エクイティ、リレーションシップ				
授業の目標	マーケティングの基本を一通り理解し、それを使って考える能力を養う。				
学習内容	<p>マーケティングは、企業が自社の商品が売れるようになるために行う諸活動（製品開発、ブランド付け、価格付け、広告など）の総称です。現代ビジネスにおいてマーケティングは必要不可欠のものとなっています。特に多くの業界が成熟している現在においては、いかにして他社との違いを明確にし、それを消費者に認識させるのか、価格をいくらにしたら消費者に受け入れられるのか、最適な販路は何かといったマーケティングの課題が企業の戦略において大きな比重を占めるようになっていきます。</p> <p>そこでこの授業では、主に消費財メーカーのマーケティングを想定し、製品、ブランド、消費者行動、プロモーションといったマーケティングの基本について理解します。なお、「マーケティング」（本授業）ではマーケティングの総論を、後期開講科目「企業経済特論Ⅱ」ではマーケティングの各論（製品戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、マーケティング・コミュニケーション戦略）を主に取り上げます。したがって、「マーケティング」と「企業経済特論Ⅱ」の両方を履修することでマーケティングの基本全般を学ぶとお考え下さい。</p>				
授業計画	<p>以下を予定しています。進捗状況により変更する可能性があります。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 マーケティングとは何か 3 全社レベルでの意思決定に関する問題（全社戦略、企業戦略） 4 事業単位レベルでの意思決定に関する問題（事業戦略） 5 マーケティング・リサーチ 6 顧客価値、顧客満足、顧客ロイヤルティの創造 7 消費者行動1：消費行動に影響を与える要因 8 消費者行動2：購買決定プロセス 9 マーケット・セグメンテーション（市場細分化） 10 ターゲティング（標的セグメントの決定） 11 ブランド・エクイティ 12 ブランディング戦略の立案 13 ポジショニングの設定 14 業界の構造分析と市場地位別マーケティング戦略 15 まとめ（予備日） 				
受講要件	経営学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。				
テキスト	フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー著、恩蔵直人監修、月谷真紀訳『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』丸善出版、2008年。・この授業では第1章から第9章までを取り上げ、第10章以降は後期「企業経済特論Ⅱ」で取り上げます。・補足資料を適宜、配布します。				
参考書	授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	予習：テキストの該当箇所を読んでくる。テキストは必ず事前に読んできて下さい。復習：テキスト、ノート、配布資料を見直す。				
成績評価の方法・基準	期末試験 70%、レポート 30%。2,000字程度のレポートを授業内に2回課す予定です。				
オフィスアワー	毎週火曜日の16:00～17:00、18:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（B） 後期「企業経済特論Ⅱ」はこの授業の続きです。マーケティングの基本全般をしっかりと身に付けたい人は、後期の「企業経済特論Ⅱ」を必ず履修して下さい。				

授業科目名	日本経済史 I				
担当教員名	日向 祥子 (HYUGA Shoko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通教育L棟 318号	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	日本経済、歴史、社会、政治				
授業の目標	戦前日本の経済や社会の在り方について、基本的な知識を習得するとともに、史的因果関係を吟味する力を身につける。				
学習内容	①幕末開港から第二次世界大戦までの日本経済・社会に関する知識 ②実際の人々の暮らしに引き付けた経済理論の理解 ③知識を体系的に整理し、論理的に述べる方法				
授業計画	回 内容 1 黒船襲来 2 維新の税制改革 3 明治14年政変 4 産業革命(1) 5 産業革命(2) 6 足尾鋇毒事件 7 別子暴動事件 8 模擬試験(1) 9 模擬試験(1)のフィードバック 10 大正政変 11 米騒動 12 昭和恐慌 13 2・26事件 14 模擬試験(2) 15 模擬試験(2)のフィードバック				
受講要件	学務情報システムを通じて配信する講義レジュメを自ら印刷して講義に参加すること。				
テキスト	武田晴人『新版 日本経済の事件簿』日本経済評論社、2009年				
参考書					
予習・復習について	講義のたびに復習のための素材を提供するので活用されたい。				
成績評価の方法・基準	期末試験のみで評価する。「模擬試験」は理解の確認(受講生と教員の双方)と定着のために実施するものであり、参加および出来栄は評価に一切影響しない(不参加ないし0点でも受講生は何ら不利益を被らない一方、期末試験の出来が悪かった場合の救済手段にもならない)。				
オフィスアワー	火曜日 17:00-18:00				
担当教員からのメッセージ	例年「評価に無関係な模擬試験」に熱心に取り組む受講生の姿に感心しています。今年はどうのような力作答案に出会えるか、楽しみにしています。				

授業科目名	社会学概論				
担当教員名	白井 千晶 (SHIRAI Chiaki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文C401	
分担教員名	荻野 達史、平岡 義和、吉田 崇				
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月9・10
キーワード	社会学的分析視角、社会関係・相互行為、教育、ジェンダー、福祉、多文化共生、ライフコース、格差、環境問題				
授業の目標	人間・社会について、歴史・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重できるようになること。				
学習内容	人間は、我々が想像する以上に社会的存在である。社会学は、ミクロな人間関係からマクロな社会構造にいたるまで埋め込まれた社会秩序とその変動を分析し、現代的な社会問題を多角的に解明する。社会学コースの教員全員で担当するこの講義では、半期の講義であるが、様々なトピックを取り上げることで、社会学的な発想法や分析視角、そして研究法のバリエーションを知る機会となる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会学への招待 2) 少年犯罪を読み解く 3) 環境問題を社会学する 4) 自分を問うということ 5) 対人関係の作法と社会 6) 「学校に行かないこと」の問題史 7) ジェンダーとセクシュアリティ 8) テクノロジーと出産 9) 女性の福祉と子どもの福祉 10) 差別問題とアイデンティティ 11) 多文化共生社会論 12) 「社会を変える」こと社会学 13) 若年者就業の社会学 14) ライフコースとキャリア 15) 格差社会と社会的排除 				
受講要件	社会学科の学生に限る。				
テキスト	教科書は特に指定しない。				
参考書	全体をカバーするものとして、塩原良和・竹ノ下弘久編著 2010年『社会学入門』(弘文堂)、長谷川公一ほか編(2007)『社会学』(有斐閣)の2冊を挙げておく。その他、各教員が適宜紹介する。				
予習・復習について	講義後は必ずノートのとまとめを行うこと。初回講義で配布される参考文献リスト中の文献を読むと、授業の理解が深まる。				
成績評価の方法・基準	各教員が担当最終回に試験あるいはレポートを課し、基礎概念や授業内容の理解度を評価する。その上で総合得点を計算する。				
オフィスアワー	最初の授業で指示する。				
担当教員からのメッセージ	難易度 (A) 1. 県立大学単位互換 (認めない) 2. 科目等履修生 (認めない) 一方的な講義ではなく、できるだけ具体的な資料などをもとに、受講者が考え、問いを深めていくように工夫したい。また、紹介される文献には、新書など読みやすいものも多く含まれるので、ぜひ自らの読書の幅を広げ、社会についての理解を深めるチャンスとして、この講義を生かして欲しい。				

授業科目名	企業倫理学 (Business Ethics)				
担当教員名	田島 慶吾 (TAJIMA Keigo)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 2 0	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10
キーワード	企業倫理、CSR、コーポレート・ガバナンス				
授業の目標	企業倫理学の基本的な考え方を理解する。				
学習内容	企業不祥事、企業犯罪の生じる原因とその防止策を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 企業倫理学入門 2 企業倫理学の基礎概念 1 3 企業倫理学の基礎概念 2 4 規範、倫理とは何か？ー倫理学の基礎概念ー 5 規範、倫理とは何か？ー経済学の倫理についての考え方ー 6 規範、倫理とは何か？ー倫理の発生論ー 7 ステークホルダー論 8 コーポレート・ガバナンス 1 9 コーポレート・ガバナンス 2 10 企業の社会的責任論 1 11 企業の社会的責任論 2 12 内部告発論 13 社会的責任投資 1 14 社会的責任投資 2 15 まとめ				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキストは用いない。レジメを配布する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	特に必要なし。				
成績評価の方法・基準	学期末試験による。				
オフィスアワー	水曜日 17:30-18:30				
担当教員からのメッセージ	勉強しよう。				

授業科目名	英米文学史 I (Introduction to English and American Literature I)				
担当教員名	鈴木 実佳 (SUZUKI Mika)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 1 7	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	literature、English、reading				
授業の目標	特に、人文社会科学部 言語文化学科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）2 に示されている外国文化の深い理解を得るための準備を促すことを目標とする。 言語文化学科教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）2 に示されているような専門領域の基礎を固める科目である。				
学習内容	Lecture style Introduction to literature, mainly English literature Beginning with the basic concepts of literature, myth, epic and tragedy, our survey covers wide range of writers from Chaucer to the contemporary authors.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: 'what is literature?' 2. Myth, epic and tragedy 3. Chaucer, the Bible 4. Shakespeare 5. the metaphysicals, Milton 6. Printing, publishing and copyright 7. The rise of the novel 8. Criticism 9. The Romantics 10. Jane Austen 11. Dickens 12. Literature and children 13. Poets Laureate 14. Literature andn adaptations 15. Republic of Letters <p>Though the textbook has more chapters, the course does not cover all.</p>				
受講要件					
テキスト	John Sutherland, A Little History of Literature (New Haven and London: Yale University Press, 2013).				
参考書	The textbook box of this syllabus does not allow additional information; the following is on Sutherland's book: Either Kindle version or a paperback copy (978-0300205312) will do. Kindle ¥1608; paperback ¥1800 as of January 2015 (¥ stands for yen: garbled)				
予習・復習について	Reading chapters beforehand would help you understand what is going on in the class. Sutherland's text is fun to read; enjoy reading before and after class.				
成績評価の方法・基準	comment paper (20%) end-of-term paper exam (80%)。				
オフィスアワー	Fridays 10.20-11.50 appointment preferable				
担当教員からのメッセージ	Learn English and learn in English.				

授業科目名	中国言語文化講読Ⅱ				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	中国人の価値観、中国人の人間関係、論理的文章の読解力				
授業の目標	<p>1、一定のテーマについて書かれた論理的な文章や議論形式の長めの会話文を読み、論点、論理展開、主張の内容などを正確に理解する力をつける。</p> <p>2、日常生活を通して見られる中国人の価値観、思考や行動方式などについて認識を深める。</p> <p>3、自分の意見を中国語で言い表す習慣をつける</p>				
学習内容	中国人の日常生活の中に見られる価値観、思考方式、人間関係の在り方などをテーマにして独話と会話の形式で書かれたテキストを用い、その内容理解とテーマを巡っての意見交換を行う。				
授業計画	<p>以下のようなテーマを選んで進めていく予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常見的話題 2. 人情和関係 3. 自尊和謙虚 4. 言不及利 5. 意在言外 6. 等級概念 7. 同一觀念 8. 協調和均衡 				
受講要件	中国語の既修者				
テキスト	『説漢語談文化』（上下） 北京語言大学出版社				
参考書	授業で紹介する				
予習・復習について	輪読するので予習が必要。復習にも力を入れること				
成績評価の方法・基準	授業での報告と提出物、授業への取り組み、期末レポートを総合評価する。				
オフィスアワー	火曜日の昼休み				
担当教員からのメッセージ	留学生の参加を歓迎します。				

授業科目名	地方財政論 I				
担当教員名	川瀬 憲子 (KAWASE Noriko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 4 0 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	地方自治、地方分権、課税自主権、公共事業、まちづくり、課税自主権、地方税、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス				
授業の目標	地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達してきたのか、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、歴史や国際比較という観点を交えながら、様々な角度から洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	内容的には地方財政入門編と歴史編に分かれるが、前者では、日本の地方財政の仕組みや課題、後者では主として歴史的な流れに即して、欧米と日本の地方財政がどのように発達してきたのかを、財政思想の紹介などを交えながら、幅広い観点から解題する。また、日本における市町村合併、三位一体の改革といった「分権改革」が、地方財政のみならず国民生活や地域社会に及ぼされる影響についても、具体的な事例をあげながら、わかりやすい説明を加えることにしている。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 地方財政のしくみと地方自治 3 「分権改革」と地方財政①－市町村合併 4 「分権改革」と地方財政②－三位一体の改革と道州制論 5 17 世紀ヨーロッパの市民的財政思想 6 自由主義的財政思想とイギリスの産業革命 7 社会政策思想と 19 世紀末期英独の地方財政改革 8 ケインズ主義とアメリカのニューディール期財政改革 9 新自由主義とイギリス地方財政改革 10 明治地方自治制と地方財政 11 大正デモクラシー期の自治要求 12 昭和恐慌と井上・高橋財政 13 戦後改革とシャープ勧告 14 まちづくりと住民参加 15 分権型福祉社会の制度設計				
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』(自治体研究社)				
参考書	川瀬憲子(2001)『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社、宮本憲一・遠藤宏一編(2006)『セミナー現代地方財政 I』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳編(2008)『セミナー現代地方財政 II』勁草書房、川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考文献、新聞などをしっかりと読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	平常点(30%)、定期試験(70%)をもとに評価を行う。毎回授業のまとめをしてもらったり、適宜小レポートを課す予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。県立大学との単位互換：認める。科目等履修生：認める。難易度 B				

授業科目名	異常心理学Ⅱ				
担当教員名	田辺 肇 (TANABE Hajime)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟412	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	人間理解の認識枠組、現実と経験、意識と自由意志、人格とコヒーレンス、自己とアイデンティティ、発達・学習と適応、障害・不全と健康、病理・異常と治療・支援、メンタルヘルス・精神保健、予防と健康増進				
授業の目標	心理学、精神保健福祉学の領域における専門的知識と探究方法の学びを通じて、さまざまな条件における多様な人間のあり方について深く理解しつつ、他者への肯定的な関心と共生への志向を高め、協働的対人関係能力の基礎を培うこと、ことに、人権意識と共生を基礎とする市民としての責任と人を理解する態度の基盤を涵養することをねらっている。				
学習内容	<p>異常心理学では「普通に」成り立っている心理過程から逸脱した現象に焦点を当てる。そのような通常態から逸脱した心理現象の検討を通じて、逆照射的に通常心理過程のあり方を考察する方法を病理法という。本講義では、知覚・記憶と体験・現実、意識と意志・主体性、人格・自己と同一性、発達・学習と適応、動機と自己決定性、対人関係と社会・文化などを軸に、異常・病態心理を検討することで、「普通の体験」を成り立たせている心的過程と社会構造について考察する。</p> <p>特に、病理現象を何らかの苦境・ハンディ・障害を持ちながらも人が与えられた環境の中で発達し適応し生きようとする過程として捉える発達精神病理学の視点から、子ども虐待とその影響ならびに予防・支援に焦点を当て、「異常(正常)」とは何か、「病理(健康)」とは何かを批判的に検討し、子どもを含む「こころの障害・不全」とその援助についての根本問題を考察する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(本講義の特徴と進め方)と復習=心理モデル・治療モデルと人間観(脳機能と精神、精神力動論、学習理論、ストレス理論、システム論、危機理論) 2. 体験の成立とその異常(物理的現実・社会的現実と体験的現実、既視感と離人感、感覚器官障害、社会的認知と被暗示性、常識と差別、暗黙の性格理論、催眠・夢・空想と現実と二重意識) 3. 異常心理と病態心理(異常、障害・不全、病理、「病」観と治療・予防・支援・メンタルヘルス、精神保健施策と社会状況) 4. こころの障害と心理臨床の構成(パターナリズム、エンパワメント、認識論的相対主義と構成主義) 5. 精神保健活動の諸相 6. 支援の社会資源・制度と倫理 7. 発達と学習の異常(MR・LD・ADHD・PDD、二次・三次障害、こころの理論) 8. 児童虐待と心的外傷(虐待とは、家族病理、PTSD、対人・自己スキーマの障害、発達精神病理学とエンパワメント、加害者支援と支援者支援、予防とコミュニティアプローチ) 9. 自己の成立とその異常(「記憶喪失」と「多重人格」、意志(主体)と正常心理のモデルとしての「大人」の生活、自由意志と合意、潜在意識と意図性・自動性、自伝的記憶と物語的・関係的自己、自動性の暴走と人格の調和) 				
受講要件	心理学概論と基礎心理学Ⅰの履修と人格・発達・社会・臨床心理学の基本的な知識を前提として講義を展開する。				
テキスト	特に指定しない				
参考書	精神看護学Ⅰ[第5版]—精神保健学—吉松 和哉・小泉 典章・川野 雅資(編) スーヴェルヒロカワ 2,310円 ISBN: 4-86174-031-2/松田『「知覚不全」の基礎心理学』ナカニシヤ出版/板倉『「私」はいつ生まれるか』(ちくま新書)京都大学学術出版会/ハーマン『心的外傷と回復』/パトナム『解離: 若年期における病理と治療』みすず書房/下山・丹野(編)『異常心理学Ⅰ』東京大学出版会				
予習・復習について	シラバスに挙げた主題毎に9回レポート提出(学情の機能を利用する)を求めらるので、それをペースメーカーにしながら予習、復習をして下さい。講義の他にも、参考文献や新聞・テレビ・出版物・インターネットなど広くアンテナを張り、多くの情報を参照し、自らそれらを整理し統合することが必要です。疑問点を整理し予習・復習を充分に行ってください。特に初回からどんどん授業を進めていくのでシラバスや参考書、辞書、ネットの情報等を参考に充分予習しておいてください。				
成績評価の方法・基準	9つの主題毎に、①授業のまとめ、②復習的文献まとめ・自己学習等、③受講生の見解・意見・感想・質問等、を書いたレポート提出(枚数様式自由)を学情の機能を用いて行う。各10点(但し、最終回後には、④受講と自己学習全体を通して得たもの、を加え20点とする予定)。				
オフィスアワー	水3・4限(要予約)				

担当教員からのメッセージ	受講生による質問や意見提出を取り入れて授業を進める。人間理解の基本問題にも触れるので、人間学的・社会学的な関心を持っている学生が履修するのも良いだろう。受講生の主体的な参加を期待する。
--------------	--

授業科目名	日本中世文化史				
担当教員名	貴田 潔 (KIDA Kiyoshi)		所属等	学務部	
			研究室	人文 A 棟 319	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	中世国家の構造と宗教、地域社会のネットワーク、差別／被差別と信仰、惣村の成立と在地の年中行事、貨幣経済と有徳思想、贈与経済と中世の心性、イエズス会宣教師が見た日本				
授業の目標	1.前近代の文化史を学ぶことで、現代の“文化”や“伝統”を相対的に見る視野を広げる。 2.各回のテーマに応じた学説を知るなかで、論理的な思考を導く能力を高める。				
学習内容	1.院政期から戦国期にかけての文化史を学ぶ。中世の文化を理解するとともに、それを培った前近代の社会構造を考える。 2.若干ながら静岡県域の中世史料にも触れることで、地域史に対する理解も深める。				
授業計画	<p>I 大きな時代の変遷に沿って文化史の概要を解説する。 ①院政・鎌倉期、②南北朝・室町期、③戦国期</p> <p>II 文化史の流れとともに中世社会の諸相も捉える。 《国家と宗教》 《地域社会のなかの寺社》 《公家・武士・民衆の信仰と文化》 《都市と村落》《経済と思想》 《東アジアのなかの日本文化》</p> <p>III 戦国期では近世社会への展望も重視しつつ、現代社会を見通した歴史の連続性を考える。</p> <p>※講義は板書とスライドを中心に進める。 ※絵画や写真をスライドに映すことで、中世社会の姿を視覚的にイメージできるように配慮したい。 ※ときに簡単な史料を紹介することもあるが、できるかぎり丁寧な解説をゆっくりと行うので、地域の中世史料に慣れ親しんでもらいたい。</p> <p>第1回 ガイダンス + 《院政・鎌倉期》 国家と宗教 第2回 《院政・鎌倉期》 地域社会のなかの寺社 第3回 《院政・鎌倉期》 公家・武士・民衆の信仰と文化 第4回 《院政・鎌倉期》 都市と村落 第5回 《院政・鎌倉期》 経済と思想 第6回 《院政・鎌倉期》 東アジアのなかの日本文化 第7回 《南北朝・室町期》 国家と宗教 第8回 《南北朝・室町期》 地域社会のなかの寺社 第9回 《南北朝・室町期》 公家・武士・民衆の信仰と文化 第10回 《南北朝・室町期》 都市と村落 第11回 《南北朝・室町期》 経済と思想 第12回 《南北朝・室町期》 東アジアのなかの日本文化 第13回 《戦国期》 応仁・文明の乱以後の社会と文化 第14回 《戦国期》 ヨーロッパから見た日本文化 第15回 《戦国期》 近世社会への展望</p>				
受講要件	日本史の基礎知識と漢文の基本文法の素養（ともに高校レベル）を備えていることが望ましいが、必須でない。				
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。				
参考書	網野善彦『日本の歴史をよみなおす（全）』（筑摩書房、2005）。				
予習・復習について	板書は復習に備えて書き写すこと。授業時間内の内容理解がもっとも大事であるが、疑問点があれば積極的に質問に応じたい。				
成績評価の方法・基準	出席点 30%。期末テスト 70%。特別な理由なく欠席が 3分の 1 を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	水曜日 5・6 限。				
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（認める） 2.科目等履修生（認める） 難易度（C） 口頭での質問も積極的に受け付けるが、コメントペーパーを利用して、できるだけ各人の疑問点に答えたい。重要な質問については次回の冒頭で解説するように配慮したい。また、質問を考えることを通じて、物事を疑う論理的な思考力も高めてもらいたい。				

授業科目名	日本文学概論 I (Introduction to Japanese Literature I)				
担当教員名	小二田 誠二 (KONITA Seiji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	古典、文学史、崩し字判読、注釈、現代語訳、文献調査、研究論文、発表				
授業の目標	江戸戯作を材料として、古典文学研究の基本的な考え方と方法を実践的に身に着ける。				
学習内容	江戸戯作の代表的ジャンルである絵本、黄表紙を材料として、崩し字の判読、語句・図版の注釈、本文の検討、出版状況や社会的な背景などの調べ方を講義形式で紹介します。 ただの講義だと面白くないので、適宜実践的な課題や議論を挟みます。テキストは一点ですが、かなり脇道に逸れることで、近現代を含め、広く応用の利く内容にする予定。				
授業計画	<p>*数字は内容のリストであって、各回の内容を表すものではありません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 始めに 授業の概要・予備知識チェック 2 草書・変体仮名・翻字 3 本文 4 語釈 5 絵を読む 6 作品の周辺 7 書物そのもの 8 書物の流通 9 現代語訳 10 知りたいことは何？ 11 どうすれば明らかになる？ 12 先行研究を探す 13 どうしたら新しいことが言えるか 14 わかりやすくまとめる 15 論文と口頭発表、各種プレゼンテーション 				
受講要件	日本文学研究で卒業論文を書く人を対象とした専門の授業です。				
テキスト	コピーを配布します。				
参考書	参考文献リストを授業内で作成します。				
予習・復習について	宿題を多めに出す予定です。				
成績評価の方法・基準	最終レポート(5000字程度の小論文) 80%授業への積極的な参加・貢献 20%*ほかに、任意の小レポートで加算。				
オフィスアワー	あなたと私の空き時間。私の時間割は http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html で公開します。				
担当教員からのメッセージ	日本文学・文化で卒業論文を書くこと、について、自覚を持って三年生になるためにしっかり学んで下さい。言語文化研究に関わることであれば、授業内容に直接関わらない質問も歓迎します。				

授業科目名	比較文学概論 I				
担当教員名	田村 充正 (TAMURA Mitsumasa)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 321	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	比較文学、日本文学、海外受容				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 比較文学の基礎知識を学ぶ。 2. 日本の比較文学の諸問題を考える。 3. 海外の日本文学受容を調べる。 				
学習内容	この講義ではまず欧米における比較文学の歴史と方法を概説した後、日本の比較文学がかかえる問題点を考える。明治期以降の日本文学は欧米文学を一方向的に受容することによって展開してきた歴史をもち、比較文学において影響研究や対比研究を実践するにしても、文学的国際交流の密な西欧とは基本的な土壌が異なることを自覚した上で、独自の方法を見い出す必要性に迫られている。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 比較文学の基本概念と歴史 (比較文学前史) 18世紀末のドイツで誕生した国文学研究という考え方が外国文学研究を経て、比較文学研究というジャンルを成立させるまでのプロセスをいくつかの焦点を設けて概説する。 (フランスの比較文学) フランスは国文学研究の一分野として比較文学を発展させてきたわけであるが、その文献学の理論と方法を駆使した実証主義研究としての比較文学の特徴を解説する。 (アメリカの比較文学) 第二次世界大戦以降、フランス学派に対する批判として生まれたアメリカ学派の対比研究について、その特徴と文学理論を考察する。 2. 日本の比較文学の歴史と問題点 日本の比較文学に対する関心は早く、明治期にまで遡れるのだが、日本の文学的土壌の個別性を明確に自覚しない、欧米の研究手法の安易な輸入や適用が招いた混乱を整理したうえで、近年における日本の比較文学研究の成果ともういうべき優れた研究を紹介する。 3. 海外の日本文学受容 日本文学の海外受容ではなく、その逆の方向で生じた海外の文学現象を下記の三つの軸を設けて考察する。 ①19世紀後半のジャポニズムから派生した俳句への関心。 ②1920年代のA.ウェイリーによる英訳『源氏物語』の刊行。 ③1960年代の川端康成ノーベル文学賞受賞に端を発し、現代の村上春樹、よしもとばななまで続いている日本近現代文学への注目。 				
受講要件					
テキスト	プリントして配布する。				
参考書	講義内容にあわせて教室で指示する。				
予習・復習について	関連する参考文献を紹介するのでそれらを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況と試験あるいはレポートによって判断する予定である。				
オフィスアワー	木曜日・昼休み 研究室：jjmtamu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	政治思想 I (Political Thought I)				
担当教員名	井柳 美紀 (IYANAGI Miki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 605	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	デモクラシー、公共性、主権、国家、権力分立、リベラリズム、自由、政治参加				
授業の目標	今日、私たちが用いている基本的な政治学上の理念や価値の歴史と意義を学ぶ。				
学習内容	政治思想の中でもヨーロッパの政治思想を中心に、古代ギリシアの政治思想から出発して、近代政治学までを主な対象として、各々の時代の主要な政治思想家の政治思想を検討して、政治学上の理念や価値の変遷、及びその意義を学ぶことで、現代政治の諸価値を再検討するための手がかりを得る。				
授業計画	回 内容 1 プラトンの政治思想 2 アリストテレスの政治思想 3 キリスト教とアウグスティヌス 4 マキアヴェリと近代政治学 5 ボダンと主権論 6 グロチウスと近代自然法論 7 ホッブズ 8 ロック 9 モンテスキュー 10 文明社会とルソー 11 アメリカ革命の政治思想 12 保守主義ーバーク、ヘーゲルー 13 社会主義ーマルクスー 14 自由主義ーミル、トクヴィルー 15 現代政治思想とアーレント				
受講要件	特になし。				
テキスト	・宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣アルマ、2013 年）				
参考書	・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』（ミネルヴァ書房、2008 年）・佐々木毅・鷺見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』（北樹出版、1995 年）・福田歓一『政治学史』（東京大学出版会、1985 年）				
予習・復習について	テキスト、及び授業中の配付物を、予習・復習用の資料として参照されたい。				
成績評価の方法・基準	論述式による期末試験を中心に、小レポートを加味して評価する。				
オフィスアワー	授業終了後のお昼休み。もしくは、事前にご連絡の上お越し下さい。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（A）西洋の政治思想の歴史を学ぶが、現代政治への関心をもった学生の参加も歓迎する。				

授業科目名	ギリシア語 I				
担当教員名	田中 伸司 (TANAKA Shinji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	古代ギリシア語、文法、語形変化				
授業の目標	人文学領域の基礎である古代ギリシア語文法を学ぶ。				
学習内容	基本的なギリシア語文法の学習を通じて、ギリシア文化の基礎に触れることを目的としています。ギリシア語 I および II を履修した暁には、辞書と首っ引きではあるけれど、自分の力でギリシア古典に直接触れることが可能となる領域にまで導きたいと願っています。				
授業計画	<p>基本的には、下記の教科書の練習問題を解くことが授業の中心となります。文法事項の解説も行いますが、初歩のうちは基本的な変化の暗記と「変化表」を使いこなす訓練が主となります。1 回に 2 課程度、進みたいと思っています。平均的な授業はつぎのように展開されます。</p> <p>1. 前回学習した課の練習問題を解く：受講生はあらかじめ練習問題を解いておく必要があります。その場で解けることは決してありません。</p> <p>2. 新しい課に進み、文法事項などを説明する。 以上の繰り返しで、ギリシア語文法を学んでいくことになります。</p> <p>☆初回の授業で、テキストに入ります。受講を決めている学生はあらかじめテキストを購入しておくこと。初回は 2 課ではなく、1 課のみの予定です。範囲は、I 「字母・発音・音韻の分類・氣息記号」です。</p>				
受講要件	とくに履修の条件としていません。				
テキスト	田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店 (2012)、ISBN978-4-00-022589-2				
参考書	シャルル・ギロー『ギリシア文法[改訳新版]』(クセジュ文庫、ISBN4-560-05868-7)				
予習・復習について	はじめのうちは予習に相当の時間がかかります。ある程度の余裕をもって履修に臨んでください。				
成績評価の方法・基準	毎時間行う練習問題の回答 (60%) および筆記試験 (40%)				
オフィスアワー	水曜日 9・10 時限 (16:05-17:35)				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (A) ギリシア語と言えば、ヘブライ語と並んで、洋の東西を問わず、難しいという定評があります。決して簡単だとは言いません。しかし、努力をすれば必ず習得できます。				

授業科目名	発達臨床心理学 I				
担当教員名	畠垣 智恵 (HATAGAKI Chie)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文学部 C 棟 304-1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	発達、対人関係、自己、パーソナリティ、親子関係、障害				
授業の目標	本授業は、人間の生涯発達を概観し、人間全体の発達の様相を理解するとともに、その発達が何らかの要因により通常のものとは異なっている状況、つまり、発達の遅れや障害、不全、などについて知識を得ることを目標にする				
学習内容	人間は生まれてから変化し続ける存在である。その変化には、一定の方向性と共通性があり、その一方で個人によって異なる様相もあり、その両面が観察されるものである。この授業では、主に、幼児期、児童期、青年期に焦点を当て、人間の発達の道筋とそこからの逸脱、ずれ、遅れなどを伴うケースについて紹介する。また、子育ての環境、学校環境についても取り上げる。具体的には、児童虐待、不登校、家庭内暴力、情緒障害、発達障害と、それらを支援しケアする取り組みについても紹介する				
授業計画	回 内容 1 インTRODクシヨン 2 発達臨床心理学とは・発達の見方・発達の危機 3 児童虐待1・現在日本の子育て環境と親子関係の視点から 4 児童虐待2・虐待をどう防ぐか・さまざまなサポート、児童養護施設の取り組み 5 幼児期から児童期の情緒障害1 子どもが出す様々なサイン 6 幼児期から児童期の情緒障害2 7 不登校はどう変わったか 8 日本における家庭内暴力という現象 9 発達障害1 10 発達障害2 11 発達障害3 ビデオ上映 12 現在の子どもと家族を取り巻く環境 新たな問題（貧困、所在不明児童、ニューカマー） 13 現在の子どもと家族を取り巻く環境 これからの問題 14 まとめ ビデオ上映 15 まとめ				
受講要件	特になし。				
テキスト	指定しない。授業中に紹介する。				
参考書	指定しない。授業中に紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験期間中に試験を行う。詳しくは、第1回目に指示する				
オフィスアワー	火曜日 12:00～13:00 水曜日 12:00～12:45				
担当教員からのメッセージ	難易度はBである。より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要である。				

授業科目名	人格心理学Ⅱ				
担当教員名	笠井 仁 (KASAI Hitoshi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A420	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火9・10
キーワード	人格、査定、病理と健康、無意識				
授業の目標	人格心理学についての知識と探究方法の学びを通じて、歴史や文化、制度といったさまざまな条件における多様な人間の心のあり方について深く理解しつつ、共生への志向を高めるとともに、そのために必要な論理的思考力と情報リテラシーを修得する。				
学習内容	人間理解の学問としての人格心理学について、臨床事例や映画なども取り上げながら、人格の研究動向、諸理論、形成、査定、病理、健康といった全般的な問題を踏まえて、とくに人間の無意識的な観点に重点を置いて学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 人格とは 2 『イヴの3つの顔』: 多重人格から人格を考える 3 人格研究の論点 4 人格研究の歴史 5 人格の諸理論 6 人格研究の最近の動向 7 人格の精神分析的研究(1): 無意識の発見 8 人格の精神分析的研究(2): 基本的観点 9 人格の精神分析的研究(3): 諸理論 10 人格の精神分析的研究(4): 最近の展開 11 人格の生物学的基礎 12 人格の形成 13 人格の査定 14 人格の病理 15 人格と健康				
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。				
テキスト	とくに指定しない(資料を用意する)。				
参考書	本明寛・他(編)『性格心理学新講座』(金子書房)全6巻。河合隼雄・他(編)『臨床心理学大系』(金子書房)全20巻(とくに第2・5・6巻)。その他、そのつど指示する。				
予習・復習について	各テーマについて、さらに発展的に参考書等により予習・復習することを期待する。				
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート(30%)と最後の筆記試験(70%)により評価する。				
オフィスアワー	火曜日7・8限				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める)単なる知識の習得ではなく、その知識が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。				

授業科目名	日本語学概論 I (Introduction to Japanese Linguistics I)				
担当教員名	勝山 幸人 (KATSUYAMA Yukito)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 B 棟 519	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	日本語、国語学、音声学、アクセント、文法論、形態論、統語論、日本語教育、音声言語				
授業の目標	日本語における音声と文法の特徴について学ぶ。				
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論 II」と合わせて、4 単位が必要になるので、注意してください。				
授業計画	<p>日本語学概論 I で学ぶことは、おもに日本語の音声(前半)と日本語の文法(後半)の分野になります。</p> <p>言語研究の究極の目的は、音声言語の解明にあります。音声が一次的な言語コミュニケーションと呼ばれる所以です。前半(概ね、1 講から 9 講)では、まず、音と音声、音韻の違いについてそれぞれしっかり認識したうえで、現代日本語の母音、子音、半母音、モーラの各音素の特徴について学びます。実際の音声を聞いて、国際音声字母 IPA で表記したり、子音の調音点、調音方法、声帯振動の有無について観察したりします。拍と音節の違い、アクセントの式と型、イントネーションやプロミネンスにも及びます。</p> <p>後半(概ね、10 講から 15 講)では、現代日本語の文法のうち、おもに「単語」とは何かということ扱う形態論と、述語のカテゴリーを中心に、「文」とは何かということの問題にする統語論について学びます。時間があれば、橋本進吉や時枝誠記など、代表的な日本語文法論の特徴についても、学習したいと思います。</p>				
受講要件	毎回きちんと出席できる自信のない人は、はじめから受講しないでください。				
テキスト	『日本語要説』(ひつじ書房)1,900 円+税				
参考書	適宜、紹介します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席(遅刻を含む)・平常点と定期試験				
オフィスアワー	水曜日 15:00~16:00				
担当教員からのメッセージ	初めて学ぶ人にもよくわかるように説明します。ただ、語学ですから、一回でも遅刻や欠席をすると、あとも何もわからず、つまらなくなります。教員を目指す人の必須科目でもありますから、厳しい授業になりますが、絶対のためにになるので、がんばって勉強してください。				

授業科目名	世界経済論 I				
担当教員名	安藤 研一 (ANDO Kenichi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	世界経済、国家、貿易、外国為替、為替相場、国際資本移動、直接投資				
授業の目標	世界経済の多様な項目に関する理論の初歩を学ぶ。簡単な四則演算，図表を用い，高度な数学を使うことはしない。				
学習内容	世界経済の基礎単位である国家の経済学的基礎の考察から始め，国際貿易，外国為替，資本・労働移動などを中心に，世界経済の理論について学ぶ。				
授業計画	<p>概ね以下のようなテーマを取り上げながら，世界経済に関する理論の理解を深めるようにする。その際，理論と具体的現実の関係に留意しながら授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資本主義経済の特徴と世界経済。 2. 世界経済と国家。 3. 国際貿易の利益と課題。 4. 外国為替の役割と意義。 5. 国際生産要素移動の原因と意義。 6. 直接投資の利益と課題。 7. 国際労働力移動の原因と特殊性 8. 現代世界経済の問題。 				
受講要件	経済学についての初歩的理論を修得していることを前提に講義を進めるので，ミクロ経済学，マクロ経済学，政治経済学などを修得していることが望ましい。				
テキスト	特に，指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については，学務情報システムに随時アップする。				
参考書	特に，指定しない。				
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ，資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて，新聞・テレビなどのニュースをフォローし，現在の世界経済でどのようなことが起きているのか，ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。				
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し，学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験，学期末試験では，論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず，ある程度の記事を書くことを求める。				
オフィスアワー	金曜日 16:30～17:30				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国，社会があり，そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に，国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更，修正を迫るものでもあります。そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます。				

授業科目名	比較言語文化基礎論 I				
担当教員名	花方 寿行 (HANAGATA Kazuyuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 1 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	比較文学、比較文化、ヨーロッパ文学				
授業の目標	比較文学・比較文化研究における問題設定や切り口の見つけ方を、具体的な作品論を通して学ぶ。				
学習内容	中世ヨーロッパの実際の社会階層と、神話的な物語構造や要素が結びついて生まれた騎士道小説を出発点に、そこから派生するピカレスク小説や『ドン・キホーテ』、ファンタジーなど現代まで作られ続けている様々な作品を、言語や国境、ジャンルを超えて結びつけることで、広い文化的視野を身につける。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション。 2 騎士道小説の原点としてのヨーロッパ神話・伝説における英雄物語。魔法昔話、『オデッセイア』、エッダ、『ニーベルンゲンの歌』。 3 中世ヨーロッパの社会階層としての騎士。現実とイメージ。 4 騎士道ロマンスの誕生。プロヴァンス詩、アーサー王伝説、『ローランの歌』、『わがシッドの歌』。 5 騎士道小説のブーム。『アマディス・デ・ガウラ』、クレチエン・ド・トロワ。 6 ピカレスク小説の誕生。『ラサリーリョ・デ・トルメス』、『グスマン・デ・アルファラーチェ』。 7 『ドン・キホーテ』の登場。その重要性と騎士道小説、ピカレスク小説との関係。 8 「理性の時代」18 世紀におけるピカレスクの中心化。ジル・ブラース、フィールディング、フェルナンデス＝デ＝リサルディ。騎士（貴族）階級自体の落日とフランス革命。 9 ロマン主義文学における騎士の復活。歴史・伝説への関心。ゴシック・ロマンスの登場。ウォルター・スコット、ウォルポール、クーパー。 10 19 世紀幻想・ファンタジー文学の確立。グリム兄弟、ホフマンなどドイツ・ロマン主義。バイロンの主人公の普及。 11 19 世紀自然主義文学におけるディケンズ型ピカレスクの登場と洗練。ピカレスクから「教養小説」への変化。 12 世紀転換期から 20 世紀前半における現代ファンタジーの確立。トルキン、ルイス、キャロル、『ゼンダ城の虜』、『鎧なき騎士』、シャーロック・ホームズ。 13 SF への騎士道冒険小説の乗り入れ。バローズなどのスペース・オペラ、『スター・ウォーズ』。アメリカ性の強化。 14 現代的ピカレスクの一般化と都市風景の中の騎士。コン・ゲーム、犯罪サスペンス、ハードボイルド。 15 まとめ。 				
受講要件	特になし。				
テキスト	コピー配布。				
参考書	授業中に紹介します。				
予習・復習について	授業中に紹介する関連文献を読んで知見を深め、レポートに反映させて下さい。				
成績評価の方法・基準	出席状況（70%）と期末のレポート（30%）。				
オフィスアワー	月 14 : 30～16 : 00、花方研究室（人 A515）。ただし確実に期すため、必ず事前にメールでアポイントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	テーマに関連する作品を積極的に見つけて、自発的に読み関心を深めてください。				

授業科目名	仏会話・作文 I (French Oral Expression and Writing I)				
担当教員名	コルベイ (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	会話、作文				
授業の目標	本授業では、50語から100語程度、様々なテーマについての作文（エッセイ、意見文、手紙など）をフランス語で書けるようになることを目標とする。				
学習内容	各授業で提示するトピックについてまず、クラス内でフランス語を使って簡単な会話をしてトピックに関連する語彙・表現などを掘り起こす。会話練習の後、同じトピックについて書く作業を段階的に進める。始めに、作文に有効な文型や表現を導入し練習を行う。徐々に長い作文を書く。適宜、教師は添削を行う。学期末には、作文集としてまとめる。				
授業計画	回 内容 1 自己紹介/復習 2 Bien sûr... 3 Votre santé 4 S'investir 5 Sympa ce site! 6 À louer 7 Le plus cher 8 C'était étonnant! 9 Camille Claudel 10 Changement de vie 11 Ouais, c'est ça... 12 Écologie 13 Le loup 14 Au café/Le flore 15 復習				
受講要件					
テキスト	Marie-José Lopes, Jean-Thierry Le Bougnec, Totem 2 méthode de français A2, Hachette, 978-2-01-156055-1				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業への参加、宿題 (30%) テスト (70%)				
オフィスアワー	月曜日の 14:30~16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	財政学 I (Public Finance I)				
担当教員名	櫻井 良治 (SAKURAI Ryoji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 4 1 3	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	政府債務、一般会計、特別会計、財政投融资、21 世紀の望ましい税制改正と消費税増税問題、税の公平と消費税の仕組み、消費税の税負担「転嫁問題」と最終負担者、消費税の公平性と「逆進性」問題、「逆進性」解消のための必需品税率軽減と低所得者税額還付問題				
授業の目標	国家財政制度の基本構造を学ぶ、政府が抱える財政赤字、税制、社会保障、国債累積などの財政上の諸問題を学ぶ。21 世紀の高齢化社会に向けた税制改革、特に消費税増税問題について、詳しく学ぶ。財政学の授業内容は、国家・地方の公務員試験の頻出問題となっているので、役立つ。ただし、大学の授業内容は学術的な内容が中心であり、公務員試験対策の基礎にすぎない。試験内容やその具体的な対策等には最小限しか言及しないので、留意すること。				
学習内容	財政理論に偏らず、データ・図表を活用し、現代日本の財政問題を理解できるようにする。公務員試験の基礎となる知識が多いが、大学の学術的な授業なので、直接試験問題を取り扱うことはしない。以下の授業計画は大まかな見通しであり、経済情勢の変化や受講者の関心度合いにより変更がある。				
授業計画	<p>※ テキストは、必携である。テキストなしでは理解できないので、入手すること。 (4 月の授業開始前に出版社に連絡して、テキストの残部数確認後に、引渡し方法を提案する。)</p> <p>財政学は専門用語が多いので、毎回テキストを読んで、予習・復習が必須である。必要に応じて、財務省の統計資料や国税庁の制度解説等を学務情報システムにアップする。 多忙で、印刷・配布はできないので、各自がダウンロードして、持参すること。</p> <p>※ 以下は学ぶ授業計画の概要である。経済情勢の変化や政府の税制改正の流れに沿って、実施順序が変わったり、特定の項目を深めたり、新しい課題を学んだりすることがある。</p> <p>※ 近年では、学生と相談したうえで、授業の合間に、学生有志によるレジュメ報告を交えて授業を進めている。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスー半期の授業計画と実施方法ー 2 経済主体としての政府の役割ー政府活動の基礎となる市場経済の機能ー 3 「財政学とは何か」その三つの役割 4 「「財政赤字」 大きな政府と小さな政府 5 「戦後日本の財政構造」ーなぜ国債はここまで累積したかー 6 「政府支出」その全体像、予算編成 (一般会計・特別会計) 7 授業前半のまとめとしての「論述筆記試験」ー項目指定型の記述試験ー テキスト持込可として、配点 40%とする予定。 8 財政投融资と特殊法人問題、公共投資、無駄な支出とは? 9 財政赤字解消方法としての増税政策 10 現代日本の税制と税の公平理論 11 21 世紀を代表する税制、特に消費税の役割 12 消費税の公平性と「逆進性」問題 13 消費税はだれが負担するのか: 税の転嫁問題 14 消費税「逆進性」解決方法ー軽減税率と低所得者税額還付制度ー 15 授業全体のまとめとしての「論述筆記試験」ー項目指定型の記述試験ー テキスト持込不可として、配点 60%とする予定。 				
受講要件	テキストは必携とする。新聞やテレビの報道をよく見て、社会の動向に関心があり、質問や応答の出来る学生を歓迎する。				
テキスト	前半中心: 櫻井良治 (2004) 『政府債務の世紀』新評論、定価 3,150 円 (提供価格 2000 円) 後半中心: 櫻井良治 (2011) 『消費税は弱者にやさしい』言視者 1,575 円 (提供価格 1,000 円) ※ 前半テキストの残部が少ないので、出版社に確認して事前に連絡し、引渡しはその後とする。※ 過去使用テキストも、補完活用方法や希望者への提供方法を検討、連絡する。				
参考書	櫻井良治 (2005) 『コスト大国日本の財政』勁草書房 (前期) // 『消費税程公平な税はない (体系的学術書)』文真堂、2021 年 3 月『最新版 (平成 27 年度版) 図説日本の財政』東洋経済新報社『最新版 (平成 27 年度版) 図説 日本の税制』財経詳報社※ 公務員対策『基礎コース財政学』(最新版) 林宣嗣 サイエンス社				

予習・復習について	財政学は専門用語が多いので、テキストをよく読むための予習・復習を要する
成績評価の方法・基準	試験は予告したうえで、授業時間内に小テスト形式で前後の2回に分けて実施する予定。記述項目指定の論述試験であり、知識や認識の深さを問う。考え方や記述内容は自由とする。出題範囲は、授業内容すべて。具体的には、テキスト（進んだ範囲と関連箇所）、口頭説明内容、配布資料、黒板の記載事項等を含む。 ※ 学生報告を実施した場合には、報告内容を加点する。
オフィスアワー	月曜日の7. 8時限
担当教員からのメッセージ	財政学全般（政府歳入、歳出）は元より、税制、特に消費税ぞとその増税を中心とした将来の税制改正に関心のある受講生を歓迎する。ミクロ、マクロ、政策関係の授業を習得していれば、分かりやすく学べる。

授業科目名	哲学の歴史 I				
担当教員名	田中 伸司 (TANAKA Shinji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	哲学史、真理、倫理				
授業の目標	古代ギリシアから中世スコラ学へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を身につける。				
学習内容	古代ギリシアから古代ローマそして西欧中世における哲学を概観します。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション：哲学史とアルケー 2 ギリシア哲学の端緒：パルメニデスと「アキレスとカメ」 3 パルメニデスの衝撃を受けて：ピュタゴラス、エンペドクレス、デモクリトス 4 ソクラテスの時代：対話、アポリア、ソフィスト 5 プラトン（1）：イデア論の誕生—『パイドン』 6 プラトン（2）：魂と国家—『ポリテイア』 7 プラトン（3）：認識と思考—『パルメニデス』『テアイテトス』『ソピステス』『ティマイオス』 8 アリストテレス（1）：オルガンノン—真理を探究するための道具 9 アリストテレス（2）：存在論と自然学 10 アリストテレス（3）：形而上学と魂論 11 アリストテレス（4）：倫理学と政治学 12 ストア派、懐疑主義、エピクロス派 13 新プラトン主義からアウグスティヌスへ 14 アラビア圏での展開とスコラ哲学 15 まとめ 				
受講要件	人間学概論および哲学概論を履修していること。				
テキスト	テキストは定めません。プリントを配布します。				
参考書	中央公論新社の『哲学の歴史』シリーズ、とくに第一巻から三巻は参考になると思います。				
予習・復習について	レポートに向けては、じぶんで、きちんとしたノートを作成することが有益です。関心のある思想については、片っ端から図書館で本を借りて読んでください。				
成績評価の方法・基準	学期内のレポート2回（40%）及び学期末の試験（60%）で評価します。				
オフィスアワー	水曜日 9・10 時限（16：05-17：35）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 哲学は暗記物ではありません。唯一の正しい理解を目指すのではなく、（何らかの意味で）有益な理解を目指してください。				

授業科目名	倫理学基礎論				
担当教員名	堂園 俊彦 (DOHZONO Toshihiko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A417	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	人間の尊厳、メタ倫理学、実在論、反実在論、規範倫理学、義務論、功利主義、徳倫理学、生命倫理学、医療倫理学				
授業の目標	現在、生命倫理や医療倫理の領域において、「人間の尊厳」が重要な役割を果たしている。しかし同時にこの概念に対しては（とりわけその曖昧さに関して）、数多くの批判がなされている。この講義では、倫理学の基本的な枠組みを学びつつ、「人間の尊厳」とは何であり、それにもとづいて医療・医学を規制するためには何が必要なのかを検討する。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理学における基本的な立場（メタ倫理学および規範倫理学） ・生命倫理学・医療倫理学における「人間の尊厳」をめぐる対立 ・「人間の尊厳」をめぐる概念史 ・憲法学における「人間の尊厳」論 				
授業計画	回 内容 1 イン트로ダクション 2 生命倫理学における人間の尊厳：終末期医療 3 生命倫理学における人間の尊厳：人工妊娠中絶 4 概念史：古代・中世 5 概念史：ルネサンス 6 概念史：近代 7 メタ倫理学①：ムア 8 メタ倫理学②：ヘア、マッキー、ブラックバーン 9 メタ倫理学③：マクダウェル、ウィリアムズ 10 メタ倫理学④：ハーバーマス 11 メタ倫理学⑤：パトナム 12 憲法における「人間の尊厳」① 13 憲法における「人間の尊厳」② 14 倫理委員会／倫理コンサルテーションと「人間の尊厳」 15 まとめ				
受講要件	特になし。				
テキスト	特になし。				
参考書	赤林朗編『入門・医療倫理 II』，勁草書房，2007年。リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』（第二版），ナカニシヤ出版，2001年。坂井昭宏・柏葉武秀編『現代倫理学』，ナカニシヤ出版，2007年。				
予習・復習について	毎回の講義はそれまでの授業内容を前提とします。講義後にプリントなどを見直すようにしてください。				
成績評価の方法・基準	16回目行う最終テストによって成績を評価します。ただし、4回以上欠席した場合はテストを受ける資格を失います。				
オフィスアワー	金曜：12:30-13:30（ただし必ず事前にアポイントメントを取って下さい。）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める）2. 科目等履修生（認める）3. 難易度（C）				

授業科目名	地域社会論 I				
担当教員名	長沼 さやか (NAGANUMA Sayaka)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	文化人類学、地域研究、異文化理解				
授業の目標	①文化人類学で地域社会を読み解く際、どのようなテーマで分析することができるかを具体例から学び、論理的思考力、問題発見力、課題解決力を養う。②異文化にまなざしを向けることで、多様な人間社会について深く理解し、多文化共生について考える。				
学習内容	中国東南地域、台湾、香港、その他の華僑・華人社会といった周辺地域に焦点をあて、重層的な中国社会を読み解く。各回では、親族、儀礼、ナショナリズム…といった文化人類学の中心的なテーマをあつかう。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 現代中国の歩み 第3回 中国研究とフィールドワーク 第4, 5回 家族・親族 第6, 7回 儀礼・信仰 第8, 9回 民族とナショナリズム 第10回 エスニシティ 第11回 中国の観光 第12回 台湾の歴史と民族 第13回 ポストコロニアル 第14回 移民 第15回 地域社会を読み解くために (まとめ)				
受講要件	文化人類学や中国研究に興味をもつ学生の受講を歓迎する。				
テキスト	なし				
参考書	授業のなかで適宜紹介する。				
予習・復習について	普段から多様な物事の見方ができるよう感覚を磨き、そこからの発見をリアクションペーパーなどに活かしてほしい。				
成績評価の方法・基準	毎回のリアクションペーパー(40%)＋期末試験(60%)				
オフィスアワー	木曜日 11:50～12:50 事前にメール連絡してから来室すること。jsnagan☆ipc.shizuoka.ac.jp (☆→@)				
担当教員からのメッセージ	平成 23 年度以前入学の学生は、「社会人類学Ⅱ」に単位を読み替える。 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	情報経済学 I (Information of Economics I)				
担当教員名	石橋 太郎 (ISHIBASHI Taro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 4 1 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	選好、情報、不確実性、情報の非対称性、市場の失敗				
授業の目標	上記にあげたキーワードを中心として展開される経済学（応用ミクロ経済学）の基本的理論の概要について理解することを目標とする。				
学習内容	本講義では、情報と不確実性の経済学の基本的な理論について解説する。				
授業計画	以下の 6 項目について講義を行う予定である。なお、1 項目あたり、講義 2 回から 3 回分を予定している。 1 数学的準備 選好体系、期待値と分散の計算 2 情報と不確実性の経済学 不確実性と期待効用一期期待効用関数の導出— 3 情報と不確実性の経済学 不確実性と期待効用一期期待効用関数をめぐる諸概念— 4 情報と不確実性の経済学 情報の非対称性と市場の失敗—逆選択、モラルハザードの基本的考え方— 5 情報と不確実性の経済学 情報の非対称性と市場の失敗—逆選択、モラルハザードの具体例とその回避について— 6 情報と不確実性の経済学 行動経済学と神経経済学の示唆について				
受講要件	必ずしも受講要件ではないが、ミクロ経済学、経済数学、統計学の講義を既に履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	授業の中で、適宜、示す。				
予習・復習について	復習の方に重点を置いた学習を心がけてください。				
成績評価の方法・基準	中間試験 50%、期末試験 50%で評価します。中間試験は、5 月下旬から 6 月上旬の適当な時期に行います。				
オフィスアワー	水曜日 12 : 00 から 12 : 45				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワー以外の時間に質問に来たい人は、次のメールアドレスに連絡をしてもらえれば調整します。 jetishijp@gmail.com メールだけの質問も構いません。メールで返答します。				

授業科目名	社会保障論 I				
担当教員名	李 蓮花 (LI Lianhua)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	社会保障、福祉、リスク、少子高齢化、国際比較、再分配、福祉国家				
授業の目標	現代社会で欠かせない社会保障制度の歴史、理念および主な制度の仕組みを学び、グローバルな視点から日本の社会保障の特徴と現在直面している諸課題を理解します。				
学習内容	社会保障論 I では、社会保障・福祉国家の歴史と全体像を押さえてから、現代日本で焦点となっている貧困と生活保護、少子化対策、および医療保障について、国際比較や映像資料などを通じて詳しく学びます。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 社会保障と福祉国家：定義、歴史、思想 3 国際比較からみる全体像 4 日本の社会保障 (1) 5 日本の社会保障 (2) 6 貧困と最低生活保障 (1) 7 貧困と最低生活保障 (2) 8 貧困と最低生活保障 (3) 9 少子化と育児支援 (1) 10 少子化と育児支援 (2) 11 少子化と育児支援 (3) 12 医療保障 (1) 13 医療保障 (2) 14 医療保障 (3) 15 前期復習				
受講要件	社会保障論 II とあわせて履修することが望ましいです。				
テキスト	指定なし (配布する資料を使用します)				
参考書	椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』(第10版), 有斐閣, 2013年, 2319円; 宮本太郎『生活保障』, 岩波新書, 2009年, 840円				
予習・復習について	配布資料に事前に目を通してください。				
成績評価の方法・基準	出席 30%、レポート 30%、定期試験 40%				
オフィスアワー	水曜日 14:30~15:30 (それ以外の時間は事前にメールでアポをとってください)				
担当教員からのメッセージ	我々の生活と密接に関連しますが、複雑で難しそうな社会保障。国際比較や映像などを通じて、多面的に、体系的に学びます。				

授業科目名	仕事の社会学				
担当教員名	吉田 崇 (YOSHIDA Takashi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水7・8
キーワード	社会階層、機会の不平等、ライフコース、職業、日本的雇用慣行、ワークライフバランス、ジェンダー、格差社会、貧困、社会調査				
授業の目標	社会階層論を軸にして、教育社会学、家族社会学の成果も取り入れながら、仕事・働くことについての社会的なものの考え方を身につけることを目標とする。また、大規模調査に基づく実証研究の知見を多く紹介し、リサーチリテラシー（調査データを適切に読み解く力）を涵養する。				
学習内容	さまざまな社会的不平等について、主として社会階層論の観点から考察することで、格差や不平等についての社会的なアプローチを学習する。具体的には、進学、就職、家族形成、転職・昇進・退職といったライフコース（人生の軌跡）のさまざまな局面で、どのような不平等があるかをみることで、階層構造や制度についての理解を深める。また国際比較によって日本社会の特徴を浮き彫りにする。さまざまな実証研究の知見に基づきながらこれらのトピックを考えることを通じて、調査データを適切に解釈する力（リサーチ・リテラシー）を高める。				
授業計画	1 インTRODakション 2 仕事・格差への実証的アプローチ 3 学校から職場への移行（1） 4 学校から職場への移行（2） 5 若年雇用をめぐる問題（1） 6 若年雇用をめぐる問題（2） 7 雇用形態の多様化（1） 8 雇用形態の多様化（2） 9 女性の就業とキャリア形成（1） 10 女性の就業とキャリア形成（2） 11 労働時間とワークライフバランス（1） 12 労働時間とワークライフバランス（2） 13 格差社会と貧困問題（1） 14 格差社会と貧困問題（2） 15 まとめ				
受講要件	「社会学概論」を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	使用しない				
参考書	平沢和司（2014）『格差の社会学入門』北海道大学出版会竹ノ下弘久（2013）『仕事と不平等の社会学』弘文堂佐藤博樹・佐藤厚（2012）『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣阿部正浩・松繁寿和（2014）『キャリアのみかた（改訂版）』有斐閣その他、適宜紹介する。				
予習・復習について	配布教材を用いて予習を行うこと。参考文献で理解を深める。				
成績評価の方法・基準	授業内で実施する小レポート（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）で評価を行う。				
オフィスアワー	初回授業時に指示する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 最新の研究成果に加え、新聞・雑誌記事やドキュメンタリーなど、受講生が探究心を深めるきっかけとなる素材を提供していく。日頃から雇用や格差の問題に関心を持つとともに、コメントや質問など、積極的な授業参加を望みます。				

授業科目名	西洋史概説				
担当教員名	藤井 真生 (FUJII Masao)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水9・10
キーワード	古代文明、ギリシャ民主政、ローマ帝国、キリスト教、国家形成、封建社会、中世都市				
授業の目標	前近代ヨーロッパの歴史の概略を理解する。また、その内容を自分で再構成できることを目標とする。				
学習内容	古代オリエント世界から中世ヨーロッパ世界まで、時代をおっていくつかのトピックをとりあげる。高校で習う世界史よりもテーマを限定し、その分詳しい史料紹介や歴史的意義の考察に重点をおいて学ぶこととする。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古代文明の発生 (1) 2 古代文明の発生 (2) 3 ギリシャの民主政 (1) 4 ギリシャの民主政 (2) 5 ローマ帝国の拡大 (1) 6 ローマ帝国の拡大 (2) 7 キリスト教の誕生 (1) 8 キリスト教の誕生 (2) 9 中世国家の形成 (1) 10 中世国家の形成 (2) 11 封建社会の身分と支配 (1) 12 封建社会の身分と支配 (2) 13 中世都市の成立 (1) 14 中世都市の成立 (2) 15 中世から近世へ 				
受講要件	とくになし。				
テキスト	授業後に、スライド資料を学務情報システムで配信します。				
参考書	各回のテーマごとに、講義内で案内します。				
予習・復習について	とくに予習は求めませんが、評価方法との関連で、講義内容は自分なりにまとめておくことが必要となります。				
成績評価の方法・基準	テーマごと（「古代文明の発生」「ギリシャの民主政」など）に講義内容を要約した文章を書いてもらいます。各回の平均点に授業貢献度（発言回数など）を加味したものを最終的な評価とします。				
オフィスアワー	月曜日午前				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度 B 2 回に 1 度は文章にまとめてもらうので、必ず各テーマの 1 回目の内容を整理してから 2 回目へのぞんでください。また、適切な日本語表現も評価ポイントとなるため、西洋中世にかぎらず歴史の概説書を読み、文章表現を学んでおくことをおすすめします。				

授業科目名	西洋社会史 I				
担当教員名	岩井 淳 (IWAI Jun)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 2 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 9・10
キーワード	近世史、近代史、イングランド、ニューイングランド、終末論、千年王国論、大移住、ピューリタン革命				
授業の目標	この授業では、17世紀のイギリスとアメリカにおいて唱えられた千年王国論の意義を、ピューリタンの思想と活動に即して理解します。最初に近世イングランドにおける千年王国論の復活と1630年代の「大移住」について考察し、続いて個別のピューリタンの足跡にしたがって、彼らの思想と活動を検討します。				
学習内容	この講義では、聖書の「ヨハネ黙示録」などを典拠とする千年王国論に注目し、17世紀イングランドにおいて有力であった千年王国論が、アメリカに移住したピューリタンとともに大西洋を渡ったこと、革命中に帰国したピューリタンによって再度イングランドに持ち込まれたことなどを考察します。そうした作業を通じて、千年王国論が新旧イングランドの交流史やピューリタン革命の展開において果たした歴史的役割を考え、宗教と植民地の視点から革命を探求します。				
授業計画	回 内容 1 この授業の目的と計画 2 ピューリタン革命概観(1) 3 ピューリタン革命概観(2) 4 映画に見る革命 5 千年王国論の定義 6 異端視された千年王国論 7 よみがえる千年王国論 8 1630年代の「大移住」 9 「大移住」の動機 10 新旧イングランドの交流史 11 映画に見る移民 12 独立派ピューリタンの場合 13 第五王国派の場合 14 王政復古以降の展望 15 まとめ				
受講要件	世界史やイギリス史について、基本的知識をもっていることが望ましい。				
テキスト	テキストとして、岩井淳『千年王国を夢みた革命』講談社選書の一部を配布する予定。				
参考書	必要に応じて、指示します。				
予習・復習について	テキストや配布プリントを使って、予習や復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。				
オフィスアワー	金曜日 3・4 時限。				
担当教員からのメッセージ	この授業の難易度は、Bです。				

授業科目名	アジア社会史 I				
担当教員名	戸部 健 (TOBE Ken)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	A221	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	中国、近代史、現代史、国民党、共産党、日中戦争、中華人民共和国				
授業の目標	1) 近年の研究動向に適宜言及しながら、1920年代から1950年代にかけての中国史を見ていく。 2) 近代中国社会にとって、国家・党・日本・戦争などの要素がどのような意味を持ったのかについて考える。				
学習内容	1920年代～1950年代の中国史を、周辺各国との関係にも注意しながら概説的に見ていく。この時代、中国では政治的転変がめまぐるしく起ったが、そうした転変が起った原因や、その社会的な影響についても適宜論じる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 中国近現代史研究の趨勢 3. 中国共産党の成立 4. 国民党の動向 5. 国民革命と満洲事変 6. 南京国民政府と国民党 7. 革命根拠地の動き 8. 1930年代における日中関係 9. 日中戦争下の中国社会—重慶国民政府 10. 日中戦争下の中国社会—抗日根拠地 11. 日中戦争下の中国社会—日本統治下の地域 12. 日中戦争後の中国社会 13. 国共内戦と中華人民共和国の成立 14. 1950年代の中国社会 				
受講要件	特にありませんが、アジア史概説Ⅱをあらかじめ受講しておくこと、授業内容をより深く理解できます。				
テキスト	特にありません。				
参考書	菊池秀明『ラストエンペラーと近代中国：清末・中華民国』（中国の歴史 10）講談社、2005年。久保亨ほか『現代中国の歴史—兩岸三地 100年のあゆみ』東京大学出版会、2008年。飯島渉ほか編『シリーズ 20世紀中国史』1～4、東京大学出版会、2009年など。その他の参考文献は適宜授業中に指示します。				
予習・復習について	授業後は、ノートに書いたことをもう一度見直し頭の中を整理すること。分からないことがあったら適宜質問すること。				
成績評価の方法・基準	期末テスト：出席点など＝7：3とします。				
オフィスアワー	金曜日 3・4限（10：20～11：50）。事前アポが必要（jktobe@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	授業で興味関心を持ったことについてはそのままにせず、文献を読むなどして各自研鑽を深めるようにして下さい。 難易度（B）				

授業科目名	人間存在と宗教				
担当教員名	齋藤 真希 (SAITO Maki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	日本思想				
授業の目標	日本の倫理思想を学ぶ。				
学習内容	仏教、神道、儒教などの思想を通じて、日本における倫理思想のありようを概観する。				
授業計画					
受講要件					
テキスト	授業中に配布する。				
参考書	その都度指示する。				
予習・復習について	積極的な予習復習を望む。				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	英米言語文化基礎論 (Introduction to English Studies)				
担当教員名	大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 7	
分担教員名	久木田 直江				
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	英語学、コミュニケーション論、英語、文学、キリスト教、図像学、巡礼				
授業の目標	<p>特に、人文社会科学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）2・3 及び言語文化学科のディプロマ・ポリシー 1 に示されているような知識と教養を得ることを目標とする。</p> <p>言語文化学科の教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）1 に示されているように、導入的基礎知識を得るための基礎科目として設定されている。</p> <p>（大村）人間のコミュニケーションに関する理解を深め、専門的学習の基礎固めを行う。</p> <p>（久木田）イギリスの文学・文化を西洋古典・中世文学・文化の伝統のなかに位置づける。</p>				
学習内容	<p>（大村）人間のコミュニケーション活動を、言語学、生物学、心理学、社会学、人類学等複数の視点から多角的・学際的に分析する。</p> <p>（久木田）ヨーロッパ各地に広がる巡礼地について学び、巡礼が西洋文学・文化にどのような共通性と意味を与えているか考える。</p>				
授業計画	<p>（大村）人間のコミュニケーションに関して、以下のテーマを想定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生物学的観点から見た言語能力 2) 認知的観点から見た言語能力 3) ノンバーバルコミュニケーション 4) メディアコミュニケーション 5) 社会学的観点から見たコミュニケーション 6) コミュニケーションの影響力（説得の技術・うわさの力） 7) 異文化コミュニケーション <p>（久木田）巡礼の文化を以下の作品や図像を通して検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンテ『神曲』、 ・ チョーサー『カンタベリー物語』、 ・ 『マージェリー・ケンプの書』、 ・ 古代から中世末の世界地図 				
受講要件	受講希望者数により制限を課す（言語文化学科の 1 年生を優先）。				
テキスト	（大村）ハンドアウト（久木田）ハンドアウト				
参考書	必要に応じて指定。				
予習・復習について	予習・復習共に欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパーや筆記試験等により総合的に評価するが、基本的に 2 人の担当教員それぞれの評価を合わせて成績を定める。なお試験の実施方法等については、各教員が授業時に行う指示を確認すること。				
オフィスアワー	（大村）火曜 12：00 - 13：00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可。 jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp（久木田）水曜 11：45 - 12：45（事前にメールで連絡してください。）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める）難易度（A）				

授業科目名	英語学各論Ⅱ				
担当教員名	小町 将之 (KOMACHI Masayuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文社会科学部 A 棟 4 階 424	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生成文法、比較統語論、意味論				
授業の目標	様々な言語現象を理論的に分析できるための手法を学習する。				
学習内容	生成文法理論の基本理念と分析手法を学びます。 いくつかの文法現象を概観し、それらがどのように分析されるかを考えていきます。担当教員から解説するだけでなく、受講生自身でも分析し、その方法に習熟してもらいます。 分析の対象とする主な言語は英語ですが、日本語などの他言語との比較を通じて、人間の文法知識を立体的に理解してもらえるように努めます。				
授業計画	教科書とハンドアウトに基づいて、分析手法の解説、議論、受講生による発表を行います。主に取り上げる文法項目としては、以下のようなものを予定しています。 1. 否定極性表現 2. 再帰代名詞 3. 不定詞構文 4. 受動文 5. 疑問文				
受講要件	英文法の基礎知識を有していること。生成文法理論への関心があること。				
テキスト	渡辺明『生成文法』東京大学出版会				
参考書	適宜紹介します。				
予習・復習について	毎回、教科書の該当箇所を読んでおくことは必須ですが、必要に応じて指示します。				
成績評価の方法・基準	授業中に出される課題、宿題、学期末のレポートの提出状況と内容に応じて評価します。				
オフィスアワー	金曜 7・8 時限。その他の時間を希望する場合は、メールで連絡を取ってください。連絡用メールアドレス： omkomac@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	生成文法の基本的な考え方と分析手法に親しんでもらえればうれしいです。				

授業科目名	ミクロ経済学 I (Microeconomics I)				
担当教員名	山下 隆之 (YAMASHITA Takayuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、生産者行動				
授業の目標	まずは基礎的な理論を正確に理解することを期待しています。市場の運行法則に関するスタンダードな考え方を身につけて、現代の経済事象を分析する力を養ってもらいたいと考えています。				
学習内容	<p>経済についての基本的な原理や考え方には、マルクス経済学と近代経済学の2つの系統があります。近代経済学は、さらに、国民所得や国民総生産など経済全体の運動を巨視的に捉える「マクロ経済学」と、経済活動の主体である個々の消費者や企業の活動から経済の法則性を考える「ミクロ経済学」の二本立てで構成されています。</p> <p>近代経済学の性格についての全体的な展望をした後に、ミクロ経済学の概要を講義します。消費者（家計）と生産者（企業）の動きから完全競争市場のメカニズムを学習します。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 近代経済学の歴史 3 市場均衡と価格決定 4 市場の安定性 5 需用・供給の変動 6 弾力性とその応用 7 社会的余剰 8 市場と課税 9 市場と価格規制 10 生産者行動：生産関数 11 生産者行動：費用関数 12 生産者行動：利潤最大化 13 生産者行動：損益分岐点 14 独占企業の行動 15 独占市場の諸問題 				
受講要件	科目の性格上、高校数学Ⅱ（微分法）に関する知識が必要です。「経済数学Ⅰ」を履修すると効果的です。				
テキスト	N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第3版』東洋経済新報社、2013年。留学を考えている人は、原著の Principles of Microeconomics が良いでしょう。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。復習…ノートを整理すること。				
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験（100%）				
オフィスアワー	水曜日 12:00-12:45（通年）、研究室（L312）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） ミクロ経済学の題材は、TVや新聞の経済ニュースはもちろんのこと、小説、スポーツ、音楽など、私たちの身の回りに沢山見出すことができます。そうした事例を紹介しながら、授業を展開したいと考えています。				

授業科目名	経済統計学				
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	公的統計、統計の真実性、調査統計、業務統計、加工統計、回帰分析、時系列解析				
授業の目標	公的統計（政府統計）を中心としたミクロ経済およびマクロ経済に関する経済統計の体系・種類・特徴とその利用方法について学習します。				
学習内容	本講義は、次の三つの部分から成り立ちます。第一に、経済分析に不可欠なミクロ経済やマクロ経済に関する経済統計（データ）を取り上げ、それらの体系・種類・特徴などについて学習します。経済統計の多くは政府機関によって作成・公表されたものが多く、利用に当ってはそのことによる問題点を理解しておく必要があります。このためまず公的統計（政府統計）の作成過程について概略を講述します。第二に、ミクロ経済並びにマクロ経済に関する具体的な統計と統計指標を取り上げ解説していきます。第三に、経済データを使用した統計分析の方法、特に重回帰分析の基本について講述します。なお時間の余裕があれば時系列解析の初歩についても言及します。				
授業計画	1. 経済統計の作成過程 (1) 経済統計の体系と統計制度 (2) 経済統計の信頼性と正確性 2. 経済統計各論 (1) 人口統計 (2) 家計統計・物価統計 (3) 労働統計 (4) 国民経済計算 (5) 景気統計 (6) 国際収支統計 3. 経済データの統計的分析 (1) 回帰分析と回帰診断 (2) 時系列解析と確率過程				
受講要件	必要条件ではありませんが、統計学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望まれます。				
テキスト	御園謙吉・良永康平編『よくわかる統計学Ⅱ－経済統計編－』第2版，ミネルヴァ書房，2011年。				
参考書	講義時に随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読（毎回の講義終了時に次回講義時まで読んでおくべき範囲を指示します） 復習：テキストに示されている EXCEL による計算問題				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②中間課題（40%）、③期末テスト（50%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に開示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				

授業科目名	法哲学 (Philosophy of Law)				
担当教員名	横濱 竜也 (YOKOHAMA Tatsuya)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟619室	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	正義、相対主義、エゴイズム、功利主義、平等主義、リバタリアニズム、共同体主義、国家、市場、共同体				
授業の目標	法のあるべき姿を示す正義とは何か。この問いに応答する正義の一般理論を網羅的に概説する。授業を通じて、正義を論じる上で踏まえるべき思考枠組みを習得し、この問いに応答する現代正義論の様々な立場（特に英米政治哲学上の諸議論）とその限界について知悉することにより、受講者が法改革のための基本的ヴィジョンを自力で描けるようになること、また規範理論を構想する哲学的思考に慣れ親しむことが目標である。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>* 以下の授業計画は暫定的なものであり、授業の進展の仕方により変更の可能性がある。また各項目の括弧内の内容は講義で扱うトピックの一部にとどまる。詳細な計画は初回授業の際に示す。</p> <p>(1) イントロダクション：我々は何故正義を論じるべきか（諦観的平和主義と正戦論） (2) 正義とは何か（相対主義とその克服／正義の普遍主義的性格とエゴイズム） (3) 功利主義（功利主義の内容とそれぞれへの批判：帰結主義、総和主義、最大化主義／行為功利主義と規則功利主義、快楽説と選好充足説、総和最大化と平均最大化） (4) ロールズの正義論とその批判（ロールズの正義の二原理の導出／主要なロールズ批判／平等主義的正義論の諸構想：資源平等論、潜在能力平等論／卓越主義的リベラリズム） (5) リバタリアニズム（自然権論リバタリアニズム、帰結主義的リバタリアニズム、契約論的リバタリアニズム／リバタリアニズムの現代政治思想上の重要性） (6) 共同体論（共同体論の諸特徴、リベラル・コミュニタリアン論争、普遍主義の限界） (7) グローバルな正義（国内的正義と世界正義の相克とその克服、ナショナリズムに関わる諸問題）</p>				
受講要件					
テキスト	毎回の授業の前に、講義案を授業支援システムより配布する予定である。受講者は各自プリントアウトして教室に持参すること。また各回の授業の前にレジュメを読むこと。				
参考書	毎回の授業で詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、W・キムリッカ『新版 現代政治理論』（日本経済評論社、2005年）、伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』（名古屋大学出版会、2008年）、井上達夫『共生の作法－会話としての正義』（創文社、1986年）、平井亮輔編『正義－現代社会の公共哲学を求めて』（嵯峨野書院、2004年）。				
予習・復習について	予習：事前に配布する講義案と資料を読み、毎回の授業のポイントを理解する。復習：授業内容について曖昧なところがないか確認し、疑問点は授業の際やオフィスアワーで質問し解決する。また授業中に挙げる文献を読み、理解を深める。				
成績評価の方法・基準	受講人数、授業の進度などにより変更がありうるが、学期中に①こちらで指定した文献を読み、設問に答える読書レポート（15点満点）、②授業内容に関連する設問に答える課題レポート（15点満点）を提出してもらうことを予定している。これらのレポートの成績と学期末試験の成績（70点満点）で成績の評価を行う。なお、学期末試験は事前に出題する問題の候補を公表する。				

オフィス アワー	金曜日 14時25分～15時55分（複数の学生が重複することを避けるため、訪問する際は事前に予約してください）。
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B） 現代正義論の主要な議論とその正当化根拠の検討、それらの議論がどのような思想史的、社会的背景を有しており、現代日本政治においてどのような意味を持つか、など多くの内容を半期の講義で一通り扱うので、講義の進度はかなり速くなります。難しく感じたり、わからないところがでてきた場合には、ためらわずに積極的に質問してください。

授業科目名	アメリカ文学文化基礎読解 I (Basic Reading in American Studies I)				
担当教員名	レッドフォード (Redford Steven Wade)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 8	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	America、fiction、Hemingway、Steinbeck、reading、analysis				
授業の目標	To develop the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction.				
学習内容	Students will read, analyze, and discuss four or five short stories (Ernest Hemingway, Judy Cofer, Raymond Carver), and one short novel written by John Steinbeck, Of Mice and Men. As time allows, short passages from other important American authors will b				
授業計画	Tentative Schedule (confirm on the first day of class) 回 内容 1 Introduction; Raymond Carver's "The Father" 2 Hemingway's "A Day's Wait" 3 Hemingway's "A Clean, Well-Lighted Place" 4 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1 5 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1 6 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 2 7 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3 8 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3 9 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 4 10 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 5 11 Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 6 12 Steinbeck's Of Mice and Men video 13 Judy Cofer's "More Room" 14 Raymond Carver's "A Small, Good Thing" 15 Discussion				
受講要件					
テキスト	Of Mice and Men, John Steinbeck, A PENGUIN BOOK (ISBN 0-14-0177396)Other materials provided by instructor				
参考書					
予習・復習について	Weekly reading assignments and study questions must be done before class.				
成績評価の方法・基準	Class participation, 20%; weekly quizzes and assignments, 30%; final test (short answer and essay test), 50%.				
オフィスアワー	Thursday 10:20 - 11:50, and by appointment		e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp		
担当教員からのメッセージ	A willingness to participate in English is appreciated.				

授業科目名	フランス文学概論 I (Introduction to French Literature)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化				
授業の目標	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。				
学習内容	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。基本的に講義形式であるが、いくつかのフランス語作品の抜粋の講読や、関連の映像の鑑賞も取り入れる。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス文学の基盤 ・中世フランス文学の諸ジャンル ・フランス・ルネサンスの文学—ラブレーなど ・モラリストの系譜—モンテーニュなど ・17 世紀の思想家たち—デカルトとパスカル ・啓蒙の時代の思想家たち—モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロなど 				
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	義務としては特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみてほしい。				
成績評価の方法・基準	出欠状況 (20%) 期末レポート (80%)。ただし、欠席回数が理由なく 3 回を超える場合は、不可とします。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。メールのアポイントにより随時対応します。アドレス jakurod@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	この講義が作家や作品と出会う機縁となることを願っています。				

授業科目名	法学入門 (Introduction to Japanese Law)				
担当教員名	横濱 竜也 (YOKOHAMA Tatsuya)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟619室	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	法の支配、裁判制度、法源、法の解釈、法と道德、立憲主義と民主主義、契約自由の原則、罪刑法定主義				
授業の目標	実定法各分野の学習に先立ち、法の基本的性格を理解し、実定法学の基本概念を習得する。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>※以下の各項目は、授業内容全体と対応するものであり、授業の順序や進度を示すものではない。詳細な授業日程は、初回授業で示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクション（六法の選び方、判例の調べ方） 2 六法と判例の読み方・法とは何か <p>【第1部 法学基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 裁判制度（司法制度、裁判官の独立、民事裁判と刑事裁判の基礎） 4 法源（制定法、慣習、判例、条理、判例法主義と成文法主義、判例の拘束力） 5 法解釈の方法（事実認定と法適用、解釈方法の分類と方法） 6 法と道德（リーガル・モラリズム、パターンリズム、悪法問題） 7 法の歴史（西洋法制史：大陸法系とコモンロー法系、ローマ法とその継受、日本近代法史：明治期の法典編纂とくに民法制定過程をめぐって） 8 中間テスト <p>【第2部 実定法基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 日本国憲法の歴史（大日本帝国憲法の基本理念、日本国憲法制定過程、平和主義） 10 憲法の基本原理（1）（基本的人権の保障） 11 憲法の基本原理（2）（権力分立、立憲主義と民主主義） 12 民事法の基本原理（1）（所有権絶対の原則） 13 民事法の基本原理（2）（契約自由の原則、過失責任主義） 14 刑事法の基本原理（1）（罪刑法定主義、犯罪の成立要件、刑罰の目的） 15 刑事法の基本原理（2）（令状主義、起訴状一本主義、犯罪被害者への配慮） 				
受講要件					
テキスト	石山文彦編『ウォーミングアップ法学』（ナカニシヤ出版、2010年）、授業支援システムより配布する講義案、六法（教科書及び購入すべき六法については初回授業時に説明する）。				
参考書	毎回の授業時に詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。五十嵐清『法学入門〔第3版〕』（悠々社、2006年）、田島信威『法令入門－法令の体系とその仕組み〔第3版〕』（法学書院、2008年）、川崎政司『法律学の基礎技法〔第2版〕』（法学書院、2013年）、市川和人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判〔第6版〕』（有斐閣アルマ、2013年）、中野次雄編『判例とその読み方〔三訂版〕』（有斐閣、2009年）、山本祐司『最高裁物語（上）（下）』（講談社プラスα文庫、1997年）。				
予習・復習について	予習：講義案および教科書の該当箇所を読んだ上で、予習問題に取り組む。復習：授業内容を振り返り復習問題に取り組む。また授業内容の疑問点をまとめる。疑問点は授業時やオフィスアワーなどに質問し解決する。さらに、課題レポート（学期中2回を予定）を提出する。				
成績評価の方法・基準	期末試験40%、平常点40%（小テストへの応答20%+レポート課題提出20%）、学期中に1回実施する中間テストの得点20%。期末試験及び中間テストを受験しないと、単位は認定されない。評価方法の詳細は初回授業の際に示す。				
オフィスアワー	金曜日14時25分～15時55分（同じ時間に相談者が重なることを避けるために、事前に予約をお願いします）。				

担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A) この授業の狙いは、学生の皆さんが法の世界の概要を知悉すること、そして法的思考に必要不可欠な基礎知識を習得し、それを不自由なく活用できるようになるための訓練を行うことです。しっかり勉強しましょう。
--------------	---

授業科目名	会計学 I (Accounting I)				
担当教員名	永田 守男 (NAGATA Morio)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 2 4	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	複式簿記、ディスクロージャー、財務諸表、会計基準				
授業の目標	企業会計とは、企業の行う経営活動について貨幣価値尺度を用いて記録し、分析し、報告するシステムをいいます。会計学の講義では、そうした企業会計のシステムを対象に、そのシステムの内容とそれを成立させる社会制度的要因（法律、政治、経済、文化）との関係についても学びます。				
学習内容	受講者が会計学の初学者もいることを念頭に、複式簿記と会計の関係、会計の基礎概念、基本構造の内容についてなるべく平易に解説します。そののち、会計の成果物である財務諸表（決算書）である貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構成と内容を理解した上で、そうした財務諸表の作成と公表の関連する関連法規（会社法、金融商品取引法、法人税法）について概説します。ついで貸借対照表の各項目について説明します。				
授業計画	回 内容 1 会計の役割 2 複式簿記と会計の関係 3 財務情報とディスクロージャー 4 財務諸表の構成内容 5 会計公準と会計の一般原則 6 財務情報に対する会計規制 7 貸借対照表 1－流動資産 1 8 貸借対照表 2－流動資産 2 9 貸借対照表 3－固定資産 1 10 貸借対照表 4－固定資産 2 11 貸借対照表 5－固定資産 3 12 貸借対照表 6－繰延資産 13 費用配分の原則と費用収益の対応 14 取得原価主義と公正価値評価 15 まとめ				
受講要件	簿記 I・II を履修していることが前提です。また会計学 II とあわせて受講することが望ましいです。				
テキスト	佐藤誠二・石川文子・永田守男『会計のきほん』森山書店、2015 年				
参考書	授業中に適宜、指示します。				
予習・復習について	連続する講義の内容を整理し、授業にのぞむことが好ましいです。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験の結果を中心に、講義の中間段階で行う確認テストの結果を加味して総合的に評価します。				
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	言葉と論理				
担当教員名	上利 博規 (AGARI Hiroki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	言葉、論理、記号、超越論、弁証法、言語起源論、ソシュール				
授業の目標	西洋の言語思想を基本として、言語哲学及び論理学の主要な理論を知ることが第一の目標とし、それとは異なる言語思想を参考にしながら、それらを相対化することを第二の目標とする。				
学習内容	西洋の主要な言語思想として、古代ギリシアのプラトン、近代のルソー、現代のソシュールを取り上げ、主要な論理学として、古代ギリシアのアリストテレスの形式論理学、近代の記号論、及びカントとヘーゲルの論理思想を学びます。				
授業計画	<p>1 言葉と論理に関する伝統的な哲学的な思考</p> <p>(1) 言葉の哲学</p> <p>① プラトン『クラテュロス』</p> <p>② ルソー『言語起源論』</p> <p>③ ソシュール『一般言語学』</p> <p>(2) 論理の哲学</p> <p>① アリストテレスの形式論理学</p> <p>② 近代1 近代における記号化への試みと記号論理学</p> <p>③ 近代2 カントの超越論的論理学とヘーゲルの弁証法的論理学</p> <p>2 非理性的言語の諸相</p> <p>(1) ルイス・キャロルと不思議の国の論理学</p> <p>(2) 絵画の論理、音楽の論理、写真の論理、映画の論理など</p> <p>(3) 宗教と言葉</p>				
受講要件	安易な気持ちでは取り組めません。				
テキスト	毎回資料を配布します。				
参考書	一般的な論理学の教科書が参考になります。				
予習・復習について	論理学の例題などをもう一度やってみると効果的です。				
成績評価の方法・基準	試験をします。				
オフィスアワー	前期 月曜 12:00-12:45 人文 A 棟 420 後期 金曜 12:00-12:45 人文 A 棟 420				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本文学講読Ⅳ				
担当教員名	袴田 光康 (Hakamada Mitsuyasu)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	源氏物語、変体かな、古注釈、歴史、長恨歌、聖代観				
授業の目標	古典作品を読解する力を養うと共に、古典研究に必要とされる基礎的な知識と技術の修得を目標とする。				
学習内容	今年度は『源氏物語』の「桐壺」巻を読んでいく。「桐壺」巻は、物語全体の始発の巻であるが、人物や時代の設定などの様々な問点を含んでおり、物語全体の構造をも視野に入れながら読み進めていく必要がある。たとえば、主人公光源氏の父である桐壺帝とはどのような帝なのか。あるいは、光源氏の母の家である桐壺大納言家とはどのような家筋なのであろうか。本文を注意深く読むと共に、歴史との関連性も手掛かりとして、物語の背景を丁寧に分析していきたい。単なる古代の恋愛小説というだけでなく、皇統の物語として『源氏物語』を読み直していく。				
授業計画	回 内容 1 『源氏物語』について(参考文献等の紹介を含む) 2 物語の冒頭表現 3 先例主義と準拠論 4 故大納言家と遺言 5 明石一族の夢 6 立坊問題 7 更衣の死 8 野分 9 「長恨歌」引用 10 楊貴妃と桐壺更衣 11 方法としての「予言」 12 「宇多のみかど」 13 先帝一族と皇統問題 14 皇統回帰と密通 15 まとめ				
受講要件	特別な事情がない限り欠席をしないこと。				
テキスト	玉上琢彌訳注、『源氏物語』第一巻、角川ソフィア文庫、1964年(初版)				
参考書	吉海直人著、『源氏物語の視角』、翰林書房、1992年/袴田光康著、『源氏物語の史的回路』、おうふう、2009年など				
予習・復習について	毎回、全員が下読みをして授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	試験 80%、授業への取り組み 20%				
オフィスアワー	金曜日 12:00～13:00(その他の日時については、メールにて相談)				
担当教員からのメッセージ	教科書では習わなかった、『源氏物語』のあやしい魅力を感じてみてください。				

授業科目名	フランス言語文化特論V				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟525	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	パトリック・モディアノ、ドイツ占領下のパリ、文学／ノンフィクション、フランス語による朗読				
授業の目標	Patrick Modiano のノンフィクション作品である Dora Bruder を精読し、作家と作品について理解を深めるとともに、授業の集大成として Dora Bruder のフランス語による朗読上演会を行う。				
学習内容	2014年にノーベル文学賞を受賞したフランスの作家 Patrick Modiano (1945-) の代表作である Dora Bruder (1997) を精読する。適宜、作家と作品について解説を加えていく。授業では、本作品の朗読CDを聴取するとともに、朗読の練習も行う。授業の集大成として、本作品の朗読会を行う予定。				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 作者パトリック・モディアノについて。授業で取り上げる作品 Dora Bruder について。ドイツ占領下のパリについて、記憶と文学について。ノンフィクションと文学について。 朗読会企画について。</p> <p>2 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (1)</p> <p>3 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (2)</p> <p>4 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (3)</p> <p>5 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (4)</p> <p>6 朗読会での朗読個所の決定と担当者決め</p> <p>7 朗読会の広報や演出方法についての議論</p> <p>8 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (5)</p> <p>9 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (6)</p> <p>10 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (7)</p> <p>11 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (8)</p> <p>12 Dora Bruder の訳読と解説・朗読CDの聴取と朗読練習 (9)</p> <p>13 朗読会のリハーサル (1)</p> <p>14 朗読会のリハーサル (2)</p> <p>15 Dora Bruder 朗読会開催</p>				
受講要件	フランス語歴2年以上であること。				
テキスト	初回の授業で Gallimard 社の Folio 版の Dora Bruder (800円) を購入していただきます。				
参考書	パトリック・モディアノの全作品、パトリック・モディアノ著・白井成雄訳『1941年。パリの尋ね人』堀江敏幸『郊外へ』『書かれる手』等。				
予習・復習について	担当を決めて、訳読・朗読していただきます。最終回の授業で朗読会開催を予定していますので、特に朗読の練習には力を入れていただきたいと思います。文学作品には、朗読することによって初めて感じ取られるある独特の力があります。是非、そのような力を実感していただきたいと思います。				
成績評価の方法・基準	出席状況、朗読会への取り組み、期末レポートを総合して評価します。				
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	作家と作品について学ぶとともに、表現(朗読会)を行うことによって、文学の持つ力によりリアルに触れてみて欲しいと思っています。朗読会開催のために、授業時間以外にも準備に時間を割く必要も生じることがありますが、意欲ある皆さんの参加を期待しています。				

授業科目名	統計学 I (Statistics I)				
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	データサイエンス、データ解析、統計データ、統計的記述、多変量データ解析				
授業の目標	データサイエンスの視点に立った記述統計学の基本について学習します。				
学習内容	本講義では、統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）の要約を目的とした記述統計学の方法について学習します。社会・経済分析において記述統計学の果たす役割は、データに含まれるさまざまな情報を要約し、データから意味ある情報を読み取ることにあります。そこで本講義では、特にデータサイエンスの視点（データ重視の視点）から、①統計データの持つ特徴や問題点を理解できる能力、②データから何か言えて何が言えないかを判別できる能力を習得してもらうために、記述統計学の諸方法を具体的な事例を用いながら解説していきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを科学する 2. 統計調査の体系－全数調査と一部調査－ 3. 統計調査の実際－さまざまな調査の実施方法－ 4. 統計データの構造－変数とデータ－ 5. 統計データの分布－集計と分類－ 6. 分布の中心の尺度－さまざまな代表値－ 7. 分布のバラツキの尺度－散布度と集中度－ 8. 量的関係の探索－相関と回帰－ 9. 量的現象の予測－重回帰分析－ 10. 質的關係の探索－カテゴリカルデータ解析－ 11. 質的現象の計測－数量化の方法－ 12. 複雑な事象の計測－多変量データ解析の体系－ 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	上藤一郎・森本栄一・常包昌宏『調査と分析のための統計－社会・経済のデータサイエンス－（第2版）』丸善、2013年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②中間テスト（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A）				

授業科目名	税務会計論 (Tax Accounting Theory)				
担当教員名	永田 守男 (NAGATA Morio)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	所得、納税義務、法人税、会計、法人税等調整額、法定税率、実効税率				
授業の目標	基本的に利益獲得を目的とした実体には法人税が課せられます。現在、法人税は税制改革において消費税率の引き上げとともに中心的なテーマです。法人税に関する議論を理解するうえでの手がかりを得ることが目標です。				
学習内容	政府や自治体が提供するさまざまなサービスの原資は税金で賄われるのが基本です。残念ながら、わが国の財政状態は非常に厳しく、必要な原資のうち税金で賄えているのは半分弱です。このような中で税収の増加は喫緊の課題であり、さまざまなことが議論されています。法人税は有力な財源の一つですが、その税率の引き下げる方向で議論が進んでいます。これらの議論を適切に理解するために必要な基本的内容を学習します。その主たるテーマは、われわれが眼にする企業の利益と法人税の対象である所得とは異なること、そしてそれがなぜ異なるのか、またなぜ異なる必要があるのかを学習します。そして、なぜ法人税率の引き下げが議論されるのかを考えます。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 儲かっているのに税金は払っていない・・・？ 2 法人税の基本1－企業活動のどこまでに税金はかかる？ 3 法人税の基本2－会計計算と所得計算 4 会計計算の基本としくみ 5 法人税の基本3－課税所得の計算 6 課税所得の計算1－益金の額 7 課税所得の計算2－損金の額1 8 課税所得の計算3－損金の額2 9 法人税額の計算 10 企業活動の国際化と法人税1－外国税額控除等 11 企業活動の国際化と法人税2－税率競争 12 税効果会計1 13 税効果会計2 14 税効果会計3 15 まとめ 				
受講要件	簿記Ⅰ・Ⅱおよび会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること。				
テキスト	毎回プリントを配布します。				
参考書	佐藤誠二・石川文子・永田守男『会計のきほん』森山書店、2015年				
予習・復習について	復習および税制改正に関する新聞記事等に目配りするのが重要です。				
成績評価の方法・基準	学期末試験を基本に、理解度確認のための小テストまたはレポートを実施する予定ですので、それらを含めた総合評価となります。				
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30				
担当教員からのメッセージ	授業計画で示したように、複数回の授業で一つの内容を形成しています。欠席または復習をしない場合には、授業内容についていけないかもしれません。				

授業科目名	社会経済論 I				
担当教員名	遠山 弘徳 (TOHYAMA Hironori)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8
キーワード	資本主義、制度、企業				
授業の目標	「企業」に焦点を置き、資本主義という経済システム、およびその多様性への制度経済学的アプローチを学習し理解することを目的とします。				
学習内容	本講義は次の3つの点を理解することを目標とします。1.資本主義という経済システムの基本構造（授業内容2～6）、2.対立を抱えた企業モデル（7～14）、3.現代資本主義の多様性およびその制度的構図（13～15）、以上3点を理解することを目標とします。				
授業計画	回 内容 1 テキスト、授業方法、評価方法、および学習方法の解説 2 社会経済学と比較制度：テキスト「序章」 3 市場と資本（1）：テキスト第1章「資本主義経済システムの基本的構造」 4 市場と資本（2）：テキスト第1章「市場の働き」、「市場の規律づけ」 5 市場と資本（3）：テキスト第1章「抗争的交換」、「条件付きの契約更新戦略」 6 市場と資本（4）：テキスト第1章「労働抽出曲線」 7 企業（1）：テキスト第7章「新古典派経済学の企業像」 8 企業（2）：テキスト第7章「政治的構造としての企業1」 9 企業（3）：テキスト第7章「政治的構造としての企業2」 10 企業（4）：テキスト第7章「最適賃金の決定」 11 企業（5）：テキスト第7章「寡占企業と労働組合の交渉1」 12 企業（6）：テキスト第7章「寡占企業と労働組合の交渉2」 13 企業（7）：テキスト第7章「企業と制度1」 14 企業（8）：テキスト第7章「企業と制度2」 15 企業（7）：テキスト第7章「2つの市場経済」				
受講要件	特にありません。				
テキスト	宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹著『入門社会経済学（第2版）』ナカニシヤ書店				
参考書	ホール・ソスキス『資本主義の多様性』ナカニシヤ書店				
予習・復習について	講義の範囲について、事前にテキストを一読しておくことが望まれます。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）によって評価します。				
オフィスアワー	第1回めの授業のさいにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	講義はパワーポイントを使用して進めます。ファイルは提供しませんので、毎回ノートを取ることが大切となります。解説にあたってはグラフを多用しますが、数学（微分・積分、行列）は利用しません。				

授業科目名	書写研究 (Japanese Handwriting (Semi-cursive Style))				
担当教員名	杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	均衡・均斉、流動性、楷書の変容				
授業の目標	中学校国語の免許状に必要な書写領域について研究する。				
学習内容	行書の筆使い及び字形について講義と実技を行う。				
授業計画	1 行書の基本的な筆使いと基本点画の書き方 2 行書の筆使い①点画の曲線化 3 〃 4 行書の筆使い②点画の変化 5 〃 6 行書の筆使い③点画の変化（楷書の許容との関連） 7 〃 8 〃 9 行書の筆使い④点画の連結 10 〃 11 行書の筆使い⑤点画の省略 12 〃 13 筆順と違いと字形 14 〃 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	『明解 書写教育（改訂版）』全国大学書写書道教育学会				
参考書					
予習・復習について	必要に応じて指示する。				
成績評価の方法・基準	出席状況と提出課題（毛筆・硬筆）の内容及び筆記試験（40%反映させる）による。実技科目であるため、欠課時数が5分の1を超える場合、基本的に単位は認められない。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	指導法を学ぶだけでなく、授業で学習したことを日常生活に生かし、積極的に「文字を書くこと」を楽しんでください。				

授業科目名	線形代数学基礎 (Introduction to Linear Algebra)				
担当教員名	四之宮 佳彦 (SHINOMIYA Yoshihiko)		所属等	教育学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	線形代数学は、比例 $y=ax$ の高次元化である $y=Ax$ 、さらにそのベクトル空間への一般化である線形写像を扱う学問である。ここで、 x 、 y はベクトル、 A は行列である。この講義では、その線形代数学の基礎として、行列、連立一次方程式、行列式について学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学C を履修していないことを前提にして、線形代数学の講義を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列の定義 2. 行列の演算 (1) 3. 行列の演算 (2) 4. 行列と連立一次方程式 5. 行列の基本変形 6. 簡約な行列 7. 連立一次方程式の解法 (1) 8. 連立一次方程式の解法 (2) 9. 正則行列であるための必要十分条件 10. 置換 <ol style="list-style-type: none"> 11. 行列式の定義と性質 (1) 12. 行列式の性質 (2) 13. 行列式の余因子展開 14. クラームルの公式 15. 期末試験 				
受講要件					
テキスト	テキスト 三宅敏恒著 『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』 培風館 ISBN-13: 978-4563003814				
参考書	三宅敏恒著 『線形代数の演習』 培風館 ISBN-13: 978-4563004781				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	最初の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	内容の多くは初めて勉強する事柄だと思います。休まず出席することが特に大切です。遅刻もしないように気をつけよう。				

授業科目名	集合と論理基礎 (Sets and Logic)				
担当教員名	山田 耕三 (YAMADA Kohzo)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 401	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	集合、集合の演算、命題、真理値、論理演算、直積集合、写像、関数、同値関係				
授業の目標	すべての数学の基礎である「集合と論理」について、基本的事項を学ぶ。目標は、集合を正しく書き表し、具体的な集合の演算ができるようになること、集合演算と論理演算の関係を理解すること、写像と関数の概念を理解し、数学のいろいろな場面で使えるようになること。				
学習内容	下記の授業計画に従い、集合とその基本演算、命題と論理演算、直積集合と写像、同値関係と分類について講義します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合とその表し方 2. 部分集合と集合の相等 3. 集合の演算 4. 補集合とド・モルガンの公式 5. 命題と論理演算 6. 真理値と論理演算の基本性質 7. 命題 $p \rightarrow q$ と $p \leftrightarrow q$ 8. 中間テスト 9. 直積集合 10. 写像 11. 像と逆像 12. 全射, 単射, 全単射 13. 関係と集合の分割 14. 同値関係 15. 同値類と商集合 				
受講要件					
テキスト	大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社				
参考書	最初の講義で紹介します。				
予習・復習について	教科書を予習して、問と演習問題を解いておこう。				
成績評価の方法・基準	数回行う小テスト、中間テストと期末試験の成績を総合して判断します。				
オフィスアワー	最初の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、初めて学ぶ内容。毎回出席して、しっかりノートをとろう。				

授業科目名	微分積分学基礎 (introduction to Calculus)				
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	A組	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	極限、関数、連続関数、微分、自然対数				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。				
授業計画	回 内容 1 数列の極限 2 関数の極限 3 連続関数 1 4 連続関数 2 5 導関数 1 6 導関数 2 7 高次導関数 8 小テスト 9 平均値の定理 10 テイラーの定理 1 11 テイラーの定理 2 12 微分法の応用 1 13 微分法の応用 2 14 微分法の応用 3 15 小テスト				
受講要件	数学教育専修の学生				
テキスト	微分積分概論 (数学基礎コース)高橋 泰嗣・加藤 幹雄 著サイエンス社 ISBN-10: 478190873X				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	最初の講義で伝えます。				
オフィスアワー	最初の講義で伝えます。				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				

授業科目名	代数学 I (Algebra I)				
担当教員名	谷本 龍二 (TANIMOTO Ryuji)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	1次関係、1次従属、1次独立、基底、次元、線形写像、核、像				
授業の目標	以下の(1), (2)を目標とする. (1) ベクトル空間の基底を理解する. (2) 線形写像の表現行列を理解する.				
学習内容	ベクトル空間の基底の計算方法, 線形写像の表現行列の計算方法などを学ぶ.				
授業計画	回 内容 1 1次関係, 1次従属と1次独立 2 1次独立なベクトルの最大個数, 1次結合 3 部分空間の生成系 4 ベクトル空間の基底と次元 基底の計算⑩: 生成系の分かっているベクトル空間 5 基底の計算①: 連立一次方程式の解空間 6 基底の計算②: 数ベクトル空間 7 基底の計算③: その他 8 線形写像, 線形写像の表現行列 9 基底変換を用いた線形写像の表現行列の求め方 10 線形写像の像と核 11 像の基底の計算 12 核の基底の計算 13 次元公式, 階数 14 補足 15 まとめ				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること.				
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる.				
参考書	必要があれば適宜紹介する.				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	テスト60点, 小テスト20点, レポート20点を用いて成績評価をする.				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	解析学 I (Analysis I)				
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	不定積分、定積分、広義積分				
授業の目標	この授業では、不定積分の様々な計算方法を習得します。また、微分積分の基本定理を通じて、定積分と不定積分の関係を正しく理解します。				
学習内容	この授業は 1 年生の微分積分学の続きです。高校の授業では学習しなかった複雑な計算が正しく出来る力を身につけます。また、定積分の定義を正しく理解して、その図形的な意味を理解します。				
授業計画	回 内容 1 不定積分の公式 1 2 不定積分の公式 2 3 不定積分の計算 1 4 不定積分の計算 2 5 定積分の定義 6 定積分の計算 1 7 定積分の計算 2 8 小テスト 9 回転体の表面積 10 回転体の体積 11 曲線の長さ 1 12 曲線の長さ 2 13 広義積分 1 14 広義積分 2 15 小テスト				
受講要件	1 年生の微分積分学の授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」石原 繁, 浅野 重初 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	2 回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義のときに伝える				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、復習に時間をかけて学習した理論展開をよく理解するようにしてほしい。				

授業科目名	幾何学 I (Geometry I)				
担当教員名	四之宮 佳彦 (SHINOMIYA Yoshihiko)		所属等	教育学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8
キーワード	円周率、合同、相似、1次変換、2次曲線、ユークリッド原論				
授業の目標	1年生で学習した「線形代数学、集合と論理、微分積分学」の内容を使って、小中学校および高等学校の幾何学について考える。				
学習内容	幾何学の3つのトピックス「円周率、2次曲線、幾何学の歴史」について講義をする。				
授業計画	回 内容 1 円周率1 (多角形による近似) 2 円周率2 (無限級数による近似) 3 円周率の無理数性 4 合同と相似 5 直交行列と直交変換1 6 直交行列と直交変換2 7 放物線, 楕円, 双曲線 8 放物線, 楕円, 双曲線 9 円錐曲線 10 2次曲線の分類 11 2次曲線の分類 12 幾何学の歴史 (古代エジプトの数学) 13 幾何学の歴史 (古代メソポタミアの数学) 14 幾何学の歴史 (タレスの幾何学) 15 幾何学の歴史 (ユークリッド原論)				
受講要件	集合と論理基礎と線形代数基礎を受講していること。				
テキスト	大田春外著『高校と大学をむすぶ幾何学』日本評論社 ISBN978-4-535-78619-6				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理し、演習問題を解くことが重要である。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績に、授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	初回の講義のときに説明する。				
担当教員からのメッセージ	毎回出席することが、単位取得のための必要条件。				

授業科目名	書写基礎 (The Basic Handwriting)				
担当教員名	杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	書写、字形、字体、筆順				
授業の目標	小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。				
学習内容	「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本点画 3. 字形のとり方①（長短、画間、方向） 4. " ②（交わり方、接し方） 5. " ③（組立て方・左右） 6. " ④（ " ・上下） 7. " ⑤（ " ・内外） 8. 平仮名 9. 片仮名 10. 行書の特徴①（変化・連続） 11. " ②（省略） 12. 文字の大小 13. 配置・配列 14. 書式 15. まとめ 				
受講要件	中学校国語免許取得予定者。原則として、Aは国語教育専修と書文化専攻、Bは他の専修・専攻。				
テキスト	『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編				
参考書					
予習・復習について	適宜宿題を課す				
成績評価の方法・基準	毎時の提出課題（毛筆・硬筆）と筆記試験によって、理解度と取り組みの姿勢、技能面を見る。筆記試験の結果は40%反映させる。実技科目であるため、欠課時数が総授業時数の5分の1を超えた場合は基本的に単位を認めることは難しい。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。				

授業科目名	西欧文化史 (History of Western Culture)				
担当教員名	伊藤 宏二 (ITO Koji)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟611	
分担教員名					
クラス	国際	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	近世ヨーロッパ、人物、国家・戦争・社会				
授業の目標	近世ヨーロッパに生きた人物たちについて学習する				
学習内容	ヨーロッパにおける近世（16～18世紀）という時代は、近現代社会の基礎を築いた画期的な時代であった反面、旧時代から続く伝統に社会的諸基盤が圧倒的に制約もされ、また、その時期にしか見られない事象も多く見出し得る特徴的な時代である。本授業では、このような一見捉えにくい時代のヨーロッパ社会に生きた人々の人生を知ることを通じて、当時のヨーロッパ社会の実像を捉える一助としたい。				
授業計画	1 ガイダンス 2 アンリ4世 3 グスタフ・アドルフ 4 ピョートル1世 5 エリザベス1世 6 クリスティーナ女王 7 マリア・テレジア 8 ルイ14世 9 ヨーゼフ2世 10 ボグダン・フメリニツキー 11 レンナート・トーシュテンソン 12 ヨハン・アドラー・サルヴィウス 13 鉄腕ゲッツ 14 傭兵ブレーカー 15 まとめ				
受講要件	市民開放講座対象科目です				
テキスト	毎時プリントを配布する。				
参考書	特になし				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業態度、レポート				
オフィスアワー	メール (ekitou@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡を取るか、授業後に申し出ること				
担当教員からのメッセージ	準備の都合により、内容に変更が生じる場合もあり得ます。あらかじめご了承ください。				

授業科目名	解析学 (Introduction to Analysis)				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数、ルベーグの収束定理、Fubini の定理				
授業の目標	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、ルベーグ積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解する習慣を身につける。積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理・ルベーグの収束定理、および積分の順序交換に関する Fubini の定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。				
学習内容	ルベーグ積分は、リーマン積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとにルベーグ積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、ルベーグの収束定理、Fubini の定理など）を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Riemann 積分と面積 2. σ 集合体 3. 測度の定義と諸性質 4. 測度空間の完備化 5. 外測度 6. Hopf-Kolmogorov の拡張定理 7. Lebesgue 測度 8. 可測関数の定義と諸性質 9. 積分の定義 10. 積分に関する諸性質 11. 収束定理 12. 直積測度 13. Fubini の定理 				
受講要件	微分積分学 I、II の内容を理解していることが望ましい。				
テキスト					
参考書	ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房 測度と積分、鶴見茂、理工学社、4-8445-0115-1				
予習・復習について	予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の講義の際に時間を設定する。				
担当教員からのメッセージ	測度論は、解析学 I で学ぶ L^p 空間（ p 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。				

授業科目名	放射線計測・管理学概論 (Fundamental Measurement and Management for Radiation Protection)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	放射線計測、放射線管理、主任者試験				
授業の目標	放射線計測・管理についての基礎知識を習得する。				
学習内容	必要な放射線測定および管理技術に関する基礎知識を演習問題を解きながら講義する。(放射線取扱主任者試験の計測・管理科目に該当する。)				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線量と単位 2. 気体の検出器 3. 固体・液体の検出器 4. 個人被ばく線量の測定 5. その他の測定器 6. 放射線測定の実際 7. 演習(1) 8. 放射線管理と防護の基準 9. 防護量と実用量・防護の基準 10. 体外放射線に対する防護 11. 体内に取り込まれる放射性物質の防護、健康診断 12. 場所の管理、個人被ばく管理、取扱施設 13. 個人被ばく管理～放射性廃棄物の処理 14. 放射性物質の保管～事故対策 15. 演習(2) <p>ただし、講義の進捗により前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 (飯田博美、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (通商産業研究社)				
予習・復習について	ホームページで公開している講義資料にあらかじめ予習しておくことが望ましい。また、テキストの各章末問題は適宜復習を兼ねて行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の演習(30%)および試験(70%)。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験希望する人は放射線物理学概論、放射化学概論(化学科は放射化学I)、放射線生物学概論も受講することをお勧めします。ただし本授業の受講要件ではありません。				

授業科目名	シミュレーション数理科学Ⅱ (Mathematical Science Simulation II)				
担当教員名	久村 裕憲 (KUMURA Hironori)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	常微分方程式、初期値問題、解の存在と一意性、2階線形微分方程式、1階微分方程式				
授業の目標	本授業では常微分方程式について講義する。				
学習内容	前半では、常微分方程式の初期値の解の存在と一意性について述べる。局所解の存在と一意性に基づき、解の延長定理の下で大域解の一意存在を示す。後半では、ニュートンの運動方程式に代表される自然界で最も良く現れ重要な2階線形微分方程式の解法と、求積法で解を求めることが可能な1階微分方程式の解法を考察する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 常微分方程式の初期値問題に対する解の存在と一意性 1階微分方程式系の初期値問題、リプシッツ条件と大域解の存在 局所解の存在と一意性、解の延長定理、階の爆発 2階線形微分方程式 斉次2階線形微分方程式の一般解と基本解 非斉次2階線形微分方程式の一般解と基本解 定数係数2階線形微分方程式 1階微分方程式 変数分離形、同次形、線形に帰着できる1階微分方程式、 完全微分方程式、積分因子 				
受講要件	微分積分学 I, II, III, IV を受講していることが望ましい。				
テキスト	斎藤利弥(著) 常微分方程式論 朝倉書店 ISBN-10: 4254116535				
参考書	中尾慎宏 「概説 微分方程式」(サイエンス社) ISBN4-7819-0907-8				
予習・復習について	講義ノートおよびテキストで予習・復習を行い、理解度を高めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果(80%)、受講態度・レポート(20%)により総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の授業のときに言いたいと思います。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理数学 I (Mathematics for Physics I)				
担当教員名	松山 晶彦 (MATSUYAMA Akihiko)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換				
授業の目標	物理で登場する基礎的な微分方程式が解けるようになること。また、フーリエ級数、フーリエ変換の考え方を理解すること。				
学習内容	授業の前半は基礎的な微分方程式を取り上げ、その解法を説明する。後半ではフーリエ級数、フーリエ変換について学ぶ。なるべく物理における具体的な応用例に即して議論をすすめる。				
授業計画	<p>主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微分方程式について、一般解と特殊解 2. 1階微分方程式、変数分離型、線形微分方程式、完全形 3. 2階微分方程式 4. 定数係数線形微分方程式、線形独立性、ロンスキアン 5. 線形非斉次微分方程式 6. フーリエ級数とフーリエ変換 7. フーリエ変換の応用 				
受講要件	基礎物理学 I, 基礎物理学 II, 力学 I, 力学 II の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「物理のための数学」 岩波 和達三樹				
参考書					
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	この授業で学ぶことは物理学科のすべての授業で使うことになるので、しっかりと理解してください。				

授業科目名	物理光学 (Optics and Photonics)				
担当教員名	富田 誠 (TOMITA Makoto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟510	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード					
授業の目標	光学現象の背景にある基本的な物理を理解する。身の回りの現象、先端技術、一見意外な現象、などに光学がどのように現れているか、例示しながら講義を進めたい。				
学習内容	波動光学、電磁光学を中心に、レーザーの原理など量子光学の入門的な内容				
授業計画	<p>(1) 電磁波 Maxwell の方程式、偏光、波長板、右手系、左手系、</p> <p>(2) スネルの法則 全反射、ブリュスター角、</p> <p>(3) 回折 フレネル回折、フランフォファー回折、ポアソンの輝点</p> <p>(4) 共振器 分解能、レーザー共振器、</p> <p>(5) レーザー 自然放出、誘導放出 3準位系レート方程式(反転分布)、 レーザーの原理(半導体レーザー)、</p> <p>(6) ファイバー、光検出器 など</p> <p>物理学実験 II、IV における「レーザー実験」と関連づけた内容になる予定です。</p>				
受講要件	波動現象、電磁気の話が中心になります。				
テキスト	講義開始時に案内します。				
参考書	講義開始時に案内します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポートを予定している。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	光学は先端的な技術にも幅広く使われています。身の回りにもオプトロニクス(光+電子技術)を使った製品があふれています。物理学科を卒業後に、(本人には意外でも)光学分野で仕事をする人も多いと思います。				

授業科目名	有機化学Ⅲ (Organic Chemistry III)				
担当教員名	小林 健二 (KOBAYASHI Kenji)		所属等	理学研究科	
			研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	構造有機化学、立体化学、有機反応機構論、アルケン、アルキン、非局在化電子系、有機電子論				
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	有機化学Ⅰ、Ⅱでは、有機化合物は官能基によって分類され、その反応は官能基の変換であることを学んだ。本講義でも引き続き官能基の構造とその反応性について、アルケン、アルキン、さらに非局在化したパイ電子系化合物を中心に学習する。また、有機反応を電子の動きと結合の分極性に基づくと考える有機電子論を基に様々な反応を学び理解する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>11章 アルケン 12章 アルケンの反応 13章 アルキン 14章 非局在化したパイ電子系</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り随時対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学 I (Developmental Biology I)				
担当教員名	徳元 俊伸 (TOKUMOTO Toshinobu)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	配偶子形成、転写因子、誘導シグナル、モデル生物				
授業の目標	近年解明が進んでいる動物の発生の分子機構、その研究手法について理解する。				
学習内容	発生生物学は分子生物学の手法を用いることにより、近年めざましい進展を果たした。その発展の原動力となったのは発生過程で重要な機能を担う分子の同定法（遺伝子配列の決定）が確立されたことにある。さらにその遺伝子の導入、除去などの手法を駆使することで発生過程を実験的に改変する技術が確立され、今ではこれらの技術を基礎とした様々な研究から発生機構が分子のレベルで理解できるようになってきた。本講義では近年明らかになった発生の分子機構を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生生物学の隆盛 2. 発生における一般的な問題 3. 発生に関わる重要な分子群(1) 4. 発生に関わる重要な分子群(2) 5. 発生における共通現象(1) 6. 発生における共通現象(2) 7. 発生における共通現象(3) 8. 発生遺伝学 9. 実験発生学(1) 10. 実験発生学(2) 11. 発生研究に必要な技術(1) 12. 発生研究に必要な技術(2) 13. モデル生物・アフリカツメガエル(1) 14. モデル生物・アフリカツメガエル(2) 15. モデル生物・ゼブラフィッシュ 16. 試験 				
受講要件	「発生生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト					
参考書	エッセンシャル発生生物学、羊土社、Jonathan Slack 著 大隈典子 訳 ウィルト発生生物学、東京科学同人				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限（2 時 25 分-3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより分子レベルの発生学の概略が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	植物生理学 (Plant Physiology)				
担当教員名	栗井 光一郎 (AWAI Koichiro)		所属等	理学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	光合成、光形態形成、膜脂質、貯蔵脂質				
授業の目標	植物の光形態形成反応，光合成，膜脂質合成の基礎を学び，植物のエネルギー獲得戦略について理解を深める。				
学習内容	植物生理学のなかで，植物特有の反応である光形態形成，光合成を中心に学ぶ。また，膜脂質やバイオディーゼルとしても用いられる貯蔵脂質についてその合成と分解機構を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス，光形態形成 2 光による制御 3 フィトクロム 4 クリプトクロム，フォトトロピン 5 植物細胞と葉緑体分化 6 光合成概説 7 光捕集，電子伝達 I 8 電子伝達 II 9 トピックス：遺伝子導入植物 10 炭酸固定，光呼吸 11 C4 植物と CAM 植物，藻類の炭酸濃縮 12 細胞膜 13 脂肪酸合成 14 膜脂質合成 15 貯蔵脂質の合成と分解				
受講要件	他の植物学系の講義も履修することが望ましい。				
テキスト	ベーシックマスター植物生理学（オーム社）				
参考書	Biochemistry & Molecular Biology of Plants, Buchanan 編 ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので，予習復習をしっかりと行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席，小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した植物生理学の基本的な理解ができているかを判断する。プリント，ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7-8 時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	地球上全ての生物は光合成の影響を受け，ほとんどの生物が光合成によって得られたエネルギーに依存しています。光合成の仕組みを理解することは，エネルギー循環の最初の部分を理解することです。エネルギー問題が大きく取り上げられている現在，光合成の正しい知識を身に付け，社会に還元する人材となってほしい。				

授業科目名	生物環境科学概論 I (Introduction to Biogeosphere Sciences I)				
担当教員名	塚越 哲 (TSUKAGOSHI Akira)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名	佐藤 慎一				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化学的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>進化古生物学の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進化古生物学の概要 2. 進化学関連学史 3. 化石の保存記録と不完全性 <p>個体レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 成長と個体発生 5. 生活様式と個古生態 <p>個体群レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 生活史の進化 7. 干潟の現生古生物学 8. 中間試験 <p>初期生命の記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ストロマトライト, 真核生物の出現 10. 多細胞生物の出現 <p>進化のパターンと化石生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. エディアカラ化石群 12. カンブリア紀の化石群と進化の大爆発 <p>地球環境と大量絶滅</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 大量絶滅の認識, 主な大量絶滅 14. 大量絶滅の要因 15. 先カンブリア時代の地球環境 16. 期末試験 				
受講要件	なし。				
テキスト	特に定めない。配布したプリントは毎回持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。試験で合格点に達しなかった場合、出席優良者に限って、再試験代わりのレポートを課すなどの救済措置を取る場合がある。				
オフィスアワー	なし。				
担当教員からのメッセージ	なし。				

授業科目名	多様性生物学 (Biodiversity)				
担当教員名	塚越 哲 (TSUKAGOSHI Akira)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	生物多様性、分類、分類学、個体発生、形態、進化				
授業の目標	生物のもつ分類学的、形態学的多様性の認識と理解を深める				
学習内容	ヒトはどのようにして生物を分類しその多様性を把握するのか、またその多様性はどのように創出されるのかについて基礎から学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の種数 ・ヒトの認識と分類 ・個体発生と系統発生 <p>以上の内容をオムニバス形式で行う。</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	キーワードについて、あらかじめ文献やインターネット等で学習しておくことが望ましい。また、授業でわからないことは放置せず、各自よく復習すること。質問も歓迎する。				
成績評価の方法・基準	筆記試験またはレポート、もしくは両方。				
オフィスアワー	下記参照。				
担当教員からのメッセージ	席をはずすことが多いので、来室の際は電子メール<<satukag@ipc.shizuoka.ac.jp>>もしくは電話054-238-4800(直通)であらかじめ連絡をください。特に重要な質問などがあれば、授業で取り上げることもあります。それから、授業中の飲食は慎んでいただきたい(当たり前のことですが)。				

授業科目名	構造地質学 (Structural Geology)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	地質構造、歪、応力、変形メカニズム、断層、節理、褶曲、岩石組織				
授業の目標	構造地質学は地殻の構造(地質構造)を解析するための基礎となり、また応用範囲の広い分野でもある。本講義ではその基礎となる歪と応力の関係、実際に形成される断層や褶曲などの記載方法と、形成にいたる運動過程・物理過程についての基礎的取扱いについて解説する。				
学習内容	この講義では、最初に地質構造とは何かを解説し、その地質構造を形成する歪と応力の力学的基礎を学ぶ。それらをふまえて地下深部から表層部の異なる環境下において断層や褶曲などがどのような過程を経て形成され、発達していくのかを学ぶ。				
授業計画	<p>おおよそ以下の順序で講義を行う。ただし、一項目が一回の講義になるとは限らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地質構造とは何か? 地質構造の記載 2. 歪と応力の基礎 3. 地殻物質の性質 4. 変形メカニズムと変形相 5. 断層と節理 6. 褶曲 7. 岩石組織 				
受講要件					
テキスト					
参考書	狩野謙一・村田明広: 構造地質学. 朝倉書店, 1998年 天野一男・狩野謙一: フィールドジオロジイ 6 「構造地質学」. 共立出版, 2009年				
予習・復習について	参考書を講義前・後に読んでおくと良い。				
成績評価の方法・基準	地質構造の形成過程と形成条件が理解されているかについて、期末テストの結果などから総合的に評価する				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	関連した内容を持つ構造岩石学, 地震地質学, テクトニクスなどの基礎となる分野である。				

授業科目名	線型代数学Ⅲ (Linear Algebra III)				
担当教員名	浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	Jordan 標準型				
授業の目標	ジョルダン標準型について学ぶ.				
学習内容	線形代数学 II の続きとして正規行列とジョルダン標準型について学ぶ.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 線形代数 I, II の復習 2. 正規行列のユニタリ行列による対角化 3. 最小多項式 4. ジョルダン標準型の理論 5. ジョルダン標準型の計算 				
受講要件	線形代数 I, II の内容を理解していること.				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人著 培風館)				
参考書					
予習・復習について	授業を受ける前には前回までの内容を理解してくること.				
成績評価の方法・基準	平常点 (レポート) 20%, 試験 80%で評価する.				
オフィスアワー	年度の初めに掲示する.				
担当教員からのメッセージ	分からないところがあれば, できるだけ早く質問に来てください.				

授業科目名	熱化学 (Thermochemistry)				
担当教員名	河合 信之輔 (KAWAI Shinnosuke)		所属等	理学研究科	
			研究室	理B302	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	熱力学第2法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、化学平衡、統計熱力学、ボルツマン分布				
授業の目標	物理化学のひとつの柱である化学熱力学を理解・体得し、どんな問題にも応用できるような基礎をつくる。				
学習内容	講義前半では、熱力学第2、第3法則を学び、熱力学の理論体系の成り立ちを理解する。講義後半は、熱力学に分子論的な基礎づけを与える理論としての統計力学を学び、エントロピーや自由エネルギー等の諸概念の分子的意味を理解する。				
授業計画	<p>テキストの次の章を講義する。</p> <p>第2章 熱力学第1法則 基本的な概念（仕事、熱、エネルギー） 状態関数（内部エネルギー、エンタルピー） 完全微分と不完全微分 熱化学（標準生成エンタルピー、反応エンタルピー）</p> <p>第3章 熱力学第2法則 自発変化の方向 エントロピー（定義、自発性との関係、第2法則のエントロピーによる表現） 熱力学第3法則 自由エネルギー（ヘルムホルツエネルギーとギブスエネルギー）</p> <p>第7章 化学平衡 平衡状態（自由エネルギーと平衡条件、平衡の温度・圧力依存性） 平衡電気化学（半反応と電極、起電力）</p> <p>第16章 統計熱力学 分子状態の分布（確率分布、配置と重み） エントロピーの分子論的意味 ボルツマン分布 分配関数</p>				
受講要件	微分積分，確率論，力学，および1年次の基礎熱化学の知識を前提とする。				
テキスト	「アトキンス 物理化学(上)(下)」(東京化学同人)第2，3，7，16章				
参考書	「新物理学シリーズ 32 熱力学」田崎晴明（培風館） 「新物理学シリーズ 37 統計力学 I」田崎晴明（培風館） その他，授業中に適宜引用文献を挙げる				
予習・復習について	新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦勞する分野であるので、週1～2時間（以上）を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回課される小レポートの提出を、出席代わりとする。成績は、小テストと最終試験の点数を半分ずつの割合で加算して評価する。				
オフィスアワー	随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある（sskawai@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射化学Ⅱ (Radiochemistry II)				
担当教員名	矢永 誠人 (YANAGA Makoto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	天然放射性核種、人工放射性核種、核反応、放射化分析、放射化学分離、R I の利用				
授業の目標	原子核の性質を理解するとともに、同位体、特に放射性同位体を利用した化学の実際を修得する。				
学習内容	<p>I. 元素を構成している同位体について、安定同位体と放射性同位体に分けて考え、これらがどのような過程によって生成・分布しているのかという点を目指して概説する。これを理解するために必要な放射性同位体および安定同位体の物理的性質、化学的性質および放射性同位体をつくる核反応についても述べる。</p> <p>II. きわめて類似した同位体どうしの化学的性質は、同位体をトレーサーなどとして利用できる。他方、わずかながら検出される同位体間の性質の差を利用して、同位体の分離はもちろん、他の方法では難しい研究にも特色を生かして応用されている。それらの典型的なものおよび基礎を学ぶ。</p>				
授業計画	<p>以下の項目について、基礎的・基本的な事項を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 核反応 <ol style="list-style-type: none"> 核反応 核反応断面積と生成放射能 核反応の種類 核分裂反応 核融合反応 元素の起源 <ol style="list-style-type: none"> Hubble の法則 宇宙温度変化と物質の創成 年代測定法 <ol style="list-style-type: none"> 宇宙年代学 放射性壊変を利用する年代測定の原理 年代測定 核・放射化学的分析 <ol style="list-style-type: none"> 放射化学的分離法 放射化分析 放射分析 同位体希釈分析 				
受講要件	放射化学Ⅰ、放射化学概論、放射線物理学概論のいずれかを受講していることが望ましいが、これらの科目を履修していない者に対しては配慮する。				
テキスト	放射化学概論 第3版 (富永健、佐野博敏著、東京大学出版会)				
参考書	適宜、資料を配布する。				
予習・復習について	予習および復習、特に復習は重要である。聞いたこと、あるいは、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べることにより、さらに実力が養成される。				
成績評価の方法・基準	授業時の演習課題と期末試験により総合的に評価する。				
オフィスアワー	午前9時頃から午後6時頃まで、随時、質問等を受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射化学Ⅰなど、要件に記した科目を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				

授業科目名	内分泌学 (Endocrinology)				
担当教員名	鈴木 雅一 (SUZUKI Masakazu)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	脊椎動物、内分泌、ホルモン、進化、病気				
授業の目標	脊椎動物の内分泌現象の原理と多様性を理解する。				
学習内容	人間の身体の中では多様な器官が機能しているが、それぞれの器官やそこで働く分子システムには生命の進化とともに歩んだ歴史がある。本講義では、哺乳類の内分泌系の機能を中心に解説しながら、内分泌器官やホルモン等の多様性および進化の道筋についても比較動物学的観点から考察する。また、折に触れてホルモンの関わる病気についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌学の歴史 2. 内分泌学研究の技術 3. 内分泌腺とホルモン I 4. 内分泌腺とホルモン II 5. 性と性分化、生殖周期 I 6. 性と性分化、生殖周期 II 7. ストレスとホルモン 8. 水・電解質調節 9. カルシウムの調節 10. 甲状腺ホルモン 11. 糖分の調節 12. 消化管とホルモン 13. 妊娠・出産・授乳とホルモン 14. 松果体とホルモン 15. 無脊椎動物とホルモン 16. 試験 				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	生命をあやつるホルモン（編；日本比較内分泌学会：講談社） 比較内分泌学序説（編；日本比較内分泌学会：学会出版センター）など				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	内分泌に関連した本を一冊でも読んで欲しい。				

授業科目名	層序学 (Stratigraphy)				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	層序学、層序区分、層序単元、模式層と模式地、岩相層序、生層序、古地磁気層序、火山灰層序、サイクル層序、シーケンス層序				
授業の目標	地層に保存された地質記録や化石記録の理解に不可欠な層序学を習得する。				
学習内容	層序学の体系と理論と基本概念を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 層序学とは何か（地層体系化の手順、様々な層序学、層序学関連小史） 2. 層序学の基本原理（公式層序単元、岩相層序単元各説） 3. 層序区分の標準化（年代層序尺度、地質年代単元、GSSPと“黄金の楔”） 4. 層序単元の命名（模式、国際層序ガイド、地層命名法、先取権の原則） 5. 生層序学の基礎（生層準(FAD, LAD)、誘導・導入化石、異時性、生層序帯各説、示準化石各説） 6. 生層序学の実際（CSRS、グラフ対比法、AEO、CONOP、RASC、生層準の区間推定） 7. 層序と編年（GSSA、複合年代尺度の構築、年輪・骨格編年、交差年代決定） 8. 示準化石、微化石層序 9. 古地磁気層序、火山灰層序学（概念、事例） 10. イベント層序学、サイクル層序1（サイクル層序の概念、生態層序、海洋酸素同位体層序） 11. サイクル層序2、海洋酸素同位体層序 12. 同位体層序学、第四紀の層序、14C年代 13. シーケンス層序1（シーケンス層序の原理） 14. シーケンス層序2（海水準変動） 15. 層序学の応用 				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適時、プリントを配布する。				
予習・復習について	ノート、配布プリントを使って、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と試験の結果から、成績評価を行う。				
オフィスアワー	授業で個々に通知する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	代数学 (Algebra)				
担当教員名	浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	環、イデアル、単項イデアル整域、一意分解整域、ネーター環、多項式環、加群				
授業の目標	環、環のイデアル、剰余環等の基本的な事項を習得し、環上の加群に関する基本事項に慣れることを目標とする。				
学習内容	環および環上の加群について講義する。環について基本的な事項を解説した後、重要な例として多項式環を取上げる。次に環上の加群について基本的な事項を解説し、時間があれば単項イデアル整域上の有限生成加群を決定する。				
授業計画	1. 環 1.1 環、整域、体の定義 1.2 イデアル、剰余環 1.3 準同型写像 1.4 素イデアル、極大イデアル 1.5 単項イデアル整域 2. 多項式環 2.1 可換環上の多項式 2.2 体上の多項式環 2.3 多変数多項式 3. 加群 3.1 加群の定義 3.2 $\text{Hom}(A, B)$ 3.3 単項イデアル整域上の加群				
受講要件	代数学入門を履修していること。				
テキスト	代数学入門（東郷重明著，サイエンス社）あるいは下記の参考書等				
参考書	代数学 2（雪江明彦，日本評論社） 現代代数学（服部昭著，朝倉書店） 代数系入門（松坂和夫著，岩波書店）				
予習・復習について	教科書や参考書で予習，授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは，できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席，レポートなどの平常点 20%，および試験 80%で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業で連絡する。				
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら，できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	電磁気学Ⅲ (Electromagnetism Ⅲ)				
担当教員名	土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	Maxwell 方程式、電磁波の伝搬、電磁波の放射				
授業の目標	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を理解する。				
学習内容	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を学習する。さまざまな応用にも触れる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Maxwell 方程式の一般的性質 2. 電磁波の伝搬 3. 電磁波の放射 4. 誘電体中の電磁波 				
受講要件	電磁気学 I,II が履修済みであること。				
テキスト	なし				
参考書	砂川重信「理論電磁気学」紀伊国屋書店, ジャクソン「電磁気学 (上) (下)」吉岡書店, ランダウ・リフシッツ「場の古典論」東京図書				
予習・復習について	復習が大事である。				
成績評価の方法・基準	中間および期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	量子化学Ⅱ (Quantum Chemistry I I)				
担当教員名	松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru)		所属等	理学研究科	
			研究室	総 512	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	シュレーディンガー方程式、水素型原子、オービタル、スピン軌道相互作用、原子価結合法、分子軌道法、ヒュッケル近似				
授業の目標	量子力学の原理に基づいて、原子内部の電子運動を系統立てて理解することを目指す。また、原子で導入したオービタルの概念を分子に拡張して、分子を形成する化学結合の量子化学的記述法の理解を目指す。				
学習内容	「量子化学Ⅰ」で学んだ粒子運動の量子力学的な記述に基づいて、原子中にある電子の波動関数とエネルギー準位を概観し、角運動量の相互作用を考慮した原子スペクトルの解釈方法を学ぶ。また、分子構造を計算するための基礎的の双壁をなす原子価結合法と分子軌道法を取り上げ、化学結合の形成に電子が果たす役割の重要性を学ぶ。				
授業計画	水素原子型の構造とスペクトル <ul style="list-style-type: none"> ・水素型原子の構造 ・原子オービタルとそのエネルギー ・分光学的遷移と選択律 多原子分子の構造 <ul style="list-style-type: none"> ・オービタル近似 ・つじつまの合う場のオービタル 複雑な原子のスペクトル <ul style="list-style-type: none"> ・量子欠損とイオン化極限 ・一重項状態と三重項状態 ・スピン-軌道カップリング ・項の記号と選択律 ボルン-オッペンハイマー近似 原子価結合法 <ul style="list-style-type: none"> ・等核二原子分子 ・多原子分子 分子軌道法 <ul style="list-style-type: none"> ・水素分子イオン ・等核二原子分子 ・異核二原子分子 多原子分子系の分子オービタル <ul style="list-style-type: none"> ・ヒュッケル近似 ・計算化学 ・分子の性質の予測 				
受講要件	「量子化学Ⅰ」の内容、簡単な微分積分に関する知識				
テキスト	「アトキンス 物理化学（上）」（東京化学同人）第10章、第11章				
参考書	「量子化学 基礎からのアプローチ」（化学同人）				
予習・復習について	テキストを使った予習を大事にするのが望ましい。				
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験で評価する。				
オフィスアワー	特に定めません。いつでも質問してください。				
担当教員からのメッセージ	「量子化学Ⅰ」で学んだシュレーディンガー方程式は、実在の原子分子の構造を詳細に理解するための概念であると言っても過言ではありません。量子化学を駆使することで、NaやO ₂ のように構造式で理解していた原子分子を、内部の奥深くから原理的に知ることができるはずですが、量子化学は議論すればするほど身につきますので、質問に来てもらうのは大歓迎です。				

授業科目名	発生生物学Ⅱ (Developmental Biology II)				
担当教員名	塩尻 信義 (SHIOJIRI Nobuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 611	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	器官形成、誘導、形態形成、細胞分化、細胞間相互作用、遺伝子発現、実験発生学				
授業の目標	発生過程で多様な器官が形成される仕組みを、細胞レベルならびに分子レベルで理解する。				
学習内容	多細胞動物の体は、特有の機能と形態・構造をそれぞれ有する多様な器官から構成されており、それらの統合により個体自身ならびに個体の属する種が維持される。本講義では、マウスやニワトリなどの高等脊椎動物をモデルとして、発生過程で多様な器官が形成される仕組みについて、どのような実験によりその仕組みが証明されたかなど、実験発生学の成果にもとづきながら解説する。特に、各器官形成系でおこる細胞分化、増殖、細胞移動、誘導、形態形成、細胞間相互作用など“細胞社会”として制御されている側面とその分子メカニズムについて講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 卵割から胚葉形成まで 3. 神経胚形成 4. 発生運命地図と誘導・体軸形成 5. 表皮の発生・分化 6. 神経堤細胞の移動と分化 7. 体節の形成 8. 心臓形成と血管系の発生 9. 造血細胞の起源 10. 排出器官の発生 11. 生殖巣の形成 12. 生殖輸管などの発生 13. 消化器官の発生 14. 肝臓形成 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	武田洋幸・相賀裕美子著『発生遺伝学』（東京大学出版会）				
参考書	東中川徹他編著「ベーシックマスター発生生物学」（オーム社）、八杉貞雄著「動物の形態 ー進化と発生ー」（裳華房）など。随時紹介する。				
予習・復習について	予習・復習を必ず行って下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などに基づいて総合的に評価する。				
オフィスアワー	特に指定しませんが、質問があれば研究室まで。				
担当教員からのメッセージ	発生現象は見ていて大変美しいものです。またその仕組みも巧妙です。				

授業科目名	地球環境学 (Global Environment)				
担当教員名	加藤 憲二 (KATO Kenji)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	共通教育C棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	地球環境、海洋、生態系、物質循環、生物多様性				
授業の目標	地球上で今おこっている環境問題をトピック的に眺めるのではなく、それらがなぜ問題なのか、問題の根っこはどこにあるのかについて地球科学を学ぶ者として必須となる知識も整理しながら学ぶ。しくみを理解する、しくみを動かす力を理解する、そして人間と地球環境のありようを考える。				
学習内容	地球環境を統合的に理解することを目指して、考え方のツールとしての時間軸、空間スケールの捉え方から、物質循環の意味、生態系のありようを学ぶ。				
授業計画	第1回 地球環境をどのように捉えるか；空間と時間（加藤） 第2回 地球環境変動史（1）（佐藤） 第3回 地球環境変動史（2）（佐藤） 第4回 環境変動と生物多様性（1）（佐藤） 第5回 環境変動と生物多様性（2）（佐藤） 第6回 海洋の環境変動と生物の分布パターン（佐藤） 第7回 水循環（加藤） 第8回 物質循環（1）；CとN，バランスをとる仕組み（加藤） 第10回 物質循環（2）；Sと重金属、環境影響と汚染について（加藤） 第11回 生態系の捉え方（1）生体濃縮、カスケード、富栄養化と汚染の違い（加藤） 第12回 生態系の捉え方（2）遷移、進化（加藤） 第13回 人間活動と地球環境（1）（佐藤） 第14回 人間活動と地球環境（2）（佐藤） 第15回 エネルギーと環境、環境倫理（加藤） 講義の順序は入れ替わることがあります。Case sensitive!				
受講要件	出席するだけでなく授業に＜参加する＞こと。				
テキスト	プリント				
参考書	鈴木秀夫『森林の思考・砂漠の思考』（NHKブックス） 和辻哲郎の『風土』（岩波文庫） Environmental Science, International Student Version, Botkin & Keller, Wiley, 2012.				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度推薦された文献や資料を読む。				
成績評価の方法・基準	成績はレポートと試験による。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計処理論 (Theory of Statistical Processing)				
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 6 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	回帰分析、多変量解析				
授業の目標	データを記述する統計の方法やデータの背景となる理論を理解することです。				
学習内容	<p>自然現象や社会現象を説明するとき割合などのデータが用いられる。確定的な現象を記述した場合と異なり、偶然による変動にともなう、自然現象を記述するときに多くの可能性を伴う表現をするが、その方法が客観的である必要がある。統計での推論は論理により説明することになる。</p> <p>数理統計学の理論を統計の概念とその応用によって展開する。変数の多いデータの解析に用いられる多変量解析の方法について説明する。</p> <p>データを記述する統計の方法やデータの背景となる理論を理解することが重要です。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データと統計計算のソフトウェア 2. 1 変量データの記述 3. 多変量データの記述 4. 最小二乗法と回帰分析 5. 多変量解析 6. 主成分分析 7. 判別分析 				
受講要件	前提は大学 1, 2 年の微分積分学, 線形代数学です。				
テキスト					
参考書	「統計 第 2 版」, 竹村彰通著, (共立講座 21 世紀の数学 14), (共立出版), 2007, ISBN:978-4-320-01851-8				
予習・復習について	配布するレジュメおよび各自のノートで予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	成績評価はレポートおよび試験による。				
オフィスアワー	講義の時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	生物多様性科学				
担当教員名	栗井 光一郎 (AWAI Koichiro)		所属等	理学研究科	
			研究室		
分担教員名	徳岡 徹、竹内 浩昭				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	多様性、進化、細胞内共生				
授業の目標	様々な生物のもつ特徴、多様性、生活環を中心とした基礎的知識を身に付けると共に、地球のいたるところで活動する生物を体系的に理解する。				
学習内容	生物の多様性、特徴、進化、環境適応機構を総合的に学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 生体膜・生物の分類 (栗井 光一郎) 2 原核生物：古細菌、細菌 (栗井 光一郎) 3 原生生物：エクスカバータ (栗井 光一郎) 4 原生生物：クロモアルベオラータ (栗井 光一郎) 5 原生生物：アーケプラスチダ (栗井 光一郎) 6 原生生物：リザリア, ユニコンタ (栗井 光一郎) 7 菌類 (栗井 光一郎) 8 植物：コケ植物 (徳岡 徹) 9 植物：シダ植物 (徳岡 徹) 10 植物：裸子植物 (徳岡 徹) 11 植物：被子植物 (1) 単子葉植物 (徳岡 徹) 12 植物：被子植物 (2) 双子葉植物 (徳岡 徹) 13 動物：形態における多様性と進化 (竹内 浩昭) 14 動物：機能における多様性と進化 (竹内 浩昭) 15 動物：生態における多様性と進化 (竹内 浩昭)				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない				
参考書	丸善 キャンベル生物学-原書第9版- ほかにプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので、予習復習をしっかりと行うこと				
成績評価の方法・基準	出席、小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した多様性生物学の基本的な理解ができているかを判断する。プリント、ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8時限を予定 (栗井)				
担当教員からのメッセージ	生物の生理生態、進化を知ること、地球上に存在する様々な生物を体系的に理解することが可能となる。実験生物だけではなく、生き物とは何かということを学んでほしい。				

授業科目名	地球科学入門 I (Introduction to Geosciences I)				
担当教員名	石橋 秀巳 (ISHIBASHI Hidemi)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育 C 棟 310	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	地球システム、鉱物、岩石、火山、マグマ、噴火、火成活動				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら、地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。 地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。				
学習内容	英語の教科書を使いながら、地球科学の基本的な考え方と、鉱物・岩石・火山に関する地球科学の基礎知識を学習する。				
授業計画	Chap.1. Introduction to Earth Science Chap.2 Matter and Minerals Chap.3. Rocks: Materials on the Solid Earth Chap.9. Volcanoes and Other Igneous Activity				
受講要件	特になし				
テキスト	Tarbuck, E. J., Ludgens, F. K., Tasa, D., Earth Science. 13th Edition. Prentis Hall, 740pp (2012) ニューステージ新地学図表 - 地学基礎+地学 (浜島書店, 2013)				
参考書	もういちど読む数研の高校地学 (数研出版, 2014) 地球の教科書 (井田喜明, 岩波書店, 2014)				
予習・復習について	英語辞書などを使って教科書をよく読み、十分に予習してきてください。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト・小レポート、期末の試験の成績により総合的に評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	幾何学 (Geometry)				
担当教員名	保坂 哲也 (HOSAKA Tethuya)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 606 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	微分可能多様体、写像の微分、ベクトル場				
授業の目標	微分可能多様体の基礎を学ぶ。				
学習内容	局所的に n 次元のユークリッド空間の開集合と微分同相な空間を微分可能多様体という。多様体上では微分・積分が展開される。この授業では、多様体のほんの入口を学ぶ。				
授業計画	(1) 微分可能多様体 (2) 接ベクトル空間 (3) 関数・写像の微分 (4) ベクトル場 (5) 微分形式				
受講要件					
テキスト	松本幸夫著「多様体の基礎」東京大学出版会				
参考書	村上信吾著「多様体」共立出版				
予習・復習について	教科書に沿って授業を行うので予習を良くして下さい。また課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				
成績評価の方法・基準	レポート、試験等を総合的に判断する。				
オフィスアワー	授業時間中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できる、ということはおそらくないです(それが普通です)。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習をしてはじめて理解ができます。特に、この授業では課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				

授業科目名	数理論理学 (Mathematical Logic)				
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	古典命題論理、古典述語論理、完全性定理				
授業の目標	数理論理学の基礎となる古典論理とその完全性を理解する。				
学習内容	近代的論理学としての数理論理学は、19 世紀中葉の George Boole をその嚆矢とし、前世紀の前半に、哲学・数学の基礎付け・コンピュータの基礎理論等との関連の中で大きく進歩した。その後、哲学・理論計算機科学・社会科学などのさまざまな分野の基礎および応用と関連を増しつつ、ますます発展してきている。本講義では、数理論理学の基礎となる古典論理について概説する。				
授業計画	下記の 2 までを目標に講義し、余裕があれば 3 まで言及したい 1.古典命題論理 構文論：命題計算 NK 意味論：付値と真理表 古典命題論理の完全性定理 真理関数・標準形・Boole 代数 2.古典述語論理 構文論：述語計算 NK 意味論：第 1 階構造とモデル Gödel の完全性定理とその応用 3.Sequent Calculi Gentzen の LK、LJ 基本定理とその応用				
受講要件	数学科 2 年までの授業が一通り理解できていること（単位取得は不問）				
テキスト	なし（プリント配布の予定）				
参考書	A mathematical introduction to logic, Enderton, Academic Press, 2000, 978-0122384523 数理論理学、鹿島亮、朝倉書店、978-4-254-11765-3 数学基礎論、新井敏康、岩波書店、978-4-00-005536-9 ほかに も良書があるので講義中に適宜指示する。				
予習・復習について	この講義は、数学科の専門科目である。2 年までの講義に比べたとき、難しくなるのは当然である。予習・復習などをしっかりやって欲しい。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。(適宜、レポートの評価を加算する。)				
オフィスアワー	開講時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	予習・復習などの自宅での自発的かつ積極的勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提としている。				

授業科目名	物理数学Ⅱ (Mathematics for Physics Ⅱ)				
担当教員名	森田 健 (MORITA Takeshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A406	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標					
学習内容	複素関数論				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複素平面 2. ベキ級数 3. 複素関数の微分 4. コーシーの積分定理 5. 留数定理とその応用 				
受講要件	微分、積分、ベクトル解析を理解していること。				
テキスト					
参考書	神保 道夫「複素関数入門」岩波書店、松下貢「物理数学」裳華房、アルフケン・ウェーバー「関数論と微分方程式」講談社				
予習・復習について	復習をすること。何か一冊複素関数に関する本を持っていると良い。(必ずしも参考書に挙げたもので無くても良い。)				
成績評価の方法・基準	試験によって成績を評価する。場合によってはレポートなどを課す。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機化学 I (Organic Chemistry I)				
担当教員名	坂本 健吉 (SAKAMOTO Kenkichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 B 棟 301 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、有機電子論、有機反応機構、構造有機化学、立体化学、アルカン、シクロアルカン、立体異性体				
授業の目標	有機化学の基礎概念を学び、構造有機化学を理解する。				
学習内容	有機化学の基礎概念として、共有結合の電子状態と混成軌道について学ぶ。次に、構造と反応性の基本概念を学ぶ。そして、構造有機化学に関して、立体配座、立体配置、光学異性体について学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1 章 有機分子の構造と結合 2 章 構造と反応性 3 章 アルカンの反応 4 章 シクロアルカン 5 章 立体異性体</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人) HGS 分子構造模型 有機学生用セット (丸善)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	特に時間は定めないので疑問点などがあつたら遠慮せずに研究室に来て下さい。あらかじめ連絡してもらえると有り難い。				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	基礎生化学 (Basic Biochemistry)				
担当教員名	瓜谷 眞裕 (URITANI Masahiro)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	生体分子、ヌクレオチド、核酸、アミノ酸、タンパク質、単糖、多糖、脂質、生体膜、酵素				
授業の目標	アミノ酸とタンパク質、糖、脂質、ヌクレオチドと核酸などの生物特有の物質について、それらの構造と機能を学ぶ。生体膜の構造と酵素反応の仕組みを学習する。				
学習内容	生物はタンパク質、糖、脂質などの生物特有の物質から構成される複雑で精巧な機械といえます。そしてこの機械は DNA という核酸にコードされた情報にしたがって作られ、またその機能が制御されています。この生物機械の働きはすべて生体物質間の化学反応に依存しています。この講義では化学の視点から生体物質の構造と働きを学ぶとともに、生物を理解する上で必要な生化学の基礎を学びます。				
授業計画	<p>テキストに沿って以下の内容を解説します。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、生化学の基礎：生命の科学 2 生化学の基礎：水の性質、生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報 3 生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報 4 生体分子：アミノ酸 5 生体分子：タンパク質の一次構造 6 生体分子：タンパク質の三次元構造 7 生体分子：タンパク質の三次元構造、タンパク質の機能 8 生体分子：タンパク質の機能 9 生体分子：単糖と多糖 10 生体分子：脂質と生体膜 11 生体分子：脂質と生体膜 12 生体分子：膜輸送、酵素：酵素触媒 13 酵素：酵素触媒 14 酵素：酵素の反応速度論 15 復習と総括 				
受講要件	特になし。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版 (東京化学同人)				
参考書	細胞の分子生物学 第5版 (ニュートンプレス)				
予習・復習について	教科書やノートをよく読むなど、日々の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、小テストとレポート (両方で 50%) および期末試験 (50%) の総点で判断します。				
オフィスアワー	月曜日の午前中を空けておきますが、これ以外でも可能な限り対応します。				
担当教員からのメッセージ	<p>化学科でなぜ生物を学ぶの？と思うかも知れませんが、生命現象は化学の知識で理解できるものです。生化学はその学問分野であり、化学の中の主要な分野のひとつを占めています。遺伝子操作や iPS 細胞などのバイオ技術も生化学の延長線上にあります。生化学を学べばバイオ技術の原理が分かり、物質 (化学) という視点からの生命観が得られるようになります。生化学の理解には化学の知識が必要ですが、化学科の学生はそのような学習環境にあるのでたいへん有利といえることが言えます。</p> <p>テキストのヴォート基礎生化学 (第3版) は、本講義以外にも代謝生化学、情報生化学、応用生化学でも使います。</p>				

授業科目名	有機化学V (Organic Chemistry V)				
担当教員名	山中 正道 (YAMANAKA Masamichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、反応機構、官能基				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する。				
学習内容	2 年次の有機化学 IV の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに学習する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	1 9 章 カルボン酸 2 0 章 カルボン酸誘導体 2 1 章 アミンおよびその誘導体 2 2 章 ベンゼンの置換基の反応 2 3 章 エステルエノラートと Claisen 縮合				
受講要件	特になし				
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験および出席状況により評価する。				
オフィスアワー	特に指定なし				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	地球物理学 (Geophysics)				
担当教員名	生田 領野 (Ryoya IKUTA)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟 306	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	地球物理学、地震学、測地学、弾性体力学				
授業の目標	地球物理学の基礎を学び、地学現象を物理的に捉える思考力を養う。				
学習内容	地球物理学で用いられる数学的／物理学的知識と思考法を学び、適宜演習を行う。				
授業計画	回 内容 1 1. 地球物理学入門：ケプラーからニュートンへ（質点系の力学） 2 2. 地球物理学入門：質点系から連続体への拡張 3 3. 地球物理学入門：スペクトル解析 I（フーリエ級数とフーリエ積分） 4 4. 地球物理学入門：スペクトル解析 II（相互相関とクロススペクトル） 5 5. 地震学：P波，S波，表面波 6 6. 地震学：震度，マグニチュード，震源と断層，地震モーメント 7 7. 地震学：世界の震源分布，深発地震，プレートテクトニクスと地震 8 8. 地震学：地震のメカニズム，P波初動分布，P軸，T軸 9 9. 地震学：余震，地震に伴う地殻変動 10 10. 地震学：津波，火災，地震予知 11 11. 地震学：走時曲線とレイパラメーター 12 12. 上部マントル，下部マントル，外核，内核 13 13. 大陸地殻と海洋地殻，アイソスタシー 14 14. 測地学：国際単位系，ジオイド，地球楕円体，重力と地球の形 15 15. 測地学：水準測量，三角測量，宇宙測地学				
受講要件					
テキスト	とくになし。				
参考書	地球科学に関連するシリーズの教科書の固体地球物理学関連（例）新版地学教育講座2「地震と火山」：安藤雅孝ほか，東海大出版 ・「地震学 第3版」：宇津徳治，共立出版株式会社 ・測地学会テキスト（一般向けの「測地学」の教科書）HP:				
予習・復習について	予習／復習大事です。数学的・物理学的思考に不慣れな人は特に復習頑張ってください。オフィスアワーも上手に使ってください。				
成績評価の方法・基準	レポートとテストの成績				
オフィスアワー	水曜日 正午～夕方				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	実験数学入門 (Introduction to Experiment Mathematics)				
担当教員名	奥村 善英 (OKUMURA Yoshihide)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 613	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	数と式の計算、数列、関数の極限、関数の極大・極小、テイラー展開、面積・曲線の長さ、ベクトル・行列、固有値問題、関数のグラフ、微分方程式の解・解の図示				
授業の目標	数値、数式処理、グラフィックスの機能にすぐれた代表的なソフトウェアである Mathematica を使って、数学を実際に計算・実験する方法を学習します。 これから、抽象的思考から得られている数学は、具体的な事実の積み重ねから理解できることを実感しましょう。				
学習内容	大学初年級で学んだ数学を中心に、微分・積分、線型代数、離散力学系、微分方程式、等のテーマに分け、計算・実験を具体的に行います。同時に、ソフトウェア Mathematica の使い方を学びます。 この授業は実習・演習形式で行います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Mathematica 入門－基本操作. 2. Mathematica 入門－数値計算、数式処理 (数と式の計算、方程式の解、数列、数列の和). 3. Mathematica 入門－グラフィックス (関数のグラフ). 4. Mathematica 入門－ノートブックの使い方. 5. Mathematica による微分積分の計算－関数の極限、関数列の極限、微分、関数の極大・極小、テイラー展開による近似、不定積分、定積分、面積、曲線の長さ. 6. Mathematica による線型代数の計算－ベクトル・行列、行列式、逆行列、連立一次方程式、固有値問題. 7. Mathematica による離散力学系の計算－関数の反復、(複素) 2 次関数の反復、フラクタル. 8. Mathematica による微分方程式の計算－微分方程式の解・解の図示. 				
受講要件					
テキスト	榊原進著、第 3 版はやわかり Mathematica (共立出版).				
参考書	川平友規著、レクチャーズ オン Mathematica (プレアデス出版). 日本 Mathematica ユーザー会編著、入門 Mathematica 【決定版】 Ver.7 対応 (東京電機大学出版局). R.J.ゲイロード (他) 著、Mathematica プログラミング (近代科学社). 古田孝之著、もっと Mathematica で数学を (培風館).				
予習・復習について	数学の具体的な計算・実験のプログラムを各自で考え、実行してください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度、レポート等を加えて評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この科目は、隔年開講です。 数学を、具体的に計算・実験することで、数学の理解がより一層深まることでしょう。また、何か発見できるかも知れません。 各自が効率の良いプログラムを作成することを心がけてください。 講義中に作成したデータを保存するため、講義では USB フラッシュメモリーを持参ください。				

授業科目名	電磁気学 I (Electromagnetism I)				
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A棟 A501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	電場、電位、電流、磁場、ベクトルポテンシャル、ベクトル解析				
授業の目標	ベクトル解析を用いて静電場を理解することを目標とする。				
学習内容	物理学科で学ぶ電磁気学ではベクトル解析を用いる。ベクトル解析の意味や計算方法を詳しく説明し、電磁気学にどのように応用されているかを解説する。ベクトル解析を用いることで、電磁気学は簡潔に表現されることを学ぶ。				
授業計画	<p>テキストの第8章までの内容を、次の順に解説する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場 <ul style="list-style-type: none"> ・クーロン力 ・電場 ・表面積分、体積分、ガウスの発散定理 ・ガウスの法則 2. 電位 (スカラーポテンシャル) <ul style="list-style-type: none"> ・線積分、ストークスの定理 ・保存力 ・スカラーポテンシャル ・ポアソン方程式 3. 定常電流 <ul style="list-style-type: none"> ・電流密度 ・保存則 ・オームの法則 ・ジュールの法則 ・回路を流れる電流 4. 静磁場 <ul style="list-style-type: none"> ・ビオ・サバールの法則 ・ベクトルポテンシャル ・アンペールの法則 				
受講要件	一年次の物理学科専門科目と理系基礎科目を修得していることが望ましい。				
テキスト	電磁気学 横山順一 著 講談社 ISBN: 4061572040 (電磁気学 II の授業でも使用する)				
参考書	ファインマン物理学〈3〉電磁気学 ファインマン 著 岩波書店 ISBN 4000077139				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜 (必要に応じて設定する場合がある)				
担当教員からのメッセージ	電気と磁気の現象を統一的な立場から理解する電磁気学は、物理の分野だけでなく、産業界においても重要である。この電磁気学を学ぶためには、 ∇ (ナブラ) 演算子の意味と使い方を理解する必要がある。授業ではこの点を詳しく説明するので、物理を理解するための道具として、 ∇ 演算子を自在に使えるようになって欲しい。				

授業科目名	溶液化学 (Solution Chemistry)																																				
担当教員名	加藤 知香 (KATO Chika)		所属等	理学研究科																																	
			研究室	理学部A棟 307																																	
分担教員名																																					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必																																
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4																																
キーワード	溶液内化学平衡、酸塩基平衡、沈澱平衡、錯体平衡、酸化還元平衡																																				
授業の目標	溶液内イオン平衡の厳密な取り扱いの習得を目的としている。平衡定数を基に、反応物および生成物の平衡濃度の計算方法を学ぶ。																																				
学習内容	分析化学においては溶液内反応が最もよく利用されている。水と電解質溶液の性質、溶液内化学平衡の基礎理論、各種の化学反応とその分析化学への応用など、主として分析化学を学ぶために必要な溶液化学の基礎を解析する。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>回</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第8章 溶液内イオン平衡とグラフ</td> </tr> </table>					回	内容	1	第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度)	2	第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製)	3	第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度)	4	第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質)	5	第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー)	6	第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算)	7	第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液)	8	第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線)	9	第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡)	10	第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線)	11	第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響)	12	第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線)	13	第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位)	14	第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線)	15	第8章 溶液内イオン平衡とグラフ
回	内容																																				
1	第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度)																																				
2	第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製)																																				
3	第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度)																																				
4	第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質)																																				
5	第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー)																																				
6	第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算)																																				
7	第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液)																																				
8	第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線)																																				
9	第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡)																																				
10	第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線)																																				
11	第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響)																																				
12	第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線)																																				
13	第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位)																																				
14	第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線)																																				
15	第8章 溶液内イオン平衡とグラフ																																				
受講要件																																					
テキスト	小倉興太郎著 「溶液内イオン平衡と分析化学」(丸善)																																				
参考書																																					
予習・復習について	テキストの例題は、予習・復習で必ず解いておくこと。																																				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験で判断するが、受講態度や小テストも加味する。																																				
オフィスアワー	随時																																				
担当教員からのメッセージ	講義には関数電卓を持って来てください。																																				

授業科目名	情報生化学 (Biochemistry of Information)				
担当教員名	大吉 崇文 (OYOSHI Takanori)		所属等	理学研究科	
			研究室	大吉研究室 (理学部A棟 310)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	核酸、遺伝子発現、転写、翻訳、DNA複製、DNA組み換え、染色体、染色体分配				
授業の目標	生命を情報という視点から学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	生命の遺伝情報という視点から解説します。生物の性質および形態を決定するのが遺伝情報であり、この遺伝情報の本体とは何か、どのようにしてこの情報を利用しているのか、そしてどのような仕組みで子孫へこの情報を受け継いでいくのかを解説します。				
授業計画	<p>テキストにそって、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 転写 2. 核酸の構造 (I) 3. DNA の複製 4. DNA の修復 5. DNA の組み換え 6. 核酸の構造 (II) 7. RNA プロセッシング 8. 翻訳 9. 遺伝発現の調節 10. ヌクレオチド代謝 				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第4版 (東京化学同人)				
参考書	細胞の分子生物学・第5版 (ニュートンプレス)				
予習・復習について	ヴォート基礎生化学の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験とレポートで評価する。				
オフィスアワー	月曜日～金曜日 8:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	情報生化学は、DNA からの遺伝情報の伝達順序である「セントラルドグマ」を分子レベルで理解する科目です。特に生体分子の構造と機能との関連を意識して当該分野を理解してもらいたい。				

授業科目名	細胞生物学 (Cell Biology)				
担当教員名	丑丸 敬史 (USHIMARU Takashi)		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 702	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	細胞周期、シグナル伝達、細胞老化、アポトーシス、癌、DNA 複製、染色体分離分配				
授業の目標	細胞の増殖のしくみに焦点をあてるとともに、細胞の積極的な死のしくみも学ぶ。				
学習内容	授業計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普遍的な真理とモデル生物 2. モデル生物としての酵母 3. 細胞内のシグナル伝達 4. G1 期に起きるイベント (中心体の複製開始。中心体の細胞周期を通じた挙動) 5. S 期に起きるイベント (DNA 複製。なぜ複製は一回しか起こらないか) 6. DNA 複製チェックポイント (DNA 複製が遅れた場合に S 期から脱出しない機構) 7. M 期に起きるイベント・1 (染色体の分離。正確に 1 コピーずつ分配する機構) 8. M 期に起きるイベント・2 (染色体分離の完了と M 期からの脱出) 9. DNA ダメージチェックポイントと細胞周期 (DNA ダメージを修復するまで次の細胞周期に進まない機構) 10. 細胞分化と細胞周期 (増殖か分化か? G1 期での選択) 11. アポトーシス 12. 癌 (癌発症の機構) 				
受講要件	分子生物学、生化学をすでに受講していることが望ましい。				
テキスト	『細胞の分子生物学』(第 15, 17, 18 章)。				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、夕方以降がありがたい。いない場合もあるため、来る前にはメール等で連絡をして欲しい。sbtushi@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	授業に積極的に参加して、質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	地球ダイナミクス概論 I (Introduction to Geodynamics I)				
担当教員名	森下 祐一 (MORISHITA Yuichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	地球内部物質科学、岩石、鉱物、同位体、資源と環境、マグマ熱水系				
授業の目標	固体地球を概観して、地球を構成する岩石・鉱物の基礎を学ぶとともに、今後の地球科学分野での学習、研究が円滑に進むよう、必須事項について理解を深めるようにする。				
学習内容	固体地球を概観して、地球内部物質科学の基礎を学ぶ。地球を構成する岩石・鉱物の性質を様々な研究手法で明らかにする、地球科学の基盤手法を学ぶ。また、地球表層地殻における重要な現象である鉱物資源の生成を、元素の挙動・濃集の観点から詳しく学ぶ。				
授業計画	<p>授業計画</p> <p>授業のねらい：地球科学の見かた</p> <p>プレートテクトニクスに基づく地球内部物質科学</p> <p>岩石と鉱物</p> <p>同位体の性質と分析法</p> <p>地球科学における機器分析法（気体質量分析法、二次イオン質量分析法など）</p> <p>マグマ熱水系とメタルフロー（社会における金属の役割）</p> <p>鉱物資源の形成：様々な熱水性鉱床の成因と鉱石の特徴</p> <p>国内の鉱床、特に金鉱床</p> <p>外国の鉱床、特に白金族鉱床</p> <p>鉱床成因解明研究</p> <p>海底鉱物資源</p> <p>地熱発電と温泉、地中熱の利用</p> <p>鉱床探査法</p> <p>資源、環境問題</p> <p>地球表層変動に関するトピックス</p>				
受講要件	なし				
テキスト	ニューステージ「新地学図表」、浜島書店 1000円未満（生協で販売）。古い版は構成とページ数が異なるので要注意。				
参考書	必要に応じて、授業の中で地球科学分野の書籍を紹介する。				
予習・復習について	授業中にプロジェクターで写す内容の要点をノートに書留めて、随時配布するプリントと合わせて授業でのストーリーを追う復習をして欲しい。				
成績評価の方法・基準	原則として、2/3以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。				
オフィスアワー	授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問はメールで時間を予約してから研究室に来て欲しい。				
担当教員からのメッセージ	地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。地球を理解するためには幅広い分野を学習すると同時に、専門性を持った学習も必要である。両方の立場から地球科学を広くかつ精緻に考える視点を身につけて欲しい。				

授業科目名	堆積学 (Sedimentology)				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4
キーワード	堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動				
授業の目標	堆積学についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	生物進化や地球環境の変遷を明らかにする際に、地層中に残された様々な記録は大変に役立つ。それらの記録から正しい情報を引き出すためには、地層がどのように形成されたかを理解する必要がある。そこで、本講義では堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動に関して解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 堆積作用—砕屑物の運搬と沈降 2. 堆積構造とベッドフォーム 3. 堆積重力流 4. 生物攪拌 5. 岩相解析・河川とデルタの堆積物 6. 浅海-海底扇状地の堆積物 7. 海水準変動 				
受講要件	なし				
テキスト	なし。				
参考書	岩相解析および堆積構造（八木下晃司著・古今書院）。毎回プリントを配布する。				
予習・復習について	配布資料とノートをもとに予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を加味して評価をする。ただし、出席 70%未満の場合は不可とする。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、まずメールで連絡下さい(アドレス : seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	地球環境微生物学 (Environmental microbiology on earth)				
担当教員名	加藤 憲二 (KATO Kenji)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	共通教育C棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4
キーワード	多様な地球環境、微生物生態系、物質循環				
授業の目標	地球環境を理解する上で微生物の働きを理解することは必須である。多様な地球環境の中で理解するための基本を学ぶ。				
学習内容	原核生物（バクテリアとアーキアから成る）は地球上に最初の生命として登場してから35億年ほどの間に地球環境を変え、また新たなエネルギー生産系を作り出し、その分布域を地球のあらゆる空間へと広げた。暗黒で無酸素の地下圏にも微生物による広大な生命圏が存在することを明らかになった。生命の持続的維持装置である生態系には、必ず原核生物が主要メンバーとして含まれており、その維持に重要な役割を果たしている。さまざまな地球上の生態系で、原核生物がどのような活動をしているかを水圏から地下圏にわたって講義し、地球環境における原核生物の位置づけを、その役割と生態と進化から明らかにする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> “微生物”と原核生物の定義 <ol style="list-style-type: none"> 原核生物 vs. 真核生物 コッホの4原則 Koch, Pasteur, Winogradsky <ol style="list-style-type: none"> Winogradsky 登場 VBNC(viable but non-culturable, yet) : 自然界は培養できない未知の原核生物であふれている。 水圏生態系の中の微生物 <ol style="list-style-type: none"> 炭素循環と好気性従属栄養細菌 微生物ループ、ボトムアップとトップダウン、ウイルス 複雑に仕組まれた生態系の中の光合成細菌 湖や海の沿岸の底では硫酸還元菌 バイオマット <ol style="list-style-type: none"> 高温極限環境下の化学合成 高温極限環境で誕生した酸素発生型の光合成細菌 窒素循環と微生物 <ol style="list-style-type: none"> 窒素は地球内部に大きなリザーバーがない 脱窒（硝酸還元）作用 地下圏には膨大な微生物圏がある <ol style="list-style-type: none"> メタン生成アーキアと微生物コンソーシアム 地球環境の変化と微生物 <ol style="list-style-type: none"> 温暖化は微生物生態系に どのような変化をもたらすか；コレラのブレイク 地下水と微生物 				
受講要件	化学と生物学について必要に応じて高等学校程度の知識は整理、理解しておくこと。				
テキスト	特に定めない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	配付された資料を次回までに理解すること。講義の前に前回の講義内容を見直すこと。これらは必須。また次に語られる内容について自分なりに少しいメージを持つことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と期末試験によって行う。				
オフィスアワー	講義終了後と月曜日の昼休み時間があるがたい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	集合・位相 (Introduction to Set theory and Topology)				
担当教員名	横山 美佐子 (YOKOYAMA Misako)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C614	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	集合、写像、連続、開集合、閉集合				
授業の目標	現代数学の基礎である集合や写像、位相の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合論と位相空間論の基本的事項について講義します。 写像と集合について学んだ後、距離空間上の位相について講義します。				
授業計画	<p>おおよそ、次のような内容を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 写像 3. 集合族の演算 4. 同値関係 5. 無限集合 6. ここまでのまとめ 7. 関数空間 8. 距離空間 9. 開集合と閉集合 10. ここまでのまとめ 11. 収束性 12. 連続 13. 一様連続 14. 完備距離空間 15. ここまでのまとめ 				
受講要件					
テキスト	特に指定しない				
参考書	なっとくする集合・位相 瀬山士郎著 講談社				
予習・復習について	毎回復習してください。				
成績評価の方法・基準	試験を実施する予定。場合により、レポートを適宜出題することがある。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	演習の授業で積極的に問題を解いてください。				

授業科目名	生物学 I (Biology I)				
担当教員名	徳元 俊伸 (TOKUMOTO Toshinobu)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名	丑丸 敬史				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	生体分子、生命の起源、細胞構造、細胞分裂、有性生殖と減数分裂、DNA、遺伝子組換え技術、ゲノム、遺伝子発現の制御				
授業の目標	生物学 I と生物学 II を前期、後期を通して、生物学の幅広い分野の基礎を学ぶ。				
学習内容	主に名著レーヴン／ジョンソン『生物学』(上)をテキストとして生物学の基礎を学ぶ(本授業の続きは後期に生物学 II として開講される)。まず生物とは何かを定義し、生命の最小単位である細胞について、またそれをささえる分子、DNA に関して解説する。さらに、生命の期限、遺伝子組換え技術についても教科書に準じて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学とは 2. 分子の性質 3. 生命の科学的基礎 4. 生命の起源と初期の進化 5. 細胞の構造 6. 細胞はいかに分裂するか? 7. 自然淘汰と性淘汰 8. 試験 9. 有性生殖と減数分裂 10. 遺伝の様式 11. 遺伝の様式 2 12. DNA: 遺伝物質 13. DNA: 遺伝物質 2 14. 遺伝子組換え技術 15. 遺伝子組換え技術 2 16. 試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	レーヴン／ジョンソン『生物学』(上巻)				
参考書	麻生一枝『科学でわかる 男と女の心と脳』、その他、適宜紹介				
予習・復習について	定められている教科書で予習復習、配布資料で復習を行う。				
成績評価の方法・基準	2 回のテストの他、出席代わりに毎回の小問から理解具合を参考に評価する。				
オフィスアワー	丑丸: 月曜午後、徳元: 月曜日 7・8 時限 (2 時 25 分～3 時 55 分) を予定				
担当教員からのメッセージ	当講義の内容をヒントに、生命に対する認識を上げ、生物科学の専門講義や実験、卒業研究等の基礎を築いてほしい。自ら学びとる力を養ってほしい。				

授業科目名	線型代数学 I (Linear Algebra I)				
担当教員名	依岡 輝幸 (YORIOKA Teruyuki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 C616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	行列、連立 1 次方程式、行列式				
授業の目標	(1) 線形代数のはじめを学びます。行列という概念に親しんでもらいます。 (2) 数学の論証に慣れ親しんでもらいます。				
学習内容	行列、行列の演算、連立方程式、行列式を学びます。				
授業計画	教科書に沿って授業を進めます。 1. 行列とその演算 2. 置換 3. 行列式 4. 余因子展開 5. 連立 1 次方程式 6. 行列の階数				
受講要件	理学部数学科 1 年生の必修科目です。				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人 著, 培風館, ISBN-13: 978-4563002756)				
参考書	線型代数, 長谷川浩司, 日本評論社, 2004.04, ISBN:978-4-535-78371-3 (線型代数学の書籍はたくさんあります。図書館でいろいろ手に取ってください。)				
予習・復習について	復習は必須です。また、演習の授業で与えられた問題は全て解答してください。演習が最も重要です。				
成績評価の方法・基準	小テストやレポート 20%、期末試験 80%で評価します。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	お楽しみに。				

授業科目名	統計力学 I (Statistical Mechanics I)				
担当教員名	鈴木 淳史 (SUZUKI Junji)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	温度、エントロピー				
授業の目標					
学習内容	マクロな立場で構築された熱力学をミクロな立場から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率過程, 分布関数 2. 解析力学の復習 3. ブラウン運動 4. 一般力、ゆらぎ 5. Boltzmann の H 関数 6. ミクロとマクロ 7. 統計集団 8. ミクロカノニカル集団とエントロピー 9. カノニカル分布と自由エネルギー 10. 古典統計力学の近似 				
受講要件	3年生の科目の受講条件をクリアしていること。				
テキスト	いわゆる「教科書」は存在しない。参考となる本は授業初回に紹介する。				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編など				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	構造錯体化学 (Structural Coordination Chemistry)				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	錯体化学、錯体の命名法、錯体の立体構造、配位子場理論、電子スペクトル、磁気的性質、第一遷移元素の化合物				
授業の目標	配位化合物を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	金属原子または金属イオンが、陰イオンや中性分子の無機化合物、あるいは有機化合物との組み合わせから、多様な金属錯体（配位化合物ともよばれる）を生成する。金属錯体や、金属を含む化合物が様々な色を出すしくみ、さらに、その制御された立体構造や種々の化学的・物理的性質がどのような原理で発現するのかを学ぶ。錯体化学の基礎となる命名法や異性現象、配位結合の理論と構造および性質との関係、さらに個々の第一遷移金属の性質について解説する。				
授業計画	<p>テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>6章：配位化学 23章：遷移元素入門－配位子場理論 24章：第一遷移系列元素</p> <p>回 内容</p> <p>1 6章 配位化学：序論、配位数と立体構造</p> <p>2 6章 配位化学：配位子のタイプ</p> <p>3 6章 配位化学：配位化合物の異性現象</p> <p>4 6章 配位化学：配位化合物の命名法</p> <p>5 6章 配位化学：配位化合物の安定度</p> <p>6 23章 遷移元素入門：結晶場理論</p> <p>7 23章 遷移元素入門：配位子場理論</p> <p>8 23章 遷移元素入門：分子軌道理論</p> <p>9 23章 遷移元素入門：遷移金属錯体の磁気的性質</p> <p>10 23章 遷移元素入門：電子吸収スペクトル</p> <p>11 23章 遷移元素入門：配位子場安定化エネルギー</p> <p>12 24章 第一遷移系列元素：チタン、バナジウム</p> <p>13 24章 第一遷移系列元素：クロム、マンガン</p> <p>14 24章 第一遷移系列元素：鉄、コバルト</p> <p>15 24章 第一遷移系列元素：ニッケル、銅</p>				
受講要件	「無機化学Ⅰ」で学ぶ無機化学の基礎が理解されているものとして解説する。				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gauss 著／中原勝儼 訳「基礎無機化学（原著第3版）」（培風館）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。				
成績評価の方法・基準	出席状況と期末試験の得点を総合して評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない。				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	植物系統分類学 (Plant Systematics)				
担当教員名	徳岡 徹 (TOKUOKA Toru)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	被子植物、系統、形態、進化				
授業の目標	地球上には非常に多様な植物が生育している。この多様な形態を学び、この多様性を生み出した進化を理解する。				
学習内容	被子植物は地球上におよそ25万種ある。これらを進化の順序に従って整然と分類することを目標に研究者は植物の様々な形態から始まり DNA データまでを詳細に観察してきました。これらの知見を紹介し、様々な植物それぞれの特徴を学び、現在見られる膨大な多様性を生み出した進化がどのように起こったのかを考える。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス：植物の多様性 2 分類とは 3 系統解析の基礎 1 4 系統解析の基礎 2 5 系統解析の基礎 3 6 生活環、藻類、コケ類 7 シダ植物 1 8 シダ植物 2、裸子植物 1 9 裸子植物 2 10 被子植物の共有派生形質 11 原始的被子植物 12 単子葉植物 13 離弁花植物 14 合弁花植物 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。資料は随時配布します。				
参考書	Plant Systematics: A Phylogenetic Approach, Walter S. Judd (ed.), Sinauer, 2002, 0878934030 被子植物の系統、田村道夫、三省堂、1974、BN01321887 (NCID)				
予習・復習について	関連する事項について、参考書などを活用して予習・復習するようにしてください				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験により評価する				
オフィスアワー	特に定めていないが、随時受け入れます				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球科学研究入門 (Introduction to Earth Science Research)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード					
授業の目標	地球科学の研究分野とその研究方法についての概要を学ぶ。				
学習内容	地球科学科所属教員が専門とする研究分野とその分野における教員の研究内容について学ぶ。				
授業計画	地球科学科の教員が1回ずつ担当するアラカルト方式で実施する。担当する教員が専門とする研究分野と研究課題、研究方法等を紹介しながら、地球科学の研究方法を解説する。				
受講要件					
テキスト	特になし				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席状況と課題レポートの内容に基づいて評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	研究室配属の参考となるため、毎回しっかりと学習してほしい。				

授業科目名	放射線物理学概論 (Fundamentals of Radiation Physics)				
担当教員名	近田 拓未 (CHIKADA Takumi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 204	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木 5・6
キーワード	放射線、放射性核種、放射線取扱主任者				
授業の目標	全学科の2～4年生を対象とした、放射線取扱主任者試験に向けて必要となる放射線物理学の基礎の理解				
学習内容	原子核の構造、放射性崩壊、核反応および放射線と物質の相互作用等を解説するとともに逐次演習を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造 原子模型、励起と電離、X線、オージェ効果 2. 原子核の構造 原子質量単位、結合エネルギーと原子核の大きさ 3. 放射性核種 α壊変、β壊変、γ線の放出と原子核のエネルギー準位、自発核分裂、壊変の法則 4. 核反応、核分裂、核融合反応 核反応の表示、核反応断面積、放射性核種の生成、核反応の種類、放射化 5. 加速器 加速器の原理、加速器の種類 6. 荷電粒子と物質の相互作用 電離と励起、阻止能と飛程、電子と物質の相互作用、重荷電粒子と物質の相互作用 7. 光子と物質の相互作用 光電効果、コンプトン効果、電子対生成、光子の減弱と物質へのエネルギー伝達、衝突カーマ、吸収線量、照射線量 8. 中性子と物質の相互作用 中性子捕獲反応、弾性散乱、その他の中性子反応 				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 第8版 (柴田 徳思 編、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (発行：通商産業研究社)				
予習・復習について	あらかじめ教科書に目を通しておくとともに、必ず毎回の課題により復習をすること。				
成績評価の方法・基準	毎回の演習および期末試験により評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を目指す学生は、放射化学概論 (化学科の学生には別途放射化学の講義があり)、放射線生物学概論、放射線計測・管理概論等を受講することが望ましい。 放射線主任者資格を取り、自らに付加価値を付けよう!!				

授業科目名	複素解析学 (Complex Analysis)				
担当教員名	奥村 善英 (OKUMURA Yoshihide)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 613	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理、最大値の原理、Laurent 展開、孤立特異点、有理型関数、留数定理、偏角の原理				
授業の目標	正則関数と有理型関数の理論を中心に解説を行います。 はじめに「関数論入門」の続きとして、Cauchy の積分定理を用いて、正則関数の性質を導きます。Cauchy の積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理そして最大値の原理等を扱います。次に、有理型関数の説明として、Laurent 展開、孤立特異点（特に極、真性特異点）、留数定理等を扱います。さらに、これらの応用として、実定積分の計算、偏角の原理と Rouché の定理を説明します。				
学習内容	複素解析学（関数論）は微分積分学に続いて学習される数学の基礎的な分野です。純粋数学の多くの美しい結果や驚くべき結果をうみ出す肥沃な領域です。純粋数学の中心をなす諸分野（例えば、リーマン面論、複素多様体論、タイヒミュラー空間論、代数幾何学、整数論等）は、複素解析学の上に築かれていると言えます。また、複素解析学は物理学等の自然科学諸分野にも、広く応用されています。 本学科における複素解析学の授業は四部から成っています。第一部は「関数論入門」、第二部は「複素解析学」、第三部は「複素解析学 I」、そして第四部は「複素解析学 II」です。 第一部および第二部では、複素解析学の基礎の習得を目標とします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積分定理. 2. 積分公式. 3. 整級数. 4. Taylor 展開. 5. 正則関数の性質. 6. 有理型関数. 7. Laurent 展開. 8. 孤立特異点. 9. 留数定理. 10. 実定積分の計算. 11. 偏角の原理. 12. Rouché の定理. 				
受講要件	「関数論入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	林一道著、初等関数論（裳華房）。洲之内治男著、演習 関数論（サイエンス社）。				
参考書	神保道夫著、複素関数入門（岩波書店）。谷口健二・時弘哲治、複素解析（裳華房） 藤本 淳夫著、複素解析学概説（培風館）。野口潤次郎著、複素解析概論（裳華房）。L.V.アールフォルス著、複素解析（現代数学社）。佐藤宏樹著、複素解析学（近代科学社）。谷口雅彦・奥村善英共著、双曲幾何学への招待（培風館）。辻正次・小松勇作共編、大学演習関数論（裳華房）。				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度、レポート等を加えて評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第二部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。				

授業科目名	量子力学 I (Quantum Mechanics I)				
担当教員名	土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	粒子性と波動性、重ね合わせの原理、波束、シュレディンガーの波動方程式、波動関数、確率解釈、エルミート演算子、トンネル効果、束縛状態、水素原子				
授業の目標	量子力学の考え方を習得し、基本的な問題を解いて、量子力学の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	実験事実をもとに量子力学の基本的な考え方を説明し、典型的な問題について解説しながら、量子力学の基本的な理論形式を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量子論の誕生 2. シュレディンガーの波動方程式 3. 1次元の量子系 4. 中心力場のシュレディンガー方程式 				
受講要件	基礎物理学 I・II、力学 I・II、解析力学、電磁気学 I・II、物理数学 I を履修していることが望ましい。				
テキスト	「量子力学 I」 猪木・川合／著 (講談社サイエンティフィック)				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験				
オフィスアワー	随時。				
担当教員からのメッセージ	現代物理学は量子力学を抜きに語ることはできない。量子力学の考え方は、これまで勉強してきた古典の物理学（力学や電磁気学）とは大きく異なるが、柔軟に対応して、この考え方を習得してほしい。自ら手を動かすことが大事である。				

授業科目名	無機化学Ⅱ (Inorganic Chemistry II)				
担当教員名	菅野 秀明 (KANNO Hideaki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟3階 A306室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	無機化学、溶媒の性質、酸と塩基、典型元素の性質、無機化合物				
授業の目標	酸と塩基、典型元素の性質など無機化学を理解するための基礎を習得する。				
学習内容	「無機化学Ⅰ」で学習した無機化学の基本的な法則や原理を踏まえ、無機化合物の反応において重要な溶媒の種類と性質および酸と塩基の定義を解説した後、主に典型元素の単体と化合物について、同族元素に共通する性質と各元素に特有の性質を解説する。				
授業計画	<p>「無機化学Ⅰ」に引き続き、元素の構造と性質について解説する。 酸と塩基の概念と定義、水素や酸素の電子状態や反応性など、無機化合物の性質について紹介する。 テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>7章：溶媒の性質、酸と塩基の定義、酸の種類と性質 9章：水素 10章：1族元素 11章：2族元素 12章：ホウ素 13章：13族元素 14章：炭素 15章：14族元素 16章：窒素 17章：15族元素 18章：酸素 19章：16族元素 20章：ハロゲン元素 21章：貴ガス元素</p>				
受講要件	無機化学Ⅰを履修していること。				
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton,他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学 (Molecular Genetics)				
担当教員名	山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ゲノム情報、転写調節、転写後調節、機能解析技術				
授業の目標	遺伝情報の発現調節機構を理解する。				
学習内容	染色体遺伝子の可変性を理解し、その発現調節を転写や翻訳および翻訳後レベルで学習する。また、種々の RNA を介した調節に触れ、ゲノム進化についての理解を深める。				
授業計画	回 内容 1 ゲノム解析からわかること 2 遺伝子調節蛋白質 3 DNA 結合モチーフ 4 オペロン説 5 原核生物の遺伝子発現制御 6 λファージの溶菌・溶原コントロール 7 真核生物の転写 8 RNA プロセッシング 9 転写制御 10 シグナル伝達系 11 翻訳後修飾 12 タンパク質にならない RNA の機能 13 DNA のメチル化とヒストンのアセチル化 14 遺伝子発現と機能解析技術 15 まとめ				
受講要件	「分子生物学」(1年・後期)と履修していることが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学(第5版)」(ニュートンプレス)				
参考書	指定しない				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し(33%)、試験において到達度を評価する(66%)。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	岩石学 (Petrology)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名	石橋 秀巳				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	マグマ、岩石、鉱物、結晶、造岩鉱物、相平衡				
授業の目標	火成岩と変成岩の産状それらの生成メカニズムについて理解する。				
学習内容	地球ダイナミクス概論 I で学習した鉱物と岩石の基礎的事項の理解の上で、火成岩と変成岩の産状、組織・構造、化学組成と構成鉱物およびそれらの形成メカニズムについて学習する。				
授業計画	I. 火成岩 II. 変成岩 1. 変成岩の種類と組織 2. 変成作用 3. テクトニクスと変成作用 回 内容 1 主要造岩鉱物と岩石の分類 2 鉱物共生の熱力学的原理と相律 3 マグマの相図 1 4 マグマの相図 2 5 結晶作用のカイネティクス 6 元素分配と微量元素の挙動 7 火成活動とテクトニクス 8 中間テスト 9 変成作用と変成岩 10 変成岩の組織と構造 11 変成鉱物の共生 12 変成相と変成相系列 1 13 変成相と変成相系列 2 14 温度-圧力経路 15 変成相系列とテクトニクス				
受講要件					
テキスト					
参考書	榎並正樹, 岩石学 (現代地球科学入門シリーズ 16). 共立出版 周藤賢治・小山内康人, 岩石学概論 (上) 「記載岩石学」, 岩石学概論 (下) 「解析岩石学」. 共立出版 新版地学教育講座 4 巻, 岩石と地下資源, 東海大学出版会 岩波講座地球惑星科学, 8, 9, 10 巻, 岩波書店, 東京.				
予習・復習について	授業内容に関係した部分について適宜参考書を独習しておくことを勧める。				
成績評価の方法・基準	出席状況と中間テストと学期末テストを総合して評価する				
オフィスアワー	基本的にメールで対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	微分積分学Ⅲ (Infinitesimal Calculus Ⅲ)				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	偏微分、全微分、テイラーの定理、陰関数の定理、逆関数の定理、条件付極値問題				
授業の目標	多変数関数の微分積分学のうち、主に多変数関数の微分についての基本的内容を学ぶ。				
学習内容	数学科では1・2年次に微分積分学全般を必修科目として学習する。1年次では主に実数論と1変数関数の微分積分学を、2年次では多変数の微分積分学を学ぶ。この流れの中で微分積分学では主に多変数の微分法に関する基本的内容を、テイラーの定理などを初めとし、陰関数の定理、陰関数の定理、条件付極値問題までを解説することを目指して講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユークリッド空間の点列と部分集合 2. 連続写像 3. 線形写像、写像の微分 4. 全微分 5. 偏微分 6. 高次導関数 7. テイラーの定理 8. 極値問題 9. 逆関数定理 10. 陰関数定理 11. 条件付極値問題 				
受講要件	微分積分学 I,II および線形代数学 I,II を学習していること。さらに、集合・位相を並行して学ぶこと。				
テキスト	白岩謙一 著「解析学入門」学術図書 ISBN4-87361-114-8				
参考書	笠原皓司 著「微分積分学」サイエンス社 (サイエンスライブラリ数学 12)				
予習・復習について	多変数関数の微分積分学は、1変数の場合と異なり、大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や2年次に並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされるので予習復習〔主に復習〕が不可欠である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。出席状況および関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。 試験やレポートでの評価は論理的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	最初の授業時に述べる。				
担当教員からのメッセージ	1変数の場合と異なり、これらは大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や、並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされます。講義内容の難易度も上がるが、具体例を挙げて解説するので、難しさを感じるのみでなく、理論の巧みさの一端も味わって新しい知識を習得して下さい。				

授業科目名	量子力学Ⅲ (Quantum Mechanics III)				
担当教員名	鈴木 淳史 (SUZUKI Junji)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	4年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	量子力学				
授業の目標	量子力学をより深く理解し、使いこなせるようにする。				
学習内容	量子力学の重要な概念を発展させ、具体的な問題に応用する。				
授業計画	1. 変分法 2. WKB法と接続問題 3. 時間によらない摂動論 4. シュレジンガー表示、ハイゼンベルグ表示、相互作用表示 5. 時間に依存する摂動論 6. 断熱遷移 7. 幾何的位相 8. 非断熱遷移 9. 散乱問題 10. 第2量子化				
受講要件	量子力学Ⅰ、Ⅱを履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義時間の2倍の自習が標準である。				
成績評価の方法・基準	提出物と学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理実験学 I (Practical Physics I)				
担当教員名	嶋田 大介 (SHIMADA Daisuke)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 7 (理学部 A 棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理学実験、実験方法、測定方法、データ処理、レポート作成、誤差、エレクトロニクス、実験用回路作製、電気回路、半導体回路				
授業の目標	物理学科 2 年生から始まる物理学実験と対応し、物理学実験方法とエレクトロニクスの基礎を習得する。				
学習内容	物理学実験 I と並行して実験を行うのに必要な事柄に関する講義を行う。さらに、物理実験で行う電気回路に関する基礎的な理論を修得する講義がないので、前半は交流回路の基礎に関する講義を行う。後半は物理学実験 I および物理学実験 I I の中からいくつかの実験テーマを選び、理論的な原理などを紹介する。				
授業計画	単位について 電気回路の基礎 直流回路の解き方 交流回路の解き方 I 交流回路の解き方 I I 共振回路 誤差について 最小 2 乗法 グラフとレポートの書き方 学生実験のいくつかのテーマについて				
受講要件	物理学科 2 年生の必修科目。				
テキスト	講義の中で必要なときに紹介する。				
参考書	講義の中で必要なときに紹介する。				
予習・復習について	復習を重視すること。講義内容を、実際の物理実験時に参考にすること。必要な部分は、図書館等で調べられることを勧める。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、試験の結果により評価する				
オフィスアワー	水曜日の 12 時-14 時 理学部 B 棟 207 室にて				
担当教員からのメッセージ	物理学実験を適切に行って行く為の基礎を学ぶ。その為、実学的・技術的内容が含まれる。実験に必要なエレクトロニクスの基礎をこの講義で学ぶ。				

授業科目名	物理実験学Ⅱ (Practical Physics Ⅱ)				
担当教員名	三重野 哲 (MIENO Tetsu)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	三重野研究室。理学部 A408 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理実験、実験方法、測定方法、実証性、再現性、信頼性、発見、発明、データ処理、誤差				
授業の目標	実験や開発に取り組む時、どのようにすれば短時間で正確に目標に達することができるか学ぶ。実験計画時、実施時および実験後のデータ処理に必要な種々の知識を学ぶ。				
学習内容	研究・開発の場面では、しばしば実験・観測が必要となるが、ここでは物理学実験の場合を考える。実験結果から目的の現象が証明されたか？再現性・信頼性は有るか？定量的に値は正しいか？時間や実験装置は有効に使えたか？などの実験方法の適切さについて学習する。また、実験準備を合理的に行い、短期間で人々の評価を得るにはどうしたら良いか検討する。ビデオと配布資料を利用する。				
授業計画	1) 序論 2) 実験・観測の目的、意義 3) 実験計画法 4) 文献・資料の集め方 5) 実験の取り組み方。安全な実験。 6) 実験材料、試料、装置。試料や装置の準備。 7) 授受の物理量の測定方法、観測方法。 8) データ処理、コンピュータ利用 9) 実験のまとめ方。公表の仕方。				
受講要件	「物理実験学Ⅰ」の知識。物理学実験の経験。				
テキスト	プリントを配布する。ファイルに綴じること。				
参考書	物理実験指導書。物理実験者の為の 13 章 (兵藤、東大出版会)。あなたも狙えノーベル賞 (石田、化学同人)。セレンディピティ (化学同人) など。				
予習・復習について	復習を重視する。興味ある内容は、自主的に調べて欲しい。				
成績評価の方法・基準	受講状況、レポートにて成績を出す。レポートは複数回課す。レポートは、自分の力で調べてまとめること。				
オフィスアワー	月曜日、夕方、16 時~18 時を予定。				
担当教員からのメッセージ	多くの卒業生が、物理の基礎知識を身につけて、社会で活躍しています。研究や開発の現場で、実験知識は役立つでしょう。正確で分かりやすいレポート作成能力は、社会で役立ちます。				

授業科目名	地球科学入門Ⅱ (Introduction to Earth Sciences II)				
担当教員名	鈴木 雄太郎 (SUZUKI Yutaro)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8
キーワード	風化・土壌、水、氷河・砂漠・風、地質年代、地球史				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って地球科学全般を学習しながら英語表現や専門用語に慣れる。3・4年で学習する英語の論文を読み・理解する能力を身につける。				
学習内容	地球科学全般の基礎知識を学習し、習得する。 特に地形を形成する作用／堆積岩／地球史について学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1～6回講義まで堆積岩を組み込んだ以下の第2編を学んでゆく。 第2編 Sculpturing Earth's Surface. 第4章: Weathering, Soil, and Mass Wasting. 第5章: Running Water and Ground Water. 第6章: Glaciers, Deserts, and Wind. ・ 第7回: 理解度テスト。 ・ 第7～15回講義まで堆積岩を組み込んだ以下の第2編を学んでゆく。 第4編 Deciphering Earth's History. 第11章: Geologic Time. 第12章: Earth's Evolution through Geologic Time. ・ 第7～15回講義の範囲でテストを行う。 				
受講要件	特になし。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Earth Science : Pearson New International Edition, 810pp. 著者 : E.J. Tarbuck, F.K. Lutgens, D.G. Tasa. ・ ニューステージ新地学図表―地学基礎+地学対応 浜島書店 				
参考書	特になし。				
予習・復習について	十分に英語辞書を使って教科書を予習しておくことをすすめる。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を総合的に評価して成績とする。出席率も評価に加味する。				
オフィスアワー	相談などは、事前にメールで連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学 (Molecular Genetics)				
担当教員名	本橋 令子 (MOTOHASHI Reiko)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 340 (移転後: 農学総合棟 485)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	遺伝学、分子生物学				
授業の目標	基礎的な遺伝学と分子生物学の習得				
学習内容	遺伝のしくみから遺伝子、転写、翻訳、DNA 複製、細胞分裂、変異と修復、植物ゲノムと遺伝子操作について学ぶ				
授業計画	1 回目. 遺伝のしくみ(性と生殖 1) 2 回目. 遺伝のしくみ(性と生殖 2) 3 回目. 遺伝のしくみ (メンデルの法則) 4 回目. 遺伝のしくみ (いろいろな遺伝現象) 5 回目. 遺伝子 6 回目. 転写 (ポリメラーゼ) 7 回目. 転写 (転写調節) 8 回目. 翻訳 9 回目. DNA 複製 10 回目. 細胞分裂 11 回目. 染色体と遺伝 12 回目. 変異と修復 13 回目. 植物ゲノム 14 回目. 植物ゲノム 15 回目. 遺伝子操作 試験				
受講要件	必須				
テキスト	朝倉書店 植物遺伝学入門				
参考書	東京化学同人 基礎分子生物学				
予習・復習について	小テストを実施するので、復習を必ず行う事				
成績評価の方法・基準	出席、テスト、小テスト				
オフィスアワー	総ての専門科目の基礎となる科目なので、意欲を持って勉強に取り組む事				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	栄養化学 (Nutritional Chemistry)				
担当教員名	森田 達也 (MORITA Tatsuya)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 602(移転後：農学総合棟 576)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	栄養素、代謝、食、ヒトの健康維持				
授業の目標	栄養学の一分野である栄養化学の基礎を理解していただく。				
学習内容	栄養素と生体との相互作用について、各栄養素ごとに理解し、栄養素ならびにそれらを含む食品の役割を考える。				
授業計画	回 内容 1 栄養素の消化・吸収・代謝 (1) 2 栄養素の消化・吸収・代謝 (2) 3 糖質 (1) 基礎 4 糖質 (2) 基礎 5 糖質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 6 脂質 (1) 基礎 7 脂質 (2) 基礎 8 脂質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 9 タンパク質・アミノ酸 (1) 基礎 10 タンパク質・アミノ酸 (2) 基礎 11 タンパク質・アミノ酸 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 12 ミネラル 13 ビタミン 14 運動と栄養代謝ミネラル (1) 15 エネルギー代謝				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新栄養化学」野口忠編 (朝倉書店)				
参考書	授業時に紹介する。				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	定期試験の成績から評価する。ただし、出席率は 2 / 3 以上であること。				
オフィスアワー	特に指定なし				
担当教員からのメッセージ	ヒトの必須栄養素は約 50 種類あるが、これらは食事から摂取する必要がある。これら栄養素の消化吸収・代謝に焦点を合わせた講義に努める。				

授業科目名	森林土木工学 (Civil Engineering for Forestry)				
担当教員名	近藤 恵市 (KONDO Keiichi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 511 (移転後: 農学総合棟 273)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	林道、路線測量、林道規程、幾何構造、路体構造				
授業の目標	地形の急峻な山岳地に建設されることの多い林道を周辺環境と調和させながら作設できるよう、林道設計に関する基礎的な知識・技術の獲得をめざす。				
学習内容	森林の管理・経営の基盤施設である林道について、まず基本的な配置計画を述べ、さらに林道規程で定められた林道幾何構造の理論を概説し、林道の測量・設計法について論述し、林道の路体構造や施工法について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス、運材方法の歴史 2 林道の機能と分類 3 林道密度理論 4 周辺環境との調和を考慮した林道配置計画 5 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 6 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 7 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 8 曲線設定法 9 曲線設定法 10 縦断測量、横断測量 11 縦断測量、横断測量 12 林道の路面と路体 13 林道の施工法・土工機械 14 林道の施工法・土工機械 15 排水施設、のり面保護				
受講要件	本科目は森林利用学実習と密接に関連しており、実習と合わせて受講することが望ましい。				
テキスト	森林土木学 小林洋司 他 (朝倉書店)				
参考書	酒井秀夫: 作業道 (全国林業改良普及協会)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート (合計 30%)、学期末試験 (70%) の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール (afkkond@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	木質材料学 (Wood-based Materials)				
担当教員名	鈴木 滋彦 (SUZUKI Shigehiko)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 403 (移転後：農学総合棟 322)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	循環型社会、木質資源、再生利用技術				
授業の目標	再生産可能な木質資源を人類の生活に必須な材料として有効に利用するための手法を、科学技術的な視点から理解することを目標とする。				
学習内容	木質材料開発の歴史と今後の方向性、環境と木質資源、各種木質系材料の製造技術と材質の特徴、耐久性等について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	1) 木質資源利用のあり方 2、3) 木質材料の基礎技術 4、5) 材料開発の方向とエンジニアードウッド 6～9) 軸材料：集成材、単板積層材、PSL 軸材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。 10～11) 面材料：合板、OSB、パーティクルボード、MDF 面材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。エレメントの形状と種類による材質の違いを説明する。 12～13) 面材料：ハードボード、インシュレーションボード湿式と乾式製法の相違点を材質の違いを説明する。 面材料：窯業系ボードについて解説する。 14) 木質材料技術開発と倫理 15) 木質材料の世界の生産動向と今後の方向性 16) 筆記試験				
受講要件	関連科目：木質バイオマス科学、木質機能科学、木材接着学、環境木質材料学実験				
テキスト	鈴木正治他編：「木材科学講座 8 木質資源材料」海青社				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	・5回のレポートは復習が中心です。レポートのとりまとめを行うことで、技術的な課題全体が理解できるように配慮してあります。				
成績評価の方法・基準	・履修態度 (15%)、5回のレポートおよび学期末試験 (合計 85%) の結果を総合して評価する。評価基準は、科目の目標に沿って行い、筆記試験は講義内容の理解度を判断基準とする。・「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み、木曜日の昼休み 農学部 A 棟 403 号室				
担当教員からのメッセージ	資源の利用と環境との関連を考える良い機会であると思います。海外の最新の資料も提供しますので、質問等はメールで：s-suzuki@agr.shizuoka.ac.jp までお寄せ下さい。				

授業科目名	基礎生態学 (Basic Ecology)				
担当教員名	澤田 均 (SAWADA Hitoshi)	所属等	農学研究科		
		研究室	農学部 A 棟 306 (移転後: 農学総合棟 471)		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	群集、生態系、生物多様性、生態現象、生態学の方法				
授業の目標	主な目標は次の 2 点である。(1)実際の研究例をとおして、生態学とはどのような学問でどんなことを研究対象とするか、どのような方法を使うのか、社会とどのように関係しているのかを理解すること。(2)生態系及び群集レベルの基本的な概念を理解すること。				
学習内容	この講義は生態学の入門編である。前半部では実際の研究例を紹介しながら、生態学という学問の特徴、研究対象、研究方法、社会との関係を学ぶ。後半部では生態系レベルと群集レベルの基礎を学ぶ。				
授業計画	1. 授業ガイダンス, 生態学とは何か 2, 3. 生態学の実例 1 - 生物階層 4. 生態学の実例 2 - 時間スケール 5. 生態学の実例 3 - 長期研究 6. 生態学の実例 4 - 数理モデル 7, 8. 生態系 1 - 一次生産力 9, 10. 生態系 2 - 物質の流れ 11. 群集 1 - 種の豊かさ 12. 群集 2 - 種の豊かさに影響する要因 13. 群集 3 - 種の豊かさのパターン 14. 群集 4 - 食物網 15. 群集 5 - 安定性 16. 筆記試験				
受講要件	生態学の入門編のため、特に受講要件はない。本講義は 2 年生後期の「応用生態学」を受講するために必要である。				
テキスト	特に使用しないが、概ね、Townsend, C.R. (2008) Essentials of Ecology (3rd ed.). Blackwell. に沿う内容である。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験で理解度をみる。				
オフィスアワー	講義に関する質問等は授業終了後に講義室にて。それ以外は、電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので、必ず出席するように。また遅刻はしないように。遅刻すると、最初から聴けない分、授業内容を理解しにくい、また他の受講生の集中力を低下させるなど悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	果樹園芸学 (Pomology)				
担当教員名	向井 啓雄 (MUKAI Hiroo)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 428	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	果樹、栽培技術、生理生態				
授業の目標	果樹における主要な栽培技術とその生理生態学的背景に関して理解する。 果樹栽培において今後新たに発生する問題点に対する応用力を習得する。				
学習内容	果樹園芸に関する基礎理論を生理・生態学的見地から解説し、あわせて種苗・栽植から収穫に至る主要な栽培管理技術の現状と今後の展望について講義する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス, 第1章 果樹園芸の起源と特徴 2 第2章 果樹の種類・品種と育種 1 果樹の分類, 種類と品湯 3 第2章 果樹の種類・品種と育種 2 果樹の育種 4 第3章 果樹栽培の適地と開園 1 果樹栽培の適地, 苗木の生産と植付け 5 第3章 果樹栽培の適地と開園 2 果樹園の開設・整備, 施設栽培 6 第4章 果樹の成長と生産力 1 果樹のライフサイクルと年間の成長, 果樹の物質生産と生産力 7 第4章 果樹の成長と生産力 2 果樹の成長と植物ホルモン 8 第5章 果樹の成長と栽培 1 枝・葉の成長と樹勢 9 第5章 果樹の成長と栽培 2 花芽形成と開花・結実 10 第5章 果樹の成長と栽培 3 果実の発育と成熟 11 第5章 果樹の成長と栽培 4 収穫後の果実の取り扱い 12 第6章 施肥と土壌管理 1 樹体の栄養と施肥 13 第6章 施肥と土壌管理 2 水分生理・水管理と土壌管理 14 第7章 生理障害, 自然災害, 病虫害の防除 15 第8章 整枝・せん定				
受講要件	特になし				
テキスト	「果樹園芸学の基礎」, 伴野潔・山田寿・平智, 農山漁村文化協会, 2013, ISBN978-4-540-11204-1				
参考書	「新編果樹園芸学」, 間苧谷徹ら, 化学工業日報社, 2002, ISBN4-87326-396-4 「最新果樹園芸学」, 水谷房雄ら, 朝倉書店, 2002, ISBN4-254-41025-5 その他授業中に紹介する。				
予習・復習について	教科書での予習復習, ならびに専門用語を正確に理解すること				
成績評価の方法・基準	筆記試験 (択一式と記述式) において成績評価する (100%)。				
オフィスアワー	月曜 16 時以降 (農学総合棟 428) 電子メールによる質問は随時受け付けるメールアドレス abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	構内圃場に各種果樹が植えられているので適宜観察すること。				

授業科目名	保全生物学 (Conservation Biology)				
担当教員名	山下 雅幸 (YAMASHITA Masayuki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 239 (移転後：農学総合棟 472)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生物多様性、保全、生態学、農業生態系				
授業の目標	生物多様性の危機的現状およびその保全の必要性を理解する。また、農業生態系（たとえば棚田、里山）など、人間との関わりの深い 2 次的自然の重要性についての認識も深める。				
学習内容	「生物多様性の保全」という社会的な目標の実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学について学ぶ。生物多様性の意味、その危機的現状、保全の必要性および対策事例などを紹介する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス (保全生物学とは何か?) 2 生物多様性の意味 (生物多様性とは何か?) 3 生物多様性の仕組み 4 生物多様性の増大 (進化) 5 生物多様性の危機① (生息地の破壊) 6 生物多様性の危機② (持続不能な利用) 7 生物多様性の危機③ (侵略的外来種) 8 生物多様性の危機④ (絶滅) 9 生物多様性の保全① (種の保全 1) 10 生物多様性の保全② (種の保全 2) 11 生物多様性の保全③ (生態系の保全) 12 生物多様性の保全④ (保全と持続的利用 1) 13 生物多様性の保全⑤ (保全と持続的利用 2) 14 生物多様性の保全⑥ (生態学的復元) 15 まとめ				
受講要件	基礎生態学を受講し、その内容を理解しておくことが望ましい。				
テキスト	使用しない。適宜、資料を配付する。				
参考書	Andrew S. Pullin (2004) 保全生物学. 丸善 Richard B. Primack (1997) 保全生物学のすすめ. 文一総合出版樋口広芳編 (1996) 保全生物学. 東京大学出版会鷲谷いづみ・矢原徹一 (1996) 保全生態学入門. 文一総合出版その他、講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	予習・復習のために、ほぼ毎回宿題 (あるいは小テスト) を課す。				
成績評価の方法・基準	出席率 (小テスト・レポート含む) 40%、定期試験 60%の合計で評価する。評価基準は講義内容の理解度等をみる。				
オフィスアワー	火曜日の授業終了後および他の曜日は 16:00~17:00 (ただし、他の曜日は事前にメール連絡してから)				
担当教員からのメッセージ	授業中の私語と欠伸はしないように。				

授業科目名	応用微生物学 (Applied Microbiology)				
担当教員名	徳山 真治 (TOKUYAMA Shinji)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 630(移転後：農学総合棟 525)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物、バイオテクノロジー、発酵、遺伝子、酵素				
授業の目標	微生物機能の基礎を習得し、微生物バイオテクノロジーを遺伝子を通して理解する。				
学習内容	生物学の共通語である遺伝子から多様な微生物機能を理解し、微生物機能を利用した物質生産、環境保全技術などについて紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の発見からニューバイオテクノロジーまで 2. 微生物細胞と機能発見：二重らせんから物質生産へ 3. 微生物遺伝学と遺伝子工学 4. 微生物の細胞構造 5. 細胞の調節とシグナル伝達 6. 微生物の分類 7. 微生物の分離と増殖 8. 微生物の代謝 9. タンパク質と酵素 10. 微生物の多様な栄養形態 				
受講要件	生化学				
テキスト	応用微生物学：熊谷英彦ら編著、朝倉書店				
参考書	授業で紹介。				
予習・復習について	予習・復習は基本的に必要。本授業の受講は基礎微生物学および分子生物学の履修をを前提とし、微生物代謝工学の履修に必要。				
成績評価の方法・基準	期末試験と出席率で評価する。				
オフィスアワー	月 - 金 : 9 - 21 時				
担当教員からのメッセージ	欠席、遅刻をしないこと。				

授業科目名	生化学概論 (Introduction to Biochemistry)				
担当教員名	村田 健臣 (MURATA Takeomi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 713 (移転後: 農学総合棟 673)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生化学、生体分子、生命科学				
授業の目標	生化学は、化学的立場から生命現象を究明することを目的とする分野で、ここでは生化学の動的諸原則を学ぶ前段階として、基本となる分子レベルでの構造と特性に関する知識を得ることを目標とする。				
学習内容	この講義では生化学を理解する上で基礎となる生物を構成する生体成分 (タンパク質、糖質、核酸、脂質) の構造と特性について学び、生物学の背後にある化学現象を理解するための礎とする。				
授業計画	1. 序論、生化学入門 (1 回) 2. タンパク質の構造と機能 (4 回) アミノ酸の構造と特性、タンパク分子の構造と特性 3. 糖質 (4 回) 単糖とオリゴ糖の構造と性質、多糖の構造と特性 4. 脂質 (3 回) 脂肪酸の構造、脂質 (中性脂質、グリセロリン脂質、スフィンゴ脂質) の構造と機能 5. 核酸 (3 回) ヌクレオシドとヌクレオチドの構造、DNA と RNA の構造と特性				
受講要件	この科目は、後に続く生化学、分子生物学、酵素科学と関連を持たせており、順番に従って履修されることを望む。				
テキスト	「ホートン生化学」 Horton ら著、鈴木紘一ら訳				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	定期試験評価する。筆記試験は講義内容の理解度を試す。				
オフィスアワー	火曜日 12:45~14:15。質問は随時受け付けますので、まずはメール (actmura@ipc.shizuoka.ac.jp) にて連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	育種学 (Breeding Science)				
担当教員名	富田 因則 (TOMITA Motonori)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	遺伝子実験棟 301	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	交雑育種、選抜理論、DNA マーカー、ゲノム解析、遺伝子組換え、放射線突然変異、倍数体、染色体工学、雑種強勢、ゲノム編集				
授業の目標	遺伝学とゲノム科学の進歩とともに培ってきた遺伝的変化の原理と方法の習得を目標とする。				
学習内容	植物の繁殖様式と遺伝的性質に基づく交雑育種と選抜理論、DNA マーカーによる遺伝子の探索と選抜育種、物理地図作製とゲノム解析による遺伝子の単離・同定、遺伝子組換え育種、放射線による遺伝子突然変異誘発、倍数体などゲノム単位の改変、雑種強勢育種、ゲノム編集による新育種技術 (NBT) など、遺伝的変異を拡大し、さらに固定するための育種の原理と方法について、近代から最先端へと多角的に学習する。				
授業計画	回 内容 1 植物ゲノムの改変事例：緑の革命、光周性と適応性 2 交雑育種 1：遺伝子型の世代変化と選抜理論 3 交雑育種 2：系統育種法、集団育種法、純系分離法 4 交雑育種 3：戻し交雑育種法 5 DNA マーカー育種 1：DNA マーカー 6 DNA マーカー育種 2：リンケージ、マッピング 7 DNA マーカー育種 3：クロモソームウォーキング、ゲノムプロジェクト 8 次世代シーケンス解析 9 遺伝子組換え育種 1：植物への遺伝子導入 10 遺伝子組換え育種 2：組換え遺伝子の設計 11 突然変異育種法：電離放射線 12 ゲノム単位の改変 1：同質倍数体、半数体育種法 13 ゲノム単位の改変 2：遠縁交雑、異質倍数体、染色体工学による異種遺伝子移入 14 雑種強勢育種法：ハイブリッドライスと雄性不稔 15 ゲノム編集による新しい育種技術				
受講要件	なし。育種学は遺伝学を基礎としているので、その未履修者にも配慮します。				
テキスト	プリントを配布します。				
参考書	西尾剛・吉村淳編 『植物育種学 第 4 版』 文永堂出版、日向康吉・西尾剛編 『植物育種学各論』 文永堂出版				
予習・復習について	理論的な分野なので授業内容をよく復習して下さい。授業で培った力で参考書も通読できると思います。				
成績評価の方法・基準	期末試験の得点に、小テストなどの日常点を加味します。小テストは思考力を喚起する問いかけです。				
オフィスアワー	講義の後やグリーン科学技術研究所遺伝子実験棟 301 にて随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	育種学は、人類の生存を左右する食用植物を遺伝的に改変するための学問であり、農学応用生命科学の王道と言えます。地球規模の環境変動に晒されるとともに、大震災と TPP 等の市場のグローバル化で国難を迎えた現状を打開するのは、ゲノム解析に則った先端的育種法による植物新品種の開発です。				

授業科目名	測量学 (Surveying)				
担当教員名	近藤 恵市 (KONDO Keiichi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 511 (移転後：農学総合棟 273)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	距離測量、コンパス測量、トランシット測量、水準測量				
授業の目標	測量及び測量器械に関する基本的な知識を理解するとともに、測量結果の数値的な処理方法と作図方法を理解する。				
学習内容	地表における相対的な位置関係の決定や、地形の具体的な把握に必要な測量技術を取得するため、その基本となるトランシット、レベル、コンパス等の測量器械の構造的特性及び作動原理と、器械の利活用技術等について講義を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 距離測量の基礎概念について 2. 水準測量の基礎概念について 3. コンパス測量の基礎概念について 4. トランシット測量の基礎概念について 5. トラバース測量の基礎概念について 6. 測量による観測値の精度と誤差について 				
受講要件	本科目は、「測量学実習」と密接な関係にあるので、「測量学実習」と併せて受講する必要がある。				
テキスト	測量学 大木正喜著 森北出版				
参考書	長谷川昌弘：基礎測量学（電気書院）				
予習・復習について	受講前にテキストの該当部分を読んでおくこと。また復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（20%）、学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	植物バイオサイエンス入門 (Introduction to Plant Bioscience)				
担当教員名	切岩 祥和 (KIRIWA Yoshikazu)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 481	
分担教員名	山脇 和樹、本橋 令子、西東 力、田上 陽介、平田 久笑				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	園芸学、植物保護、バイオテクノロジー				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科において専門教育を履修するための導入科目で、特に農学バイオサイエンス講座で履修する園芸学、バイオテクノロジーおよび植物保護について広く学び、農学バイオサイエンスを学ぶための動機づけとする。				
学習内容	農業関連産業の発展に欠かすことのできない植物の多様な機能について理解し、農業、バイオ、食品産業等自然科学関連産業の基盤として発展を続ける基礎と応用研究の実情に触れる。				
授業計画	<p>ガイダンス (切岩 祥和)</p> <p>植物を栽培するってどういうこと?(切岩 祥和)</p> <p>理系研究者への道しるべ (本橋 令子)</p> <p>遺伝子組み換え技術の基礎と応用 ～GM作物と機能解析～ (本橋 令子)</p> <p>植物の不思議 ～ミクロの世界から環境応答まで～ (山脇 和樹)</p> <p>植物保護 ～作物の病気と害虫防除～ (西東 力・田上 陽介・平田久笑)</p> <p>園芸作物生産 ～果樹・野菜・花卉の生産とその利用～ (鈴木 克己・中塚 貴司・切岩 祥和)</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科の専門科目への導入科目である。				
テキスト	特に使用しない。				
参考書	講義の中で適宜紹介する。				
予習・復習について	植物の基本構造、光合成や呼吸の仕組み、植物の環境応答などの高校生物の知識についてきちんと理解しておくこと。また、農学は生物学にとどまらない総合科学です。すべてが新鮮なトピックスですので、わからないことを調べたり、興味のあることを深化させる努力をすること。				
成績評価の方法・基準	受講態度やレポート評価による。レポートでは各講義に関する理解度と関心度に加え、応用力についても評価する。				
オフィスアワー	特に設けないので、随時メールにて問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	「農学バイオサイエンスってなんだろう？」って講義を通じて一緒に考えてみましょう。				

授業科目名	室内環境学 (Indoor Environment)				
担当教員名	渡邊 拡 (WATANABE Hiromu)		所属等	農学研究科	
			研究室	共 C307-2、農総 381	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	住宅、居住性、環境、健康、資源				
授業の目標	日本人の暮らしには「木」が深く関わっており、古くから多く木を利用してきた。木材は建築材料の中でも大きな位置を占め、日本の風土に合った伝統的材料であり、木造住宅に住むことを望む人は少なくない。人間が日常生活を送るうえで重要である室内環境について、木造住宅を中心に講義をする。				
学習内容	住宅や建造物の種類や安全性についての考え方を説明した後に、住宅の工法及び住宅内環境の評価について講義を行う。				
授業計画	回 内容 1 住宅の種類、安全性 2 建築材料の種類 3 建築材料の種類 4 建築材料の種類 5 住宅の工法 6 住宅の工法 7 住宅内の温度、湿度、音 8 住宅内の温度、湿度、音 9 住宅内の光、視覚 10 住宅内の光、視覚 11 住宅内の空気 12 住宅内の空気 13 住宅と健康 14 住宅と健康 15 建築材料に関わる環境問題				
受講要件					
テキスト	なし。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席（50%）及びレポート2回（50%）の合計で評価する。レポートは講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	E-mailで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	講義に関する質問はE-mailで受けます。				

授業科目名	人間環境科学論 (Human Environmental Science)				
担当教員名	山下 雅幸 (YAMASHITA Masayuki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 471	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	環境問題、農業環境問題、地域環境問題、環境保全、環境倫理、資源、循環				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科に入学した学生を主な対象にした初年次教育科目と位置づけている。入学後、人間と自然環境の関わり、農業環境問題、地域環境問題、生物由来資源、環境倫理などの幅広いテーマについて段階的に学習できるようにカリキュラムを構成している。その起点となるのがこの科目である。				
学習内容	人間環境科学講座の各教員により、下記の授業計画にそって講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス (講義責任者) 2. 第1章 エネルギーと食料生産 (澤田 均) 3. 第2章 生物多様性 (山下雅幸) 4. 第3章 持続可能型農業科学 (南雲俊之) 5. 第4章 土壌環境 (鮫島玲子) 6. 第5章 微生物と環境 (小川直人) 7. 第6章 水環境 (釜谷保志) 8. 第7章 住環境の健康論 (鈴渡邊) 9. 第8章 農業の近代化と環境問題 (柴垣裕司) 10. 第9章 農村環境と作物生産 (稲垣栄洋) 11. 第10章 激動の時代を生きる知恵 (竹之内裕文) 12. 第11章 よき書物をじっくり繰り返し読もう (野上啓一郎) 13. 第12章 人間－自然系における社会の作用 (富田涼都) 14. 第13章 レポート課題 (講座責任者) 15. 第14章 レポート講評 (竹之内裕文) <p>なお、上記はあくまでも予定であり、変更することがある。</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科カリキュラムの起点科目である。				
テキスト	特になし。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	実施前の章及び実施後の章について、本やインターネット検索等により情報を収集、整理すること。				
成績評価の方法・基準	各教員の開講科目のシラバスにオフィスアワーを記載してある。				
オフィスアワー	特に初回は必ず出席すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	作物学 (Crop Science)				
担当教員名	稲垣 栄洋 (INAGAKI Hidehiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	藤枝フィールド	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	食用作物、飼料作物、作付体系、持続的農業、環境保全				
授業の目標	食用作物を中心に関連する資源植物について、それぞれの植物学的特性と栽培学上の問題点に関する基礎的知識を習得することを目標とする。				
学習内容	人類の生存にとって重要な作物の安定生産は、気象変動、農耕地の劣化、化石エネルギーの枯渇などにより危うくなっている。本講義では、このような条件下での安定生産技術の開発の基礎となる様々な作物種の潜在的生産能力と、その生産の基礎となる作付体系の多様性に焦点を絞って講述する。				
授業計画	1. 総論 (1) 作物の分類 (2) 水田作の現況と将来 (3) 畑作物栽培の現況と将来 (4) 環境保全型作物生産 2. 各論 (1) イネ科作物の形態的、生理生態的特性 (2) マメ科作物の形態的、生理生態的特性 (3) イモ類の形態的、生理生態的特性 (4) 作物の生産と土壌微生物との関係				
受講要件					
テキスト	使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。				
参考書	「作物学総論」堀江 武ら（朝倉書店）「作物学概論」大門弘幸ら（朝倉書店）				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	筆記試験にて評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	造林学 (Silviculture)				
担当教員名	水永 博己 (MIZUNAGA Hiromi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 282	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	森林生態系、育林、持続可能性、Resilience、適地適木、物質循環				
授業の目標	多くの生態系サービスを持つ樹木の集団としての森林をどのようにして作り・育てることができるかについて、基礎となる科学をベースに、共に考える。このことで多様な現場に適応するための柔軟性の必要性、問題点にどのように対応するかといったトラブル対応力、科学的な論理力と直観力のバランスなどが養成できたら良いなあ。複雑な森林構造の維持メカニズムと現状の苦闘について理解を進めることをめざそう。				
学習内容	森林生態系の修復・保全方法について基礎となる森林生態学・樹木学など森林科学をもとに、ディヴェートやグループディスカッションを含む双方向講義で考える。多様な現場に応じた森林生態系の管理手段を考える。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 木材はカーボンニュートラルな素材ではない！ 造林学の意義と自然-環境-技術 2 保続とは？ 縞枯れ更新に学ぶ、持続可能な森林管理の一形態。 3 木を植えたい！ 1) グループディスカッション：その樹木について何を知らねばならないか？ 4 プレゼンテーション：その樹木について何を知らねばならないか？//苗木の作り方 5 ディヴェート：「南限のブナを守るために」 農業的発想からの脱却! 林木の集団育種の基礎 6 木を植えたい！ 2) その場所について何を知らねばならないか？ 自然から学ぶ！ 7 森林土壌中の養分量は大切か？ 土壌保全と森林管理 8 密度管理の考え方 と 間伐の基礎 9 密度管理としての間伐への決別 10 自然の力を利用した次世代の森林の作り方 林を切る！ 稚樹を育てる 11 複雑構造への道 2 題 針葉樹人工林の広葉樹林化へ 今須沢伐林は？ 12 乾燥地の自然植生を利用した炭素固定のプログラム、乾燥地生態系の特徴、荒廃地緑化、砂漠緑化 13 ディヴェート：「アグロフォレストリーは熱帯林保全に貢献するか？」 熱帯地域の森林管理 14 私たちが考える育林シナリオ（プレゼンテーション） 1 15 私たちが考える育林シナリオ（プレゼンテーション） 2 				
受講要件	関連科目：1年生：樹木・組織学、2年生実習：樹木学実習 3年生実習：造林学実験 を受講していること				
テキスト	特に定めない				
参考書	自作の資料も配付する				
予習・復習について	基礎になる科目を必ず受講すること。当該の実験に必要な知識は、どんな目的意識。最後まであきらめない根気と努力を日頃から訓練しておくこと。				
成績評価の方法・基準	自分で工夫してまとめる力。新しいものの見方を提案し、実行する力。問題点を絞り、不要なものを切り捨てる論理力。意見調整する力。他人の意見や考えを理解し、自己に反映させる力。を レポート・ディヴェート・プレゼンテーションで評価します。 小テストは、基礎となる科学的理解を評価します。				
オフィスアワー	随時 電子メールでアポをとること。				
担当教員からのメッセージ	フィールドに出て、現場を見てこそ身になる。日本各地へ、アジア各地へ、世界各地へ、森を見に行こう！				

授業科目名	森林生態管理学 (Forest Ecological Management)				
担当教員名	今泉 文寿 (Fumitoshi IMAIZUMI)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 274	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	森林の健康、樹木の健康、攪乱と多様性、森林の管理				
授業の目標	樹木と森林の保全技術に必要な基礎的考え方を身につける 森林が周囲の環境（気象，地盤条件）からどのような影響を受けて成立しているのか，森林が周囲の環境にどのような役割を果たしているのかについての理解を深める 持続的に機能を発揮できる森林育成に必要な考え方を身につける				
学習内容	森林へのニーズが資源から環境へシフトする中で、樹木・森林の保全方法を学ぶ。森林と周囲の環境の相互作用や生態の多様性を維持しているメカニズムについて学び、森林の持つ役割や意義を理解する。				
授業計画	1：ガイダンス 授業内容の紹介，森林の保全・管理に関する諸問題 2：森林をどうして保全・管理するのか（森林の持つ多面的機能） 3：樹木を知る（樹木の形態と機能） 4：樹木を知る（樹木の形態と機能） 5：樹木の生態と環境（森林の成立基盤：地盤，土壌，水，気候） 6：樹木と環境の相互作用 7：樹木のストレス 8：樹木の被害（気象災害） 9：樹木の被害（病虫害，獣害，人為的被害） 10：森林の攪乱（攪乱の種類，多様性） 11：森林の診断法（調査・計測法，攪乱の履歴の調査） 12：森林の診断法（森林の機能の評価法） 13：森林の保全手法（樹木・森林管理） 14：森林の保全手法（国際社会，国，地方の取り組み） 15：まとめ				
受講要件	関連科目：森林生態学 造林学 森林計画学実習 森林環境学 森林環境水文学 山地保全学				
テキスト	なし，プリントによる。				
参考書	講義中に随時紹介する				
予習・復習について	十分な復習を行い，理解できない点は教員へ質問すること				
成績評価の方法・基準	期末試験（50%） 小レポート（50%） 成績の秀は90%以上、優は80%以上、良は70%以上、可は60%以上とする。				
オフィスアワー	随時可（メール等でアポイントがあればより確実に対応可）				
担当教員からのメッセージ	受身にならずに積極的に授業へ参加してほしい。説明がわかりづらい場合は指摘，質問をしてほしい。				

授業科目名	山地保全学 (Erosion Control)				
担当教員名	逢坂 興宏 (OHSAKA Okihiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 272	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	砂防、緑化、土砂災害				
授業の目標	山地斜面における土砂移動現象とその発生機構について理解し、その対策に関する知識を得ることを目標とする。				
学習内容	<p>主として日本の森林山地に生じている土砂移動現象の実態とその発生機構、およびそれによって引き起こされる土砂災害を軽減する方策について講義する。</p> <p>講義を通じて、動植物及び人間の生存基盤である自然環境の、特に水と土と緑のダイナミックな関係に興味を持ってもらい、時間・空間スケールを意識した災害防止と自然環境の保全を学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、森林の多面的な機能 2. 日本の自然災害 3. 土砂災害とその対策の歴史 4. 地形過程に伴う自然災害 5. 斜面における土砂移動現象の分類 6. 表面侵食と植生の効果 7. 表層崩壊（森林と山崩れ） 8. 山腹緑化工 9. のり面緑化工 10. 地すべり、大規模崩壊 11. 地すべり対策 12. 土石流 13. 火山活動に伴う土砂移動現象 14. 雪崩 15. 斜面安定解析 				
受講要件	「森林環境水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。「溪流環境学」、「砂防学実習」の基礎科目となる。				
テキスト	保全砂防学入門（電気書院） また、随時プリントを配布する。				
参考書	新砂防工学（朝倉書店）、環境緑化工学（朝倉書店）、山地保全学（文永堂出版）その他適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の進行にあわせて、テキストおよび参考書の該当箇所を予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート（10%）および期末筆記試験（80%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後、または随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	世界各地で頻発する自然災害に関心を持ち、日頃から防災意識を高めておきましょう。				

授業科目名	細胞生物学 (Cell Biology)				
担当教員名	笹浪 知宏 (SASANAMI Tomohiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 583	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	細胞小器官、細胞膜、核、リボソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞周期				
授業の目標	細胞生物学は生物体の基本単位である細胞が活動するしくみを明らかにしようとする学問であり、生命現象の理解には欠かせない。本講では、細胞に関する基礎的知識を修め、生命現象を細胞生物学的に解釈できる能力を身につけることを目標とする。				
学習内容	本講では、細胞の構造とその機能について、細胞を構成する分子とそれらの働きに重点を置いて講義し、細胞生物学の基礎を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス、細胞生物学分野における実験手法 2 細胞とは 3 細胞の化学成分 4 細胞の化学成分 5 膜の構造 6 膜の構造 7 膜輸送 8 膜輸送 9 ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産 10 ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産 11 ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産 12 細胞骨格 13 細胞骨格 14 細胞周期 15 定期試験				
受講要件	特になし				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学 (南江堂)				
参考書	細胞の分子生物学、教育社				
予習・復習について	授業内容について復習をすること。不定期に小テストを行う。				
成績評価の方法・基準	期末試験 (80%)、および不定期に課すレポートや小テスト (20%) を総合して評価する。また、1/3 以上の欠席をした者は期末試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	事前に電子メールにて確認を取り、研究室に来ること。				
担当教員からのメッセージ	生物学概論 A・B の内容を理解していること。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">生物工学 (Biotechnology)</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">朴 龍洙 (Enoch Y. Park)</p>		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	共通教育C棟 211 号室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	遺伝子、遺伝子発現、ゲノム、タンパク質、細胞膜輸送、情報伝達、幹細胞、がん				
授業の目標	1) 生命科学における細胞の仕組みを理解すること。2) 生命現象を営む分子（遺伝子、タンパク質）の理解をすること。3) 遺伝子の発現とタンパク質の細胞内輸送の基本的なシステムを理解すること。				
学習内容	生物、化学、及び工学の融合による学際的なバイオテクノロジーは、現在の新産業を形成し、多くの医薬品を生み出している。本講義は、バイオテクノロジーのなかで有用遺伝子の発現、タンパク質の分泌などライフサイエンスの基礎について講義し、さらに最近の幹細胞やがんについても紹介する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 遺伝子の発現機構 2 遺伝子の調節機構 3 遺伝子とゲノム 4 ゲノムの進化 5 ゲノムの解析 6 タンパク質の輸送 7 タンパク質の分泌経路 8 細胞間シグナル伝達 9 Gタンパク質共役型受容体 10 酵素共役型受容体 11 細胞間マトリックス 12 細胞の組織 13 幹細胞 14 がん 15 ライフサイエンスのトピック 				
受講要件	2年前期「細胞生物学」、2年後期「分子生物学」の受講者				
テキスト	Essential 細胞生物学 原書第3版（監訳 中村桂子・松原謙一）				
参考書					
予習・復習について	授業の前、次回の講義内容について予習してくるよう。				
成績評価の方法・基準	2 / 3 以上の出席、筆記試験で評価する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の午後・共通教育C-211へ直接又は電話、E-mail等				
担当教員からのメッセージ	積極的に授業に参加し、一緒に授業を盛り上げてほしい。				

授業科目名	木質機能科学 (Physical and Mechanical Properties of Wood)				
担当教員名	安村 基 (YASUMURA Motoi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 332	
分担教員名	小林 研治				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	密度、含水率、膨潤・収縮、弾性、応力、ひずみ、ヤング係数、強度、粘弾性、動的弾性				
授業の目標	木質資源としての木材の機能について学ぶ。 木材の物理的・力学的性質に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	木材と含有水分の関係、木材の熱・電気・音響等の物理的特性、さらに木材の弾性・粘弾性・強度等の力学的特性に関して基本的な考え方を述べ、応用として木材利用との関連や環境への影響について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 木材の利用と環境への負荷 2 木材の密度とその変動 3 木材の含水率とその変化 4 水分の吸着とその理論 5 木材中での水分の移動と拡散の理論 6 木材の膨潤および収縮と異方性 7 木材の熱・電気に関する特性 8 動的弾性－振動現象と木材の音響特性 9 力の釣り合い 10 弾性－ヤング係数と強度 11 応力とひずみの成分 12 木材の圧縮、曲げ、引張り 13 一般化されたフックの法則 14 粘弾性－クリープと応力緩和 15 各種強度と力学的性質に影響を及ぼす因子および破壊				
受講要件	材料力学、住環境構造学、住環境工学、木質バイオマス科学等の講義、および環境木質機能学実験、環境木質材料学実験等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	高橋・中山 編「木材科学講座 3 物理」(海青社)				
参考書	菊池正紀他著「基礎演習シリーズ 材料力学」(裳華房)、日本木材学会 編「木質の物理」(文永堂出版)、 伏谷 他 著「木材の科学 2 木材の物理」(文永堂)、北原 著「木材物理」(森北出版)				
予習・復習について	授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。理解できない点は必ず教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 426, 428 室で随時受け付ける。事前にメール等で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	授業開始時に出欠を確認するため、遅れないこと。必ず復習をするようにして下さい。積極的に質問して下さい。				

授業科目名	食品分析化学 (Food-function Analytical Chemistry)				
担当教員名	河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学総合棟 672	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時間	水 3・4
キーワード					
授業の目標	食品に含まれる成分の分析のための基礎を学ぶ。				
学習内容	食品分析に必要な方法（クロマトグラフィー，機器分析）の理論と実例を解説する。				
授業計画	回 内容 1 食品分析学の意義と概観 2 各種クロマトグラフィーの理論と実際 3 各種クロマトグラフィーの理論と実際 4 各種クロマトグラフィーの理論と実際 5 UV の解説 6 IR の解説 7 MS の解説 8 MS の解説 9 NMR の解説 10 NMR の解説 11 NMR の解説 12 NMR の解説 13 NMR の解説 14 最新のトピックスの紹介 15 最新のトピックスの紹介				
受講要件	化学を基礎とするので，化学概論 AB，有機化学概論，生化学概論，生物有機化学,分析化学を受講すること。				
テキスト	未定 開講時に指示する。				
参考書	未定 開講時に指示する。				
予習・復習について	授業各回で指示する。				
成績評価の方法・基準	定期試験（約 75%）と出席（約 25%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分析化学 (Analytical Chemistry)				
担当教員名	原 正和 (HARA Masakazu)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 530	
分担教員名	森田 明雄				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	化学平衡論、酸・塩基反応、機器分析				
授業の目標	定性分析、定量分析、機器分析などの分析化学の基礎的な方法論を理解し、正確な実験を行う能力を培う。				
学習内容	定性分析、定量分析、機器分析など、分析化学の基礎的な理論を理解する。				
授業計画	回 内容 1 序論 -1 分析化学の意義と重要性 -2 数値と単位の取り扱い 2 酸・塩基反応と中和滴定 I 3 酸・塩基反応と中和滴定 II 4 沈殿と重量分析 5 錯化合物とキレート滴定 I 6 錯化合物とキレート滴定 II 7 酸化還元反応と酸化還元滴定 I 8 酸化還元反応と酸化還元滴定 II 9 溶媒抽出 10 クロマトグラフィーによる分析 I 11 クロマトグラフィーによる分析 II 12 光による分析法 13 X線と分析化学 14 電気伝導度と分析化学 15 同位体の性質とその利用				
受講要件	理系基礎科目の化学概論A、化学概論Bの内容を十分理解しておくこと。				
テキスト	木村 優・中島理一郎 共著 「分析化学の基礎」(裳華房)。その他、必要に応じて資料を配付する。				
参考書	河合 聡・他編「定量分析化学」(丸善)。分析化学研究会編「分析化学の理論と計算」(廣川書店)。土屋正彦・他編「クリスチャン 分析化学 I, II」(丸善) など。				
予習・復習について	授業は、テキストを使って進めるので、テキストによる予習・復習を適切に行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間試験(50%)ならびに期末試験(50%)の合計で評価する。評価基準は科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。				
担当教員からのメッセージ	小テストを授業開始時に行い、前回講義の復習をします。授業には遅れずに出席すること。関数電卓の持参を求める場合がある。				

授業科目名	木質利用化学 (Chemistry of Wood Utilization)				
担当教員名	河合 真吾 (KAWAI Shingo)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部総合棟 325	
分担教員名	米田 夕子				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、パルプ化、パルプ漂白、生理活性				
授業の目標	パルプ製造法と木材成分の関係、抽出成分の生理的機能と特性を理解し、主体的関心を持つことを目指す				
学習内容	木材主要成分のセルロース、ヘミセルロース、リグニンを取り上げ、パルプ化および漂白工程における化学反応性、生物反応を利用するパルプ製造に関する最新知見を詳述する。 さらには、樹木の生理および木材の特性に関与している副成分の抽出成分を取り上げ、その生合成、理化学的性質、生物有機化学的な利用法について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標 (D) に対応する。				
授業計画	回 内容 1 パルプ原料とその化学 2 機械パルプの製造 3 化学パルプの製造 4 機械パルプおよび化学パルプの漂白 5 授業1～4回目のまとめ 6 抽出成分の化学構造決定法 (NMR) (1) 7 抽出成分の化学構造決定法 (NMR) (2) 8 抽出成分の化学構造決定法 (質量分析) (1) 9 抽出成分の化学構造決定法 (質量分析) (2) 10 授業6～9回目のまとめ 11 抽出成分の生合成 (フェニルプロパノイド経路) (1) 12 抽出成分の生合成 (フェニルプロパノイド経路) (2) 13 抽出成分の生合成 (メバロン酸経路) 14 抽出成分の生理活性とその利用 15 授業10～14回目のまとめ				
受講要件	2年生前学期の「樹木生化学」、2年生後学期の「樹木成分化学」と関連する。				
テキスト	なし必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	木材学会編：木質の化学 (文永堂)、中野準三ら：リグニンの化学 (ユニ出版) 日本木材学会抽出成分と木材利用研究会：樹木の顔 (海青社) 福島和彦ほか 編集：木質の形成 -バイオマス科学への招待- (海青社)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	・履修態度 (20%) と筆記試験 (80%) の合計で評価する。・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	農学部A棟、531室 (西田)、527室 (河合)、540室 (米田) で随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	花卉園芸学 (Floricultural Science)				
担当教員名	大野 始 (OHNO Hajime)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 429	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	品種改良、繁殖、生育・開花調節、鮮度保持、流通、ライフサイクル、花色				
授業の目標	花卉の生産と利用に必要な基礎知識を得ることを目標とする。				
学習内容	花卉の生産と利用に必要な生理・生態学的基礎知識と主要な花卉についての品種形態、生理、生態や開花調節、繁殖法について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 序論：花と花卉園芸、生産の状況、花の消費と国民性 3. 種類と分類：学名と命名規約、人為分類 4. 産地形成の条件と生産および経営形態：生産形態、産地形成の条件、経営形態 5. 花卉の形態と構造：花の器官と構造、花の器官の相互関係 6. 育種と新品種の保護：花卉のライフサイクルと育種の役割、日本の花卉育種、育種の目的・方法 7. 繁殖：種子繁殖、栄養繁殖、組織培養 8. 種苗生産：組織培養と種苗生産、プラグ苗生産 9-13. 生育と開花の調節 14. 花卉の鮮度保持と貯蔵、品質評価：切り花の鮮度保持と品質評価、鉢物の鮮度保持 15. 花色：花色と花色素 16. 筆記試験 				
受講要件	関連科目：植物分類および形態学、土壌学、植物病理学、応用昆虫学、育種学、遺伝学、造園学施設園芸学、植物組織培養学				
テキスト	使用しない。				
参考書	花卉園芸総論（養賢堂）、園芸事典(朝倉書店)、花卉園芸学（朝倉書店）、花卉入門(実教出版)、球根の開花調節（養賢堂）				
予習・復習について	多くの種類の花卉が出てくるので、どのようなものかを確認しておくこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト(30%)および定期試験(70%)により評価する。				
オフィスアワー	随時（できれば事前にメールでコンタクトをとって下さい。）				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	基礎微生物学 (Introduction to Microbiology)				
担当教員名	瀧川 雄一 (TAKIKAWA Yuichi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 385	
分担教員名	小川 直人、鮫島 玲子、堀池 徳祐				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	第1回 インTRODダクシヨN・微生物学の歴史 第2回～第3回 微生物の取扱い・分類・細胞構造 第4回 微生物の栄養増殖・ 第5回、第6回 遺伝(1) バイオインフォマティクス 第7回 中間試験 第8回～第9回 遺伝(2) 第10回、第11回 微生物の代謝・ 第12回、第13回 発酵 第14回、第15回 微生物と物質循環・環境保全				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に2回の試験を行う。その成績の合計で評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎微生物学 (Introduction to Microbiology)				
担当教員名	徳山 真治 (TOKUYAMA Shinji)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 525	
分担教員名	朴 龍洙、小谷 真也				
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 				
受講要件	微生物学 青木健治 化学同人				
テキスト	講義中に適宜紹介する。				
参考書					
予習・復習について	中間と期末に2回の試験を行う。その成績と出席率を総合して評価する。				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	園芸生産学 (Science of Horticultural Plant Production)				
担当教員名	鈴木 克己 (SUZUKI Katsumi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農総 484	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8
キーワード	花卉、果樹、栽培、施設園芸、野菜				
授業の目標	園芸生産について理解を深めることを目標とする。				
学習内容	園芸生産の基礎となる栽培学、植物生理生態学、また園芸生産の特徴でもある施設園芸学を中心に学習する。花き、果樹、野菜の中で好きな作物を一つ選び、その生産についてパワーポイントでまとめ、レポートとして提出する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス、園芸とは 2 我が国の園芸の現状 3 我が国の園芸の歴史 4 世界の園芸 5 播種、育苗 6 土壌管理・養水管理 7 栄養成長 8 挿し木、接ぎ木、整枝 9 花芽分化 10 開花、受粉、受精、着果 11 果実の成長 12 施設園芸①花き、果樹、野菜での利用方法 13 施設園芸②栽培方式 14 施設園芸③環境制御 15 園芸生産における今後の研究方向				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	ガイダンスで紹介予定。				
予習・復習について	予習：園芸に関する本などを読むことが望ましい。復習：講義において生じた疑問を調べる。				
成績評価の方法・基準	定期試験（60%）、レポート（40%）により行う。再試験は行わない。				
オフィスアワー	メールでアポイントメントをとってください。				
担当教員からのメッセージ	講義内容について疑問がある場合は、授業中、授業後に直接質問してください。				

授業科目名	木材接着学 (Wood Adhesion)				
担当教員名	山田 雅章 (YAMADA Masaaki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 329	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	接着、接着剤、レオロジー、ホルムアルデヒド・VOC、接着試験法、試験評価法				
授業の目標	身近にある接着製品、木質材料、いろいろな接着剤、とくにものものがなぜ接着するかを学ぶ際には木材のみならず、高分子科学、物理化学、材料科学など幅広い知識と探求が必要であることを認識して欲しい。				
学習内容	接着に関する基礎理論、接着にするレオロジー、各種接着剤の名称・分類と主要な特徴と性質、木材及び建築材料の接着に関する基礎、木材接着試験法および評価法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の(D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス 木質製品・木質材料のサンプル観察 2 木材接着の基礎 その1 3 木材接着の基礎 その2 4 接着の界面科学 5 接着のレオロジー 6 接着剤の分類と固化様式 7 木材用接着剤の種類 その1 8 木材用接着剤の種類 その2 9 木材用接着剤の種類 その3 10 木材接着に関する因子 その1 木材の因子 11 木材接着に関する因子 その2 接着剤の因子 12 木材接着に関する因子 その3 接着操作・装置 13 木材接着の性能評価と耐久性 14 木材接着の実用 15 木材接着と環境・健康問題				
受講要件	2年生で学ぶ高分子材料学、木質材料学や3年生前期で行う環境木質化学実験など関連の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	木材接着の科学 (海青社)				
参考書	木材の接着 (日本木材加工技術協会)				
予習・復習について	毎回授業の予習、とくに復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小レポート(30%)、期末筆記試験結果(70%)を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	木曜日の昼食時か17時30分～18時30分。農総329室				
担当教員からのメッセージ	1・2限目の授業であるので遅刻しないで出席すること。また、卒業後住宅企業、接着剤メーカー、住器メーカー、家具メーカー等に就職を考える学生に受講して欲しい。				

授業科目名	収穫後生理学 (Postharvest Physiology)				
担当教員名	加藤 雅也 (KATO Masaya)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 432	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	園芸作物、生理変化、成熟（追熟）、老化、エチレン、栄養成分				
授業の目標	園芸作物（果実、野菜、花）は、収穫後急速な代謝変動を伴い成熟（追熟）・老化する。収穫後生理学では、収穫後の園芸作物の生理変化やそれに関わる酵素の遺伝子発現、活性、性質、誘導、さらに栄養成分の変動について理解を深める。				
学習内容	園芸作物（果実、野菜、花）の成熟（追熟）・老化に深く関わる植物ホルモンのエチレンの生合成、作用、調節機構を中心に講義する。また、栄養成分（ビタミン A やビタミン C）の生合成や収穫後の園芸作物における成分の生合成、変動についても述べる。				
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス（授業概要、背景、意義） 2 園芸作物の成熟（追熟）・老化における代謝変動 3 クライマクテリック呼吸と果実の追熟 4 呼吸 1 5 呼吸 2 6 エチレンの生合成機構 1 7 エチレンの生合成機構 2 および中間テスト 8 エチレンのシグナル伝達 1 9 エチレンのシグナル伝達 2 10 エチレン生合成・作用の調節、制御 11 エチレン以外の植物ホルモンの生合成と生理的役割 12 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 1 13 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 2 14 アスコルビン酸（ビタミン C）の生合成、変動 15 まとめ				
受講要件	関連科目：植物生理学，園芸利用学				
テキスト	使用しない。資料は印刷して配布する。				
参考書	植物ホルモンハンドブック下巻（倍風館），兵藤宏・楊祥発著「エチレン」				
予習・復習について	出来るだけ授業時間内で理解し，専門用語も憶えるように努める。授業毎に簡単に復習することが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各回の小テスト（30%），中間テスト（35%），最終テスト（35%）による評価で行う。				
オフィスアワー	随時（昼休み時間，夕刻等）				
担当教員からのメッセージ	身近な果物，野菜，花の生理現象に関心を持ち，講義に臨んで欲しい。				

授業科目名	動物生命科学 (Animal Reproduction)				
担当教員名	高坂 哲也 (KOHSAKA Tetsuya)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 584	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生命の誕生、生殖科学、生殖生理学、哺乳類				
授業の目標	本講では、食資源動物を含む哺乳動物を中心に、動物の生命科学、すなわち命の誕生までの生殖プロセスとその仕組みについて学ぶ。				
学習内容	動物の生殖戦略、性の決定と分化、配偶子（精子、卵子）の形成、受精と発生、妊娠と分娩などについて講義し、哺乳動物の生命科学、とくに生殖生理全般について理解を深める。				
授業計画	回 内容 1 雄の生殖：精巣の構造とその機能 2 精子形成とその周期 3 精子形成とその環境要因 4 精子と運動 5 雌の生殖：卵巣の構造と卵胞 6 卵子形成と成熟 7 性周期と排卵 8 性腺の分化 9 生殖内分泌 10 受精：精子の輸送と変化 11 受精のメカニズム 12 初期胚の発生 13 妊娠：胚と子宮のコミュニケーション（母体の妊娠認識）と着床 14 分娩 15 生殖技術				
受講要件	関連科目：動物生理学				
テキスト	「繁殖生物学」 日本繁殖生物学会編（インターズー）を使用する。				
参考書	「動物生殖学」 佐藤英明編（朝倉書店）「スキッロ動物生殖生理学」 佐々田比呂志・高坂哲也・橋爪一善他訳（講談社）				
予習・復習について	とくに復習を忘れずに。				
成績評価の方法・基準	授業態度をかみし、小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価する。				
オフィスアワー	適宜対応（事前にメール等で知らせてください）。				
担当教員からのメッセージ	命の誕生までのプロセスとその仕組みについて総合的に理解してほしい。				

授業科目名	環境微生物学 (Environmental Microbiology)				
担当教員名	小川 直人 (OGAWA Naoto)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 389	
分担教員名	鮫島 玲子、堀池 徳祐				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	微生物の代謝、微生物の環境応答、化学合成独立栄養細菌、環境問題、微生物の生態学、系統解析				
授業の目標	微生物の多様な代謝活動等の基礎知識を習得し、環境中における微生物の活動、微生物と環境問題の関係、微生物のゲノム情報などに関する専門知識を理解することを目指す。				
学習内容	微生物の多様な代謝能力と環境との関係を中心に基礎的な知識を学ぶ。その上で微生物の代謝活動等の生物学的機構や遺伝学的な知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の研究史 2. 微生物の細胞構造の特徴 3. 微生物の代謝の基礎 4. 微生物の代謝の多様性 1 5. 微生物の代謝の多様性 2 6. 微生物の代謝の多様性 3 7. 微生物の進化と系統学 8. バイオインフォマティクス (系統解析) 9. 微生物生態学の方法 10. 地球環境における物質循環と微生物 <ol style="list-style-type: none"> 11. 微生物の環境応答 1 12. 微生物の環境応答 2 13. 微生物遺伝子の環境中での動態 14. 微生物のゲノム解析研究 				
受講要件	関連科目：基礎微生物学、生化学概論、物質循環学、資源生態科学論、土壌学				
テキスト	環境微生物学 (久保幹・他著、化学同人)				
参考書	Brock 微生物学 (オーム社 (原書第 9 版))、ベーシックマスター微生物学 (オーム社)、微生物生態学入門 (日科技連)、Brock Biology of Microorganisms (Pearson (第 13 版))				
予習・復習について	とくに指定しない				
成績評価の方法・基準	講義内容の理解を期末テストで評価する。				
オフィスアワー	応対可能時間は午前 9 時から午後 5 時まで。事前にメールで確認を取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。				

授業科目名	材料力学 (Strength of Material)				
担当教員名	安村 基 (YASUMURA Motoi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 332	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	応力、ひずみ、弾性体、はり、たわみ				
授業の目標	弾性体に作用する応力と変形を理解することを目標とする。				
学習内容	木造建築の構造設計、木質材料の評価などの基礎となる、力のつりあい、弾性体の応力と変形について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 材料力学の歴史 2 環境問題と力学 3 力の定義、力の合成と分解 4 力の釣合 5 軸力を受ける棒 6 曲げを受けるはり 7 断面の性質と材料の特性 8 静定トラスの応力 9 静定ラーメン/断面力 10 はりの例題 11 ラーメンの例題 12 反力と曲げモーメント 13 仮想仕事法 14 はりのたわみ 15 骨組みの変形				
受講要件	木質機能科学、3年後学期の「住環境構造学」との関連が深い。				
テキスト	理工図書 建築構造力学 上 構造力学研究会 ISBN978-4-8446-0734-2、その他、授業中に適宜プリントを配布します。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	材料力学は、毎回の講義内容の積み重ねなので、過去の講義内容をしっかりと理解しないと、新しい内容が理解できない。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果による。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部A426室。メール (afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。				

授業科目名	食料経済学 (Food Economics)				
担当教員名	柴垣 裕司 (SHIBAGAKI Hiroshi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学 B 棟 309-2	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	フードシステム、食の需給、食料政策、食料問題				
授業の目標	学生が経済学の理論を習得し、毎日口にする食料の経済的性質とそれらがもたらす経済的諸問題についての理解を深めることを目指す。				
学習内容	我々が毎日口に行っている「食料」が、どのように生産され、どのようにして食卓にのぼってくるのかについて、各段階の問題点を交えながら講義する。また、「食料」の持つ様々な経済的性質が、その需要と供給の両面に及ぼす様々な影響について言及するとともに、世界や日本における「食料」に関する諸問題について改めて考えてもらうよう問題提起を行う。				
授業計画	1 : ガイダンス、フードシステムの概要 2 : 食生活の変遷と特徴 3・4 : 食の需給 5・6 : 食生活の外部化 7・8 : 農畜水産物の生産 9・10 : 食品製造業・農産加工 11・12 : 食品の流通 13 : 世界の食料問題 14・15 : 我が国の食料政策と食料問題 16 : 期末試験				
受講要件	特になし。				
テキスト	なし。プリントを配布する。				
参考書	高橋正郎『フードシステム学全集』農林統計協会				
予習・復習について	学問の性格上、講義内容が広範囲にわたるので、特に復習をしっかりと講義内容を理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）で評価する。評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。				
担当教員からのメッセージ	・経済学の理論を援用して食料の経済的側面について講義しますが、経済活動を説明する理論に関心を持って下さい。経済学の理論は社会に出てからはもちろん、皆さんの現在の生活にも応用可能な理論です。・経済学には興味がないという人がいますが、経済と無関係の技術はあり得ません。技術者（研究者）を目指す人も技術が経済や社会に与える影響について考えてください。				

授業科目名	植物栄養学 (Plant Nutrition)				
担当教員名	森田 明雄 (MORITA Akio)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 530	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	必須元素、有用元素、肥料、環境				
授業の目標	人間生存にとって必要な食糧、資源、環境や植物バイオテクノロジーの基本となる植物の栄養の営みを理解することを目標とする。				
学習内容	植物における必須元素等の吸収、同化、代謝とそれらの制御について述べる。さらに、肥料の種類、性質、施肥の原理、肥料の施与法、栄養診断等についても講義する。				
授業計画	回 内容 1 植物科学と植物栄養学 2 窒素の代謝Ⅰ 3 窒素の代謝Ⅱ 4 多量必須元素Ⅰ 5 多量必須元素Ⅱ 6 多量必須元素Ⅲ 7 微量必須元素Ⅰ 8 微量必須元素Ⅱ 9 植物の生育に関連深い元素 10 肥料の種類と選択Ⅰ 11 肥料の種類と選択Ⅱ 12 施肥の原理と施与法 13 植物の栄養診断 14 環境、農業および肥料Ⅰ 15 環境、農業および肥料Ⅱ				
受講要件	本科目は「植物生理学」より引き継いで講義する。両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。				
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	「植物栄養・肥料学」山崎耕宇ら編（朝倉書店）「現代植物生理学（全5巻）」宮地ら編（朝倉書店）「植物生化学」金井龍二訳（シュブリンガー・フェアーク東京）				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験で評価する。評価基準は、科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	授業終了後教室にて				
担当教員からのメッセージ	小テストは毎回授業開始時に行います。				

授業科目名	生物有機化学 1 (Bioorganic Chemistry 1)				
担当教員名	轟 泰司 (TODOROKI Yasushi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 682	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	分子軌道法、反応の遷移状態、求核置換反応、脱離反応、付加反応、立体化学				
授業の目標	有機化学概論で学んだ内容を基礎として、有機化学反応の仕組みを電子論的に解説し、多様な化学反応が統一された理論に基づいて整然と起こっていることを理解させる。				
学習内容	有機化学反応の基礎となる反応各論とその反応機構の考え方、生物現象との関連など。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス、電子構造と結合・酸と塩基 1 2 電子構造と結合・酸と塩基 2 3 有機化合物の基礎：命名法、物理的性質、および構造の表示法 4 求電子付加反応、立体化学、および電子の非局在化 5 アルケンの反応 6 立体化学：原子の空間配置：付加反応の立体化学 1 7 アルキンの反応：多段階合成の基礎 8 非局在化電子と安定性、反応性、および pKa に及ぼすその効果・より詳しい分子軌道理論 9 ハロゲン化アルキルの置換反応 1 10 ハロゲン化アルキルの置換反応 2 11 ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 1 12 ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 2 13 アルコール、アミン、エーテル、エポキシド、および含硫黄化合物・有機金属化合物の反応 14 ラジカル・アルカンの反応 15 NMR 分光法				
受講要件	生物有機化学がわかる講義（清田洋正著，講談社）				
テキスト	授業中に課す小テストに沿った内容の宿題を必ず課すので復習が必須である。				
参考書	定期試験（70 %）および講義中に実施する小テスト（30 %）				
予習・復習について	授業終了時、事前にメール等で連絡があれば時間を調整する。				
成績評価の方法・基準	反応機構を書きながら考えること。手を動かすことが大切。				
オフィスアワー	C105				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	一般昆虫学 (General Entomology)				
担当教員名	田上 陽介 (TAGAMI Yosuke)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 475	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	昆虫、分類、形態、発生、生理、生態、遺伝				
授業の目標	昆虫は、人にはない驚くべき能力を秘めています。その一端に触れてもらい、一般生物学では学べない「昆虫学」に慣れ親しんで頂く授業にします。				
学習内容	昆虫とはどのような生き物であるかを理解してもらうため、その特徴（起源、分類、形態、生理など）を詳しく解説します。				
授業計画	回 内容 1 昆虫の起源 2 昆虫の分類 3 昆虫の形態Ⅰ 4 昆虫の形態Ⅱ 5 昆虫の発生Ⅰ 6 昆虫の発生Ⅱ 7 昆虫の生態Ⅰ 8 昆虫の生態Ⅱ 9 昆虫の生態Ⅲ 10 昆虫の生理Ⅰ 11 昆虫の生理Ⅱ 12 昆虫の遺伝Ⅰ 13 昆虫の遺伝Ⅱ 14 昆虫の内部共生 15 環境保全と昆虫				
受講要件	2年後期の「応用昆虫学」に向けての予備知識の習得を目指しています。				
テキスト	「最新応用昆虫学」(朝倉書店)を予習、復習に活用して下さい。必要に応じて資料を配布します。				
参考書	「応用昆虫学の基礎」(朝倉書店)				
予習・復習について	適宜テキストや配付資料を用いて、予習・復習を行ってください。				
成績評価の方法・基準	筆記試験と出席回数で評価します。				
オフィスアワー	昼休み等に応用昆虫学研究室やA334に直接来るか、電話やE-mailで連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	私たちの身のまわりにはたくさんの昆虫がいます。よく観察すると、それら昆虫の興味深い暮らしぶりが見えてきます。				

授業科目名	樹木・組織学 (Dendrology and Wood Anatomy)				
担当教員名	水永 博己 (MIZUNAGA Hiromi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学総合棟 282	
分担教員名	小島 陽一				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	針葉樹、広葉樹、形態、分布、生態、材の形成、細胞、構造				
授業の目標	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について解説する。また木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等を中心に講義する。樹木の形態・生態および成長・組織に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について学ぶ。木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等について学ぶ。				
授業計画	<p>1. 木材組織学 (8回) 木材の組織学・解剖学的見地から樹木の生長・細胞構成、さらには細胞壁微細構造について学ぶ。 樹木の成長と樹幹の形成 (2回) 針葉樹の細胞構成 (1回) 広葉樹の細胞構成 (2回) 木材のマクロ構造と細胞壁の微細構造 (1回) 木材の欠点と材質 (1回) 筆記試験 (1回)</p> <p>2. 樹木学 (8回) 樹木の同定方法や生活史あるいは森林植生の分布について学ぶ。陸域自然生態系の環境を学習するための基礎となる知識を身につける。 1: 樹木的生活戦略 針葉樹VS広葉樹 常緑樹VS落葉樹 2: 多様な森林植生タイプと分布 3: 樹木の検索技術の基礎 4-6: 身近な樹木の同定 (野外講義) 7-8: 樹木紹介のプレゼンテーション</p>				
受講要件	「造林学」・「森林生態学」・「木質機能科学」等の講義、「樹木学実習」等の実習、「環境木質材料学実験」等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	樹木図鑑が必要ですが、現在検討中です。講義時に指定します。 古野・澤辺 編「木材科学講座2 組織と材質」(海青社)				
参考書	「日本の野生植物 木本 (フィールド版)」(平凡社) 矢頭 著「樹木学」(朝倉書店), 島地・伊東 著「図説 木材組織」(地球社), 島地・須藤・原田 著「木材の組織」(森北出版)				
予習・復習について	樹木それぞれの特徴は実物を見なければわからない。身近な野山など自然フィールドや緑地公園に積極的に足を運び、樹木と触れ合う時間を積極的に設けること。復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	プレゼンテーション・レポート・中間テスト・学期末試験の結果を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	随時・但し事前にメール等で連絡すること (水永) 毎週木曜日の昼休み・農学部総合棟 321 室 (小島)				
担当教員からのメッセージ	野外講義を行います。正規の講義時間に振り替えて休日 (5月上中旬) に野外講義をおこないます。また樹木の解説の学生発表を行います。受講生全員に能動的な学習を求めます。樹木学および木材組織学の両者を総合して成績評価します。				

授業科目名	中国語学概論 (Introduction to Chinese Linguistics)				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	4	曜日・時限	火 5・6
キーワード	音声学、漢語、言語学、方言				
授業の目標	中国語を言語学的に見ていく。日本語やその他の言語と対照しながら音の仕組み、語彙やフレーズの構成法、文の構成などを考える				
学習内容	中国語の全体的な特徴及び構造学ぶ。日本語との比較対照を通して、中国語の音声、語彙、文法、統語及び文字の各方面にわたって勉強する。				
授業計画	回 内容 1 中国の言語 2 北京語音韻論 01 3 北京語音韻論 02 4 北京語音韻論 03 5 文法論Ⅰ 統辞法 01 6 文法論Ⅰ 統辞法 02 7 文法論Ⅰ 統辞法 03 8 文法論Ⅱ 品詞論(上) 01 9 文法論Ⅱ 品詞論(上) 02 10 文法論Ⅱ 品詞論(上) 03 11 文法論Ⅲ 品詞論(下) 01 12 文法論Ⅲ 品詞論(下) 02 13 文法論Ⅲ 品詞論(下) 03 14 文法論Ⅳ 文論 01 15 文法論Ⅳ 文論 02				
受講要件	初級中国語習得済み				
テキスト	『新訂 中国語概論』 藤堂明保・相原茂 大修館書店, 1985, ISBN4-469-23112-6				
参考書	『中国音声学概論』				
予習・復習について	しっかり予習と復習をすること				
成績評価の方法・基準	授業中の積極性(質疑応答、課題提出) 2割 期末テストかレポート 8割				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	中国語の構造がわかると、中国人のこともわかる。日本語もうまくなれる。				

授業科目名	フランス語学概論 (Introduction to French Linguistics)				
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人文専門 1A	学期	通年		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	4	曜日・時限	火 9・10
キーワード	基礎力				
授業の目標	1年間フランス語初級を学んだ人を対象に、中級以上のレベルに到達できるよう指導する。				
学習内容	語学力の核は語彙と文法の正確な知識です。これらは継続的で地道な努力によってのみ獲得しうるものです。今年は、少し高度な文法書と豊富な読書（もちろんフランス語の）量でこの目標を達成したいと思います。通年の授業なので、易しめのテキストから始め、徐々にレベルを上げていくようにします。				
授業計画	<p>通年の授業なので、じっくり取り組んで目標を達成したいと思います。</p> <p>この授業は1年間（またはそれ以上）フランス語を学んである程度の基礎ができている人を対象としますが、（おそらく今まで使ってきたものよりは）少しだけレベルの高い教科書を用いて中級レベルの基礎をしっかり身につけたいと思います。テキスト（未定）を生協で調達してもらいます。</p> <p>量が多いので勉強の仕方が正しければ相当の効果が期待できると思います。</p>				
受講要件	フランス語を1年（以上）学習した人。				
テキスト	「初歩のテーマ」（三修社、石井晴一著）を生協で購入のこと。				
参考書	フランス語の辞書。				
予習・復習について	予習が大切。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月 14:30～15:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ドイツ事情Ⅱ				
担当教員名	エゲンベルグトーマス (EGGENBERG THOMAS)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人文学部A棟 225	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	4	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	Beschäftigung mit aktuellen Themen in Deutschland, Österreich und der Schweiz.				
学習内容	Lektüre und Diskussion von deutschsprachigen Zeitungsartikeln, Reportagen, Essays etc.				
授業計画	<p>Viele Japanerinnen und Japaner denken bei Deutschland immer nur an dieselben Dinge: Würste, Bier, Hitler. Bei der Schweiz, unvermeidlich, an Heidi oder die sogenannte Neutralität, und zu Österreich fällt manchen gar nichts mehr ein außer vielleicht Sachertorte ... Schade, denn es gibt viel mehr zu entdecken!</p> <p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit verschiedenen Themen der Gegenwart wie auch der Vergangenheit, vor allem aus den Bereichen Gesellschaft und Kultur. Quellen sind das Internet, Zeitungen und Zeitschriften - und natürlich Bücher (was heutzutage leider nicht mehr selbstverständlich ist).</p>				
受講要件	Deutsch-Level mindestens A2 sowie Neugier!				
テキスト					
参考書					
予習・復習について	Der vorbereitete Text wird jeweils in Kleingruppen besprochen, dann im Plenum übersetzt und diskutiert. Vertiefende Mini-Präsentationen je nach Bedarf. Weitere Details werden in der ersten Stunde bekanntgegeben.				
成績評価の方法・基準	Vorbereitung, engagierte Teilnahme, Mini-Präsentationen, Hausarbeit				
オフィスアワー	授業に関する質問は電子メールでも結構です: jtegg@ipc.shizuoka.ac.jp オフィスアワー: 月・水曜日 12.00~12.45				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ドイツ言語文化基礎演習Ⅱ				
担当教員名	大藪 正彦 (OZONO Masahiko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 3	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	4	曜日・時限	金 3・4
キーワード	ドイツ語、コミュニケーション、ドイツ文化、多文化理解				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の運用能力（中級）を伸ばすことが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	前期と後期で異なる教科書を用います。1 年次の復習も行いつつ、前期は特に「話す」を、後期は「読む」を中心テーマとし、発音、表現、語彙、文法などを継続的に学習していきます。また、日独における価値観・生活観の相違についても取り上げ、多文化理解を深めます。				
授業計画	<p>前期のテーマ（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ到着 2. ホテル探し 3. ホテルで 4. レストランで 5. 買い物 6. アパート探し <p>後期のテーマ（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トイレでノックはするな 2. ドイツ人と音 3. ドイツ人はケチ？ 4. ドイツ人のジョーク 5. 割り勘 6. ドイツ人とサンドイッチ 				
受講要件					
テキスト	前期：大谷弘道・大谷ウルズラ『CD 付き 新・ドイツ語話しかた教室』三修社（2,500 円＋税）後期：大谷弘道・大谷ウルズラ『新・ドイツ語読みかた教室』三修社（2,100 円＋税）				
参考書	独和辞典は必携です。その他授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、2-3 時間程度の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	筆記試験の成績（50%）および平常点（50%）をもとに評価します。筆記試験は各学期末に計 2 回実施します。平常点は授業への準備・参加状況をもとに評価します。また、各学期において、正当な理由なく 3 分の 1 以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物学 I (Biology I)				
担当教員名	吉田 信行 (YOSHIDA Nobuyuki)		所属等	工学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	工 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	細胞、オルガネラ、糖、アミノ酸、タンパク質、遺伝子、DNA、代謝				
授業の目標	工学部での生物学的研究に必要な最低限となる、現代生物学の基礎を学ぶ。まずは生物学に興味を持つこと、そして工学部において生物学を学ぶ意味を理解する。また、3・4年次の生物関連専門科目の理解を助ける基礎知識の習得を目指す。				
学習内容	生物を構成する細胞の構造と機能、および細胞に含まれている主要生体物質、またその代謝について、基本的なところから分かりやすく講義する。				
授業計画	回 内容 1 プロローグ「なぜ工学部で生物学を学ぶか？」 2 生物とは何か？生物学とは何か？ 3 生物の種類 4 細胞とそこに含まれる物質 1 「細胞の種類と構造」 5 細胞とそこに含まれる物質 2 「細胞内小器官」 6 細胞とそこに含まれる物質 3 「糖質・脂質」 7 細胞とそこに含まれる物質 4 「アミノ酸とタンパク質」 8 中間試験 9 細胞とそこに含まれる物質 4 「ヌクレオチドと核酸」 10 DNA 複製と細胞の増殖 1 「DNA 複製のしくみ」 11 DNA 複製と細胞の増殖 2 「細胞分裂と細胞死」 12 DNA にある遺伝情報を取り出す 1 「RNA と転写の調節」 13 DNA にある遺伝情報を取り出す 2 「タンパク質の合成と修飾」 14 生命を支える反応 1 「代謝と酵素」 15 生命を支える反応 2 「解糖系と TCA 回路」				
受講要件	特にないが、講義においては積極的な発言を期待する。				
テキスト	コア講義 生物学 (田村隆明 著、裳華房)				
参考書	理工系のための生物学 (坂本順司 著、裳華房)、Essential 細胞生物学 (中村桂子、松原謙一 監訳、南江堂)				
予習・復習について	講義での理解を助けるために予習は必要であるが、本講義では特に復習に力を入れる。毎回講義の前半に、前回の講義内容についてのプレゼンテーションを数人で行ってもらい、皆で議論・復習する時間を作る。				
成績評価の方法・基準	細胞の構造と機能、細胞に含まれている物質に対する基本的な理解ができたかを評価する。評価の配分は中間試験 40%、期末試験 40%、プレゼンテーション 10%、その他レポート等 10%とする。試験については、講義内容を理解することにより取り得る点(70%)、講義内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)とする。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	随時 (但し、事前にメールでの問い合わせが望ましい。)				
担当教員からのメッセージ	高校で生物を履修しなかった人も心配ありません。生物は自身とその子の生命を維持するために、芸術的とも言える巧妙なシステムを持っています。そのシステムの工学的利用はとても魅力的ですが、そのためには基本的な生物学、特に現代生物学を学ぶ必要があります。基礎からしっかりと生物学を学ぶことによって、工学部における生物系研究に興味を持てればと思います。				

授業科目名	化学の世界 (Introduction to Chemistry)				
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)		所属等	工学研究科	
			研究室	6-504	
分担教員名					
クラス	情 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	基礎工学、自然科学、環境科学、科学哲学				
授業の目標	担当者が専門とする「化学」は、基礎工学という実学としての側面と自然哲学という純粋科学としての側面をもっている。本講義では、この両方の側面から「化学 (科学)」について考えていきたい。また、特に、地球環境を例にとり、現代化学 (科学) の果たすべき役割について考える。				
学習内容	銅、鉄、水銀といった身近な物質の化学から始め、「地球温暖化対策」などの複合科学である環境科学まで、具体的な事例をその背後に存在する哲学を交えて講義する。同時に、我々の実生活に欠かせない「化学 (科学) の知識」、「科学的ものの考え方」を身に着ける。なお、本講義では、一部を除き、数式の使用は避ける方針であるが、化学式は使用する。				
授業計画	<p>以下に授業内容を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、基礎工学としての化学と純粋科学としての化学 2. 銅と酸化還元 (10円玉とブロンズ像の化学) 3. 鉄と磁性 (磁石は日本のお家芸) 4. 水銀と環境問題 (科学進歩の立役者との惜別) 5. 環境問題パート2 (公害問題から環境問題へ) 6. エネルギーに関する基本法則 7. エネルギー資源1 (化石燃料) 8. エネルギー資源2 (核エネルギー) 9. 新エネルギー1 (太陽光発電) 10. 新エネルギー2 (燃料電池) 11. 地球環境問題1 (地球大気の変遷、酸性雨) 12. 地球環境問題2 (温暖化) 13. 地球環境問題3 (オゾン層の破壊とフロン) 14. みえるものとみえないもの (走査型トンネル顕微鏡からみえてくるもの、みえないものは存在しないか?) 15. 科学と似非科学 (カール・セーガンの遺書) 				
受講要件	特に定めないが、本講義では、自ら考え、発言することを求める。				
テキスト	なし				
参考書	芝哲夫「化学物語25講」 化学同人 ISBN4-7598-0776-4 今中利信、廣瀬良樹「環境・エネルギー・健康20講」 化学同人 ISBN4-7598-0849-3 カール・セーガン「カール・セーガン 科学と悪霊を語る」新潮社 ISBN4-10-519203-5				
予習・復習について	随時、レポートの課題を示すので、それを期限内に提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、期末試験50%。期末試験は、ノート、参考書持込可で行い、論述式とする。学習度が60%を満たしている者を合格とする。				
オフィスアワー	事前にメールで予約してください。				
担当教員からのメッセージ	哲学はすべての学問の基本である。工学も化学も例外ではないことを認識して欲しい。				

授業科目名	生命科学 (Life Science)				
担当教員名	杉浦 敏文 (SUGIURA Toshifumi)		所属等	電子工学研究所	
			研究室	電子工学研究所 303	
分担教員名					
クラス	情工 1	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生理、解剖、生体、医療機器				
授業の目標	<p>“人間とは何か”という、古来より哲人達はその答えを求め続けてきた命題は依然として我々の眼前に屹立している。「考える」ためには“身体”が必要であるが、身体内部の調整はホルモンと神経で行われており、その指示を出しているのは“脳”である。脳からの指令によって身体状態は良くも悪くもなる。一方で脳自体は脳以外の全ての臓器の働きによって支えられており、それらの状態が脳の働きを左右する。また、それら臓器の設計図は遺伝子のコードの中にある。持ちつ持たれつ、である。脳の中で我々の情動、感情、意識及び意志が作られるのであれば</p>				
学習内容	<p>生理学 身体各部の構造と働きを解説する。 骨格系、筋肉系、消化器系、呼吸器系、循環器系、神経系等。 随時ビデオ教材を使用する。 時間次第だが、遺伝子にも適宜言及する。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (授業の目標、内容の解説、成績評価法の説明、注意事項など) 2 骨格系と筋肉系 3 神経系Ⅰ ニューロンとシナプス、自律神経 4 神経系Ⅱ 自律神経、中枢神経 5 神経系Ⅲ 中枢神経 (ビデオ) 6 心臓Ⅰ 構造と働き 7 心臓Ⅱ 電気伝導他 8 呼吸Ⅰ 構造と働き 9 呼吸Ⅱ 血液ガス交換他 10 消化器Ⅰ 消化器全般、胃、十二指腸 11 消化器Ⅱ 膵臓 (ビデオ) 12 消化器Ⅲ 肝臓他 13 消化器Ⅳ 小腸、大腸、直腸、肛門 14 血液と免疫 15 胎児の世界 				
受講要件	身体に興味のある人、生き方に関心のある人				
テキスト	プリントを用意する。				
参考書	人体生理学ノート (真島英信著、松村幹郎改訂、金芳堂)、標準生理学 (豊田順一監修、医学書院)、図書館にもさまざまな書籍を用意してあるのでそれらも併せて参考にして欲しい。				
予習・復習について	身体に関して興味のあることを予め考えて疑問点を整理しておき、できる限り授業中に質問すること。講義をよく聴き、その日のポイントをプリントをもとにしっかり復習しておくが良い。				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席者に対して試験を行い、60点以上を合格とする。				
オフィスアワー	毎週月曜日午後 4 時～5 時半				
担当教員からのメッセージ	毎回出席し、よく聴き、よく訊き、納得しながら最後まで聴講して欲しい。自分の頭で考えて、分からないことは質問して欲しい。				

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	森本 隆子 (MORIMOTO Takako)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時空なのだろうか？ 文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して 追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。 偉大なる人気作家たちは、規範に拘束されず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。 <血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。 近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤ヴィヴィッドに織り込んでゆく。 <幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想を解きほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。 「アイデンティティ」とは、何だったのだろうか？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情……—「近代小説」の発生 第2～6回 夏目漱石『こころ』—2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場 ・<私的空間>の発生—純白の愛と性欲と ・男たちの絆—三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮—愛と友情の連続体 第7, 8回 「新しい女」の発生と男たち—夏目漱石 VS. 森鷗外 第9, 10回 <家族映画>を読む—女性映画を撮る監督・小津安二郎 第11, 12回 村上晴樹『ノルウェイの森』—「まとも」であることの断念・社会からの逃走＝闘争 第13回 ジブリの時代—脱・漱石、脱・堀辰雄、あるいは男と国家の退場 第14, 15回 女性作家の時代—ばななの「夢のキッチン」と江國の「きらきら」&「流しのした」</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋をコピーで。				
参考書	小森陽一『夏目漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、齋藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて指示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、教室で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ること、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	授業終了時に声をかけて下さい。				
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	田中 柊子 (TANAKA Shuko)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	幻想、妖精、SF、文学、物語、ファンタジー、怪奇、超自然、読者、受容				
授業の目標	妖精や魔法使いは怖くないのに、なぜ幽霊や吸血鬼は恐怖の対象となるのでしょうか。同じ非現実なものでも、怪物が得体の知れない「不気味なもの」であるのに対し、なぜロボットは謎めいていないのでしょうか。「ことばの表現」がどのようにして読者に「幻想」として受容されるのか考えてみましょう。				
学習内容	幻想文学と呼ばれる文学ジャンルに注目し、読者がテキストから「幻想」を読み取るための形式上の条件や工夫を分析します。いくつかの幻想文学論をもとに幻想文学の定義や歴史に関する知識を得ながら、実際に「幻想文学」作品を読み解きます。隣接ジャンルである、妖精物語、SF、推理小説、ファンタジーの作品にも言及し、それぞれのジャンルを成立させる表現の特徴も考察します。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 幻想文学というジャンル 3 幻想文学成立の背景：妖精物語から幻想文学へ 4 作品分析(1) ルートヴィヒ・ティーク「金髪のエックベルト」 5 作品分析(2) E.T.A. ホフマン「砂男」 6 作品分析(3) メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』 7 幻想文学とSF 8 作品分析(4) エドガー・アラン・ポー「黒猫」 9 幻想文学と推理小説 10 作品分析(5) ブラム・ストーカー『吸血鬼ドラキュラ』 11 幻想文学とファンタジー 12 幻想文学のアダプテーション 13 映画鑑賞 14 日本における「幻想文学」(1)「もののけ」から怪談まで 15 日本における「幻想文学」(2) 谷崎潤一郎「人面疽」から鈴木光司『リング』まで				
受講要件	特になし				
テキスト	授業時にプリントを配布します。				
参考書	ジャン＝リュック・スタインメッツ著、中島さおり訳、『幻想文学』、文庫クセジュ・白水社、1993年 ISBN : 9784560057414、951円(税抜)				
予習・復習について	興味をもった作品をどんどん読んで、作品について人と話してみましょう。				
成績評価の方法・基準	平常点(コメントシートの提出)40%、レポート60%				
オフィスアワー	前期火曜7・8限 J2707研究室(情報学部2号館7階)にて				
担当教員からのメッセージ	幻想文学は、数ある文学ジャンルの中でも特に強烈な感覚を読者に感じさせるジャンルです。みなさんが今まで読んだ本の中にも、幻想文学に属する作品があったかもしれません。幻想文学をもう少し知って、読書の楽しみを増やしてみませんか。				

授業科目名	心理学 (Psychology)				
担当教員名	坂井 敬子 (SAKAI Keiko)		所属等	大学教育センター	
			研究室	共C401	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	心理学、心、社会、人間				
授業の目標	1. 人間を主な対象として、行動や認知の一般的メカニズムと多様性を知る。 2. 心理学の知識や考え方に基づいて、社会における様々な現象を考え、説明することができる。 3. 自らの生活への応用を積極的に考えようとする。				
学習内容	初回はガイダンス。 2回目から6回目までは社会心理学のトピックを紹介し、人が共同社会の中で生きることを考える。 7回目から11回目までは認知心理学や神経心理学等のトピックを紹介し、認知機能のメカニズムやそれを支える生体基盤について考える。 12回目から15回目までは発達心理学のトピックを紹介し、人の生涯のパターン/多様性について考える。				
授業計画	初回： ガイダンス：授業の概要・評価方法，授業「心理学」で何を目標として欲しいか 第2-6回： 社会で生きること ①対人認知：印象形成，ステレオタイプ etc. ②対人関係：説得，対人魅力，返報性 etc. ③自己：主我と客我，自尊心，自己高揚動機 etc. ④対人行動：援助行動，傍観者，攻撃行動 etc. ⑤社会的圧力：同調実験，服従実験，ホーソン効果 etc. 第7-11回： 認知のメカニズムと生体基盤 ①記憶：記銘・保持・想起，チャンク，文脈との関連 etc. ②行動の学習：条件づけ，観察学習 etc. ③脳・神経：右脳と左脳，ニューロン，神経伝達物質 etc. ④知覚：眼と脳，錯視，アフォーダンス etc. ⑤思考：推論，問題解決，意思決定 etc. 第12-15回： 生涯発達のパターンと多様性 ①発達の規定因：遺伝と環境，遺伝と環境の相互作用， etc. ②子どもの発達：言語発達，愛着発達 etc. ③青年の発達：思春期，アイデンティティ，学校 etc. ④大人の発達：職場，家族，高齢者 etc. ならびに総括。 ※上記授業計画は，授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキストは設けない。ただし，中間レポートのために「参考書」欄に挙げる【中間レポート用文献】3冊から1冊を選択してほしい。また，「参考書」欄の【その他】については，他にも授業内で随時紹介。図書館のシラバス関連書籍の書架には読んでもらいたいものがたくさんあるのでぜひ利用してほしい。				
参考書	【中間レポート用文献；3冊のうち1冊を選択】・永田良昭『心理学とは何なのか—人間を理解するために』（中央公論新社，2011年）・市川伸一『考えることの科学—推論の認知心理学への招待』（中央公論新社，1997年）・下條信輔『サブリミナル・インパクト—情動と潜在認知の現代』（筑摩書房，2008年） 【その他；授業内でも他を随時紹介する】・安達智子他『キャリア・コンストラクション ワークブック—不確かな時代を生き抜くためのキャリア心理学』（金子書房，2013年）				
予習・復習について	【予習】早い段階から中間レポート用の文献を読み進め（3冊から1冊を選択），心理学では何が探究の題材となるのか，自分の生活にどう応用できるのかを考えてほしい。 【復習】授業で紹介されたトピックを足掛かりに，図書館やCiNii等で，授業での紹介文献や自分で探した関連文献を読んでほしい。 ※期末レポートでは，授業で印象に残ったトピックについて，文献を引用してもらいながら自分の論を述べてもらう。そのため，文献を探したり読んだりまとめたりすることは，期末レポートの準備になる。				
成績評価の方法・基準	学期中間レポート（40%），学期末レポート（60%）。 ※上記の他に，エキストラポイントのための課題を設けることがある。 ※レポート提出は学務情報システムにて。レポート要項も当システム上で配布する。利用環境を整えておくこと。※規定回数以上の出席がないと単位は認められない。出席確認のため，学生証を毎回必ず持参のこと。 ※感想，意見，質問，要望などを自由に記述するコメントペーパーを毎回提出してもらう。一部（クラス				

	<p>内で共有したいこと) を次回の授業でフィードバックする。 ※コメントペーパーは、原則、採点の対象</p>
オフィスアワー	<p>この授業の前後。授業前ならば講師控室(7号館 1F)、授業後なら教室で。研究室は静岡にあるので、上記以外の時にはメールで。アドレスは授業内で告知。</p>
担当教員からのメッセージ	<p>座学であるが、日々のコメントペーパーで、大いに質問・意見を表明して欲しい。</p>

授業科目名	芸術論 (Aesthetics)				
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2629	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	日本美術史、芸術の概念、芸術の機能、芸術の言説、芸術の支持者				
授業の目標	日本美術史を各時代を代表する作品を概観するとともに、その制作背景としての思想、社会状況等について理解することを目標とする。また、これらの作品が、伝来する過程で、どのように評価、活用されてきたかについても考察する。				
学習内容	日本美術史を代表する作品を、各コマ1点ずつとりあげ、その制作、需要、伝来等に関する言説について、講義する。講義には、スライド等を使用する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンスー芸術・美術について 2 飛鳥時代 3 奈良時代Ⅰ 4 奈良時代Ⅱ 5 平安時代Ⅰ 6 平安時代Ⅱ 7 鎌倉時代Ⅰ 8 鎌倉時代Ⅱ 9 室町時代Ⅰ 10 室町時代Ⅱ 11 桃山時代 12 江戸時代Ⅰ 13 江戸時代Ⅱ 14 江戸時代Ⅲ 15 近代				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	授業中のレポート(10%)、期末試験(90%)により評価する。いずれも、授業内容理解度50%、授業内容応用度50%で採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	実物の美術作品に接する機会をできるだけもってほしい。				

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅱ (Basic German Ⅱ)				
担当教員名	高岡 智子 (TAKAOKA Tomoko)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	火 5・6
キーワード	ドイツ語初級、文法				
授業の目標	基本的なドイツ語の文法を理解し、ドイツ語のしくみについて学びます。				
学習内容	ドイツ語の基礎文法を中心に学習します。このドイツ語入門Ⅱは、ドイツ語文法の前半部分にあたります。後期に開講される同時帯の科目で、ドイツ語文法の後半部分を学びます。1年間でドイツ語文法の基礎を全体的に理解することで、ドイツ語での読み書きの能力を身につけます。 *金曜の授業は会話中心ですが、こちらは文法中心です。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 Lektion0 つづり字の読み方と発音 3 Lektion1 動詞の人称変化、文の作り方 4 Lektion2 文法上の性と格 5 Lektion3 冠詞類 6 Lektion4 (1) 不規則動詞 7 Lektion4 (2) 命令形 8 中間試験 9 Lektion5 前置詞の核支配 10 Lektion6 複数形 11 Lektion7 (1) 形容詞の格変化 12 Lektion7 (2) 人称代名詞 13 Lektion8 (1) 話法の助動詞 14 Lektion8 (2) 未来形 15 まとめ				
受講要件	特になし				
テキスト	在間進『新生ドイツ語文法 V6』（朝日出版、¥2400）				
参考書	独和辞典を毎回持参すること。初回の授業で辞書の種類について説明します。				
予習・復習について	予習と復習はどちらも必須。予習を前提に授業をおこないます。復習は、教科書の練習問題が中心です。				
成績評価の方法・基準	授業参加・小テスト：20%、中間試験＋期末試験：80%				
オフィスアワー	火曜日・金曜日の昼休み 研究室：J2811（情報学部2号館8階）				
担当教員からのメッセージ	はじめて第2外国語を学ぶことは、言語のしくみ、言語と社会や文化の関係を学ぶことでもあります。ひとつでも多くの言語を知ること、目の前の世界は広がります。楽しく、しっかり、ともに取り組んでいきましょう。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French Ⅱ)				
担当教員名	田中 柊子 (TANAKA Shuko)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	火 5・6
キーワード					
授業の目標	フランスへ旅行したときや、日本にいるフランス人と簡単なフランス語で会話するときに、すぐ使えるフランス語を身に付けましょう。				
学習内容	教科書に沿って、日常の様々なシーンで使えるフランス語会話を練習します。仏作文を書いたり、グループワークでフランス語を活用したりなど、授業ではなるべくフランス語に親しむようにします。使用する教科書は、ピエールとユゴーという二人の中学生が主人公です。ユゴーのおばさんの住む南フランスで過ごす二人のヴァカンスでの出来事を見ながら、フランス語を楽しく学びましょう。映画、音楽、ファッション、料理などフランスの文化についても紹介します。 *金曜の授業が文法中心であるのに対し、こちらでは会話を重視します。				
授業計画	回 内容 1 Leçon 0 フランス語の発音と綴り 2 Leçon 1 自己紹介 3 Leçon 2 持ち物を尋ねる 4 Leçon 3 趣味を尋ねる 5 Leçon 4 On を使った表現 6 Leçon 5 命令の表現 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 6 (1) 年齢の言い方・家族について話す 10 Leçon 6 (2) 色の言い方・服装について話す 11 Leçon 7 注文する／したいこと、欲しいものを言う 12 Leçon 8 (1) 天気表現 13 Leçon 8 (2) 時刻表現 14 Leçon 8 (3) できることを言う 15 復習				
受講要件					
テキスト	《新版》『Pierre et Hugo ピエールとユゴー』、小笠原洋子著、白水社、2500円、ISBN 978-4-560-06115-2、配布プリント				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095円、電子辞書など。				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・参加度・練習問題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				
オフィスアワー	前期 火曜 7・8限 J 2707 研究室（情報学部 2号館 7階）				
担当教員からのメッセージ	この授業ではあまり細かいことは考えずに、フランス語の表現をそのまま、まるごと覚えてもらいます。フランスを旅行したときや、フランス人と出会ったときに「自然に」フランス語が出てくるようになりますといいですね！				

授業科目名	歴史と文化 (History and Culture)				
担当教員名	岡田 泰平 (OKADA Taihei)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	『近現代アジア史』、韓国、中国、東アジア、東南アジア				
授業の目標	二一世紀になって日中、日韓の国際関係がぎくしゃくしています。その中心に「歴史認識」問題があります。なぜ 70 年前の戦争をめぐって、これら日中、日韓が対立するのか。この問題を中心に、一九世紀末から二〇世紀のアジア史を学んでいきます。				
学習内容	<p>基本的にはアヘン戦争から、21 世紀型グローバリズムまでを扱いたいと思います。中心には日中韓の歴史を学びますが、この三国が世界史的に見ていかに固有の文化を持っているかを理解することは重要です。よって、これら三国とは異なる地域形成をしてきた、東南アジア世界にも適宜触れていおきます。</p> <p>理系のキャンパスですので、高校世界史を前提とはせず、初学者でも分かるように丁寧に授業をやっていきたいと思います。ただし、テキストは読みごたえのあるものですので、その点をご了解ください。</p> <p>教育の目的は結局、皆さんご自身の思考を深めてもらう点にあります。ですので一人一人の受講者が、このテーマについて学んだ上での見解を育むことを期待しています。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、東アジアの近世 2. アヘン戦争と条約体制 3. 洋務運動と明治維新 4. 日清戦争と朝鮮王朝末期 5. 三帝国体制から韓国併合まで 6. 植民地・半植民地・共和主義 7. 第一次世界大戦とアジアの民族運動 8. 1920年代論 9. 満州事変と総力戦体制 10. アジア・太平洋戦争 11. 脱植民地化と中華人民共和国の成立 12. 戦争のアジア：朝鮮戦争からインドシナ戦争まで 13. サンフランシスコ講和体制下のアジア 14. 開発主義と高度成長 15. 新自由主義と今日の課題 				
受講要件	アジアの問題やアジアの行方に関心のある方なら誰でもどうぞ。				
テキスト	和田春樹他編『東アジア近現代史通史—19 世紀から現代まで 上』岩波書店、2014（上巻です。お間違えなく。）				
参考書	和田春樹他編『東アジア近現代史通史—19 世紀から現代まで 下』岩波書店、2014（通して読むと理解が深まります。）				
予習・復習について	授業に来る前に課題文献を読んできてください。				
成績評価の方法・基準	授業内エッセー（50%）＋期末試験または期末レポート（50%）				
オフィスアワー	情報学部 2 号館 J 2703、月曜日 3・4 時限目、他には研究室にいるときはいつでもどうぞ。連絡をくださっても結構です。taihei-okada(あつ)inf.shizuoka.ac.jp 必ず返事をします。				
担当教員からのメッセージ	歴史研究者として、最近のメディア特にインターネット上の言論を見て思うのは、とても断片的にしか史料を読まず、その上で発言する人が多いことです。どの史料をどう読むのかで、当然歴史の描かれ方は異なります。それでは「中立」または「客観的」な歴史叙述はないのでしょうか。そこで問題になるのが「誠実さ」です。断片的にしか史料を読まない人と、幅広く読む人とどちらが「誠実」でしょうか。当然後者です。本授業では、幅広く史料を読んできた研究者の文章を読みます。その上で皆さんのご見解を育んでいっていただけたらと思います。				

授業科目名	国際社会と日本 (International Society and Japan)				
担当教員名	杉山 茂 (SUGIYAMA Shigeru)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2717	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	原子爆弾・原子力発電・被曝、テロ、予防原則、水俣病、日米関係、差別・人種主義、戦争、中東と日本				
授業の目標	「廃炉」については最短でも受講生の孫の世代まで、そして放射能汚染物質については生物学的な人類史を超える時間の枠組みで、そして汚染の広がりについては、全地球レベルで考察しなければならない原子力発電所の事故について基礎的な知識と論点の獲得を目指す。さらに、日本と中東および人種主義との関係について論じる。				
学習内容	原子力発電を生み出し、そしてそれが生み出すものを、放射性物質のサイクルを中心に、国際政治とりわけ日米関係および労働問題、地域開発と関連させながら学ぶ。さらに、「ムスリム」や「ユダヤ」という言葉で説明したこととされる中東の問題、肌の色だけで語れる人種主義に関する基礎的な知識を身につける。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウランの採掘地域と先住民 2. 原子爆弾と被曝——原子爆弾の開発と被曝——ヒロシマ・ナガサキ・ロンゲラップと日米関係 3. 日本における核開発の始まりと日米関係、核武装論 4. 商業的原子力発電と地域社会——電源三法と地域社会 5. 核燃サイクルと青森県六ヶ所村 6. 原子力発電所の事故がもたらすもの——チェルノブイリ 7. 老朽化と廃炉、使用済み燃料、核廃棄物の行方 8. 予防原則と低線量被曝の問題——グアタナモと水俣病の経験から 9. 低線量被曝をめぐる問題——ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ、イラク、セルビア 10. 原子力発電と労働問題——「犠牲のシステム」としての原子力発電 11. 始まりとしての2003年イラク戦争 12. 中東問題のバックグラウンド 13. 南アフリカの人種隔離政策と日本 14. 人種主義研究の現在 15. まとめ 				
受講要件	特になし。ただし、講義で紹介するウェブ・サイトを参照、視聴することを勧める。				
テキスト	指定しない				
参考書	高木仁三郎『市民科学者として生きる』岩波新書、1998年；景浦峯『3.11後の放射能「安全」報道を読み解く——社会情報リテラシー実践講座』現代企画室、2011年；高橋哲哉『犠牲のシステム——福島・沖縄』集英社新書、2011年；武藤一洋『潜在的核保有と戦後国家——フクシマ地点からの総括』社会評論社、2011年；吉岡斉『新版原子力の社会史——その日本的展開』朝日選書、2011年；内藤正典『イスラム戦争——中東崩壊と欧米の敗北』集英社新書、2015年など。さらに講義中に紹介する。				
予習・復習について	予習・復習について：図書およびウェブ・サイトの参照				
成績評価の方法・基準	講義中にの回数提出してもらった小レポートと学期末レポートを4：6で評価する。				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	1000兆円を超える公的債務、「少子化」と呼称される子育てが困難で若者が生きにくい社会制度など次世代への「つけ回し」が膨大になる中で、その最たるものが福島県にある東京電力の原子力発電所の事故です。受講生が子育てや孫の世話をするようになったとき、何がなぜ起きたのかを説明する一助になるような講義となれば幸いです。				

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	中正樹 (NAKA Masaki)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J2831	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	社会問題、現代社会、社会学				
授業の目標	<p>私たちは社会について「知っている」つもりでいる。けれども、「それでは社会とは何か」と質問されたら、恐らくは返答に困るのではないだろうか。社会にはかたちがなく、実感することができない。私たちは個人的な経験とマスメディアから得た知識をもとに社会を想像しているに過ぎない。以上のような前提のもと、本授業においては「社会とは何か」の答えを探す学問である「社会学」を学ぶことを通して、現代の社会についての理解を深めることを目標とする。</p>				
学習内容	<p>社会学は日常化された「ものの見方」からではなく、新しい「ものの見方」から社会を理解することを試みる。授業では、そうした新しい「ものの見方」を紹介しつつ、社会学の基本的な知識と理論について社会のさまざまな領域における身近なトピックを通じて学んでいく。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会学の視点 3 意思決定と行為 4 集団 (1) 5 集団 (2) 6 家族と結婚と性 7 職業と就職 8 都市と人間 9 社会階層と社会移動 10 権力と参加 11 科学時代の宗教 12 スポーツの社会学 13 メディアと疑似現実 14 高齢化と社会福祉 15 国際化と日本 				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	友枝敏雄・山田真茂留『Do!ソシオロジー』(有斐閣アルマ、2007年) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』(有斐閣、2007年)				
予習・復習について	毎回の授業終了後、ノートを読み直しておくこと。また、期末試験のためにノートを充実させておくこと。				
成績評価の方法・基準	<p>"①期末試験の配点を70%、随時実施する小レポートの配点を30%とする。②期末試験は指定の持込用紙のみを持込可とする。複写、印刷物は認めない。 ※毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。 ※出席にあたり、代返行為が認められた場合には厳しく対処する。"</p>				
オフィスアワー	金曜日5・6限(12時45分～14時15分)を予定。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	心理学 (Psychology)				
担当教員名	漁田 武雄 (ISARIDA Takeo)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2525	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	自己理解、学習、自己、自我				
授業の目標	この講義では、「自分を知る」ということをテーマとして、心理学の基礎理論やそれを実証するために行われた実験を理解することを目的とする。				
学習内容	<p>心理学は「こころ」の科学である。すなわち、研究対象が「こころ」、研究方法が「科学」という学問である。科学とはいうものの、「こころ」という得体の知れないものを対象としているだけに、なかなか一筋縄では行かない。またそれが心理学の楽しさでもある。</p> <p>また、これらの基礎理論や実験とともに、現実場面へのさまざまな応用例も取りあげる。まだまだわからないことだらけの心理学であるが、これまでに明らかになってきた「こころ」の法則は、教育や治療などの世界で応用され、着実な成果をあげている。</p>				
授業計画	<p>オリエンテーション この講義について、評価の方法、レポートの書き方、受講のQ&A</p> <p>第1章 自分の心 自分の感情 感情の認知説、デートはつり橋で 自分の心と体 空腹感、ダイエット、拒食症 自分の目と他人の目 ごほうびの効果、勉強しなさい</p> <p>第2章 心の形成 パブロフの条件反射 因果関係スキーマ、恐怖の学習、恐怖症の治療 オペラント条件づけ ほめること叱ること、無気力の学習、トイレット・トレーニング 観察学習 テレビと暴力、体罰 学習と目標 算数嫌いがなおった</p> <p>第3章 自己と自我 自我の機能 認知、適応、統合 適応 ストレス、防衛機制 自我同一性 アイデンティティ、多重人格 自己概念 ロジャースの理論、カウンセリングの基礎</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	テキストは使用せず、資料としてプリントを配布する。				
参考書	参考書は、オリエンテーションの際に、参考図書リストを配付して解説する。				
予習・復習について	毎回復習することが望ましい。そうすればレポート作成も楽になる。				
成績評価の方法・基準	3回のレポートによって評価する。各レポートのテーマ、配点、書き方のポイント等は、オリエンテーションの際に、プリントを配布して解説する。				
オフィスアワー	原則として随時。電子メールによる質問も可。詳細は、オリエンテーションの際に紹介する。				
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	工学研究科	
			研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	M (クラス II)	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に活用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1 「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2 「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学—基本の考え方を中心に、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員 (植田、梅本、平川、宮林) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	平川 和貴 (HIRAKAWA Kazutaka)		所属等	工学研究科	
			研究室	共 503	
分担教員名					
クラス	S	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ(8回目)を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学—基本の考え方を中心に、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員(植田、梅本、平川、宮林)が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	工学研究科	
			研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	C	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に活用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1 「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2 「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学—基本の考え方を中心に、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員 (植田、梅本、平川、宮林) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	U S A 論 (On US society)				
担当教員名	杉山 茂 (SUGIYAMA Shigeru)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2717	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	留学、他者了解、人種主義、自己植民地化、ジェンダー、図書館、文化還元主義				
授業の目標	個人的な習慣や食をめぐる慣習の違いや国家語の違いを「文化の違い」として誇張するのではなく、生活の面でも研究の面でも越境可能な空間として、多様性と新しい試みに満ちたアメリカ合衆国の大学を理解する手掛かりをえる。また、最新の国際的なアメリカ研究の成果を踏まえて、ステレオタイプ化されたアメリカ表象を批判できる視点と知識をえる。				
学習内容	本講義は、留学や研究などで長期にわたってアメリカ合衆国社会に滞在した経験を持つ教員が担当する。「日本文化」紹介ではなく普遍性を持つ専門的な研究のあり方や進め方、研究生活や日常生活における困難や楽しみ、そのなかで出会う多様な人々との出会い、必ずしも国家語や国民文化によらない個人性の違いのあり方、学位取得に必要な学習・研究のあり方、多言語（多アクセント）状況など、決して一般化できない、しかし貴重な体験談から学びうる多くのところであろう。また、「文化比較」において日米（あるいはヨーロッパ系の英語圏国家）が特権化される中で、第三の視点を持ち込むことの大切さも学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 イントロダクション 2 University of California などの大学院での研究・留学体験 3 大学における図書館の重要性 4 英「会話」を通じた自己植民地化と英語教育政策 5 「欧米」の分節化（政治・経済問題の宗教化、軍事至上主義など） 6 社会階級・封建的遺制の存在 7 ビデオ視聴 8 人種主義のアメリカ的表出・日本的表出 9 ビデオ視聴 10 米国社会の過去の振り返り方 11 もう一つのアメリカを目指す社会運動 12 米国メディアの寡頭支配とその国際的影響 13 「男らしさ」の政治学 14 「普遍」 v s 「特殊」？ 1 民主主義と人権、自由をめぐる問題 15 「普遍」 v s 「特殊」？ 2 民主主義と人権、自由をめぐる問題				
受講要件	特にないが、在学中の留学や就職後の海外出張があるということを想像するようにしてください。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	稲賀繁美編著『異文化理解の倫理にむけて』（名古屋大学出版会、2001年）；小森陽一『レイシズム』（岩波書店、2006年）；酒井直樹『日本／映像／米国—共感の共同体と帝國的国民主義』（青土社、2007年）；吉見俊哉『親米と反米』（岩波新書、2007年）；エリック・フォーナー『アメリカの自由の物語—植民地時代から現代まで』（岩波書店、2008年）				
予習・復習について	予習・復習の内容は、講義内で指示する				
成績評価の方法・基準	講義内容及び講義中に視聴するドキュメンタリーに関するレポート（50%）と学期末レポート（50%）で評価する				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	近い将来、「あれっ、わたし、いまアメリカ（あるいは他の社会）で研究／仕事してる」と気づく時に、役立てる講義にをしたいと思います。				

授業科目名	地域社会連携を考える (Corporation between university and local society)				
担当教員名	清水 一男 (SHIMIZU Kazuo)		所属等	イノベーション社会連携推進機構	
			研究室	イノベーション社会連携推進機構 (浜松)	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地域社会と大学、地域の歴史と現状、自治体・国の取り組み				
授業の目標	静岡県は農林水産業、工業が大変発達した県である。地域の歴史、文化ならびに産業についての特徴を静岡地域と浜松地域に分けて学ぶ。静岡県の特色を理解した上で他地域との比較、地域クラスターによる地域社会に対する大学の果たす役割を学ぶ。また教育・研究以外の社会連携・地域連携についてもボランティア活動や地域住民との交流などの事例を紹介する事で、広く海外の事例や国の施策、地域自治体の施策も含めて理解する事を目標とする。				
学習内容	講義は浜松地域の特色、静岡地域の特色、地域クラスターの特色・国の施策、自治体の施策を踏まえた上で、可能であれば現場見学なども行い、皮膚感覚として地域社会への大学連携を学ぶ。				
授業計画	回 内容 1 オリエンテーション 2 地域経済の苦悩と挑戦 3 海外の先行事例に学ぶ 4 地域力の現状を調査する 5 日本のクラスター分析 6 地域クラスターをデザインする 7 地域クラスター作りを応援する政策 8 大学はイノベーションクラスターの核となるか 地域新生への提言 9 浜松地域の特色 地域自治体 (浜松市) の取り組みについて 10 浜松地域の特色 (インキュベーション施設から) 11 浜松地域の特色 (産学官連携の立場から) 12 静岡地域の特色 (地域行政の立場から) 13 静岡地域の特色 (地域産業振興へ地域自治体 (静岡県) の取り組みについて) 14 静岡地域の特色 (食品産業などの立場から) 15 静岡地域の特色 (産学官連携の立場から)				
受講要件					
テキスト	必要な資料を配布予定				
参考書	クラスター形成による地域新生のデザイン (松島克守・東大総研)				
予習・復習について	講義時間内に取り上げる事例には限りがあるので、広く扱った事例集 (参考書) や新聞等を読んでおくことで、地域での大学・行政の動きを把握する事が望ましい。				
成績評価の方法・基準	講義への出席、小レポートと中間および最終試験課題レポートを総合的に評価する。特に次の(1)～(3)の基準において評価する。(1) 地域社会の背景を理解する。(2) 地域社会の施策と国の政策との関連を理解する。(3) 大学からの地域連携や社会連携の在り方を理解する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	地域社会の背景 (産業や成り立ち) を学び、大学からの地域連携に迫ってみよう。皆さんの学生としての意識がちょっとでも変わってくれたら嬉しいです。				

授業科目名	異文化と出会う (An Encounter with Foreign Cultures)				
担当教員名	許山 秀樹 (NOMIYAMA Hideki)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2805	
分担教員名	溪村 和明、堀内 裕晃、田中 柊子、森野 聡子、竹林 洋一、金 明美、高岡 智子、鈴木 益子				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	多言語、多文化、自言語、自文化、多文化共生社会、方言				
授業の目標	英語のみに偏らず、さまざまな言語と文化を知ることで、グローバルな視野の獲得をめざすと同時に、地球社会の中にある日本語と日本文化に関する認識を深めます。				
学習内容	下記学習計画を参照。()内は担当教員名。				
授業計画	<p>【1】ガイダンス (許山)</p> <p>【2】韓国語圏1 (金) [テーマ: 日本と朝鮮半島の交流史1 内容: 交流の痕跡としてのモノから考える]</p> <p>【3】韓国語圏2 (金) [テーマ: 日本と朝鮮半島の交流史2 内容: 海を介して繋がった人々について考える]</p> <p>【4】アラビア語圏 (竹林) [テーマ: コモンセンスの観点からの異文化理解の深化内容: 映像を使ってサウジアラビアと日本の文化や考え方・価値観の違いについて検討します]</p> <p>【5】フランス語圏 (田中柊子) [テーマ: アルザス地方の歴史と文化 内容: フランスとドイツの支配を交互に受けながら、独自色を培ってきたアルザス地方の歴史と文化を学ぶ。]</p> <p>【6】チェコ語圏 (田中柊子) [テーマ: チェコ文化の平民主義的伝統 内容: 18世紀末から19世紀前半にかけて起こったチェコ民族再生運動や、被支配者の歴史を背景とした独特の精神風土を学ぶ。]</p> <p>【7】ケルト語圏1 (森野) [テーマ: ブリテン諸島の少数言語と少数民族 内容: ゲール語とウェールズ語をとりあげ、それら言語の成り立ち、歴史的・社会的背景を知る。]</p> <p>【8】ケルト語圏2 (森野) [テーマ: 多言語と多文化 内容: アイルランドとウェールズにおける二言語併用 (英語と少数言語) の意味について考える。]</p> <p>【9】ポルトガル語圏1 (鈴木) [テーマ: ポルトガル語の音節と基本文型 内容: 挨拶などの簡単な表現からポルトガル語の基礎的な音の仕組みと文型を学ぶ。]</p> <p>【10】ポルトガル語圏2 (鈴木) ポルトガル語圏2 (鈴木) [テーマ: ブラジルの日系人歴史と役割 内容: 伯国の概要、歴史、信頼高い日系人、移民の歴史的背景やその足跡をたどる。]</p> <p>【11】英語圏1 (溪村) [テーマ: 米国の宗教と学問 内容: 米国の宗教の歴史を概観して、宗教と学問の関係を探る。]</p> <p>【12】英語圏2 (堀内) [テーマ: ことばと文化の比較対照 内容: 英語と日本語の対照的特徴を手がかりに英語圏と日本語圏の文化的特徴を探る。]</p> <p>【13】ドイツ語圏1 (高岡) [テーマ: ドイツと日本 内容: 日独の文化の差異を概観する]</p> <p>【14】ドイツ語圏2 (高岡) [テーマ: ドイツと日本 内容: 日独の文化の差異を概観する]</p> <p>【15】中国語圏 (許山) [テーマ: 異文化の受容 内容: 日本人が漢詩をどのように受容したかを学ぶ。]</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	各担当教員の指示に従ってください。				
予習・復習について	ガイダンス時における注意事項に留意し、各担当教員の指示に従ってください。				
成績評価の方法・基準	各担当教員が授業時間内に10点満点でミニ・レポートを課す。担当する教員は全員で9名ですので、ミニ・レポート分が小計90点満点となります。これに期末レポート60点満点を加算し、合計150点満点を100点満点に換算し、最終評価とします。				
オフィスアワー	各担当教員にメールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	特に許可された場合を除き、パソコン・携帯電話・その他、授業に関係ない物を授業中に使用しないこと。授業内容が多彩、多岐にわたるので、欠席せずにしっかり内容を理解してください。なお担当教員の事情により順番が入れ替わる可能性があることを予めご了解ください。				

授業科目名	こころの深層 (The Depth of Mind)				
担当教員名	太田 裕一 (OTA Yuichi)		所属等	保健センター	
			研究室	浜松工学部 7 号館 3F	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	アニメーション、物語分析、象徴解釈、臨床心理学、精神分析、民俗学、宮崎駿、細田守、新海誠、高畑勲				
授業の目標	臨床心理学、民俗学、社会学などの学問を借りつつ、いつも違う視点からものを眺め、考えてみることを通じて、与えられた問題に対する解答を見つけ出すのではなく、「問題」そのものを発見することの重要性について学びたいと思います				
学習内容	主にアニメーションを題材にして、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを新たな角度から解釈し直します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「アルプスの少女ハイジ」の象徴表現 2. 「となりのトトロ」におけるファンタジー 3. 「パンダコパンダ」と異類婚 4. 「千と千尋の神隠し」と異界 5. 「おジャ魔女どれみ」と少女の成長 6. 「おジャ魔女どれみ」と情緒的恒常性の確立 7. 「秒速5センチメートル」における幻想の北関東 8. 「ほしのこえ」と世界の移行 9. 「デジタルモンスター ぼくらのウォーゲーム」における隠された主題 10. 「ポケットモンスター」と不死身の身体 11. 「悪の華」とリアルの在処 12. 「新世紀エヴァンゲリオン」とトラウマ 13. 「魔法少女まどか☆マギカ」と罪悪感 14. 「かぐや姫の物語」と解離 <p>タイトルはあくまで仮題です。旬なアニメを取り入れたり、皆さんの毎回のレポートの希望を取りいれたりしながら適宜、変更します。</p>				
受講要件	つねに新たな視点を模索しようと試み、レポートを毎回提出する意欲のある人。				
テキスト	特にありませんが、余力があればアニメーション「となりのトトロ」、「パンダコパンダ」、「千と千尋の神隠し」、「アルプスの少女ハイジ」、「かぐや姫の物語」、「新世紀エヴァンゲリオン」、「時をかける少女」、「ほしのこえ」、「秒速5センチメートル」、細田守演出の「おジャ魔女どれみ」「デジタルモンスター」、「魔法少女まどか☆マギカ」などを見ておいてください。				
参考書	久能徹・太田裕一「史上最強図解 よくわかるフロイトの精神分析」(ナツメ社) 関心を深めたい方はどうぞ。講義で直接使用はしません。				
予習・復習について	講義のパワーポイント用のイラスト、音楽、アニメーション(MMD、ゆっくり実況等)の投稿、コスプレでの講義出席(本人の許可なくネットに投稿するのはおやめください)、「歌ってみた」等のビデオ投稿、講義内容のネットラジオ等への投稿(過去に「ラブライブ! μ's 広報部」「sprite/fairys RADIO 緒方恵美と妖精の国〜あおかな広報局〜」で取り上げられました)などで加点を行います。ビデオ等は講義放映を前提とします。				
成績評価の方法・基準	毎回電子メールによるミニレポート(400字以上)、学期末の最終レポート(2000字以上)で評価します。優秀ミニレポートは次回で発表し、ささやかですが賞品を差し上げます。最終レポートが提出できるのはミニレポートを10回以上提出している人に限ります。期末レポートの題は「自分の好きなアニメの分析」などを考えています。自分自身のオリジナルなものの方の見方や感覚を評価します。講義のまとめを書く必要はありません。インターネットのコンテンツを無断転載(コピー&ペースト)した人は不可とします。				
オフィスアワー	オフィスアワーは随時行います。カウンセリングの予約がはいっていることも多いので、できれば電子メール(ota.yuichi@ipc.shizuoka.ac.jp)で連絡を取ってからの方が確実です				

担当教員からのメッセージ	過去の抽選状況は抽選がある年が半分くらいありました。優先シールを使えば受講できる可能性が高いですが、使わない人は抽選になるかもしれません。講義には twitter のハッシュタグ(昨年度は #kokoronos)を設定しネット実況を奨励します。希望者が集まればカラオケオフを開催する予定です。新鮮な視点を提供してくれる受講生の方をお待ちしています。
--------------	---

授業科目名	エネルギーと環境 (Energy and Environments)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (大矢・近田) 2. エネルギー・環境問題(2) (近田) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (近田) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電：岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電：岡田) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電：岡田) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) 				
受講要件	特になし				
テキスト	講義中に資料を配付する。				
参考書	エネルギーと地球環境 (エネルギーフォーラム)、原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	浜松市の交通を考える (Thinking about Hamamatsu City from Mass Transit System)				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)		所属等	工学研究科	
			研究室	工学部 4 号館 406	
分担教員名	松田 智、武田 和宏				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 —
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	50 年後の浜松を考える、LRT 構想、高齢ドライバー、コンパクトシティ、公共交通とモーダルシフト、身の丈にあった交通インフラ、歩行者・車いす・自転車、信用乗車と運輸連合、世界で活躍する LRT、魅力あるかがやく街とは				
授業の目標	これから出生数の減少により若年人口が減り、日本国民の年齢構成が変化することにより高齢化が進む。産業構造の変化、CO2 削減圧力、石油枯渇など、日本と浜松市を取り巻く環境はこれから激変する。それを乗り越えるには何が必要だろうか。この講義では、政令指定都市となった浜松市が、行政の効率化と自動車に頼らなくても大丈夫な交通を実現するためにコンパクトシティと公共交通の拡充を目指さなければならないこと。そのための有効なツールとして LRT や運輸連合があることなどを紹介する。受講生諸君にそれらを学んだのちに、講義の最終回				
学習内容	浜松を取り巻くさまざまな状況：産業や交通の歴史、技術、エネルギー、経済、環境に関する事柄を学ぶ。そのことから将来の浜松市を予測し、想定される問題点をいかに解決してゆくべきかを考え、交通を軸とした都市デザインを個々の受講者が自ら考え発表する。				
授業計画	回 内容 1 講義内容とスケジュールの紹介 (戸田) 2 交通と文明、近代都市と交通が支える物流、経済と環境への影響 (戸田) 3 動力の歴史と交通 (人力、風、家畜、エンジン、モータ) (松田) 4 交通がもたらす災い 1：社会的費用：交通事故、環境被害 (武田) 5 交通がもたらす災い 2：交通と環境負荷 (松田) 6 日本と浜松の交通史 (戸田) 7 交通装置：自動車、鉄道、航空機、船舶とはなにか (戸田) 8 浜松・遠州鉄道バスのサイクルアンドバスライドの取り組み (西原) 9 西遠都市圏の都市計画と交通：パーソントリップ調査をふまえて (浜松市交通政策課) 10 静岡市の交通と LRT 構想 (塩川) 11 世界で活躍する LRT：その機能と可能性 (栗田) 12 浜松型次世代交通システムの紹介 (内田) 13 浜松型次世代交通システムのデザイン (河岡) 14 浜松と日本の未来を語る 1 (受講生によるアイデア、プランの発表と討論 1) 15 浜松と日本の未来を語る 2 (受講生によるアイデア、プランの発表と討論 2)				
受講要件	浜松市の市政に関心のある学生の受講を望む。都市の運営や計画に関心のある人、地元公務員志望、鉄道だいすき人、自動車産業への就職希望者、自転車ツーガキスト、ツーキニスト歓迎します。				
テキスト	定めません。				
参考書	テーマが非常に多岐にわたるため、各自で探して下さい。必要に応じて紹介もします。大学附属図書館には交通や都市運営の関連書籍を用意しました。浜松市立城北図書館も利用して下さい。				
予習・復習について	日ごろから講義内容に関することに問題意識を持って生活して下さい。自転車交通、高齢者の交通事故、インフラの維持、第二東名、中央リニア、東海地震、富士山噴火、地方財政逼迫ほか。				
成績評価の方法・基準	最終プレゼンとそれをまとめた期末レポート (80%)、小テストなど (20%) で評価します。				
オフィスアワー	特に定めません。メールしてから来て下さい。tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	自動車など輸送機メーカーへの就職を希望している人、公務員となって都市政策にたずさわることを希望している人には役立つ内容です。浜松市広報物 (広報 はままつ、HP パブリックコメント情報など)、電車やバス・駅の広告、新聞記事、雑誌などの情報にも気を配って下さい。				

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門 I (Basic German I)				
担当教員名	高岡 智子 (TAKAOKA Tomoko)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	金 5・6
キーワード	ドイツ語初級、会話				
授業の目標	日常生活の簡単なドイツ語を理解し、基本的な事柄をドイツ語で表す力を身につける。				
学習内容	ドイツの大学生活をテーマにしたテキストを使用し、さまざまなシチュエーションの会話表現を学びます。ドイツ語による会話だけでなく、作文能力を伸ばすことで語学力の基礎をつくります。ドイツ語圏のニュース、映画、音楽を紹介する時間をつくり、生きたドイツ語に親しみます。 *火曜の授業は文法中心ですが、こちらは会話中心です。				
授業計画	回 内容 1 ドイツの発音、あいさつの表現 2 Lektion1 出会いと自己紹介 3 Lektion2 (1) Nana の大学 4 Lektion2 (2)ドイツの大学事情 5 Lektion3 (1) 私の家族 6 Lektion3 (2) ドイツの大学 7 復習 8 中間試験 9 Lektion4 (1) ドレスデンへのドライブ 10 Lektion4 (2) ドイツ観光をしましょう！ 11 Lektion5 (1) 夏のような日々を楽しもう！ 12 Lektion5 (2) 好み 13 Lektion5 (3) 休暇は海で、それとも山で？ 14 曜日、時間、数詞の表現 15 復習				
受講要件	特になし				
テキスト	佐藤和弘・Heike Piinnau・中村俊子著『新ドイツに行ってみませんか<Ver.3>』（郁文堂、¥2500）				
参考書	独和辞典を毎回持参すること。初回の授業で辞書の種類について説明します。				
予習・復習について	予習と復習はどちらも必須。予習を前提に授業をおこないます。復習は、授業でおこなった会話文や文法をつかった練習問題。				
成績評価の方法・基準	授業参加・小テスト：20%、中間試験+期末試験：80%				
オフィスアワー	火曜日・金曜日の昼休み 研究室：J2811（情報学部2号館8階）				
担当教員からのメッセージ	言語はコミュニケーションのツールです。ドイツ語を聴いたり話したりすることで、ドイツ語のリズムやイントネーションに親しむだけでなく、文化についても理解を深めていきましょう。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I (Basic French I)				
担当教員名	田中 柊子 (TANAKA Shuko)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、自分でも表現できるようにがんばりましょう。				
学習内容	教科書に沿ってフランス語文法を丁寧に学び、練習問題を繰り返し解くことで、フランス語の構造を理解し、フランス語独特の構文、表現に慣れます。授業ではたくさんフランス語を書き、声に出してフランス語を覚えます。使用する教科書は、ピエールとユゴーという二人の中学生が主人公です。ユゴーのおばさんの住む南フランスで過ごす二人のヴァカンスでの出来事を見ながら、フランス語を楽しく学びましょう。映画、音楽、ファッション、料理などフランスの文化についても紹介します。 *火曜の授業が会話中心であるのに対し、こちらでは文法を重視します。				
授業計画	回 内容 1 Leçon 0 フランス語の発音と綴り 2 Leçon 1 主語人称代名詞・動詞 être 3 Leçon 2 名詞と形容詞の性と数・不定冠詞・動詞 avoir 4 Leçon 3 定冠詞・-er 動詞・否定文 5 Leçon 4 指示形容詞・強勢形人称代名詞・動詞 faire/descendre 6 Leçon 5 動詞 aller/venir・疑問文・命令形 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 6 (1) 所有形容詞・強勢形人称代名詞 10 Leçon 6 (2) 疑問形容詞・数詞 11 Leçon 7 部分冠詞・-ir 動詞・動詞 vouloir 12 Leçon 8 (1) 非人称構文 13 Leçon 8 (2) 直接目的語の人称代名詞・動詞 pouvoir 14 復習 15 映画鑑賞				
受講要件					
テキスト	《新版》『Pierre et Hugo ピエールとユゴー』、小笠原洋子著、白水社、2500 円、ISBN 978-4-560-06115-2、配布プリント				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・参加度・練習問題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				
オフィスアワー	前期 火曜 7・8 限 J 2707 研究室（情報学部 2 号館 7 階）				
担当教員からのメッセージ	お店やマンション、洋菓子の名前など、普段の生活の中でもフランス語があふれています。フランス語を勉強することで、いつもの風景が少し変わって見えてくるのではないのでしょうか。旅先でフランス語が使えたら、楽しさも倍増することでしょう。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	工学研究科	
			研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	工 (再履修生)	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 9・10
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に活用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1 「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2 「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学—基本の考え方を中心に、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員 (植田、梅本、平川、宮林) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	電気電子材料 (Materials for Electronics)				
担当教員名	喜多 隆介 (KITA Ryusuke)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	工学部 E 棟 320	
分担教員名					
クラス	IED	学期	前期		必修選択区分
対象学年	4年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	導電体材料、超伝導体材料、半導体材料、抵抗体材料、誘電体絶縁体材料、磁性体材料、IC プロセス				
授業の目標	電気・電子機器に使われている様々な材料について、その基本的な物性を理解し、その具体的な応用について学習する。				
学習内容	現代社会には様々な電気・電子機器があふれており、これらは電気・磁気・光エネルギー等を様々な形で運用して動いている。それらを支えているのは様々な電気・電子材料である。本講義では、膨大な電気・電子材料を導電体材料、抵抗材料、半導体材料、磁性体材料、誘電体絶縁体材料に大きく分け、その機能と具体的な応用例について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子材料の種類とその機能 2. 導電体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・金属中の電気伝導とバンド理論 ・金属導電体材料の特性（導線材料） ・特殊導電材料（接触子材料、ヒューズ材料等） ・超伝導体材料（超伝導現象、金属系超伝導材料、酸化物超伝導体） 3. 抵抗材料 <ul style="list-style-type: none"> ・電流による抵抗体の発熱機構 ・精密抵抗材料、電流調整用抵抗材料、電熱・照明用抵抗材料 ・特殊抵抗材料（サーミスタ、バリスタ、感ガス、感歪、感磁、感光抵抗材料） 4. 磁性体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・磁気モーメントと磁性、磁性体の種類 ・磁区と磁化、軟磁性材料と硬磁性材料 ・磁気記録材料 5. 誘電体絶縁体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・誘電分極とその種類及びメカニズム、誘電分散 ・強誘電体材料の種類 ・圧電効果 ・焦電効果 ・絶縁体の電気伝導 6. その他の材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用材料 ・炭素材料 ・レーザ材料他 7. 電気電子材料の解析 <ul style="list-style-type: none"> ・評価方法 				
受講要件	固体物理の初歩について理解していることが望ましい				
テキスト	特になし。授業中に適宜プリントを配布する。				
参考書	一ノ瀬 昇 編著、電気電子機能材料、オーム社 キッテル著、固体物理入門、丸善				
予習・復習について	授業の十分な理解のために、授業中指示された予習・復習を必ず行うこと。理解度の確認のため授業中適宜演習を行い、レポート提出を課す。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電気電子材料における基本的な理解がなされたかどうか評価する。評価の配分は、試験 80%、演習・レポート 20%である。評価点が 60 点以上である場合を合格とする。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントを取ってから来て下さい。terkita@ipc.				
担当教員からのメッセージ	身の回りの電気電子関係の機器に、どのような電気電子材料が利用されているのか、関心をもって調べてみることを薦めます。				

授業科目名	弾性力学 (Theory of Elasticity)				
担当教員名	島村 佳伸 (SHIMAMURA Yoshinobu)		所属等	工学研究科	
			研究室	M 2 2 9	
分担教員名	矢代 茂樹				
クラス	M i	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 9・10
キーワード	応力、ひずみ、構成方程式、2次元弾性問題、有限要素法				
授業の目標	<p>材料・部材・構造物に生じる応力・変形を取り扱う弾性力学について学習する。特に、弾性体の力学の基礎知識とその体系について習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応力の概念とその性質の修得 2. ひずみの概念とその性質の修得 3. 構成方程式の修得 4. 平面問題の解析法の理解と応用力の養成 5. 有限要素法の理解 				
学習内容	弾性力学は材料力学の基礎知識をベースに、固体の応力や変形挙動を正確に求める学問である。そのため、弾性力学では応力・ひずみ・構成方程式・弾性ひずみエネルギーについての理論体系を学習する。さらに、それらを基礎として材料・部材・構造物に生じる応力や変形を予測する方法を習得する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス (授業内容, 注意点)。緒論 (弾性力学とは) 2 基礎理論 (応力 1) 3 基礎理論 (応力 2) 4 基礎理論 (変形とひずみ 1) 5 基礎理論 (変形とひずみ 2) 6 基礎理論 (構成式, 降伏条件) 7 基礎理論 (弾性力学の問題の解法) 8 基礎関係式のまとめ, 中間試験 9 二次元問題 1 (二次元問題の基礎, 平面ひずみ, 平面応力) 10 二次元問題 2 (諸関係式の極座標表示) 11 二次元問題 3 (応力関数) 12 二次元問題 4 (応力集中問題) 13 数値解法 1 (有限要素法, 仮想仕事の原理) 14 数値解法 2 (ひずみ-変位マトリックス, 剛性方程式) 15 数値解法 3 (境界条件と解の求め方, 解析手順) 				
受講要件	材料力学 I, 材料力学 II の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「弾性力学入門—基礎理論から数値解法まで」, 竹園 茂男, 埜 克己, 感本 広文, 稲村 栄次郎 (共著), 森北出版, ISBN : 9784627666412				
参考書	「弾塑性力学の基礎」, 吉田 総仁 (著), 共立出版, ISBN : 9784320081147				
予習・復習について	関連科目の復習を含め, 予習・復習を十分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験 : 全講義終了後に期末試験を実施する。 2. 評価割合 : 中間試験・期末試験 80%, レポート 20% 3. 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 秀 「弾性力学」の全般が理解に優れ, かつ応用に優れる 優 「弾性力学」の全般が理解でき, かつ応用できる 良 「弾性力学」の全般が理解できる 可 「弾性力学」の基本が理解できる 不可 「弾性力学」の基本が理解できない 4. 再試験 : 実施しない。 				
オフィスアワー	毎週木曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設けています。また, オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが, 応じられないときもあることを承知ください。				
担当教員からのメッセージ	この授業は, 構造設計のための基本的な概念とその応用を習得することを目的としています。また, 強度信頼性評価の基礎となる学問です。興味を持って授業に臨み, 基本をきっちり身に付けて下さい。				

授業科目名	基礎電子回路 (Basic Electronic Circuits)				
担当教員名	猪川 洋 (INOKAWA Hiroshi)		所属等	電子工学研究所	
			研究室	電子工学研究所 306	
分担教員名					
クラス	D	学期	前期		必修選択区分 必、選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	電子回路、ダイオード、接合形トランジスタ、電界効果トランジスタ、増幅回路、バイアス回路、接地方式、等価回路				
授業の目標	電気回路との違い、電子回路の基本要素を学び、身近な電子機器に用いられているアナログ信号処理回路の基本である増幅回路の動作原理を理解する。				
学習内容	1. 電子回路で使用する基本的な部品（抵抗、コイル、コンデンサ、ダイオード、トランジスタ等）の現実の特性と使い方、および能動素子の「等価回路」を理解する。 2. 増幅回路の基本（バイアス、増幅動作）を理解する。				
授業計画	回 内容 1 電子回路の構成要素と解析の基礎 2 半導体素子の概要 3 ダイオードの特性と使い方 4 接合形トランジスタの原理と増幅作用の基本（構造と静特性） 5 同上（ベース接地の増幅動作） 6 エミッタ接地増幅回路（回路構成と静特性） 7 同上（エミッタ接地の増幅動作） 8 接合形トランジスタの等価回路（T形、hパラメータ） 9 等価回路を用いた増幅動作の解析 10 各種バイアス回路と安定指数 11 コレクタ接地増幅回路および各接地方式の比較（まとめ） 12 電界効果トランジスタの原理と増幅作用の基本（構造と静特性） 13 同上（等価回路とバイアス法） 14 同上（各接地方式の増幅動作の解析） 15 増幅回路の設計法の例				
受講要件	「電子物理数学」、「基礎電気回路」を十分に理解している必要がある。				
テキスト	「わかるアナログ電子回路」江間義則 他(著)、日新出版、2006、ISBN 9784817302274				
参考書	「電子情報回路 I」樋口龍雄・江刺正喜(著)、昭晃堂、1989、ISBN 4785611626 「アナログ電子回路」石橋幸男(著)、培風館、1990、ISBN 4563033340				
予習・復習について	授業時間だけでなく予習および復習の時間が必要である。教科書の演習問題は、特に指定しなくても、解答を見ないで自習課題として解くこと。授業でノートを取り、それに基づいて復習を十分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席率が3分の2以上の学生を成績評価の対象とする。期末試験の得点60点以上を合格とする。				
オフィスアワー	随時（ただし事前に連絡をとり予定の確認をする事）				
担当教員からのメッセージ	本科目で学習する電子回路は、身近なオーディオ・ビジュアル機器や携帯電話などの基本回路にもなっている。興味を持って学習して欲しい。				

授業科目名	プロセッサ工学 (Processor Engineering)				
担当教員名	中井 孝芳 (NAKAI Takayoshi)		所属等	工学研究科	
			研究室	E253	
分担教員名					
クラス	EJ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	コンピュータ アーキテクチャ、高速化技法、マイクロプロセッサ、割り込み、キャッシュ記憶、周辺機器				
授業の目標	電子計算機の主な機能は、マイクロプロセッサが担っている。マイクロプロセッサの基本動作、およびその高速化技法を学ぶことにより、その取り扱いができるようにする。すなわち、文字、データの表現とその取り扱い方の修得、マイクロプロセッサの基本動作の理解、演算および命令の高速化技法の理解、割り込みおよびキャッシュ記憶などの理解、周辺装置とのデータ授受方法の修得である。				
学習内容	マイクロプロセッサは多くの電子機器に使用されている。リモコンのような制御からコンピュータグラフィックス(CG)のような図形処理まで広範にわたる。このマイクロプロセッサの基本動作を理解し、またその高速化技法について学ぶ。マイクロプロセッサを使用する上で必要な割り込みや、キャッシュ記憶、入出力方法などについても学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 電子計算機およびマイクロプロセッサの歴史。数値および文字の表現 2 主記憶装置とアドレッシング 3 命令の基本動作 4 プッシュ・ダウン・スタックとその応用 5 加算(減算)演算とその高速化技法 6 乗算演算とその高速化技法 7 除算演算とその高速化技法 8 浮動小数点演算技法 9 パイプライン演算および命令パイプライン 10 中間試験、種々のメモリ 11 ハードディスク、周辺装置とそのデータ授受 12 DMA(ダイレクト・メモリ・アクセス)とチャンネル 13 割り込み 14 キャッシュ記憶と仮想記憶 15 OS(オペレーティング・システム)とは 				
受講要件	論理回路 I、II および基礎電子回路を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	「計算機アーキテクチャ」(橋本昭洋著、昭晃堂)、「新版 電子計算機工学」(中川裕志、朝倉書店)				
予習・復習について	マイクロプロセッサの動作原理が理解できるように、復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、マイクロプロセッサを取り扱える基本的能力があるかを評価する。評価は、中間および期末試験による。内容は、(a)授業内容の吸収・理解により取り得る点(80%)、(b)授業内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(20%)。				
オフィスアワー	講義日の昼休み				
担当教員からのメッセージ	マイクロプロセッサの使用(応用)範囲は非常に広いので、マイクロプロセッサの動作原理を十分理解してほしい。				

授業科目名	システム基礎数学 (Basic Mathematics in Systems Engineering)				
担当教員名	宮崎 倫子 (MIYAZAKI Rinko)		所属等	工学研究科	
			研究室	システム棟 717号室	
分担教員名					
クラス	S	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	論理式、集合、位相				
授業の目標	集合と位相に関する基礎的な事項を修得する。同時に、それらを論理的に記述し証明する力を養う。				
学習内容	高等学校までに履修してきた数学的知識のうち、情報系の数学に深く関連する「集合と論理」を基礎として、システム工学の一分野である非線形計画問題や非線形システムの安定性問題などの解析に必要な位相（特に距離空間における位相）の概念を学ぶ。その中で、論理的なものの考え方や数学的な記述方法を身につける。				
授業計画	回 内容 1 証明と論理（高校数学から） 2 命題論理式 3 トートロジー 4 述語論理式 5 全称記号と存在記号の交換，否定 6 集合 7 写像 8 2項関係 9 実数の集合における位相 10 ユークリッド空間 11 開集合と閉集合 12 コンパクト性 13 連結性 14 距離空間 15 距離空間の位相				
受講要件	特になし				
テキスト	鈴木晋一：「集合と位相への入門」，サイエンス社，2003年，ISBN 978-4-7819-1034-5				
参考書	齋藤正彦：「数学の基礎」，東京大学出版会，2002年，ISBN 978-4-13-062909-6 齋藤正彦：「日本語から記号論理へ」，日本評論社，2010年，ISBN 978-4-535-78554-0 永田雅宜：「集合論入門」，森北出版，1970年，POD版 2003年，ISBN 978-4-627-00219-7				
予習・復習について	授業時間内に予習・復習の項目を指示する。				
成績評価の方法・基準	授業目標が達成されているかを評価する。評価点数の配分は、授業時間内に実施する小テストまたはレポート課題の合計が40%、期末試験の成績が60%。				
オフィスアワー	「数学の広場」（工学部6号館1階）を利用されたい。				
担当教員からのメッセージ	何事にも言えることであるが、基礎をおろそかにしないこと。推論では必要条件，十分条件を意識すること。				

授業科目名	塑性加工学 (Theory of Plastic Working)				
担当教員名	早川 邦夫 (HAYAKAWA Kunio)		所属等	工学研究科	
			研究室	M232	
分担教員名	吉田 健吾				
クラス	M i	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	塑性力学、圧延、曲げ加工、鍛造、板成形、せん断加工、押出し、引抜き				
授業の目標	材料の塑性変形能を利用した各種加工法についてまた、その基礎となる塑性力学について理解する。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・塑性力学の基礎 ・圧延加工 ・曲げ加工 ・鍛造加工 ・引抜き，押出し加工 ・せん断加工 ・板成形加工 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塑性加工の意義，塑性力学の基礎（1）金属材料の塑性変形（早川） 2. 塑性力学の基礎（2）応力とひずみ（早川） 3. 塑性力学の基礎（3）主応力，偏差応力，不変量（早川） 4. 塑性力学の基礎（4）降伏条件（早川） 5. 塑性力学の基礎（5）塑性構成式（早川） 6. 曲げ加工（1）（早川） 7. 曲げ加工（2）（早川） 8. 中間試験および解説 9. 鍛造（1）（吉田） 10. 鍛造（2）（吉田） 11. 引抜き加工（1）（吉田） 12. 引抜き加工（2）（吉田） 13. 押出し加工・せん断加工（吉田） 14. 板成形加工（1）（吉田） 15. 板成形加工（2）（吉田） <p style="text-align: center;">期末試験</p>				
受講要件	材料力学，材料加工学を修得していることが望ましい				
テキスト	基礎からわかる塑性加工（長田・柳本，コロナ社）				
参考書	塑性加工入門（日本塑性加工学会編，コロナ社） 基礎塑性力学（野田・中村，日新出版）				
予習・復習について	復習レポートをほぼ毎回出すので，提出すること．これをもって出欠を判断する．				
成績評価の方法・基準	<p>復習レポートを提出することが期末試験を受ける前提となる．成績は期末試験で評価する．評価区分は以下の通りである．</p> <p>秀・・・・・・「塑性加工学」の全般が理解に優れ，かつ応用に優れる</p> <p>優・・・・・・「塑性加工学」の全般が理解でき，かつ応用できる</p> <p>良・・・・・・「塑性加工学」の全般が理解できる</p> <p>可・・・・・・「塑性加工学」の基本が理解できる</p> <p>不可・・・・・・「塑性加工学」の基本が理解できない</p> <p>再試験：再試験は行わない．</p>				
オフィスアワー	特に定めていない．可能な限り随時受け付ける．				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	博物館概論 (Introduction to Museum)				
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2629	
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月1・2
キーワード	博物館、学芸員、生涯学習、パブリック				
授業の目標	博物館が、近・現代社会においてどのような社会的役割を果たしているのかについて、博物館史、博物館の現状等から考察するとともに、博物館において果たすべき学芸員の使命・職務内容等について、総括的な理解を図る。				
学習内容	欧米、アジア、日本などの博物館の歴史を確認するとともに、現代社会の中で、博物館とはいかなる存在か、あるいはどのような機能を果たしているのかについて理解を図る。また、学芸員の職に就く場合、どのような心構えと使命感が必要か、一方、例えば学芸員の職に就かない場合でも、学芸員の資格を有するものが社会に対して果たすべき役割とは何か、などについて考察する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 博物館学と博物館学芸員資格 博物館学関連講義、博物館学芸員資格の概要を説明</p> <p>2 博物館の分類 設置形態、館種等による分類をおこなうことで、博物館と称される文化施設はいかなるものかを考察</p> <p>3 博物館の歴史 1 ヨーロッパにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>4 博物館の歴史 2 アメリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>5 博物館の歴史 3 アジア・アフリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>6 博物館の歴史 4 日本における博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>7 博物館関連法規 博物館法その他博物館関連法規の紹介、その現状における問題点の指摘</p> <p>8 学芸員の職務 学芸員の多岐にわたる職務内容とその問題点を指摘。また学芸員資格取得に関する問題を検討</p> <p>9 博物館の組織と設備 博物館における人事・組織とその業務に必要な設備のあり方について考察、ボランティア、友の会などの外部組織と博物館組織の連携についても論及</p> <p>10 博物館の運営 博物館活動を活性化させるための人材、資料、資金、情報等のマネジメントのあり方について考察</p> <p>11 博物館資料の収集と保存 博物館資料の収集、保管について論及</p> <p>12 調査研究機関としての博物館 博物館における調査研究活動のあり方を考察</p> <p>13 博物館における展示 博物館活動の中心である展示のあり方について検討</p> <p>14 生涯学習機関としての博物館 博物館における教育普及活動の諸様態を紹介</p> <p>15 まとめ コミュニティーの拠点としての博物館の役割</p>				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	鈴木真理編『博物館概論』(大堀哲監修『博物館学シリーズ』第1巻) 樹村房 1999				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である				
成績評価の方法・基準	講義期間中の小レポート(10%)、期末試験(90%)により評価する				
オフィスアワー	授業中に指示する				
担当教員からのメッセージ	受講者には積極的に周辺の各種博物館を見学することを勧めます。				

授業科目名	コミュニケーション・メディア史 (History of Communication and Media)				
担当教員名	森野 聡子 (MORINO Satoko)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	月3・4
キーワード	情報伝達、マスメディア、視覚メディア、複製メディア、パノラマ、パノプティコン、VR、近代、歴史、ナショナリズム				
授業の目標	近現代において、さまざまなコミュニケーション・メディアが発展し、社会生活に定着してきた歴史をトピック的にたどることを通じて、現代のメディアの構造と機能について理解を深めることを目的とする。とりわけ、メディアと受け手/送り手の関係に注目し、その通時性を理解するとともに、現代的特質を実証的に考える力を養う。				
学習内容	<p>新聞・出版・放送・レコード・映画などのコミュニケーション・メディアは、近代化の過程において、多くの国の特性に応じて受容が進み社会に定着してきた。コミュニケーション・メディアの歴史に世界共通の〈普遍的法則〉を見いだすことは不可能ではないが、〈固有性〉の方が際立つ。</p> <p>また、その〈固有性〉は現代のメディアの在り方にも影響を及ぼしている。その国や民族の基底をなす〈言論の風土〉に変化が乏しい限り、コミュニケーション・メディアを同じ作法で受容しようとする傾向がみられる。これが〈通時性〉と呼ばれる特徴である。本授業では、こうしたコミュニケーション・メディアの歴史的トピックについて講義し、現代との〈つながり〉について受講者と議論しながら考察を深めていきたい。授業の流れとしては、基本的なマスメディアの誕生の経緯と発展について学んだ後、森野担当分では近代イングランドのマスメディアの発達、赤尾担当分では日本のマスメディアの通史を「現実をベースとして再構成された物語の拡散装置」という観点から再構成して考えることで、社会的装置としてのメディアの役割をさらに深く掘り下げて学ぶ。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 第1部 マスメディアの誕生と近代イングランドにおける発展 (森野)
1. ガイダンス：「マスメディア」と耳の文化・目の文化</p> <p>2 2.ロンドン万博：博覧会は「世界」を複製したメディア装置だ</p> <p>3 3.Illustrated London News：新聞は「世界」をパノラマとして視る欲望を生んだ</p> <p>4 4.少年冒険小説：「南洋」「暗黒大陸」「アジア」は物語化された</p> <p>5 5.推理小説：謎解きはかくしてディナーのデザートになった</p> <p>6 6.動画：動く映像は人類を月へといざなう</p> <p>7 7.王室：メディアはロイヤル・ファミリーを必要とする</p> <p>8 8.「オリンピック」：メディア・イベントが「国家」という意識を生んだ</p> <p>9 第2部 マスメディアの発達と近代日本 (赤尾)
1.日本のメディアの原点は江戸時代の「讀賣瓦版」にあった</p> <p>10 2.明治新聞の「三面記事」がスキャンダリズム(断罪報道)と“毒婦”を生んだ</p> <p>11 3.明治期の自由民権運動と新聞は「誰でも言論人＝壮士」の時代の魁だった</p> <p>12 4.日清・日露の戦争報道で「軍国美談」の創作に新聞が荷担した</p> <p>13 5.「声だけ」伝えるラジオは、感情に火を付ける煽動装置にもなった</p> <p>14 6.「流行歌」や「映画」も国策を伝えるための手段(戦時歌謡)になっていった</p> <p>15 7.焼け跡闇市に花咲く「カストリ雑誌」はエロ・グロ・ナンセンスの伝道師だった</p>				
受講要件	「ジャーナリズム論」を受講済みであることが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	次の書籍を推奨する。その他、授業時に随時紹介。吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』（新曜社，1994年）佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店，1998年）ウォルター・オング『声の文化と文字の文化』（藤原書店，1991年）				
予習・復習について	担当教員より指示				
成績評価の方法・基準	教員ごとの課題（2回）と参加態度				
オフィスアワー	木曜の昼休み（森野）、担当1回目の授業時に指示する(赤尾)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	人間情報処理論 (Human Information Processing)				
担当教員名	竹内 勇剛 (TAKEUCHI Yugo)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	月 5・6
キーワード	認知、インタフェースデザイン、システム、モデル、ヒューマンファクタ、ヒューマンエラー、ユーザビリティ、相互作用				
授業の目標	<p>技術の進歩によって人間を取り巻く人工的なシステムはより複雑化し、高速化するようになってきた。その結果、人間は何かの支援がないとそれらを使いこなすことができなくなっている状況になっている。このような状況の中で、システムを信頼し、安全かつ効率的に利用していくためには、人間の認知的能力と行動特性を十分に理解しなくてはならない。</p> <p>本講義では、人間とシステムとの関係のデザインと人間の認知的能力に適応したシステムデザインのあり方について学び、情報科学、情報システムデザインに役に立つ知識と分析力および実践力を身につけることを目指す。</p>				
学習内容	<p>以下の項目に関する内容をさまざまな事例を通して通観し、情報機器を中心としたシステムデザインやインタフェースデザインへの応用力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間工学 ・認知工学 ・安全工学 ・福祉工学 ・ユーザエクスペリエンスデザイン／インタラクションデザイン ・ユーザビリティ／ユニバーサルデザイン ・ユーザ中心設計 				
授業計画	<p>[0] オリエンテーション</p> <p>[1] 人間という存在 (2回) 人間とはどういう存在であるかを再確認し、システムの振る舞いに対してどのような認識と反応を示す行動特性をもつかを事例を通して理解する。</p> <p>[2] ヒューマンファクタとヒューマンエラーそして安全 (5回) 人間の振る舞いに起因するさまざまな事故や失敗がなぜ起きるか、どのようにすればそれらを防ぐことができるのかを事例を通して分析・考察し、人間の身体と認知との調和的なシステムデザインの指針を学ぶ。</p> <p>[3] 人間にやさしいデザイン (4回) 人間の知識や経験、身体的特徴、認知的特性と合致したシステムデザインをすることの意義と、ヒューマンインタフェースデザインの望ましいあり方について考察し、実践力と応用力を養う。</p> <p>[4] オープンなシステムとクローズドなシステム (2回) 不特定多数のユーザや知識やスキルにばらつきがあるユーザに対処するインタフェースやマニュアルの適切な設計指針について学ぶ。</p> <p>[5] まとめ</p>				
受講要件	特になし。ただし「認知科学」や「認知心理学 (概論)」等の認知系の授業を履修してくることが望ましい。				
テキスト	指定しない。				
参考書	適宜授業の中で紹介する。				
予習・復習について	授業の前日までには当日使用するスライドを公開しておくので要予習。復習は授業の中で出題する課題に取り組むことで、当日中に授業の内容を完全に学習する。				
成績評価の方法・基準	数回の小レポート (授業中に行なうものも含む) と中間／学期末の課題レポートによる成績評価。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントメントをとってもらえれば、できるだけ互いの都合のいい時間を確保する。				
担当教員からのメッセージ	身近な事例や過去にあった事例を通してリアルに問題に接近していきます。				

授業科目名	博物館経営論				
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2629	
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	博物館組織、マネジメント、ホスピタリティ、NPO、知的財産、教育普及				
授業の目標	博物館の運営に関する基礎的知識、博物館における各種事業に関する現状と、今後のあり方についての理解を図ることを目的とする。				
学習内容	現在日本の博物館が抱える資金、人材、設備等の運営に関する諸問題についての理解を図るとともに、それらに立ち向かって行くための方策を、ミュージアム・マネジメントの立場から検討する。また、コミュニティの文化コアとして、今後求められる博物館像とはいかなるものかについて、博物館の教諸事業のあり方を通して考察する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 博物館運営戦略Ⅰ－博物館の使命構築 2 博物館運営戦略Ⅱ－使命に基づいた戦略・評価とは 3 博物館資金戦略 4 博物館人材戦略 5 博物館設備戦略 6 ミュージアム・リスクマネジメント 7 ミュージアム・マーケティングⅠ 8 ミュージアム・マーケティングⅡ 9 博物館と知的財産権ビジネス 10 ミュージアム・グッズ論 11 教育普及事業とその運営 12 博物館におけるパブリック－博物館の社会連携のかたち 13 ミュージアム・コミュニケーション－利用者と対話する博物館 14 ハコから飛び出すミュージアム－博物館の地域連携 15 今後の博物館運営に求められるもの 				
受講要件					
テキスト	適宜教材資料を配布する				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	レポートにより評価する。レポートの評価は、講義内容の理解度を50%、応用・発展度を50%で行う。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	博物館や文化財の現場に触れる機会をできるだけ設けられることをお勧めします。				

授業科目名	メディア・デザイン論 (Media Design)				
担当教員名	赤尾 晃一 (AKAO Koichi)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	火3・4
キーワード	ガバナンス、ジャーナリズム、オルタナティブ・メディア、NPO/NGO、地域メディア、言論の自由、パブリック・アクセス、ソーシャル・メディア、メディア・アクティビズム				
授業の目標	新しい社会(公共)をデザインする場合、メディアは重要なツールとなりうる。逆に、メディアを新しくデザインすることが新しい社会(公共)のガバナンスに通じることもある。その際、どんな中身(酒)をどんなメディア(器:革袋)に盛るかは熟慮する必要がある。古い皮袋に古い酒を注いだのでは、何のインパクトも与えられないからだ。そして、皮袋が新しいからといって(ネットメディアを使ったからといって)、それだけで社会の変革が成し遂げられるわけではない。 本講義は、新しい革袋に新しい酒を盛り、その酒が社会を変える契機になるようなメディアデザインの方法論を、受講者が掴み取ることを目標とする。				
学習内容	マスメディア四媒体以外のさまざまな表現・伝達メディアを用いて、ニュースを報道すること、オピニオンを表明すること、パブリック・リレーションズを築くこと、そしてエンタテインメントを与えることを「メディア・アクティビズム」と総称する。また、マスメディア四媒体(とくにテレビ・ラジオ放送)には、市民的言論権の行使として「パブリック・アクセス」の権利がある。1970年代まではそうした活動は「メディアゲリラ」または「オルタナティブメディア」と称されてきた。 そうした歴史的経緯を踏まえつつ、メディア・デザインのためのさまざまな「工具箱」について、事例紹介を交えて紹介する。				
授業計画	<p>※講義項目の順序、取捨選択などについては変更がありうる。また、可能な限り、ドキュメンタリー映像を授業時に参照したい。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入:オルタナティブ・メディアの思想史(エンツェンスベルガー/ベンヤミン) 2 (第1部)オルタナティブメディア
60年安保闘争と七社共同宣言——「声なき声」をめぐる 3 抵抗の方法論①——うたごえ運動・ミニコミ・ビラ・立て看・ティーチイン 4 抵抗の方法論②——デモ、広場と通路(1969年新宿西口地下“広場”) 5 抵抗の方法論③——フラッシュ・モブ 6 (第2部)シビルミニマムとしてのメディア
メディアと公共空間 7 地域メディア総論 8 NPO/NGOとデジタルエンゲイジメント 9 パブリック・ジャーナリズム 10 パブリック・アクセス 11 (第3部)大震災との関わりでみるメディアデザインの思想
活字系メディアの役割 12 テレビメディアの役割 13 ラジオメディアの役割 14 ドキュメンタリーの役割 15 ソーシャルメディアの役割 				
受講要件	IDプログラムでメディア系の専門科目群に興味を持つ学生				
テキスト					
参考書	金山勉・津田正夫編(2011)『ネット時代のパブリック・アクセス』世界思想社 松野良一(2005)『市民メディア論—デジタル時代のパラダイムシフト』ナカニシヤ出版 山田健太(2013)『3・11とメディア 徹底検証 新聞・テレビ・WEBは何をどう伝えたか?』トランスビュー 立入勝義(2011)『検証 東日本大震災 そのときソーシャルメディアは何を伝えたか?』ディスカヴァー・トゥエンティワン 河井孝仁・遊橋裕泰(2009)『地域メディアが地域を変える』(日本経済評論社)				
予習・復習について	授業で紹介・指定した文献を読むなどの「復習」が要求される				
成績評価の方法・基準	小レポート(2~3回, 50%)と試験(50%)				
オフィスアワー	金曜昼休み~56限。				

担当教員からのメッセージ	情報学部生はともすると、「ネットメディアさえあれば、問題はすべて解決する」という思考パターンに陥りがちだ。むしろ、ネットは広報・PRメディアとして欠くことができない存在だろう。しかし、ネット以外の選択肢も含めて、自分が実現(発信)したいことに最も相応しいメディアを選び、そのメディアをデザインしていくことこそが、メディアに対する正しい向き合い方だと確信する。
--------------	---

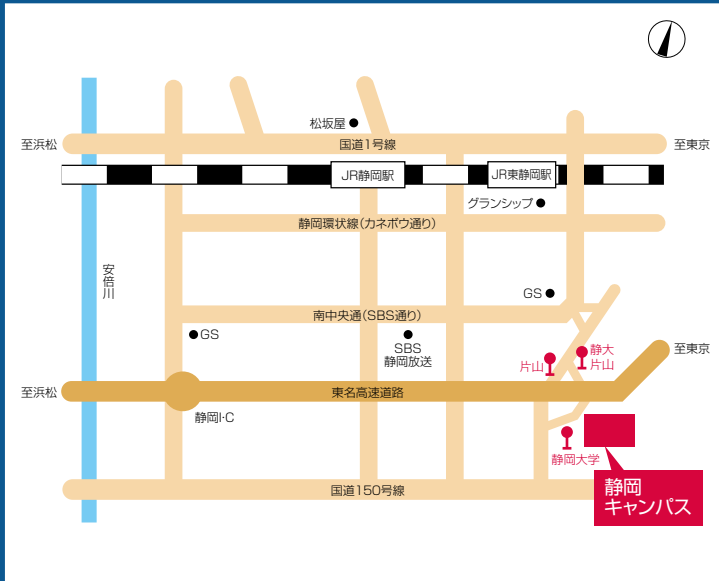
授業科目名	ジェンダー論 (Gender Studies)				
担当教員名	笹原 恵 (SASAHARA Megumi)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2825	
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火9・10
キーワード	ジェンダー、セクシュアリティ、セックス、性別役割分業・性別職務分離、女らしさ、男らしさ、性の多様性、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー平等、メディア・家庭・学校・職場、男女平等・男女共同参画				
授業の目標	本講義では、現代社会を考えるにあたって必須の課題、男女平等（ジェンダー平等、ジェンダーエクイティ）をすすめるために必要な社会認識及びそのための方法論（ジェンダー論）を学ぶ。本年度は、ジェンダーの観点から、メディア、学校、職場、家族などさまざまな領域を分析し、男女平等とは何か、男女平等の社会とはどのような社会か、またその実現のためには何が必要なのかを考えていくことにしたい。受講生は、本講義を通し、「ジェンダー」の視点からの社会システム構築やコミュニティデザインを考えていくことができる。				
学習内容	<p>1. ジェンダーとは何か ジェンダーgenderとは、社会的・文化的に決定される性の側面を表す概念であり、「女らしさ」「男らしさ」や、性別役割分業（家事・育児・介護の分担のあり方）、性別職務分離（いわゆる「男性」職、「女性」職など）といった社会編成全体に関わる概念である。まずは極めて複雑で、重層的な概念である「性」について、セックスsex（生物学的・解剖学的性）、セクシュアリティsexuality（性自認、性指向）、ジェンダーgender（社会的・文化的性）の3つのレベルにおいて理解する。</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー 性教育や性暴力の問題などセクシュアリティに関わる問題やセクシュアルマイノリティが抱える悩みなどから、身体と精神の両方にかかわるセクシュアリティsexuality概念を深く見つめる。これらの問題から現代社会を照射することによって、近代社会システムの限界やこれからのあるべき姿について考えていくことにしたい。セクシュアルマイノリティとしては、主にトランスジェンダー（性同一性障害を含む）と同性愛者、両性愛者の抱える問題点を考える。</p> <p>3. 現代社会とジェンダー～現状と課題～ 現代社会を「ジェンダー」の視点から分析し、メディア、学校、職場、家族におけるジェンダーの実態をとりあげながら、ジェンダー研究の基礎視角を学ぶ。また女性差別撤廃条約をはじめとする世界的な男女平等の流れを振り返り、日本における男女共同参画政策について概観する。</p>				
授業計画	<p>ガイダンス：ジェンダーを学ぶ意味～なぜ「ジェンダー」を学ぶのか</p> <p>1. ジェンダーとは何か *女性の人権の歴史：フェミニズムの歴史 *メンズスタディズ（男性学）という視角 *多様な性概念 セックス/セクシャリティ/ジェンダー</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー *セクシュアリティの現況 *セクシュアルマイノリティの課題 *性暴力と人権</p> <p>3. ジェンダーの現状と課題 1) ジェンダーの社会化 ～ひとはどのようにして女/男になるか 2) メディアの中のジェンダー *絵本が伝えるジェンダー *アニメ、テレビ番組、CMなどの中のジェンダー 3) 学校・教育とジェンダー *進学率とジェンダー *学校におけるジェンダー・セクシュリティ問題 4) 職場におけるジェンダー *女性・男性に向いている職業ってあるの？ *性別職域分離とは 5) 家族とジェンダー *女性は自然に母親になる？ 男性が父親になるとは？ *家事・育児は誰の仕事？ *夫婦別姓を考える</p> <p>まとめ：男女平等・男女の対等性とは何か 政策としての男女共同参画社会 ジェンダーの変革のために何が必要か</p>				
受講要件	受講要件は特にありませんが、男女平等や人々の関係のあり方、またジェンダーやセクシュアリティに関心を持ち、柔軟な発想ができることが望ましいです。				
テキスト	特に用いず、適宜、プリントを配付します。				
参考書	授業中に紹介します				

予習・復習について	最低限の予習・復習としては、①授業を受けた上での小レポート提出（出席票）、②授業前に読んでくるように指示したプリント講読、レポート作成、③単元毎に課すまとめの中レポート（アサインメント）。このほか、受講生それぞれが自分の関心に応じた予習・復習や関連資料、図書を積極的に読むことを期待します。
成績評価の方法・基準	予習・復習などの小レポート：4割（プレゼンなど授業での発表や発言なども含む） 単元毎のレポート：4割 最終レポート（受講生が関心をもつテーマで作成）：2割
オフィスアワー	授業中に連絡します
担当教員からのメッセージ	「ジェンダー」は女性の問題であると思っている人が大変多いのですが、ジェンダーとは女性と男性の関係性の問題であり、両性にかかわる重要な概念です。私たちは無意識のうちに「ジェンダー」<女らしさ・男らしさ、女だから・男だから>にとらわれており、それは他者だけではなく自分自身の行動や考え方を狭めています。それが社会的に作られてきたものであることに気づくなら（よって作り変えることができることに気づくなら）、もっと自由な発想と行動をすることができるようになると思います。また、性概念の多様性を学ぶことにより、人間観や家族観、社会観もまた違ったものになるかもしれません。そのためには、自身のものの見方・考え方を相対化し、より広い視角から社会や人間を見つめる必要があります。その学びが、皆さんの人生に、豊かさと幸福とをもたらすことを願っています。

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

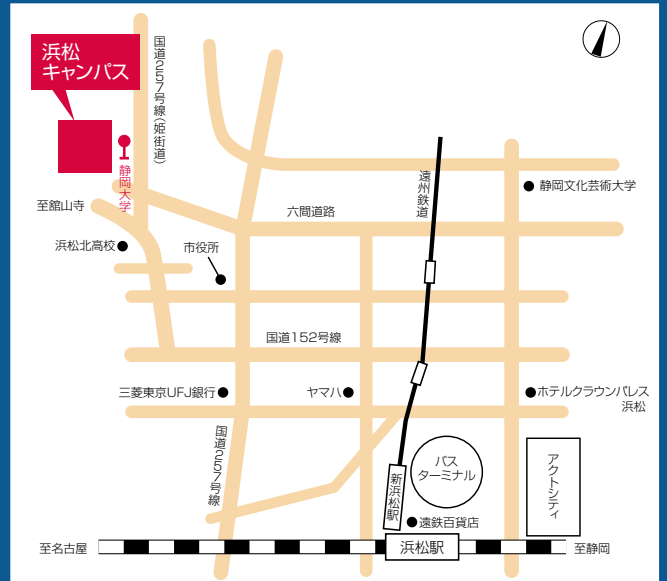
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



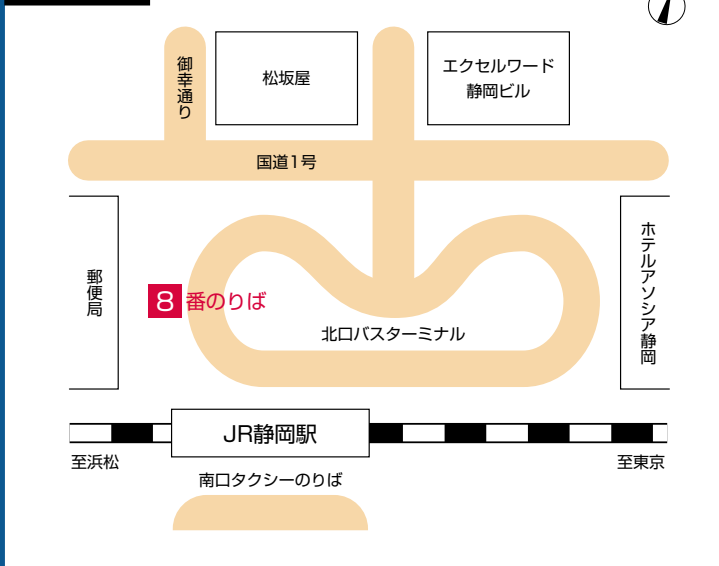
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

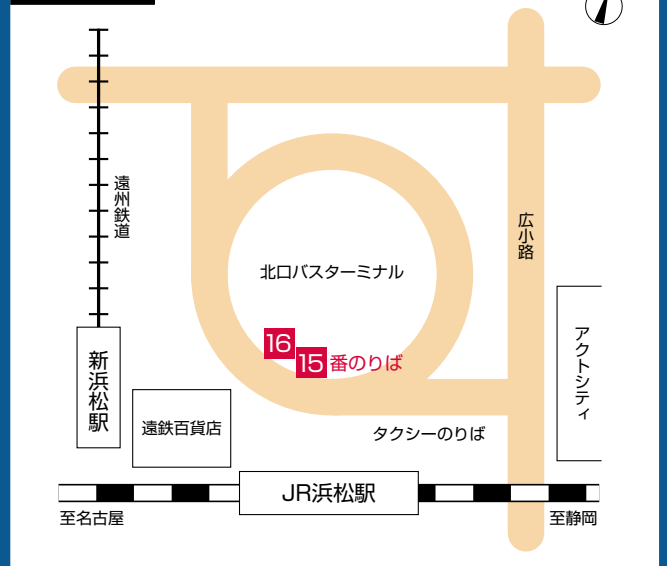
〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1



バス停案内図



バス停案内図



1. JR静岡駅北口すてつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。



静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00(4/9~4/22のみ、8:30~16:00)] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/